令和５年度　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業

介護福祉士養成施設学生の
途中退学の防止等に関する調査研究事業

報告書

令和６年３月

公益社団法人　日本介護福祉士養成施設協会

目次

第１章　事業の概要 7
１．事業の背景と目的 8
２．実施内容 8
（１）養成校教務主任へのアンケート調査の実施 9
（２）在校生へのアンケート調査の実施 9
（３）アンケート回答データのクロス集計の実施 10
（４）ヒアリング調査の実施 13
（５）まとめ 14
３．実施体制 15
（１）検討委員会名簿 15
（２）委員会開催実績及び検討内容 15

第２章　アンケート調査結果（養成校票） 17
１．学校基礎情報 18
（１）学校種別 18
（２）介護福祉士養成課程の年数 18
（３）留学生の状況 19
（４）学生の学費減免の状況 20
（５）入学後１年経過後の在籍者の割合 20
（６）所属学生数 21
（７）卒業生数 23
（８）入学者数と卒業者の数の比較 25
（９）卒業者における介護福祉士国家試験合格者数 26
（10）教員情報 29
（11）教員の質向上に関する研修等 32
（12）入学試験の状況 34
２．学生への対応 36
（１）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄 36
（２）国試対策に関する対応 37
（３）介護実習に関する対応 39
（４）学生に対する生活のサポートに関する対応 42
（５）学生の退学を防止することに効果が期待される事柄に関する対応 43
３．退学学生の理由 44
（１）学生の退学理由（学外要因） 44
（２）学生の退学理由（学内要因） 46

第３章　アンケート調査結果（学生票） 49
１．学生基礎情報 50
（１）国籍 50
（２）所属校の種別 50
（３）性別 51
（４）年齢 51
（５）留学生における情報 52
（６）自宅での勉強する場所 53
（７）奨学金等の利用状況 53
（８）養成校入学前の状況 54

（９）アルバイトの状況 55
（10）入学試験の状況 56
（11）現在の学校を選んだ理由 57
２．学校での学びについて 58
（１）難しいと感じる科目 58
（２）各種理解度 59
（３）勉強に集中できない理由とその影響 61
（４）困ったことがあった場合の相談 62
（５）満足度等 65
３．学習意欲や学習状況について 67
（１）入学前の介護分野への就業意欲 67
（２）勉強に関する意欲 67
（３）国家試験合格に関する意欲 69
（４）キャリアに関する意欲 70
４．退学意向やその理由について 71
（１）退学を考えたことのある頻度 71
（２）退学したいと思った理由（学内要因） 72
（３）最も強く退学を意識した時期 75
（４）外国人であることに起因する退学したいと思った理由 77

第４章　アンケート調査 クロス集計結果 79
１．クロス集計結果概要 80
２．クロス集計結果詳細 84
（１）養成校属性別 養成校の退学状況等 84
（２）学生のタイプ別 各種理解度や満足度・退学意向等 94
（３）学生属性別 学生の退学意向等 113
（４）養成校属性別 学生の退学意向等 137

第５章　ヒアリング調査結果 143
1-1．A 専門学校　学校事例 144
1-2．A 専門学校　事例　【　言葉の壁を乗り越えた留学生　】 148
2-1．B 専門学校　学校事例 152
2-2．B 専門学校　事例　【　実習中止を乗り越えた日本人学生　】 157
3-1．C 専門学校　学校事例 161
3-2．C 専門学校　事例　【　妊娠・出産を経て復学を果たした留学生　】 165

第６章　まとめ 169
１．退学の実態 170
２．退学を防止する要因 170
（１）養成校の対応等を要因とするもの 170
（２）学生の意欲等を要因とするもの 170
３．退学防止のための考えられる今後の課題について 171
４．まとめ 171

付属資料 173
資料１：アンケート調査票（養成校票） 174
資料２：アンケート調査票（学生票） 176

はじめに

近年、養成校入学者数は減少し、当協会調べによると、令和４年度の定員充足率は 54.1%となっている中、途中退学等の割合は 17.8%（うち日本人学生約 16%、留学生約 21%）と低くない数値となっています。

多くの学生が介護福祉士資格の取得を目指し、養成校に入学したにも関わらず、途中退学等となってしまうのは、介護人材の不足が叫ばれる中にあっては、大変な損失であると当協会として考えており、厚生労働省の補助金を活用して「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」を実施することといたしました。

途中退学の要因としては、学校側にも、学生側にも様々な要因が想定されますが、学生の退学の理由について、これまで全国的に実態を明らかにした調査等は存在しません。

本事業では、これまであまり着目することのなかった途中退学等に焦点を当て、まずは、その実態を把握するためのアンケート調査を実施しました。そして、アンケート調査結果に関してはクロス集計を行い、どういった条件の学生に退学傾向があるのかを明らかとしました。

次に、全国の養成校で学校が一丸となって取り組める途中退学等防止対策について、実際に途中退学等を回避した実績のある養成校へヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査での聞き取り内容から各養成校で取り組みやすい事項を念頭に、本報告書にて記載を致しました。

本事業の実施にあたっては、アンケート調査にご協力いただいた全国の介護福祉士養成施設の皆様、ヒアリング調査にご協力いただいた介護教員、事務課の先生及び学生や卒業生など、数多くの方々にご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後に、本事業で得られた取り組みの成果が、全国の養成校における途中退学等防止に向けた取り組みの参考となり、一人でも多くの学生が優秀な介護人材となり、社会に貢献できることを願います。

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

第１章　事業の概要

1. 事業の背景と目的

我が国においては要介護者が増加し、これにともなう介護従事者の需要は、令和7年度(2025年度)までに約243万人、22年度(2040年度)までには約280万人が必要になると推計されている。こうした高まる介護ニーズは、数だけが整えば問題が解決されるというわけではなく、そのニーズの複雑化や多様化にともなって、質の高い介護人材が求められている。つまり、優秀な介護人材を育成し確保していくことが、喫緊の課題と言える。とりわけ、介護福祉士養成施設（以下、養成校）には、介護の専門職である介護福祉士としてのマネジメント力や現場でのチームリーダー等のスペシャリストとなるべき人材が育成され、送り出されることが期待されている。

しかし、令和4年3月に全国の養成校を卒業した人数でみてみると、途中退学等の数が、入学時の人数に対して約17.8%を占めていることがわかった。この途中退学等の割合について、入学者・卒業者ともにデータがあった2年制の養成校215校で調べてみたところ、中途退学等が0名であった養成校が約26%ある一方で、途中退学者等の割合が約30%を超えている養成校も僅かではあるが存在をしていた。

同様に、養成校別に公表されている介護福祉士国家試験合格率について見てみると、こちらも合格率100%の養成校が多くあるのに対して、決して高値とは言えない数値を示す養成校が存在していた。この2点から、養成校での学生に対する学習面や生活面への支援の方法等は多種多様で、養成校ごとに取り組みの内容には大きな差があることが窺い知れた。

また、途中退学等の割合を学生の属性別でみてみると、日本人学生が約 16%に対して外国人留学生（以下、留学生）は約 21%となっており、留学生の割合が若干高くなっていた。養成校に入学する留学生は年々増加傾向にあり、全国の養成校で学ぶ学生の約 3 割を留学生が占めるまでになっている。令和5年度にも世界 25 か国の国々から約 1,800 人の留学生が入学している。留学生の途中退学等の割合が日本人学生と比べて多いということは、養成校全体における途中退学等の割合にも今後大きく影響を及ぼすことが想定された。 現在、養成校への入学者数は減少の一途をたどっており、令和5年度の定員充足率は51.3%とわずかに 5 割を保ってはいるが、危機的な状況にあることは否定できない。

こうしたことから、今後も一定数存在している途中退学等に対して、養成校全体で何らかの改善の余地が検討されるべきだが、前述の通り、養成校の別あるいは学生の属性別でも、退学する理由は異なることが想定されるところである。これまで、当協会では入学者数の減少に強い懸念を示してきてはいたが、学生の途中退学等の理由について実態を明らかにした調査等を行うことはなかった。このため、どのような事象が退学に結びついており、また、何を改善すれば退学を未然に防止できるのかという点については明らかになってはいない。

以上の経緯から、本事業では養成校及び当事者である学生へのアンケート調査とヒアリング調査を実施することで、養成校における学生の途中退学等の実態を把握し、その防止や減少に向けた学生への支援体制や取り組み内容について検討することを目的として、事業を実施することとなった。

2. 実施内容

上記の目的を達成するため、本事業では有識者、実務関係者等の7名で構成する検討委員会を設置した。検討委員会での討議をもとに、介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等のためのアンケート調査及びヒアリング調査の設計・結果分析・とりまとめを行い、一連の業務を円滑かつ効果的に進めた。

具体的には、以下(1)～(5)の 5 項目について取り組んだ。

(1) 養成校教務主任へのアンケート調査の実施
(2) 在校生へのアンケート調査の実施
(3) アンケート回答データのクロス集計の実施
(4) ヒアリング調査の実施
(5) まとめ

以下、それぞれ概要を示す。

（1）養成校教務主任へのアンケート調査の実施

当アンケートの対象者としては、介護福祉士養成校の教務主任とした。

その主な理由として、途中退学防止に向けて学校全体が一丸となって取り組んでいる各種の取り組みについて理解をしており、過去数年間の退学状況の傾向や実態について把握していることが重要と考え、その適任者が教務主任であると考えられた。そのため、一個人である教員が行った途中退学等防止に向けた学生対応といった個別事案ではなく、学校丸ごとで取り組んでいることに関する事案について問う内容項目を主眼にアンケート作成を行った。

全体数としては、全国の介護福祉士養成施設のうち当協会会員である 296 校に回答依頼をかけ、回答校の数は合計 147 校あった。アンケート調査（教務主任向け）の概要は、図表1の通りである。

なお、アンケート項目の作成にあたっては、第 1 回検討委員会に於いて討議・検討を行い、加えて、本アンケート調査およびその後に予定されているヒアリング調査の実施に向けて、より質問項目の精度を上げるため、有識者 2 名へ別途、事前ヒアリングを実施した。

図表１：養成校（教務主任向け）アンケート調査 調査概要

項目	内容
調査名	介護福祉士養成施設学生の途中退学等の防止に関するアンケート調査
実施期間	令和５年10月25日（水）～令和５年11月13日（月）
実施対象	全国の介護福祉士養成施設のうち当協会会員である296校
悉皆・抽出の区分	悉皆
調査方法	当協会から養成校宛てにメール依頼、WEBにて回収
調査結果主要集計項目	・学校基礎情報 ・学生への対応、学生の退学理由　等
督促	未回答の養成校に対してメールによる督促
備考	問い合わせには電話・メールで対応
有効回答数	147校（回収率49.7%）

本アンケート結果については、「第2章　アンケート調査結果（養成校票）」に掲載している。また、アンケート調査結果のうち、退学を防止できたケースに関する自由記述については、別添「養成校の取組により退学防止ができたケース」に、代表的な回答を取りまとめた。

（2）在校生へのアンケート調査の実施

当アンケートの対象者としては、当年度卒業の見込みがある在校生とした。

その主な理由として、養成校に在籍している 1 年生では、まだ養成課程の半分を経過した段階であるため、養成課程全体を通じた経験が少ないことが挙げられた。概ね 1,850 時間の養成教育課程の修了が見込まれる在校生を対象とすることで、養成課程の全体像が把握でき、より適切な回答が得られると判断した。

今回のアンケート調査においては、全会員校 296 校に在籍している最終学年の学生を対象とし、学校生活や教員への満足度など学校での学びに関すること、また、学習意欲や自宅での学習時間や環境といった学習状況についての設問項目を作成した。

とりわけ、退学意向を尋ねる質問項目では、(1) 養成校教務主任へのアンケートと質問項目を同一のものとし、回答結果に差異が生じるかどうかの確認を行った。

日本人学生とは異なり、留学生の退学意向の理由のなかには異文化での生活に関するギャップや信仰宗教や生活習慣などといった特有の事由が考えられることから、日本人学生とは別に質問項目を設定して実施した。

学生基礎情報においても、国籍や来日理由あるいは現在の日本語能力などの質問項目は日本人学生と異なる情報となることから、その点についても別途質問項目を設定して実施した。アンケート調査（学生向け）の概要は、図表2の通りである。

図表２：学生向けアンケート調査 調査概要

項目	内容
調査名	学生の途中退学に関するアンケート調査
実施期間	令和5年10月25日（水）～令和5年11月13日（月）
実施対象	全国の養成校に所属する2024年3月に卒業する予定の学生のみなさん
悉皆・抽出の区分	悉皆
調査方法	当協会から養成校宛てにメール依頼、Excelにて回収
調査結果主要集計項目	・学校での学びについて ・学習意欲や学習状況について ・退学意向やその理由について　等
督促	未回答の養成校に対してメールによる督促
備考	問い合わせには、電話・メールで対応
有効回答数	798名（学生の全体人数が不明のため回収率は算出できず）

本アンケート結果については、「第3章　アンケート調査結果（学生票）」に掲載している。また、アンケート調査結果のうち、学生が退学を取りやめたケースに関する自由記述については、別添「学生が退学を取りやめたケース」に、代表的な回答を取りまとめた。

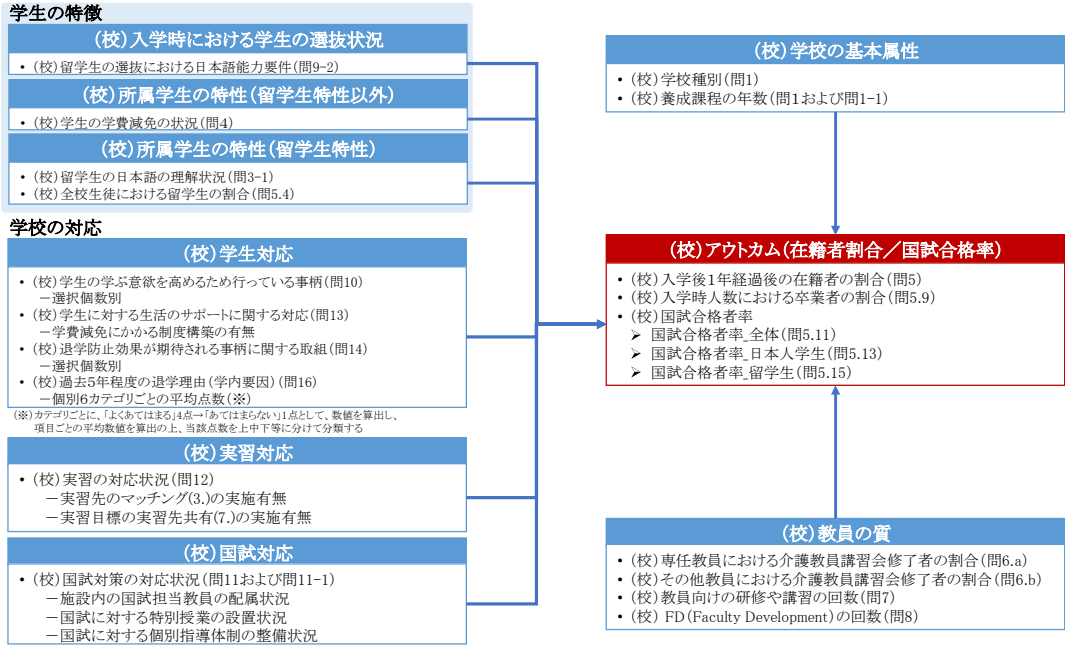
（3）アンケート回答データのクロス集計の実施

（1）（2）で記載した各種アンケート調査のデータを使用し、以下①～④のクロス集計を行った。クロス集計結果については「第4章　アンケート調査　クロス集計結果」に掲載しているが、調査結果を詳細に分析するために、χ2（カイ二乗）検定[1]の下で有意水準α＝0.05　で有意な差が認められた項目を中心に掲載している。第4章で取り上げることができなかったクロス集計結果は、別添の付属資料「クロス集計結果一覧」に掲載している。

①　養成校属性別　養成校の退学状況等

養成校票のデータを使用し、「どのような養成校で、退学者が少ないか（在籍者割合が高いか）」等を確認するクロス集計を実施した。

図表　養成校の属性別　養成校の退学状況等

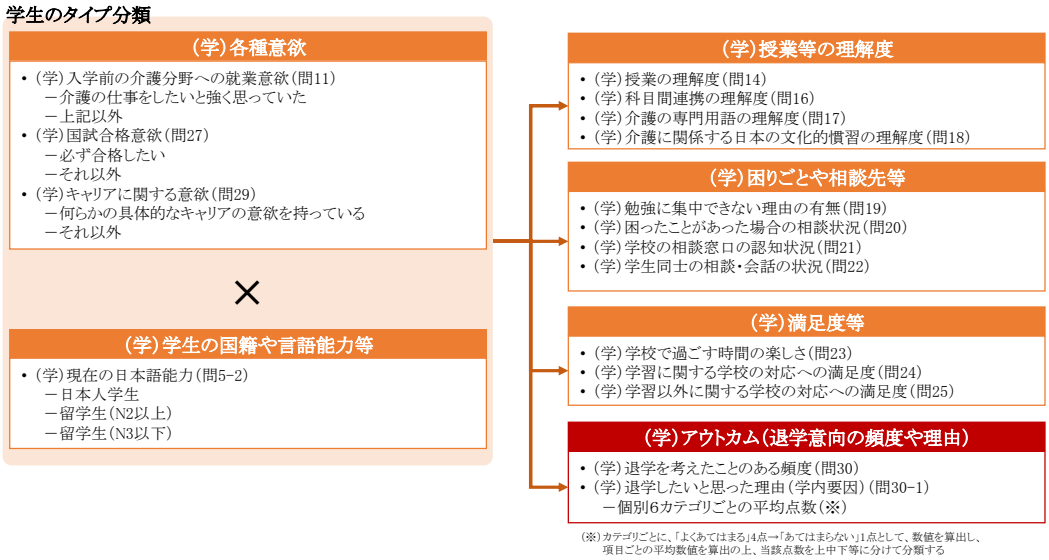


[1] χ2（カイ二乗）検定とは、観測値と期待値のずれを測るための統計量であるχ2値を用いて、クロス集計表における２つの変数が関連しているか否かを調べる検定方法のことである。本報告書では、χ2検定の結果得られた検定統計量 p 値が 0.05 未満であれば、有意水準５％で統計学的に有意な差が認められると判断している。

② 学生のタイプ別 学生の各種理解度や満足度・退学意向等

学生票のデータを使用し、「学生のタイプによって、各種項目にどのような違いがあるか」等を確認するクロス集計を実施した。

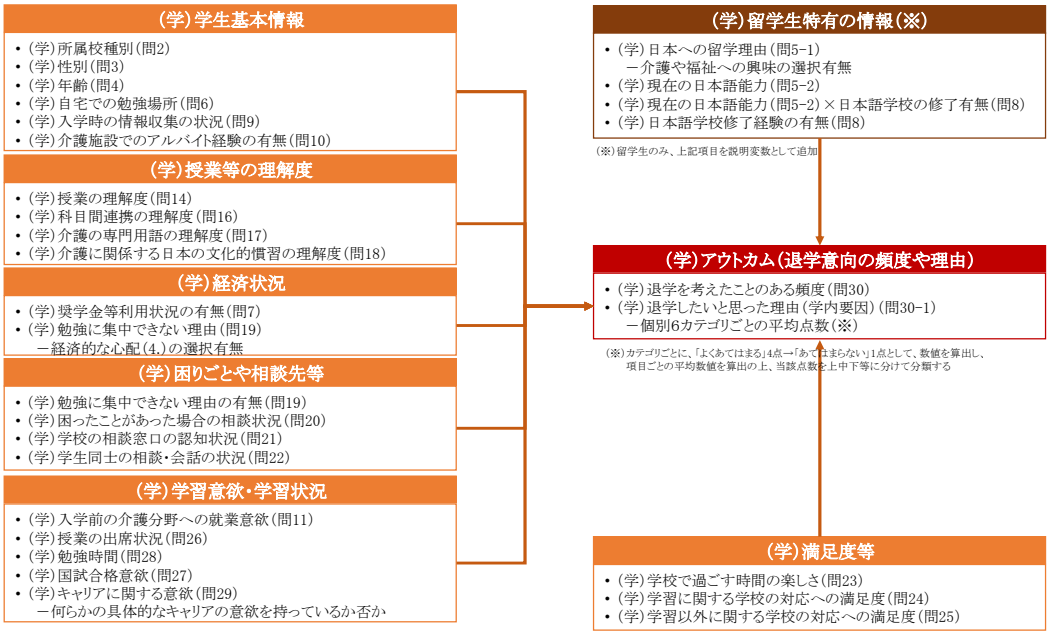
図表 学生のタイプ別 各種理解度や満足度・退学意向等



③ 学生属性別 学生の退学意向等

学生票のデータを使用し、「どのような学生が、退学意向が高いか」、「どのような学生が、どのような退学理由を持っているか」等を確認するクロス集計を実施した。

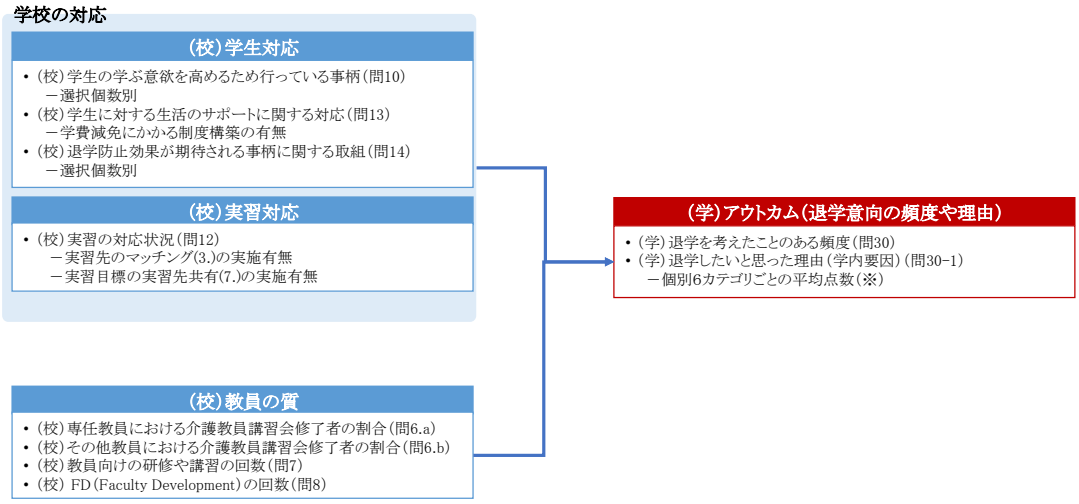
図表 学生属性別 学生の退学意向等



④ 養成校属性別 学生の退学意向等

養成校票、および学生票のデータを使用し、「どのような養成校に所属する学生が、退学意向が高いか」、「どのような養成校に所属する学生が、どのような退学理由を持っているか」等を確認するクロス集計を実施した。

図表 養成校属性別 学生の退学意向等



（4）ヒアリング調査の実施

途中退学防止等に向けた本調査の事業目的にあたり、全国の養成校へ好事例の情報を発信するため、途中退学者が少なく卒業した率が高く、かつ、介護福祉士国家試験の合格率についても高位だった養成校へヒアリング協力の依頼を行った。そのうち3校の教員と学生や卒業生の計6名から聞き取りを行った。

ヒアリングの質問項目については、本ヒアリング調査実施前に行ったアンケート調査での回答結果を参考にして骨子を作成した。その資料をもとに、第2回検討委員会に於いて討議・検討を行い、次の5項目を追加して意見聴取を行った。

① 国家試験対策に対する補講や特別講座の設置など、どの程度力を入れているのか。

② 実習先の介護施設との連携の仕方に関して、段階に応じた施設選択がなされているか。

③ 実習先の介護施設での指導職員と学生との年齢差などによってギャップが生じていないか。

④ 心身の健康や体調を理由に退学に至ったケースにおいて、体調を崩す原因は何だったのか。

⑤ 退学理由として経済的要因などの学外要因あるいはクラスでの人間関係などの学内要因とどちらが多いと考えているか。

図表：介護教員へのヒアリング調査の概要

実施時期	実施対象	ヒアリング項目
令和６年 ２～３月	・A専門学校　教員1名（言葉の壁を乗り越えた留学生の対応事例） ・B専門学校　教員１名（実習中止を乗り越えた日本人学生の対応事例） ・C専門学校　教員１名と事務担当者1名（妊娠・出産を経て復学を果たした留学生の対応事例）	・養成校の基礎情報（教員数及び体制、奨学金受給学生の割合など） ・教員情報（教員歴、介護教員講習会受講の有無など） ・学生にかかる情報（これまで退学しそうになった学生の特徴について） ・養成校全体での取り組み（学生支援の体制について、学校一丸となって対応している途中退学等の防止に向けた取り組みなど） ・学生対応で配慮していること（退学の予兆を把握する工夫、学生の本音を聞き出すための工夫など） ・途中退学を防ぐことができた学生の特徴（退学を考えるに至った経緯や退学をしないと決意するに至った経緯）　等

介護教員へのヒアリング調査とは別に本調査事業の目的である途中退学防止等に向けた好事例として、当事者である学生に対して、自身が経験したり感じたりした退学に関わる出来事などについての聞き取りを行った。

ヒアリングの質問項目については、本ヒアリング調査実施前に行ったアンケート調査での回答結果を参考にしながら骨子を作成し、第２回検討委員会に於いて討議・検討を行った。日本人学生と留学生とでは異なる結果が出たことから、日本人学生と留学生とでは質問項目に若干の変更を行い、それぞれの目的に沿った内容を事前に設定して、本ヒアリング調査を実施した。

学校生活で感じたこと、実習で経験したこと、退学を一旦は決意したことがあったが現在は卒業を迎えるまでに至った経緯について、意見聴取を行った。なお、本ヒアリングに関する聞き取り内容の詳細については、「第5章ヒアリング結果」に掲載している。

図表：日本人学生へのヒアリング調査の概要

実施時期	実施対象	ヒアリング項目
令和６年３月	・実習中止を乗り越えた日本人学生の事例	・学生の基礎情報（年齢、入学動機、学校の成績など） ・授業以外の学校生活について（相談窓口の利用有無や満足度、休み時間の過ごし方、授業以外の学内イベントなど） ・授業・実習に関すること（授業の進め方や理解度、巡回指導についてなど） ・退学をしたいと思った経緯 ・退学を踏みとどまった経緯　等

図表：留学生及び卒業した元留学生へのヒアリング調査の概要

実施時期	実施対象	ヒアリング項目
令和６年２月	・言葉の壁を乗り越えた留学生の事例 ・妊娠・出産を経て復学を果たした留学生の事例	・留学生の基礎情報（年齢、出身、入学動機、奨学金受給の有無など） ・授業以外の学校生活について（相談窓口を知った方法や満足度休み時間の過ごし方、授業以外の学内イベントなど） ・授業・実習に関すること（授業中に日本語に関する配慮があるのか、自宅学習の時間が確保できているか、など） ・退学をしたいと思った経緯 ・退学を踏みとどまった経緯　等

なお、本ヒアリングに関する聞き取り内容の詳細については、「第5章ヒアリング結果」に掲載している。

（5）まとめ

先述の（1）～（4）それぞれの実施結果を踏まえ、途中退学等の実態について記述をし、退学を防止する要因として、養成校の対応等を要因とするものと学生の意欲等を要因とするものの2つの側面から、まとめた。そして、今後の課題として退学防止のために考えられる課題についても記載をした。

こちらに記載のあるアンケート調査の結果およびヒアリングまとめの内容を基に、全ての養成校において途中退学等の防止に向けた取り組みが、より一層効果的なものとなることを念頭に、実践のしやすさについても配慮して作成を行った。

なお、まとめの詳細については、「第6章まとめ」に記載している。

3. 実施体制

本事業では有識者、実務関係者等の7名で構成する検討委員会を設置し、介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究のための各調査の設計・結果分析・とりまとめについて、討議・検討を行った。各委員の氏名及び所属などについては、下記のとおりである。

(1)検討委員会名簿

＜検討委員会名簿＞※◎:委員長、五十音順、敬称略、所属等は令和 6 年 3 月時点

氏名	所属・役職
◎井之上　芳雄	日本介護福祉士養成施設協会　副会長
伊藤　浩一	いばらき中央福祉専門学校　学校長代行
植上　一希	福岡大学　人文学部　教授
小山　晶子	医療介護福祉政策研究フォーラム　シニアアドバイザー 中部学院大学　専任講師
黒田　英敏	旭川福祉専門学校　副校長
嶋田　直美	和歌山 YMCA 国際福祉専門学校　主任教員
森　千佐子	日本社会事業大学　社会福祉学部　教授

＜オブザーバー＞※敬称略、所属等は令和 6 年 3 月時点
厚生労働省　社会・援護局　福祉基盤課　福祉人材確保対策室

＜事務局＞

氏名	所属・役職
山田　洋輔	日本介護福祉士養成施設協会　事務局長
田中　佐千代	同　事務局員

＜事務局補助＞

氏名	所属・役職
安田　純子	PwC コンサルティング合同会社　公共事業部　シニアマネージャー
岡田　泰治	同　シニアアソシエイト

(2)委員会開催実績及び検討内容

以下の通り、検討委員会を3回実施した。

＜検討委員会　開催実績及び検討内容＞

回数	日程・場所	議事内容
第１回	令和５年９月７日(木) 19：00-21：00 @PwC コンサルティング合同会社　18F　Fuji (ZOOM 併用)	・ 本調査・研究にかかる背景および事業の全体概要について ・ 本年度の実施事項について
第２回	令和６年１月 25 日(木) 18：00-20：00 @PwC コンサルティング合同会社　18F　Fuji (ZOOM 併用)	・ 養成校アンケート調査の結果について ・ 在校生アンケート調査の結果について ・ ヒアリングの項目内容について
第３回	令和６年３月 12 日(火) 13：00-15：00 @PwC コンサルティング合同会社　18F　ToYa (ZOOM 併用)	・ ヒアリングの結果について ・ 事業報告書の記載項目について

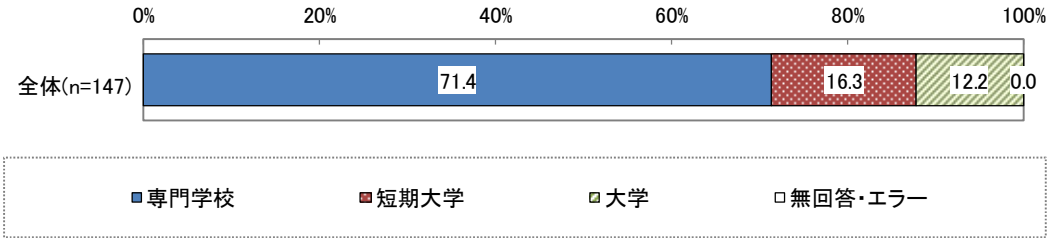
第２章　アンケート調査結果（養成校票）

1. 学校基礎情報

(1)学校種別

問 1. 貴校の養成校の種別を教えてください。

・ 全体では、「専門学校」が 71.4%、「短期大学」が 16.3%、「大学」が 12.2%であった。



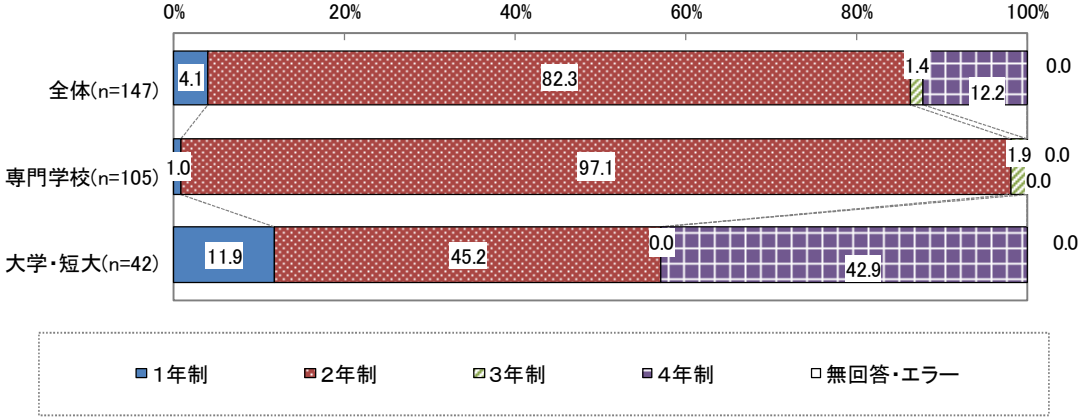
※以下、学校種別で分類し、「全体」、「専門学校」、「大学・短大」の3軸でグラフを作成している。
※大学・短大についてはn数が少ないことから、グラフのコメントについて「全体」のみに触れることとする。

学校種別	専門学校	問1の選択肢が以下の養成校 1. 専門学校
	大学・短大	問1の選択肢が以下の養成校 2. 短期大学 3. 大学

(2)介護福祉士養成課程の年数

問 1. 貴校の養成校の種別を教えてください。 および 問 1-1.【問 1 で「1. 専門学校」「2. 短期大学」を選択した方】貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。

・ 全体では、「1 年制」が 4.1%、「2 年制」が 82.3%、「3 年制」が 1.4%、「4 年制」が 12.2%であった。

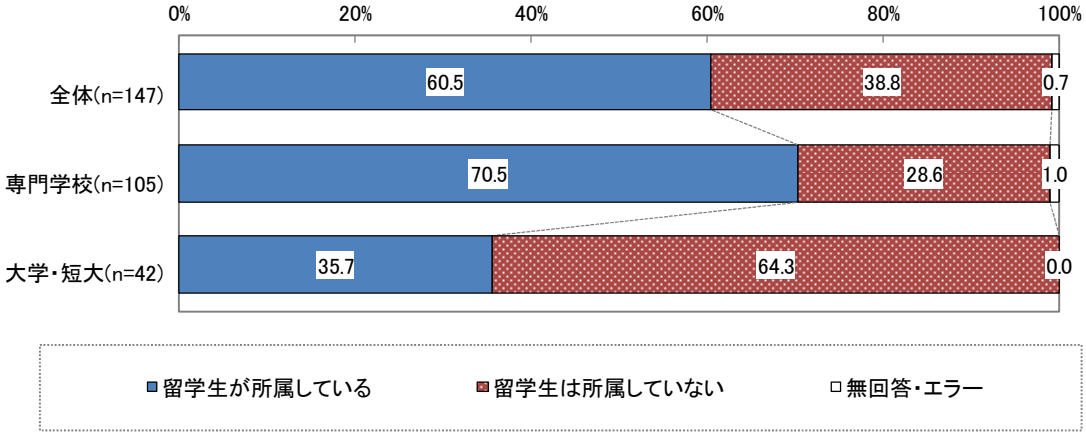


（3）留学生の状況

① 留学生の在籍状況

問 3. 貴校に現在、留学生が所属しているかどうか教えてください。

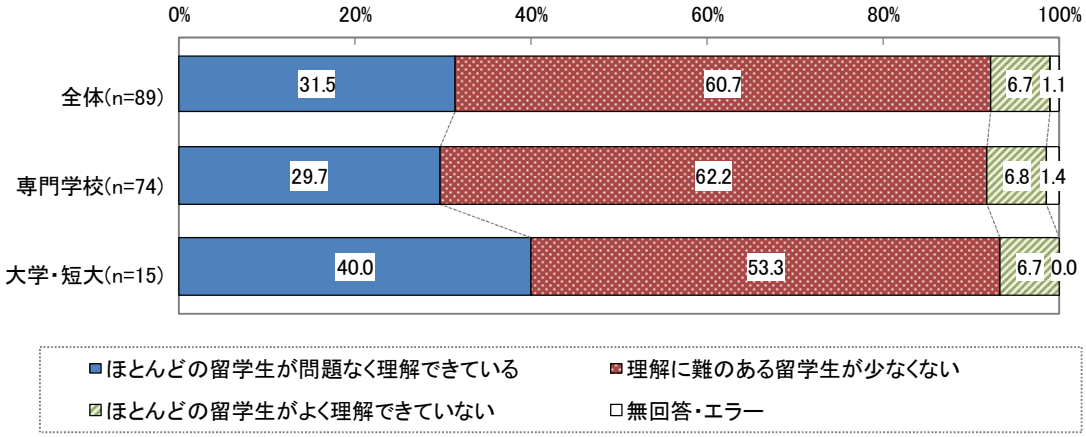
・ 全体では、「留学生が所属している」が 60.5%、「留学生は所属していない」が 38.8%であった。



② 留学生の日本語の理解状況

問 3-1.【問 3 で「1. 留学生が所属している」を選択した方】現在所属している留学生について、授業で使用する日本語の理解状況を教えてください。

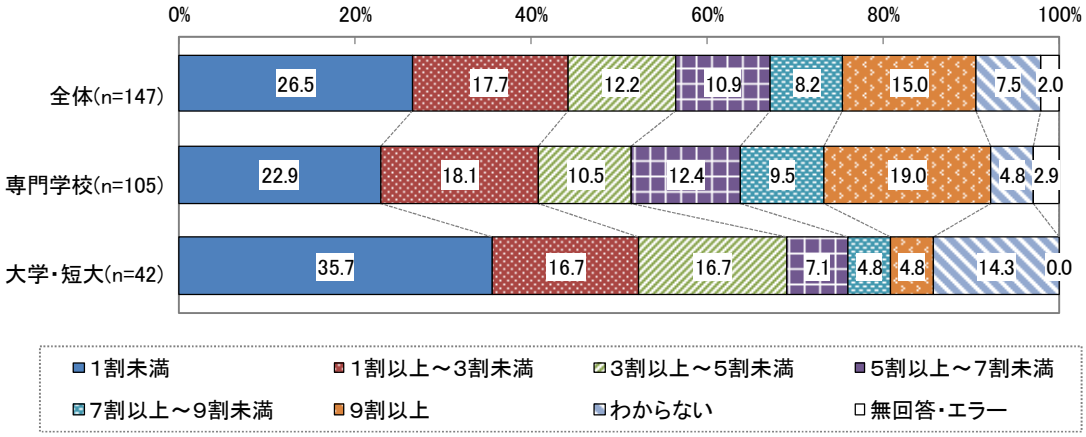
・ 全体では、「ほとんどの留学生が問題なく理解できている」が 31.5%、「理解に難のある留学生が少なくない」が 60.7%、「ほとんどの留学生がよく理解できていない」が 6.7%であった。



（4）学生の学費減免の状況

問 4. 貴校に現在所属している学生について、何らかの学費減免を受けている学生の割合を教えてください。

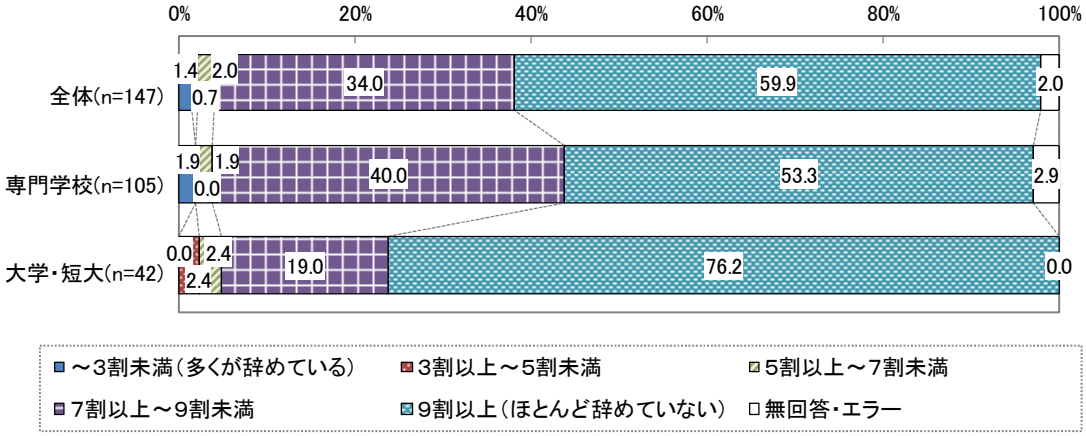
・ 全体では、「１割未満」が 26.5%、「１割以上～３割未満」が 17.7%、「３割以上～５割未満」が 12.2%、「５割以上～７割未満」が 10.9%、「７割以上～９割未満」が 8.2%、「９割以上」が 15.0%、「わからない」が 7.5%であった。



（5）入学後１年経過後の在籍者の割合

問 5. 過去5年程度の間、入学後1年経過後の在籍者の割合は、入学人数と比較してどの程度であったかを教えてください。

・ 全体では、「～３割未満（多くが辞めている）」が 1.4%、「３割以上～５割未満」が 0.7%、「５割以上～７割未満」が 2.0%、「７割以上～９割未満」が 34.0%、「９割以上（ほとんど辞めていない）」が 59.9%であった。

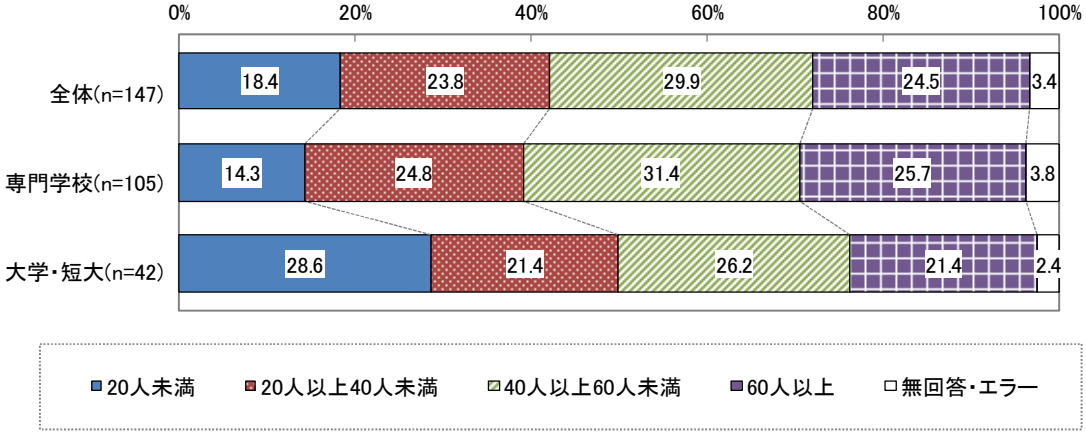


(6)所属学生数

① 全校生徒数(2023 年 4 月時点)

問 5.1. 2023 年 4 月時点の全校生徒数

・ 全体では、「20 人未満」が 18.4%、「20 人以上 40 人未満」が 23.8%、「40 人以上 60 人未満」が 29.9%、「60 人以上」が 24.5%であった。

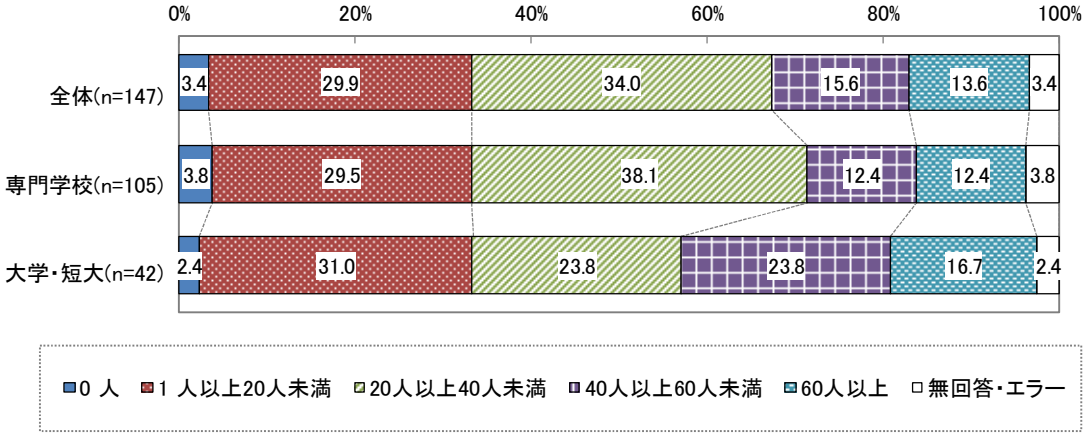


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	142	47.1	42.5	2	219
専門学校	101	47.3	44.0	3	142
大学・短大	41	46.6	39.0	2	219

② 日本人学生数(2023 年 4 月時点)

問 5.2. 2023 年 4 月時点の日本人学生数(全学年合計)

・ 全体では、「0 人」が 3.4%、「1 人以上 20 人未満」が 29.9%、「20 人以上 40 人未満」が 34.0%、「40 人以上 60 人未満」が 15.6%、「60 人以上」が 13.6%であった。

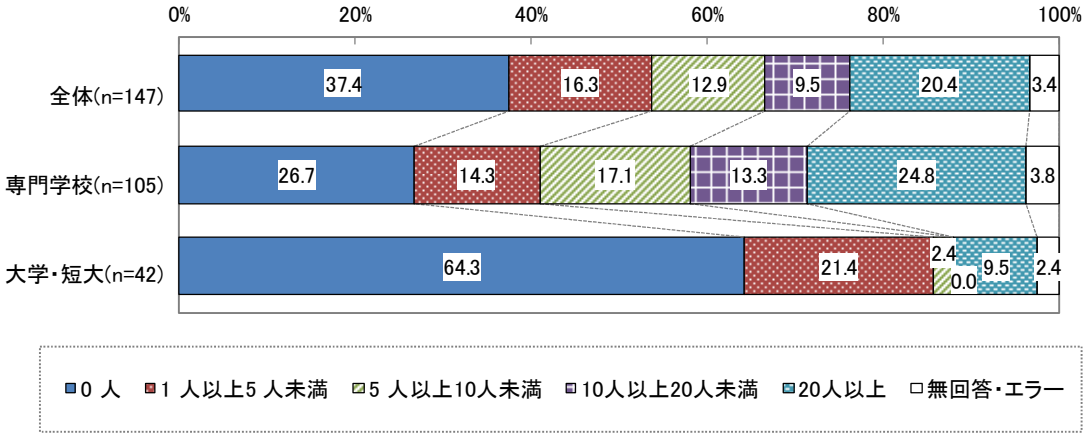


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	142	34.1	28.5	0	219
専門学校	101	30.4	27.0	0	88
大学・短大	41	43.3	34.0	0	219

③ 留学生数（2023 年 4 月時点）

問 5.3. 2023 年 4 月時点の留学生数（全学年合計）

・ 全体では、「0 人」が 37.4%、「1 人以上 5 人未満」が 16.3%、「5 人以上 10 人未満」が 12.9%、「10 人以上 20 人未満」が 9.5%、「20 人以上」が 20.4%であった。

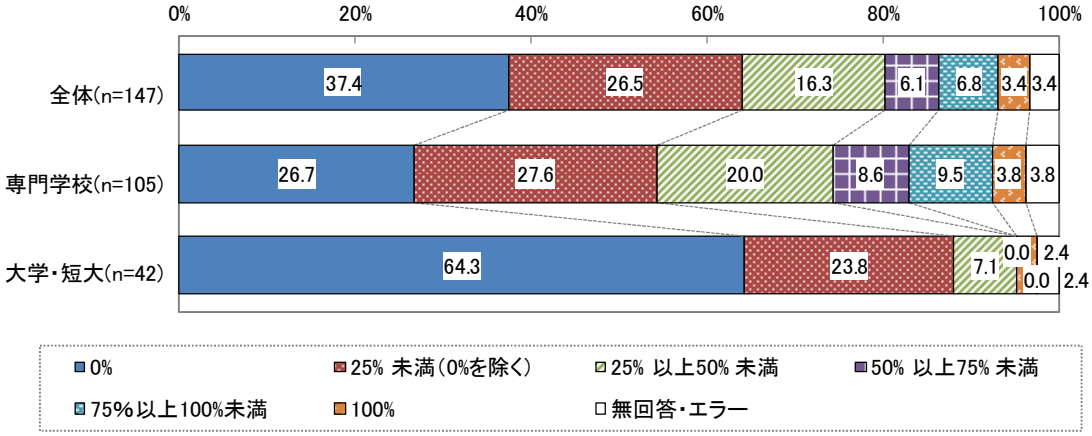


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	142	13.0	2.0	0	141
専門学校	101	16.9	6.0	0	141
大学・短大	41	3.3	0.0	0	36

④ 全校生徒における留学生の割合（2023 年 4 月時点）

問 5.4. 2023 年 4 月時点の全校生徒における留学生の割合

・ 全体では、「0%」が 37.4%、「25% 未満（0%を除く）」が 26.5%、「25% 以上 50% 未満」が 16.3%、「50% 以上 75% 未満」が 6.1%、「75%以上 100%未満」が 6.8%、「100%」が 3.4%であった。



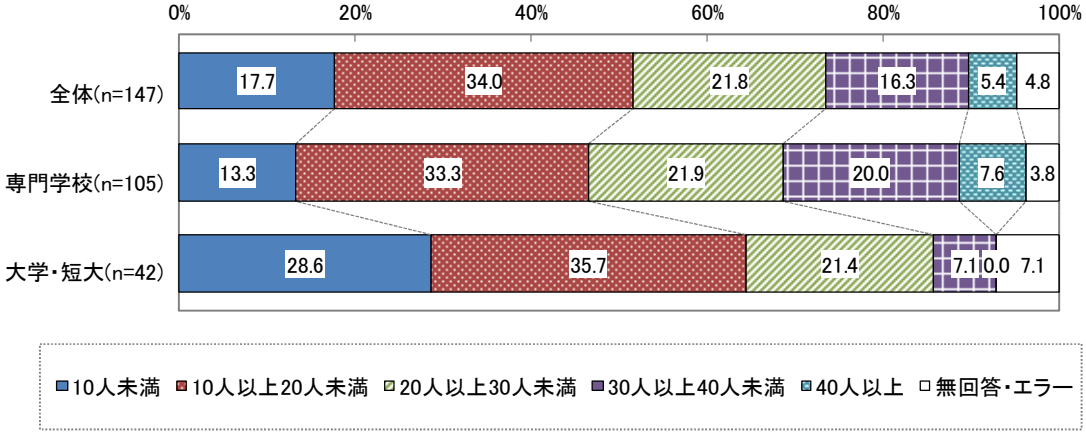
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	142	22.5	6.7	0	100
専門学校	101	28.8	17.8	0	100
大学・短大	41	7.0	0.0	0	100

(7)卒業生数

① 全卒業生数(2023 年 3 月卒業者数)

問 5.5. 2023 年 3 月の卒業生数(調査数)

・ 全体では、「10 人未満」が 17.7%、「10 人以上 20 人未満」が 34.0%、「20 人以上 30 人未満」が 21.8%、「30 人以上 40 人未満」が 16.3%、「40 人以上」が 5.4%であった。

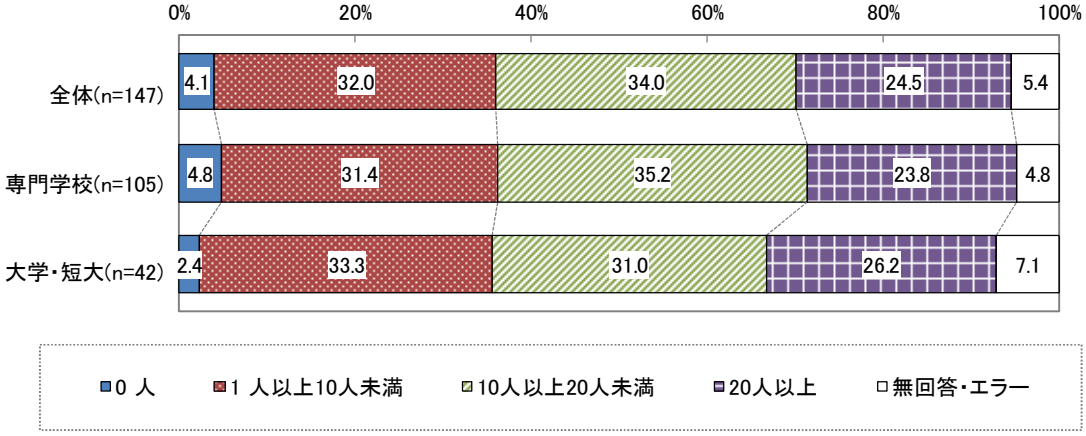


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	140	20.1	17.0	0	71
専門学校	101	22.1	20.0	3	71
大学・短大	39	14.9	14.0	0	34

② 卒業した日本人学生数(2023 年 3 月卒業者数)

問 5.6. 2023 年 3 月の卒業生数―うち日本人学生数

・ 全体では、「0 人」が 4.1%、「1 人以上 10 人未満」が 32.0%、「10 人以上 20 人未満」が 34.0%、「20 人以上」が 24.5%であった。

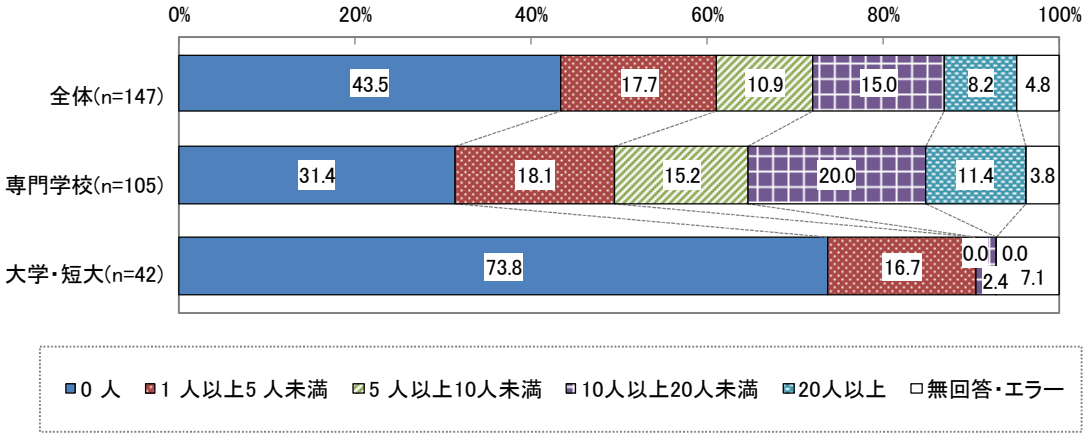


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	139	13.8	12.0	0	40
専門学校	100	13.6	12.5	0	40
大学・短大	39	14.2	12.0	0	34

③ 卒業した留学生数（2023 年 3 月卒業者数）

問 5.7. 2023 年 3 月の卒業生数―うち留学生数

・ 全体では、「0 人」が 43.5%、「1 人以上 5 人未満」が 17.7%、「5 人以上 10 人未満」が 10.9%、「10 人以上 20 人未満」が 15.0%、「20 人以上」が 8.2%であった。



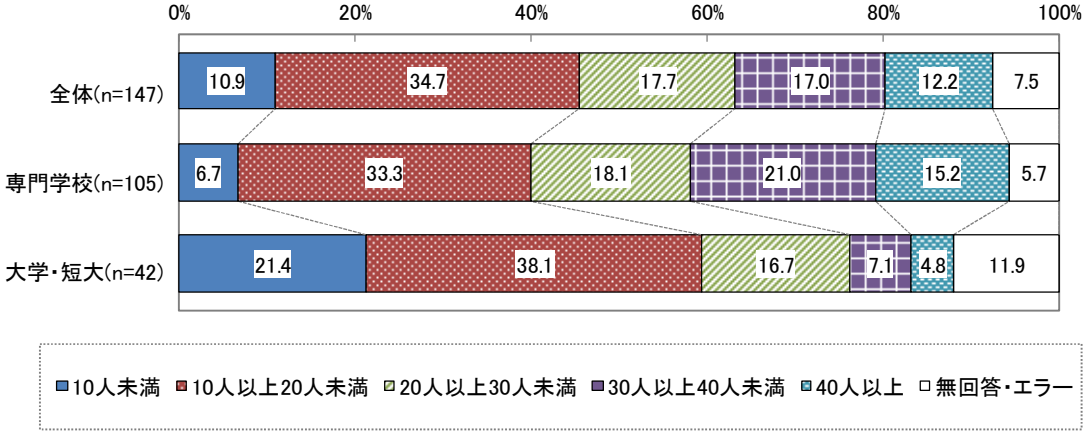
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	140	6.3	1.0	0	46
専門学校	101	8.5	4.0	0	46
大学・短大	39	0.7	0.0	0	17

（8）入学者数と卒業者の数の比較

① 2023 年 3 月の卒業生が入学した際の人数（入学時人数）

問 5.8. 2023 年 3 月の卒業生が入学した際の人数（入学時人数）

・ 全体では、「10 人未満」が 10.9%、「10 人以上 20 人未満」が 34.7%、「20 人以上 30 人未満」が 17.7%、「30 人以上 40 人未満」が 17.0%、「40 人以上」が 12.2%であった。

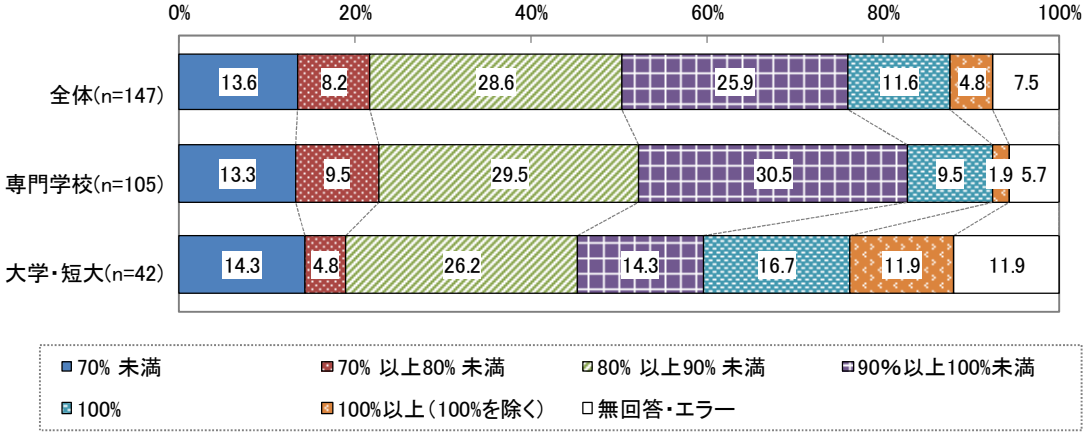


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	136	23.9	20.0	3	84
専門学校	99	26.2	23.0	3	84
大学・短大	37	17.7	15.0	3	51

②入学時人数における卒業者の割合（2023 年 3 月卒業者全体）

問 5.9. 入学時人数における卒業者の割合

・ 全体では、「70% 未満」が 13.6%、「70% 以上 80% 未満」が 8.2%、「80% 以上 90% 未満」が 28.6%、「90%以上 100%未満」が 25.9%、「1」が 11.6%、「100%以上（100%を除く）」が 4.8%であった。



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	136	87.4	88.2	23.5	260.0
専門学校	99	86.1	88.2	38.5	170.4
大学・短大	37	91.0	89.5	23.5	260.0

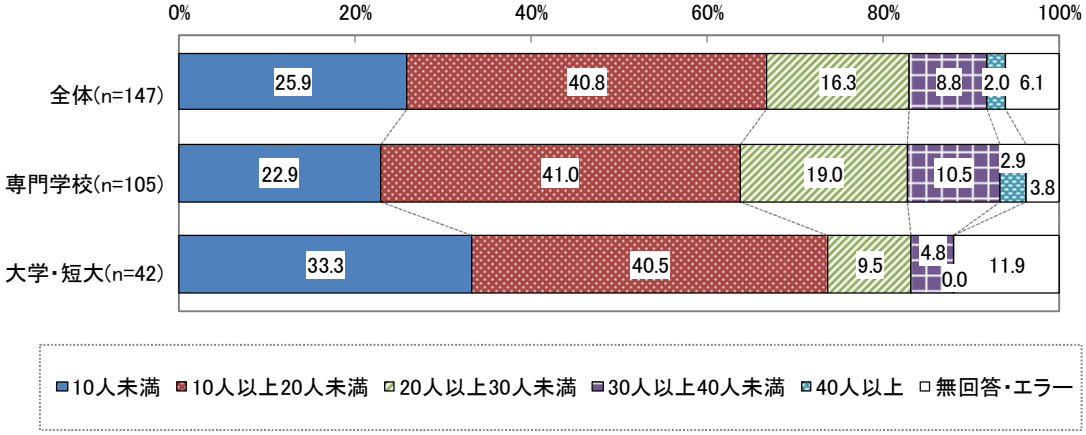
（9）卒業者における介護福祉士国家試験合格者数

① 2023 年 3 月の卒業生のうち介護福祉士国家試験者の数と割合（全体）

＜合格者数＞

問 5.10. 2023 年 3 月の卒業生のうち国家試験合格者数（調査数）

・ 全体では、「10 人未満」が 25.9%、「10 人以上 20 人未満」が 40.8%、「20 人以上 30 人未満」が 16.3%、「30 人以上 40 人未満」が 8.8%、「40 人以上」が 2.0%であった。

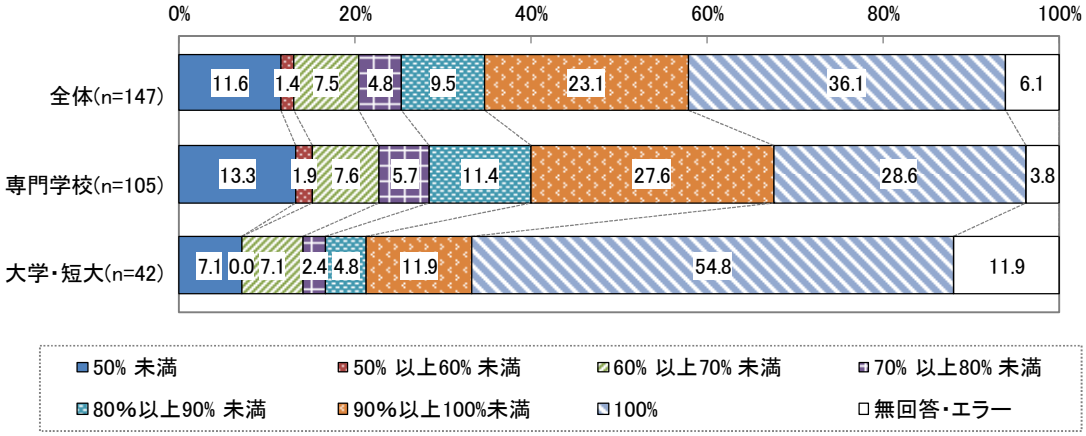


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	138	16.1	14.0	0	56
専門学校	101	17.3	16.0	0	56
大学・短大	37	12.9	12.0	2	34

＜卒業生における合格者の割合＞

問 5.11. 2023 年 3 月の卒業生における国家試験合格者の割合

・ 全体では、「50% 未満」が 11.6%、「50% 以上 60% 未満」が 1.4%、「60% 以上 70% 未満」が 7.5%、「70% 以上 80% 未満」が 4.8%、「80%以上 90% 未満」が 9.5%、「90%以上 100% 未満」が 23.1%、「100%」が 36.1%であった。



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	138	83.2	93.9	0.0	100.0
専門学校	101	81.4	91.7	0.0	100.0
大学・短大	37	88.1	100.0	11.5	100.0

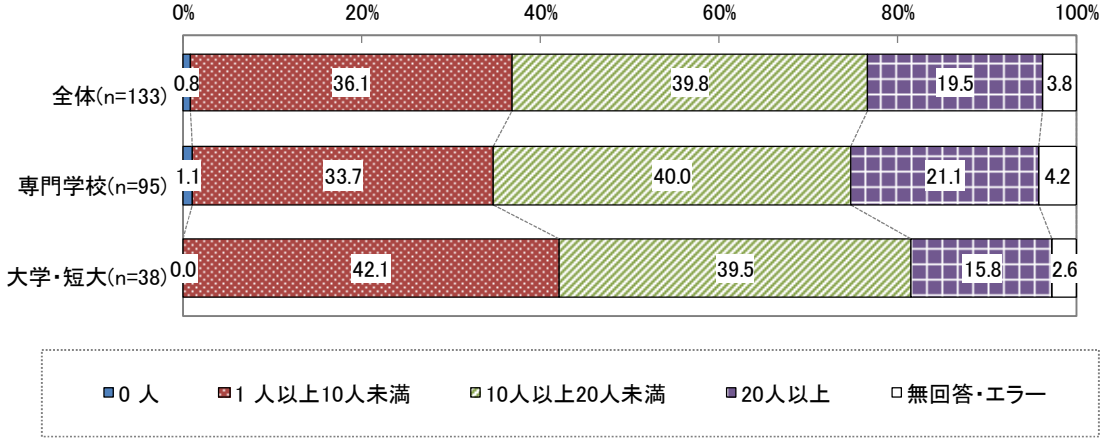
（参考）厚生労働省，第 34 回介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率によると、
「養成施設ルート（全体）」における合格率平均は 65.3%（受験者数 7,144 人中）

② 2023 年 3 月の卒業生のうち介護福祉士国家試験者の数と割合（日本人学生）

＜合格者数＞※日本人学生が在籍する養成校のみ

問 5.12. 2023 年 3 月の卒業生のうち国家試験合格者数―うち日本人学生数

・ 全体では、「0 人」が 0.8%、「1 人以上 10 人未満」が 36.1%、「10 人以上 20 人未満」が 39.8%、「20 人以上」が 19.5%であった。

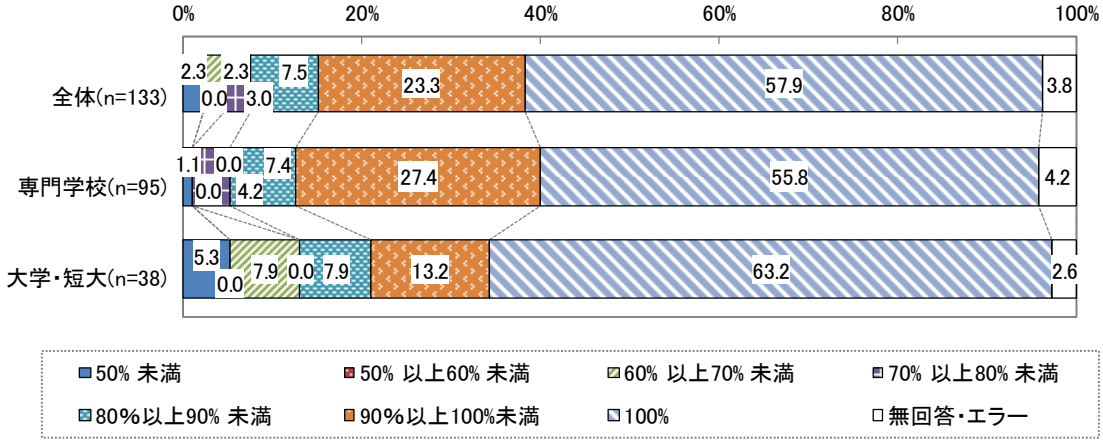


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	128	13.5	12.0	0	38
専門学校	91	13.9	13.0	0	38
大学・短大	37	12.7	12.0	2	34

＜卒業生における合格者の割合＞※日本人学生が在籍する養成校のみ

問 5.13. 2023 年 3 月に卒業した日本人学生における国家試験合格者の割合

・ 全体では、「50% 未満」が 2.3%、「50% 以上 60% 未満」が 0.0%、「60% 以上 70% 未満」が 2.3%、「70% 以上 80% 未満」が 3.0%、「80%以上 90% 未満」が 7.5%、「90%以上 100% 未満」が 23.3%、「100%」が 57.9%であった。



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	128	93.7	100.0	0.0	100.0
専門学校	91	95.0	100.0	0.0	100.0
大学・短大	37	90.4	100.0	11.5	100.0

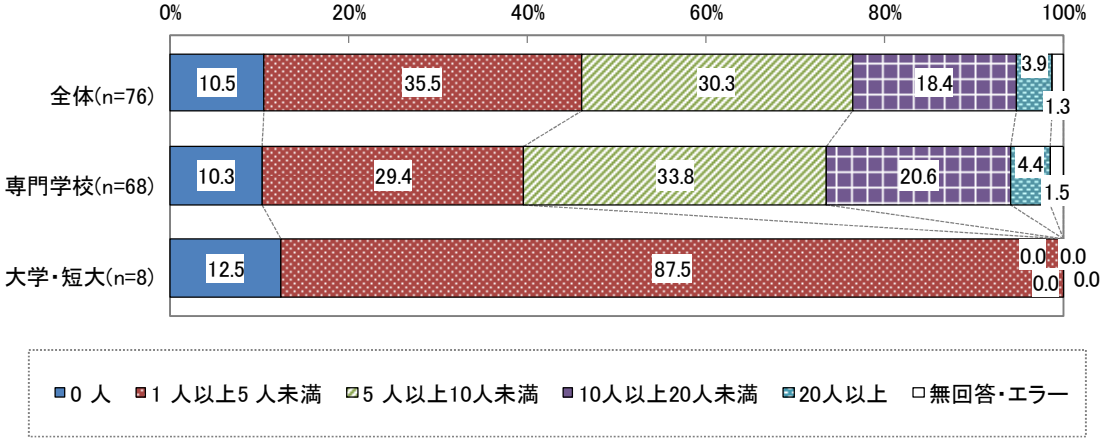
（参考）厚生労働省，第 34 回介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率によると、
「養成施設ルート（留学生を除いた受験者）」における合格率平均は 88.5%（受験者数 4,529 人中）

③ 2023 年 3 月の卒業生のうち介護福祉士国家試験者の数と割合（留学生）

＜合格者数＞※留学生が在籍する養成校のみ

問 5.14. 2023 年 3 月の卒業生のうち国家試験合格者数―うち留学生数

・ 全体では、「0 人」が 10.5%、「1 人以上 5 人未満」が 35.5%、「5 人以上 10 人未満」が 30.3%、「10 人以上 20 人未満」が 18.4%、「20 人以上」が 3.9%であった。

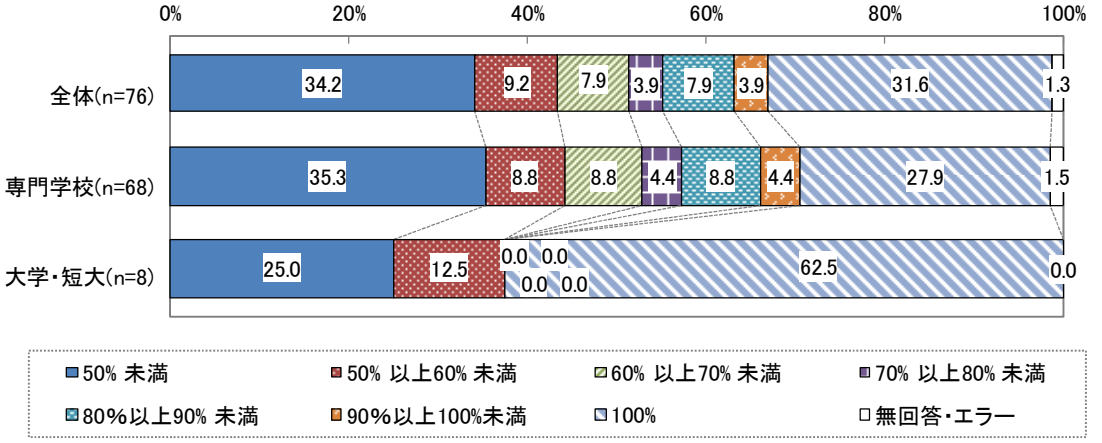


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	75	6.0	5.0	0	30
専門学校	67	6.6	5.0	0	30
大学・短大	8	1.3	1.0	0	3

＜卒業生における合格者の割合＞※留学生が在籍する養成校のみ

問 5.15. 2023 年 3 月に卒業した留学生における国家試験合格者の割合

・ 全体では、「50% 未満」が 34.2%、「50% 以上 60% 未満」が 9.2%、「60% 以上 70% 未満」が 7.9%、「70% 以上 80% 未満」が 3.9%、「80%以上 90% 未満」が 7.9%、「90%以上 100% 未満」が 3.9%、「100%」が 31.6%であった。



	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	75	62.1	66.7	0.0	100.0
専門学校	67	61.2	66.7	0.0	100.0
大学・短大	8	69.5	100.0	0.0	100.0

(参考)厚生労働省, 第 34 回介護福祉士国家試験 養成施設等別合格率によると、
「養成施設ルート(留学生受験者)」における合格率平均は 25.1%(受験者数 2,615 人中)

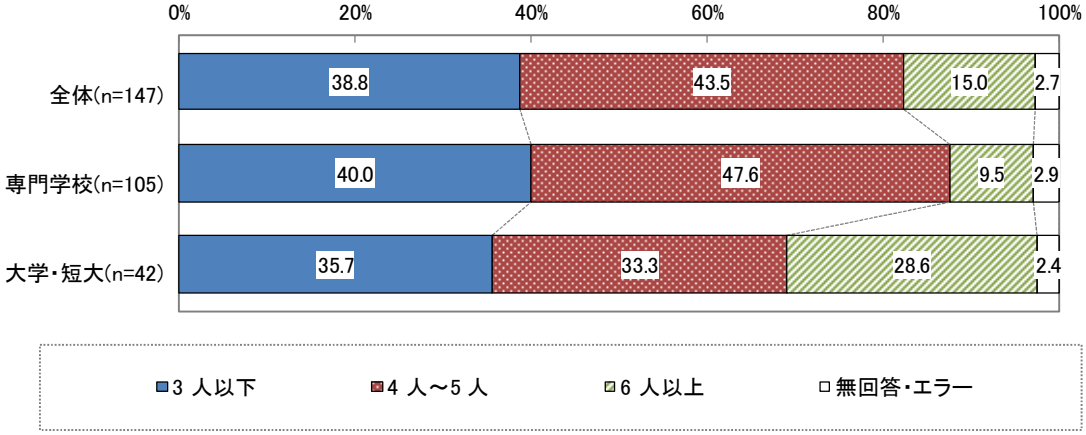
(10)教員情報

① 専任教員

＜教員数＞

問 6.1. 専任教員数：貴校の教員数を教えてください。（数値）

・ 全体では、「3 人以下」が 38.8%、「4 人～5 人」が 43.5%、「6 人以上」が 15.0%であった。

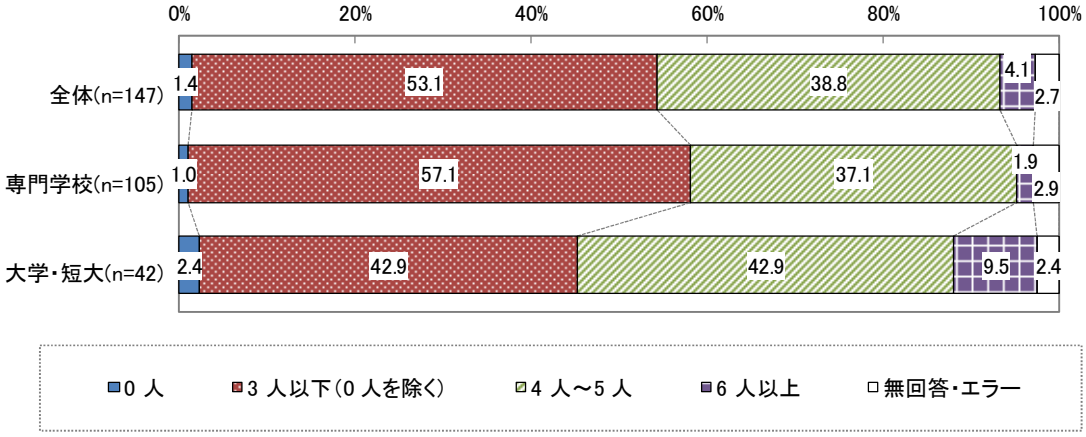


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	5.0	4.0	2	72
専門学校	102	4.3	4.0	2	32
大学・短大	41	6.8	4.0	3	72

＜教員のうち介護教員講習会修了者数＞

問 6.2. 専任教員数のうち介護教員講習会受講済み者：貴校の教員数を教えてください。（数値）

・ 全体では、「0 人」が 1.4%、「3 人以下（0 人を除く）」が 53.1%、「4 人～5 人」が 38.8%、「6 人以上」が 4.1%であった。

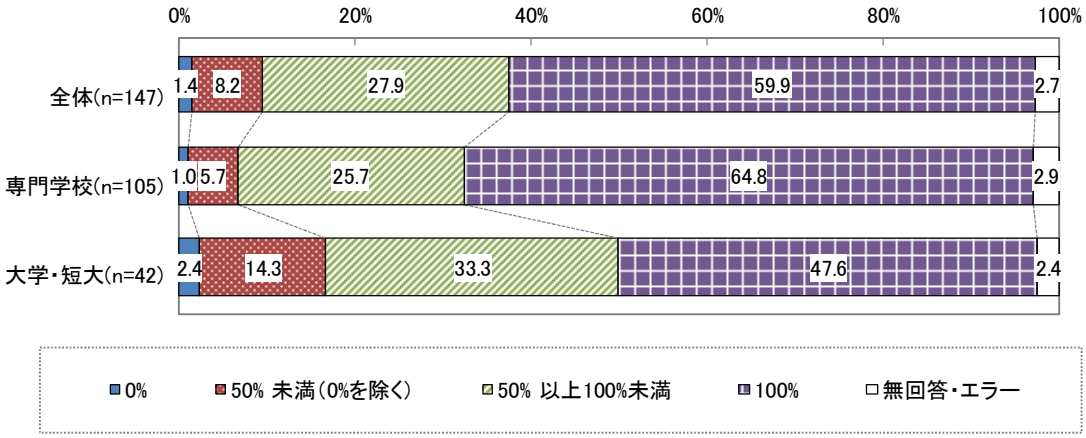


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	3.5	3.0	0	9
専門学校	102	3.4	3.0	0	7
大学・短大	41	3.7	4.0	0	9

＜教員における介護教員講習会修了者の割合＞

問 6.a. 専任教員のうち、介護教員講習会受講済みの方の割合

・ 全体では、「0 %」が 1.4%、「50% 未満（0%を除く）」が 8.2%、「50% 以上 100%未満」が 27.9%、「100%」が 59.9%であった。



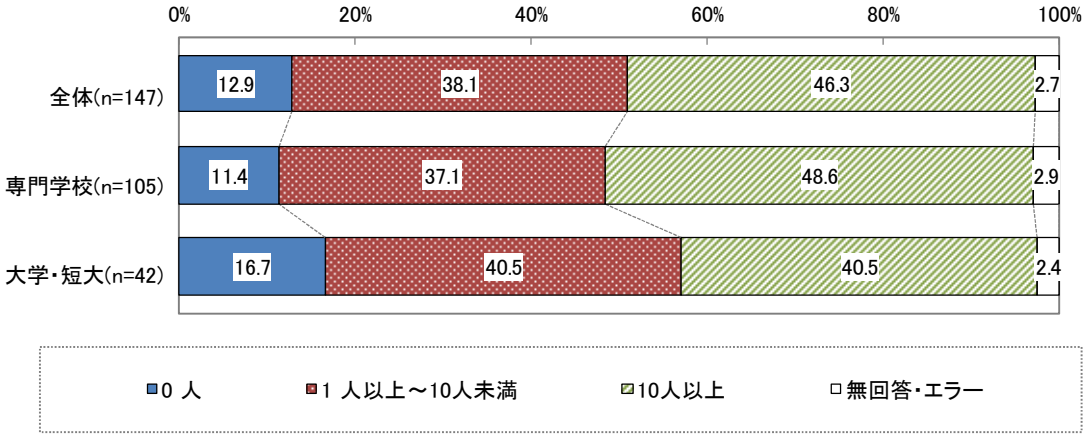
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	83.9	100.0	0.0	100.0
専門学校	102	86.5	100.0	0.0	100.0
大学・短大	41	77.5	83.3	0.0	100.0

② その他教員

＜教員数＞

問 6.3. その他教員数：貴校の教員数を教えてください。（数値）

・ 全体では、「0 人」が 12.9%、「1 人以上～10 人未満」が 38.1%、「10 人以上」が 46.3%、であった。

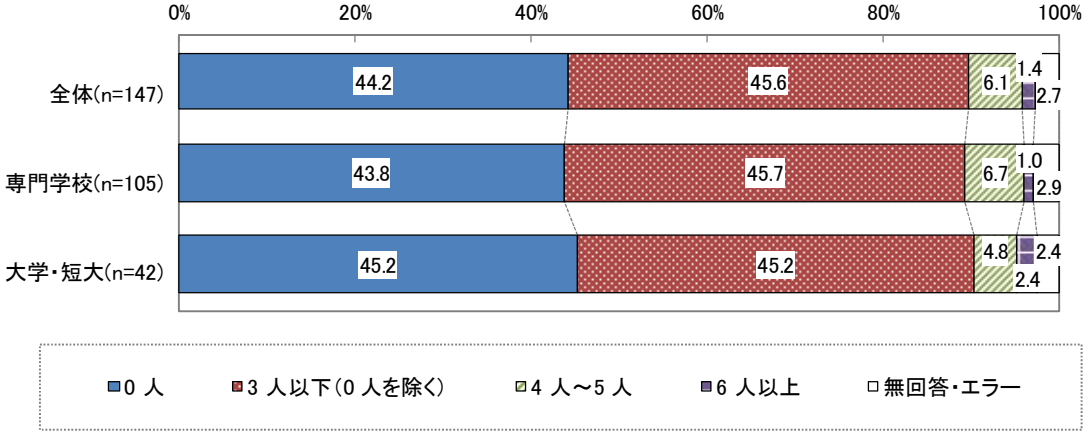


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	12.0	9.0	0	129
専門学校	102	12.4	9.5	0	129
大学・短大	41	11.0	8.0	0	60

＜教員のうち介護教員講習会修了者数＞

問 6.4. その他教員数のうち介護教員講習会受講済み者：貴校の教員数を教えてください。（数値）

・ 全体では、「0 人」が 44.2%、「3 人以下（0 人を除く）」が 45.6%、「4 人～5 人」が 6.1%、「6 人以上」が 1.4%であった。

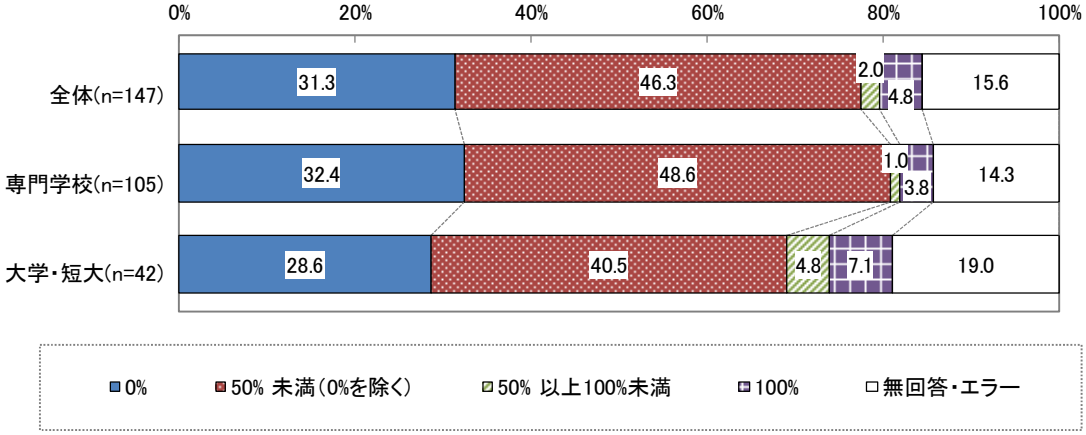


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	143	1.1	1.0	0	10
専門学校	102	1.1	1.0	0	10
大学・短大	41	1.2	1.0	0	6

＜教員における介護教員講習会修了者の割合＞

問 6.b. その他教員のうち、介護教員講習会受講済みの方の割合

・ 全体では、「0 %」が 31.3%、「50% 未満（0%を除く）」が 46.3%、「50% 以上 100%未満」が 2.0%、「100%」が 4.8%であった。

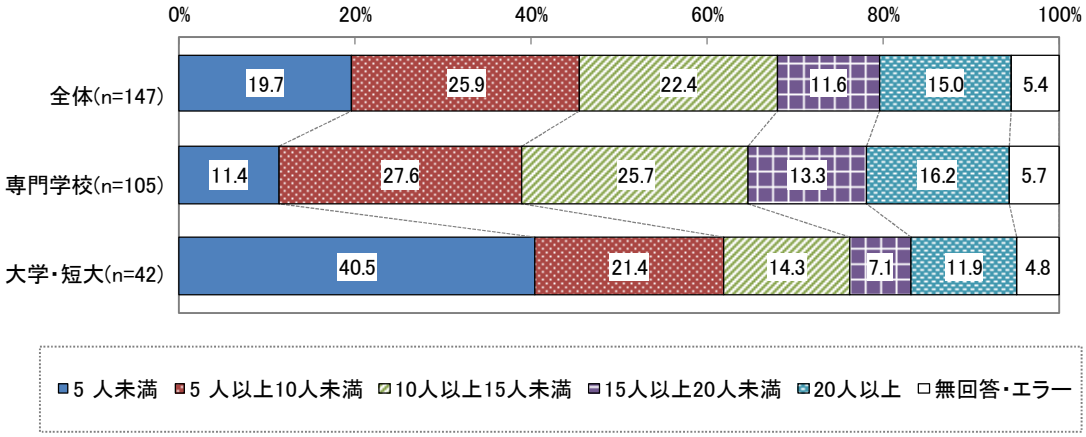


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	124	16.5	8.2	0.0	100.0
専門学校	90	14.2	7.1	0.0	100.0
大学・短大	34	22.8	12.5	0.0	100.0

③ 専任教員 1 人当たりの学生数

問 6.c. 専任教員 1 人当たりの学生数

・ 全体では、「5 人未満」が 19.7%、「5 人以上 10 人未満」が 25.9%、「10 人以上 15 人未満」が 22.4%、「15 人以上 20 人未満」が 11.6%、「20 人以上」が 15.0%であった。



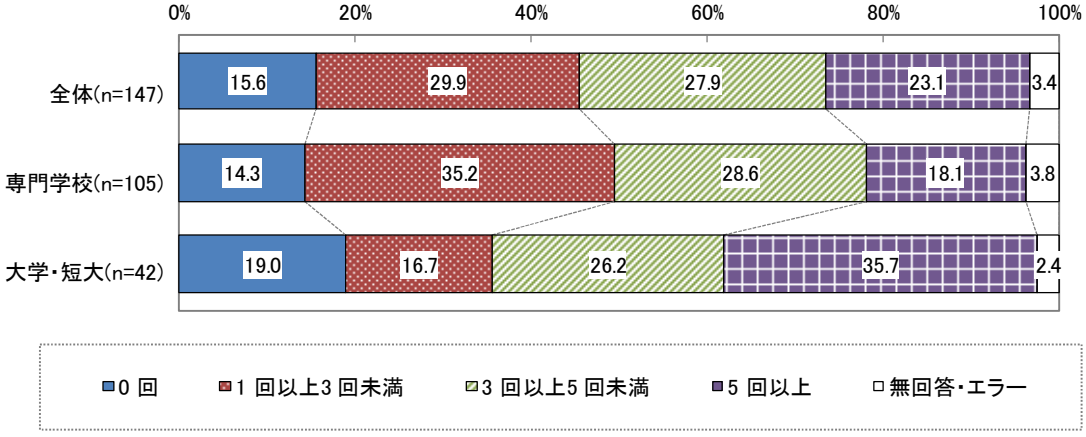
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	139	11.3	10.3	0.7	31.0
専門学校	99	12.2	11.3	0.8	28.8
大学・短大	40	9.1	6.4	0.7	31.0

(11)教員の質向上に関する研修等

① 教員向けの研修や講習の回数

問 7. 2022年度に行った教員向けの研修や講習の回数を教えてください。(数値)

・ 全体では、「0 回」が 15.6%、「1 回以上 3 回未満」が 29.9%、「3 回以上 5 回未満」が 27.9%、「5 回以上」が 23.1%であった。

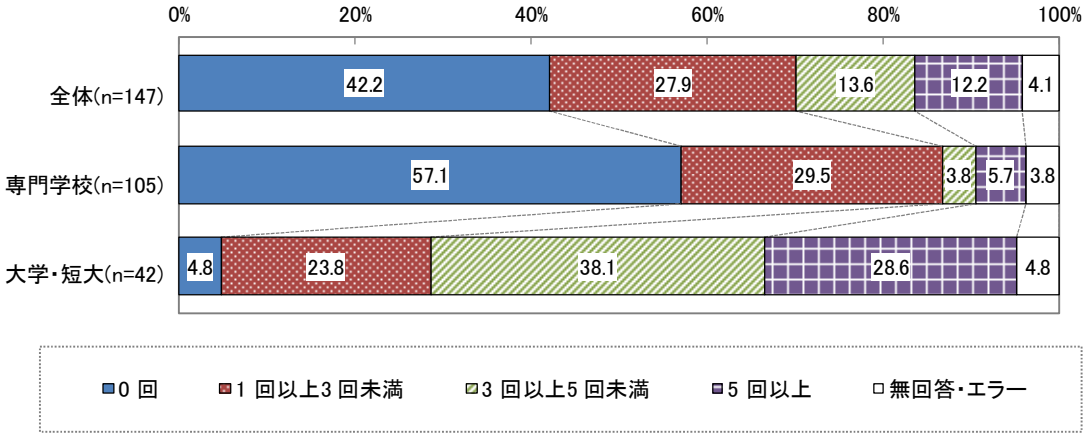


	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	142	3.8	3.0	0	40
専門学校	101	3.5	2.0	0	40
大学・短大	41	4.5	3.0	0	20

② FD（Faculty Development）の回数

問 8. 2022 年度に行った FD（Faculty Development）の回数を教えてください。（数値）

・ 全体では、「0 回」が 42.2%、「1 回以上 3 回未満」が 27.9%、「3 回以上 5 回未満」が 13.6%、「5 回以上」が 12.2%であった。



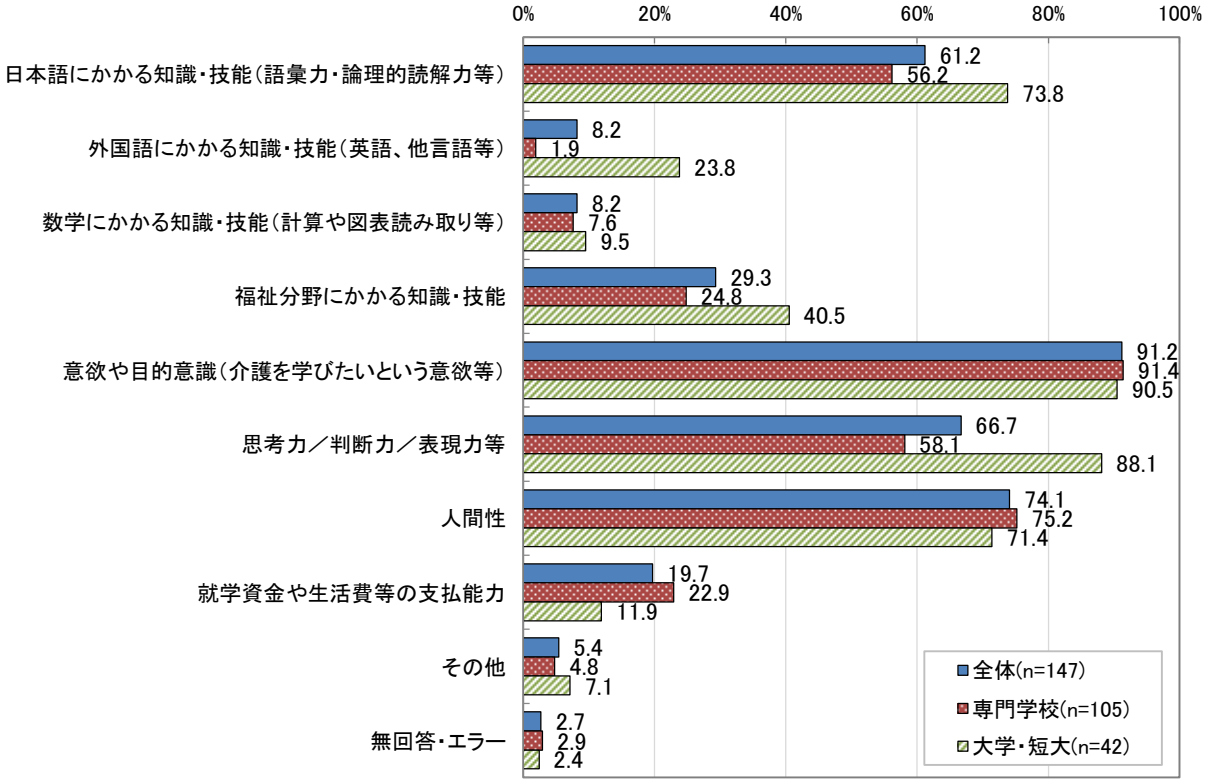
	調査数	平均	中央値	最小値	最大値
全体	141	2.0	1.0	0	15
専門学校	101	1.1	0.0	0	15
大学・短大	40	4.5	3.0	0	12

(12)入学試験の状況

① 入学試験の選抜要件(日本人学生)

問 9. 貴校の日本人学生の入学試験(選抜)で選抜要件となっている事柄を教えてください。(複数選択)

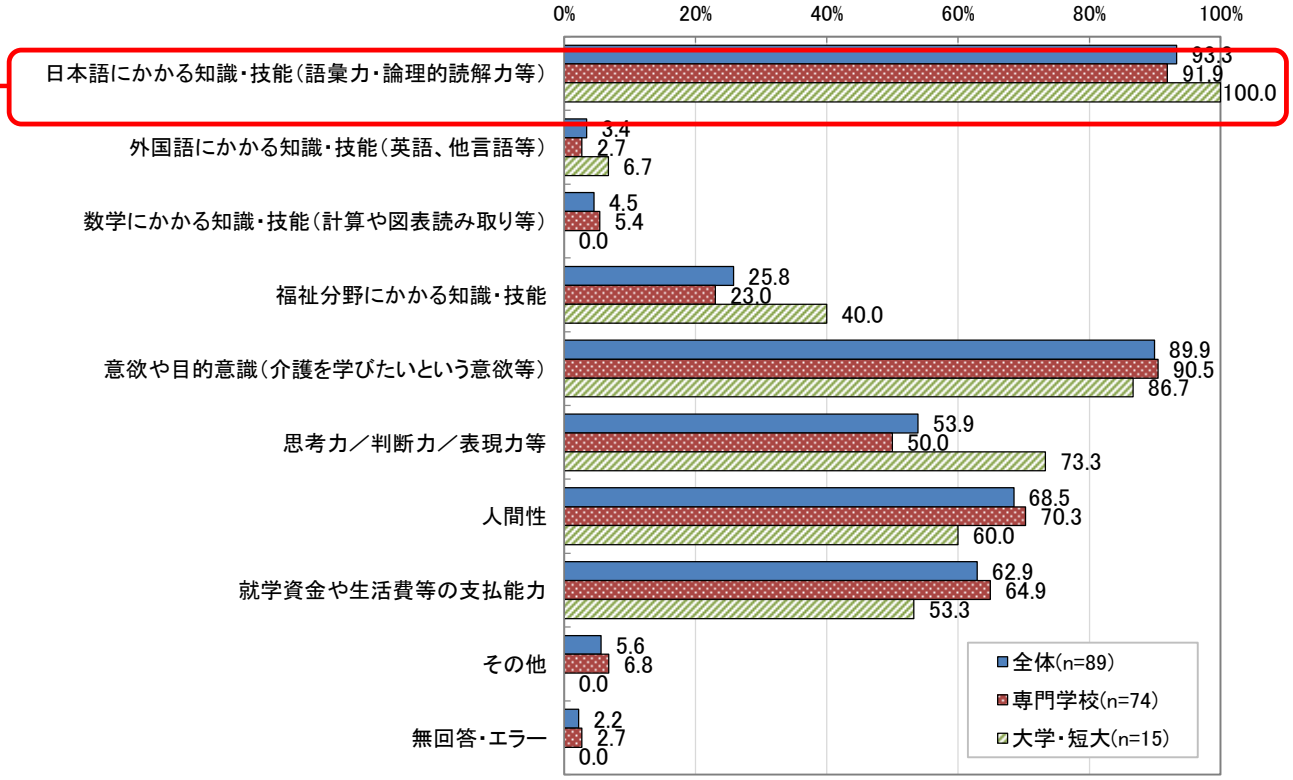
・ 全体では、「意欲や目的意識（介護を学びたいという意欲等)」が 91.2%と最も高く、次いで、「人間性」が 74.1%、「思考力／判断力／表現力等」が 66.7%、「日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等)」が 61.2%と続いた。



② 入学試験の選抜要件（留学生）

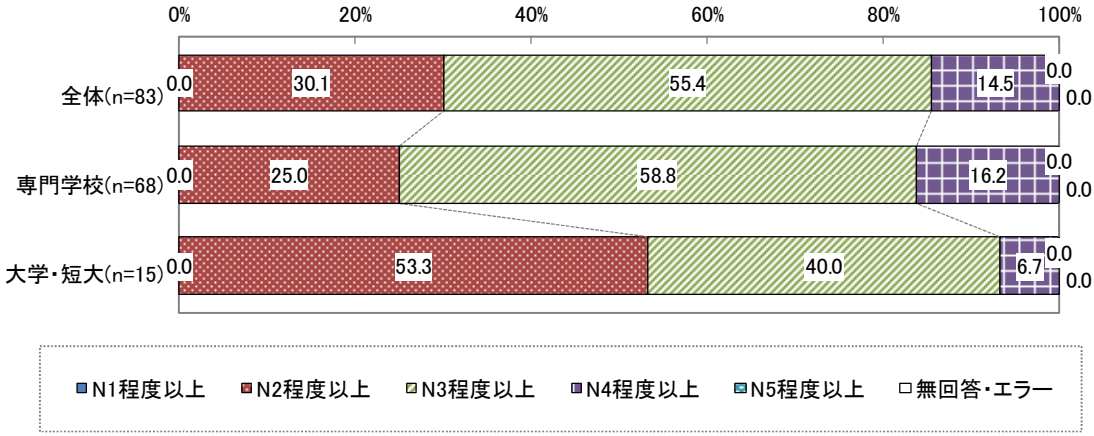
問 9-1.【問 3 で「1. 留学生が所属している」を選択した方】貴校の留学生の入学試験（選抜）で選抜要件となっている事柄を教えてください。（複数選択）

・ 全体では、「日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等）」が 93.3%と最も高く、次いで、「意欲や目的意識（介護を学びたいという意欲等）」が 89.9%、「人間性」が 68.5%、「就学資金や生活費等の支払能力」が 62.9%と続いた。



問 9-2.【問 9-1 で「1. 日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等）」を選択した方】留学生の日本語能力の入学要件を教えてください。

・ 全体では、「N1 程度以上」が 0.0%、「N2 程度以上」が 30.1%、「N3 程度以上」が 55.4%、「N4 程度以上」が 14.5%、「N5 程度以上」が 0.0%であった。

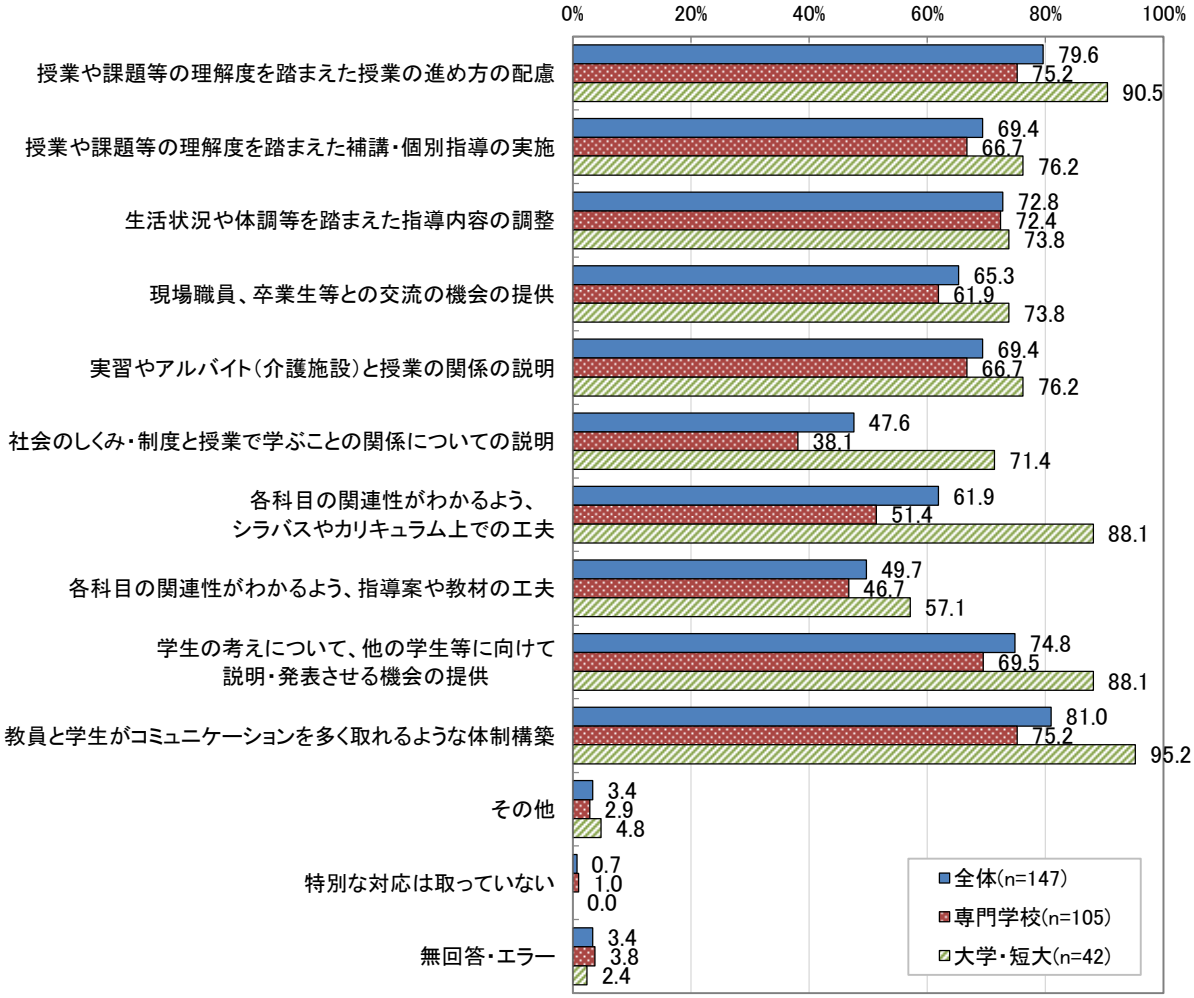


2. 学生への対応

(1)学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄

問 10. 貴校で学生の学ぶ意欲を高めるため、行っていることを教えてください。(複数選択)

・ 全体では、「教員と学生がコミュニケーションを多く取れるような体制構築」が 81.0%と最も高く、次いで、「授業や課題等の理解度を踏まえた授業の進め方の配慮」が 79.6%、「学生の考えについて、他の学生等に向けて説明・発表させる機会の提供」が 74.8%、「生活状況や体調等を踏まえた指導内容の調整」が 72.8%と続いた。

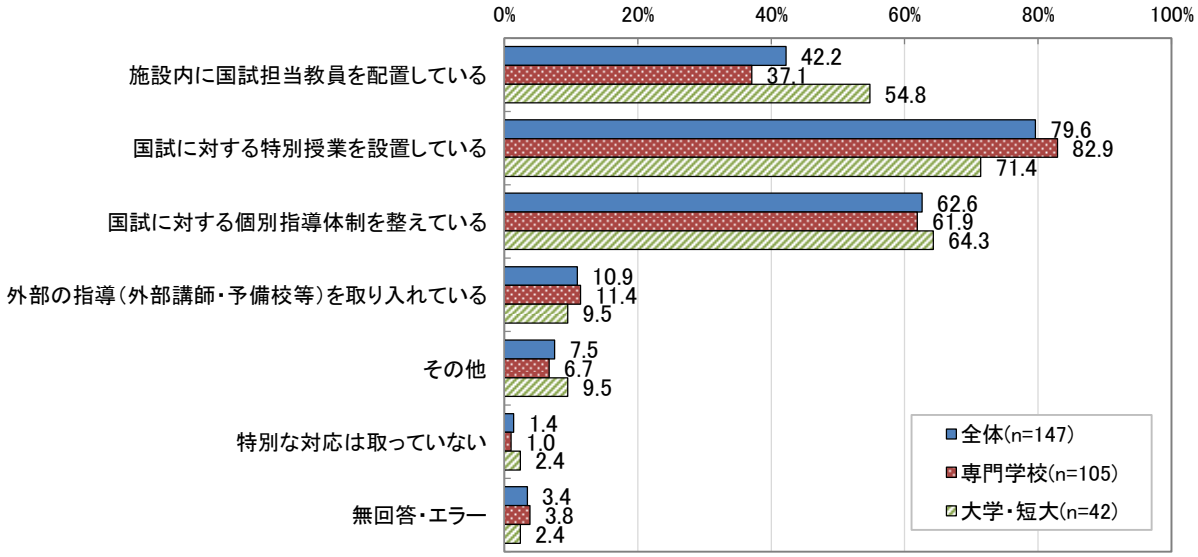


（2）国試対策に関する対応

① 国試対策の実施体制

問 11. 貴校での国家試験対策の実施状況、実施体制について教えてください。（複数選択）

・ 全体では、「国試に対する特別授業を設置している」が 79.6%、「国試に対する個別指導体制を整えている」が 62.6%となったが、「施設内に国試担当教員を配置している」は 42.2%と半数以下の学校でしか対応されていなかった。

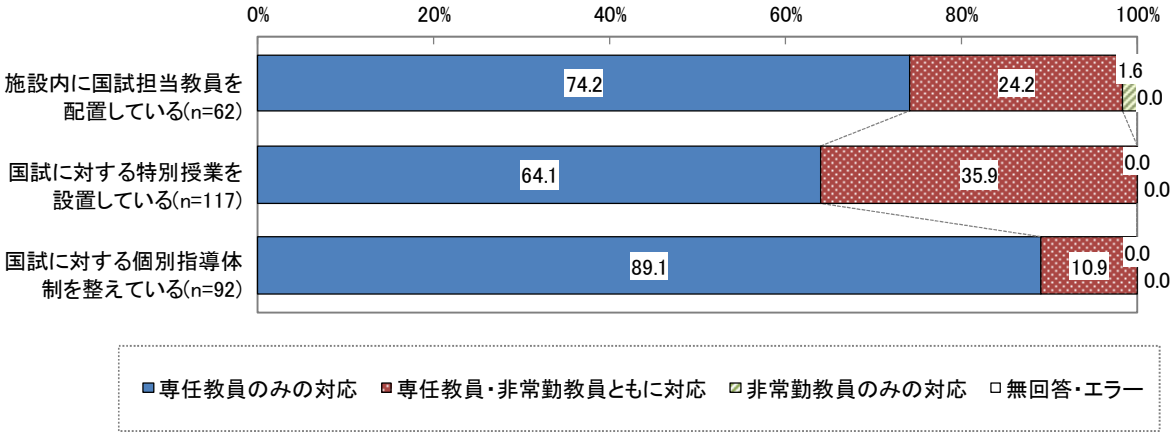


② 国試対策の実施体制における専任教員の対応状況

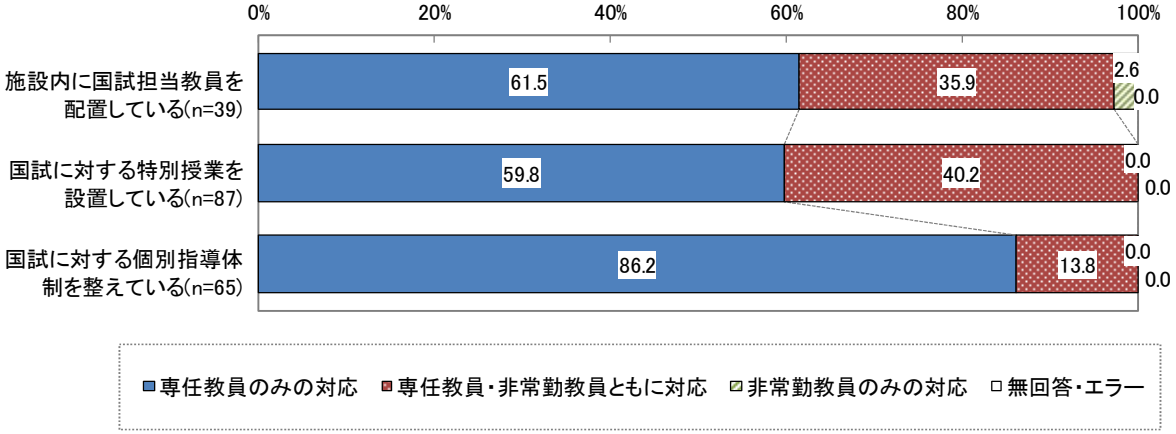
問 11-1.【問 11 で「1. 施設内に国試担当教員を配置している」「2. 国試に対する特別授業を設置している」「3. 国試に対する個別指導体制を整えている」を選択した方】ご回答いただいた国家試験対策の体制について、専任教員によるものかどうか教えてください。

・ 全体では、「国試に対する個別指導体制を整えている」に関しては、専任教員のみの対応である割合が 89.1%と、他の項目に比べて高かった。

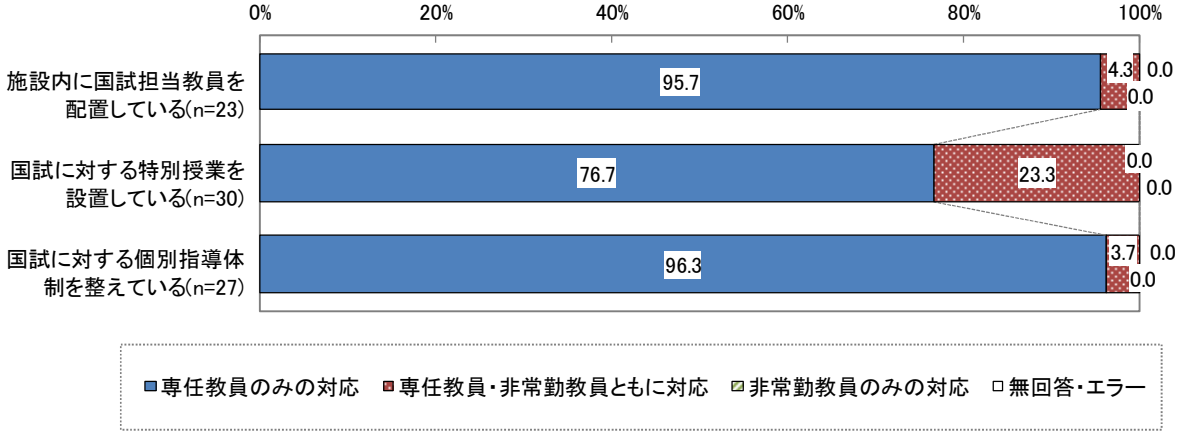
＜全体＞



＜専門学校＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
施設内に国試担当教員を配置している(n=39)
61.5
35.9
2.6
0.0
国試に対する特別授業を設置している(n=87)
59.8
40.2
0.0
0.0
国試に対する個別指導体制を整えている(n=65)
86.2
13.8
0.0
0.0
専任教員のみの対応
専任教員・非常勤教員ともに対応
非常勤教員のみの対応
無回答・エラー

＜大学・短大＞

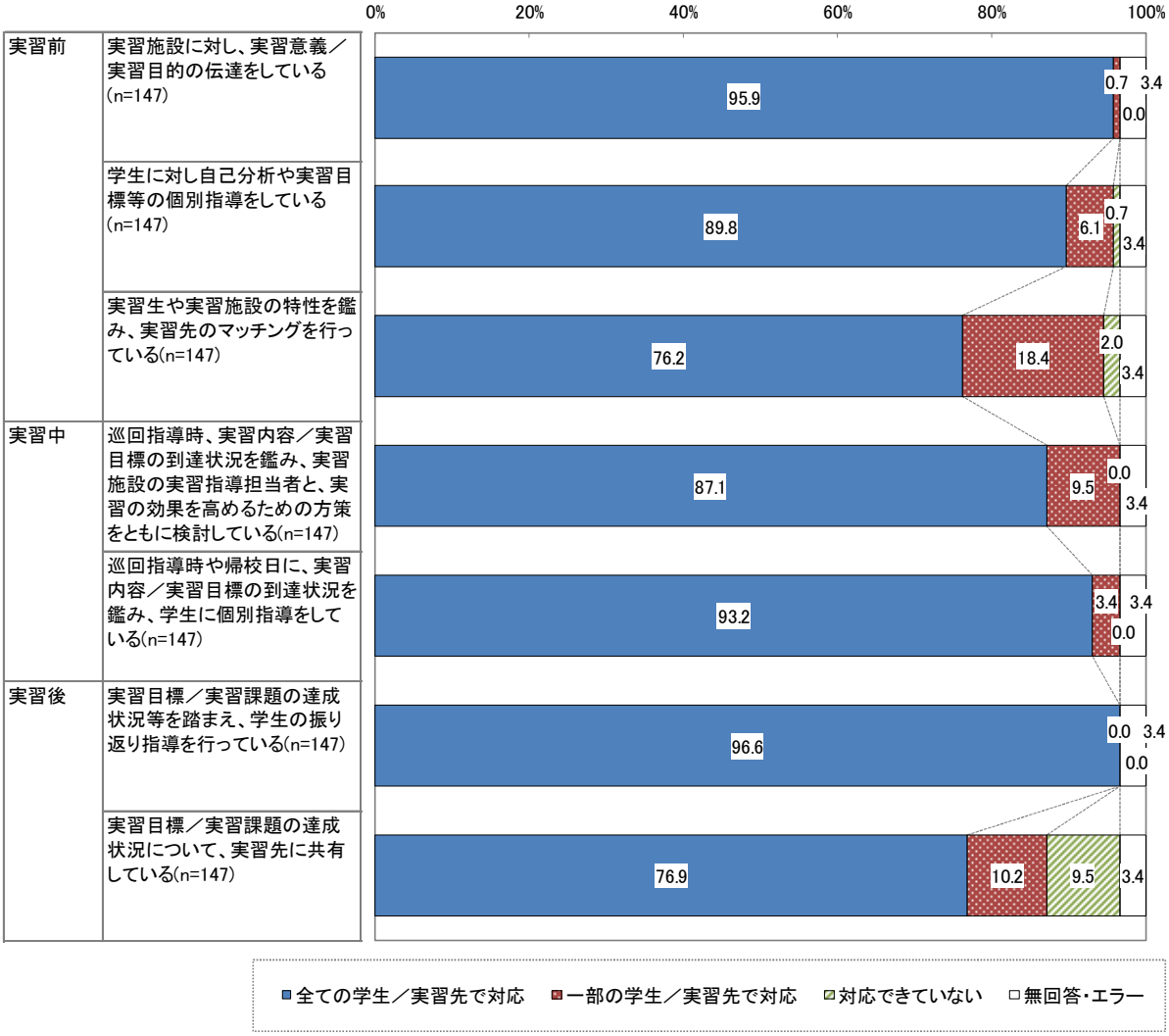

0%
20%
40%
60%
80%
100%
施設内に国試担当教員を配置している(n=23)
95.7
4.3
0.0
0.0
国試に対する特別授業を設置している(n=30)
76.7
23.3
0.0
0.0
国試に対する個別指導体制を整えている(n=27)
96.3
3.7
0.0
0.0
専任教員のみの対応
専任教員・非常勤教員ともに対応
非常勤教員のみの対応
無回答・エラー

（3）介護実習に関する対応

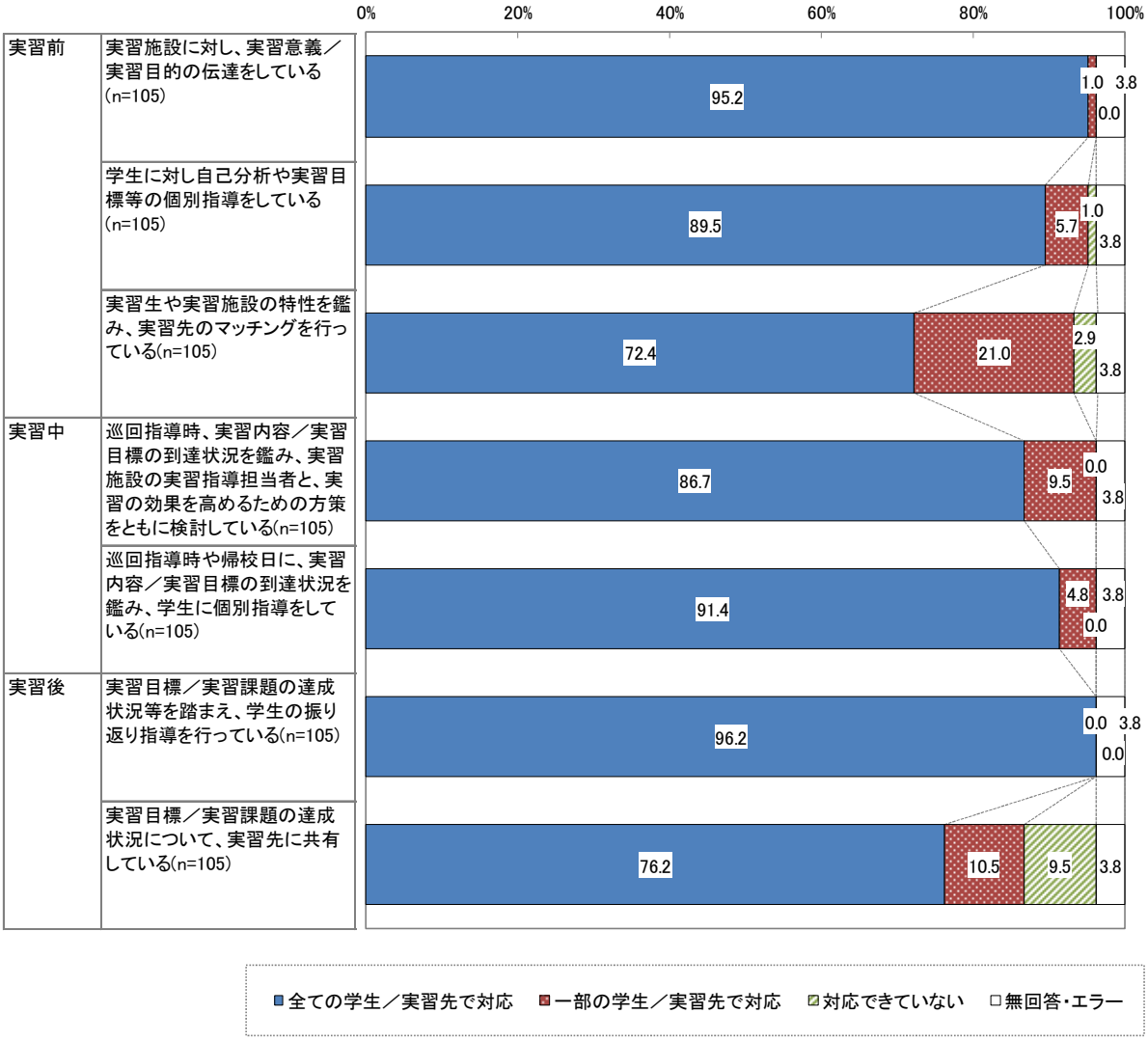
問 12. 貴校で介護実習に関し、取り組んでいることを教えてください。

・ 全体では、いずれの項目も「全ての学生／実習先で対応」されていたが、「実習目標／実習課題の達成状況について、実習先に共有している」については、「対応できていない」割合が 9.5%と、他の項目に比べ高かった。

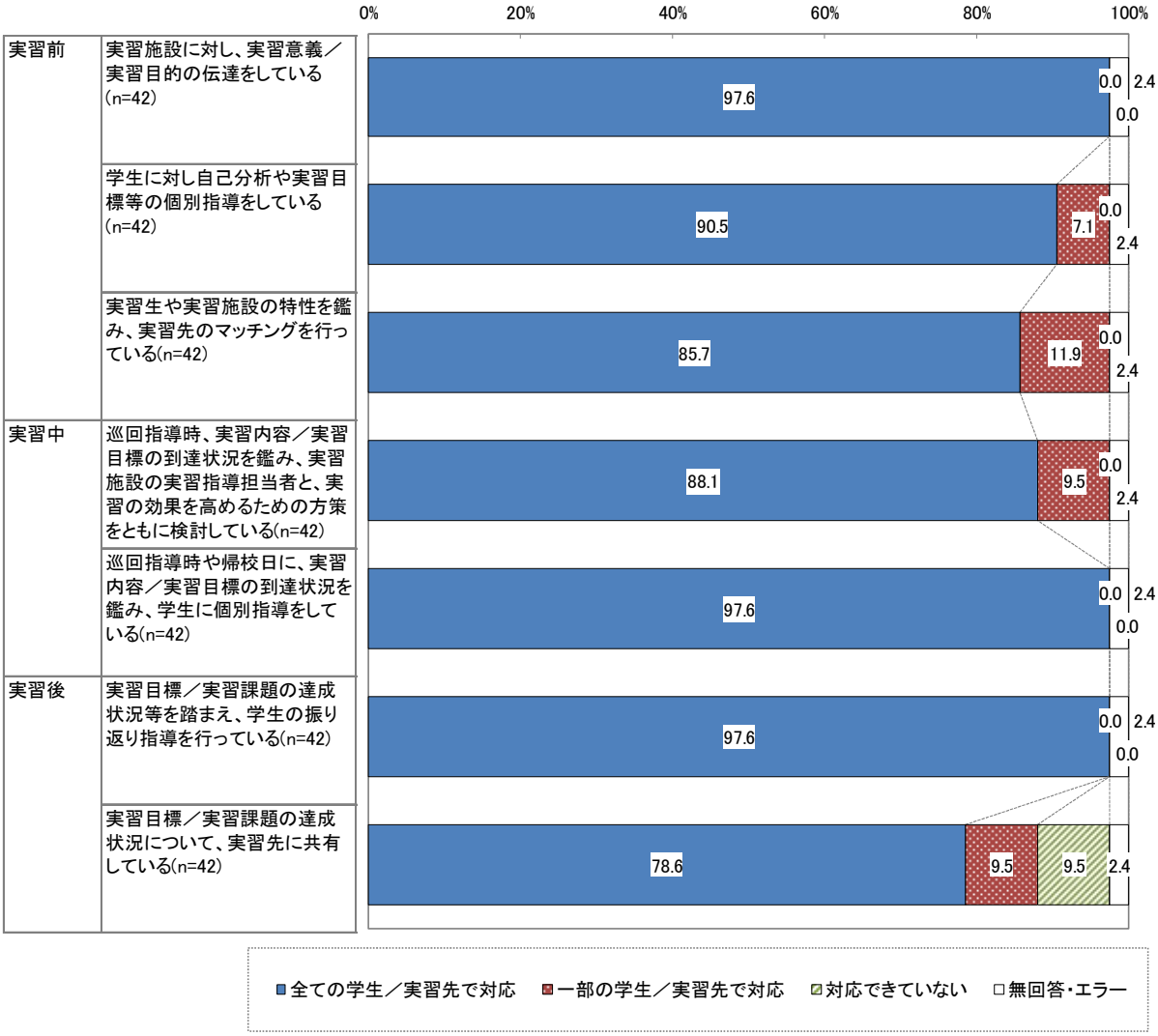
＜全体＞



＜専門学校＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
実習前
実習施設に対し、実習意義／実習目的の伝達をしている(n=105)
95.2
1.0
3.8
0.0
学生に対し自己分析や実習目標等の個別指導をしている(n=105)
89.5
5.7
1.0
3.8
実習生や実習施設の特性を鑑み、実習先のマッチングを行っている(n=105)
72.4
21.0
2.9
3.8
実習中
巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況を鑑み、実習施設の実習指導担当者と、実習の効果を高めるための方策をともに検討している(n=105)
86.7
9.5
0.0
3.8
巡回指導時や帰校日に、実習内容／実習目標の到達状況を鑑み、学生に個別指導をしている(n=105)
91.4
4.8
3.8
0.0
実習後
実習目標／実習課題の達成状況等を踏まえ、学生の振り返り指導を行っている(n=105)
96.2
0.0
3.8
0.0
実習目標／実習課題の達成状況について、実習先に共有している(n=105)
76.2
10.5
9.5
3.8
全ての学生／実習先で対応
一部の学生／実習先で対応
対応できていない
無回答・エラー

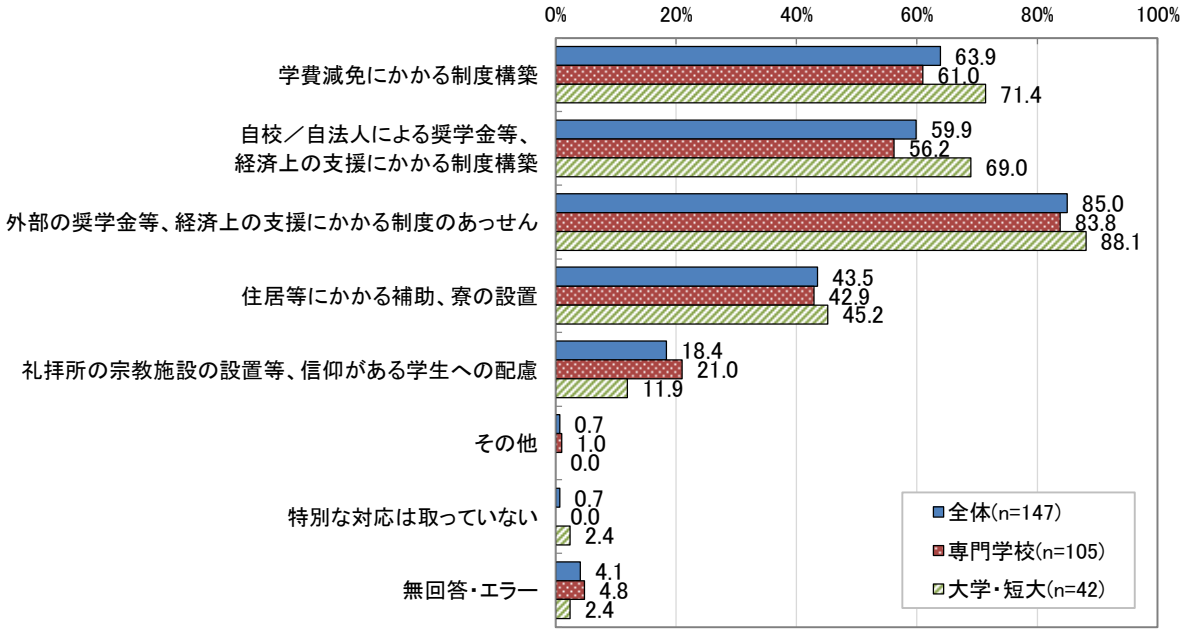
＜大学・短大＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
実習前
実習施設に対し、実習意義／実習目的の伝達をしている(n=42)
97.6
0.0
2.4
0.0
学生に対し自己分析や実習目標等の個別指導をしている(n=42)
90.5
7.1
0.0
2.4
実習生や実習施設の特性を鑑み、実習先のマッチングを行っている(n=42)
85.7
11.9
0.0
2.4
実習中
巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況を鑑み、実習施設の実習指導担当者と、実習の効果を高めるための方策をともに検討している(n=42)
88.1
9.5
0.0
2.4
巡回指導時や帰校日に、実習内容／実習目標の到達状況を鑑み、学生に個別指導をしている(n=42)
97.6
0.0
2.4
0.0
実習後
実習目標／実習課題の達成状況等を踏まえ、学生の振り返り指導を行っている(n=42)
97.6
0.0
2.4
0.0
実習目標／実習課題の達成状況について、実習先に共有している(n=42)
78.6
9.5
9.5
2.4
全ての学生／実習先で対応
一部の学生／実習先で対応
対応できていない
無回答・エラー

（4）学生に対する生活のサポートに関する対応

問 13. 貴校で行っている学生に対する生活へのサポート状況についてあてはまるものがあれば教えてください。（複数選択）

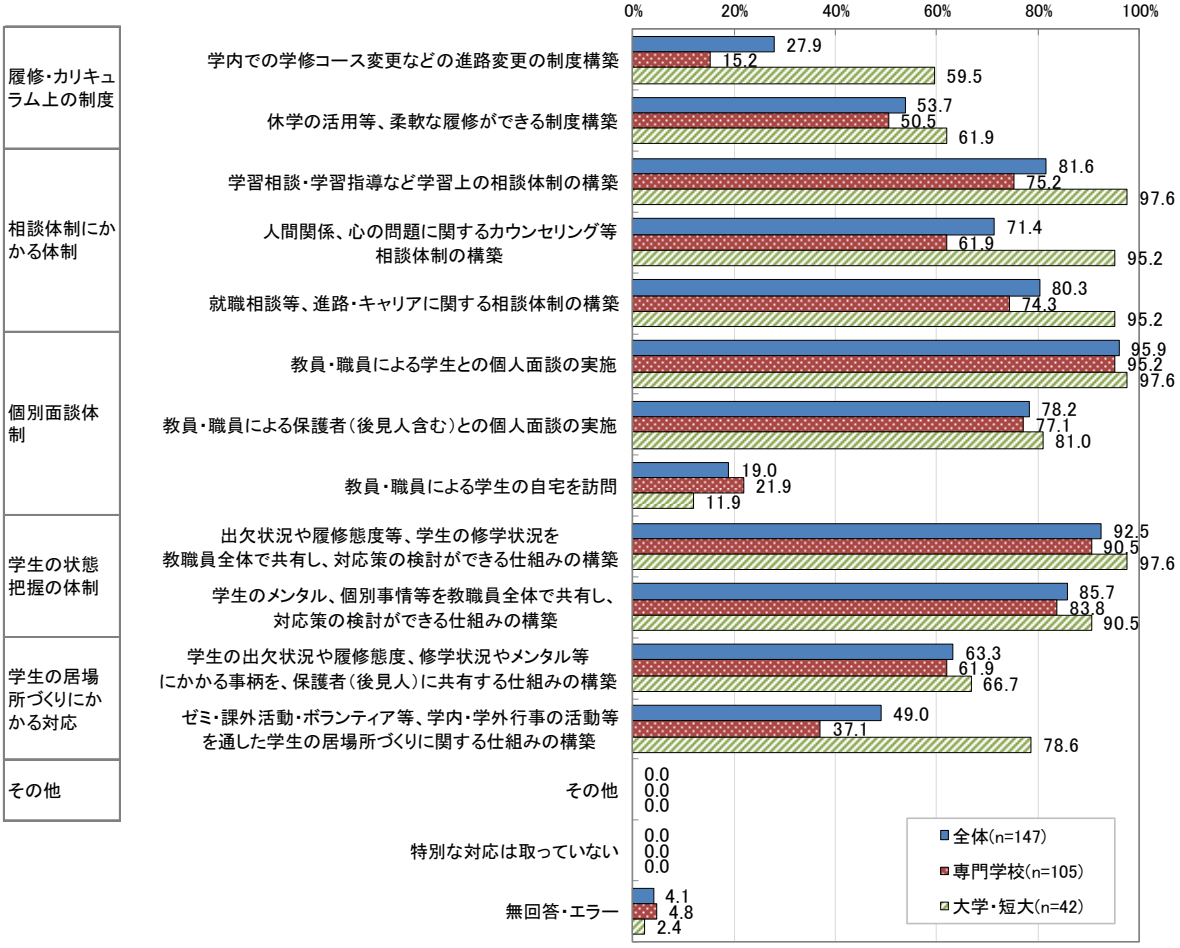
・ 全体では、「外部の奨学金等、経済上の支援にかかる制度のあっせん」が 85.0%と最も高く、次いで、「学費減免にかかる制度構築」が 63.9%、「自校／自法人による奨学金等、経済上の支援にかかる制度構築」が 59.9%と続いた。



（5）学生の退学を防止することに効果が期待される事柄に関する対応

問 14. 退学を防止することに効果が期待される事柄のうち、現在取り組んでいる事柄についてあてはまるものを教えてください。（複数選択）

・ 全体では、「教員・職員による学生との個人面談の実施」が 95.9%と最も高く、次いで、「出欠状況や履修態度等、学生の修学状況を教職員全体で共有し、対応策の検討ができる仕組みの構築」が 92.5%、「学生のメンタル、個別事情等を教職員全体で共有し、対応策の検討ができる仕組みの構築」が 85.7%、「学習相談・学習指導など学習上の相談体制の構築」が 81.6%、「就職相談等、進路・キャリアに関する相談体制の構築」が 80.3%、「教員・職員による保護者（後見人含む）との個人面談の実施」が 78.2%と続いた。また、「特別な対応は取っていない」とした学校は見られなかった。



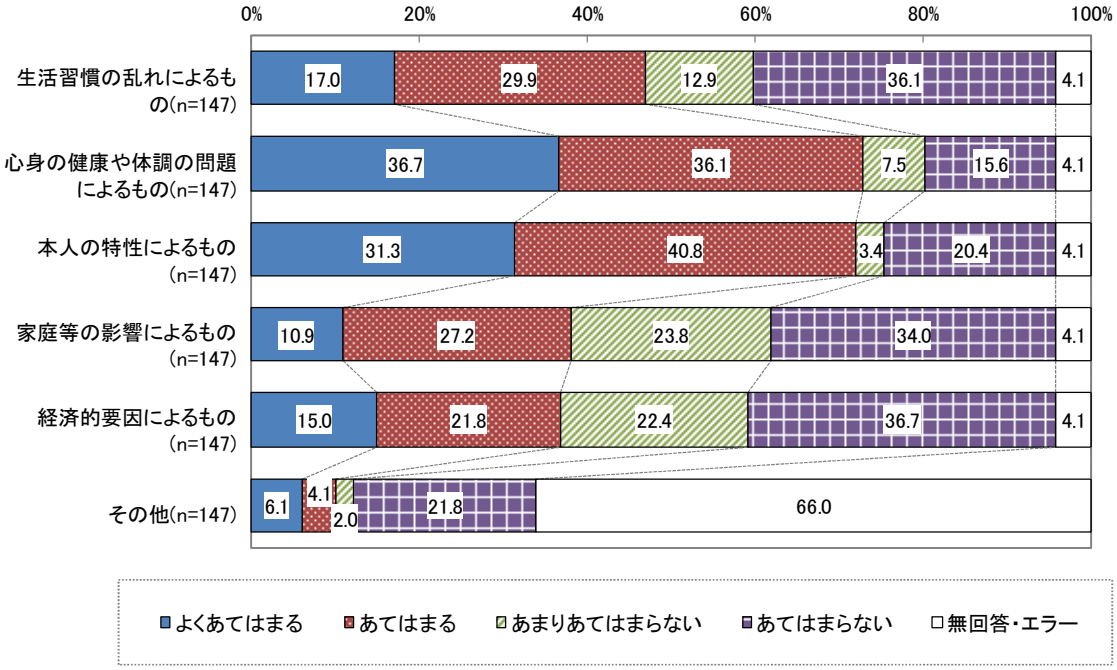
3. 退学学生の理由

(1)学生の退学理由(学外要因)

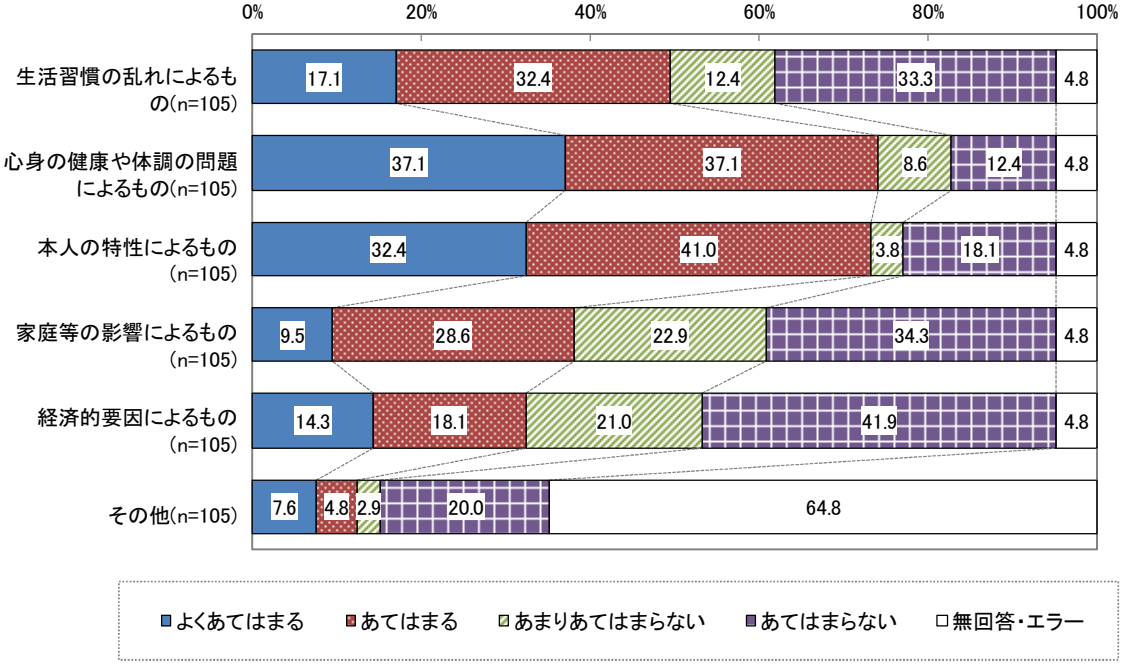
問 15. 過去5年程度の間で退学した学生に関し、その退学理由のうち、学校外の事柄にその要因があるものについて、あてはまるものをすべて教えてください。

・ 全体では、「心身の健康や体調の問題によるもの」が、『あてはまる(計)』(72.8%)【「よくあてはまる」(36.7%)+「あてはまる」(36.1%)を合算】で最も高く、次いで、「本人の特性によるもの」が『あてはまる(計)』(72.1%)【「よくあてはまる」(31.3%)+「あてはまる」(40.8%)を合算】と続いた。

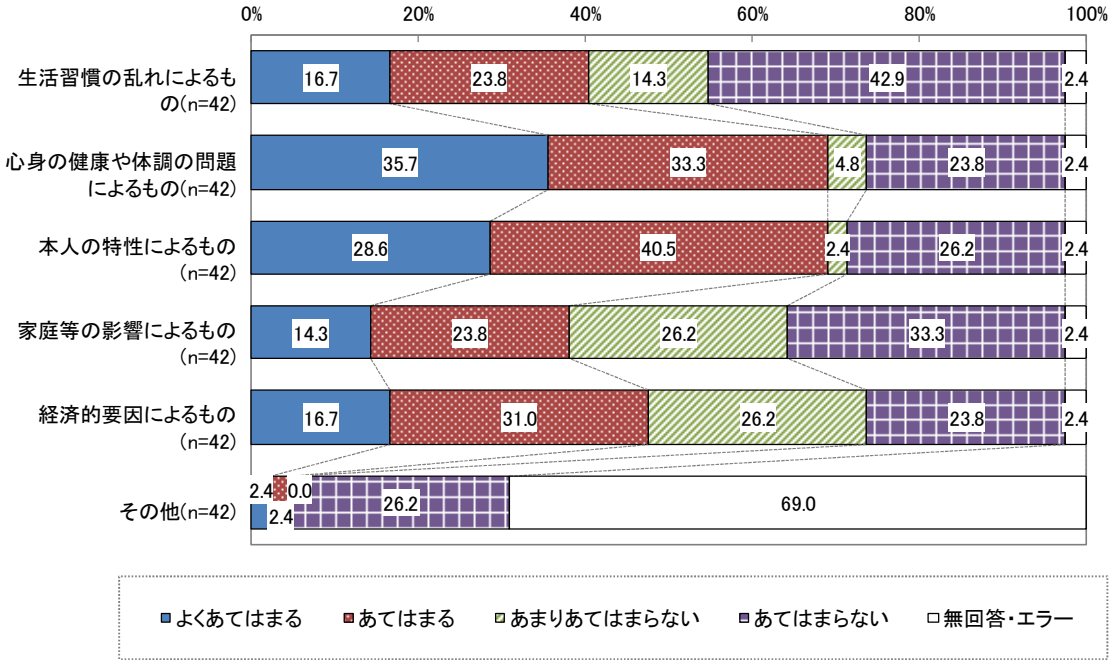
＜全体＞



＜専門学校＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
生活習慣の乱れによるもの(n=105)
17.1
32.4
12.4
33.3
4.8
心身の健康や体調の問題によるもの(n=105)
37.1
37.1
8.6
12.4
4.8
本人の特性によるもの(n=105)
32.4
41.0
3.8
18.1
4.8
家庭等の影響によるもの(n=105)
9.5
28.6
22.9
34.3
4.8
経済的要因によるもの(n=105)
14.3
18.1
21.0
41.9
4.8
その他(n=105)
7.6
4.8
2.9
20.0
64.8
よくあてはまる
あてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない
無回答・エラー

＜大学・短大＞

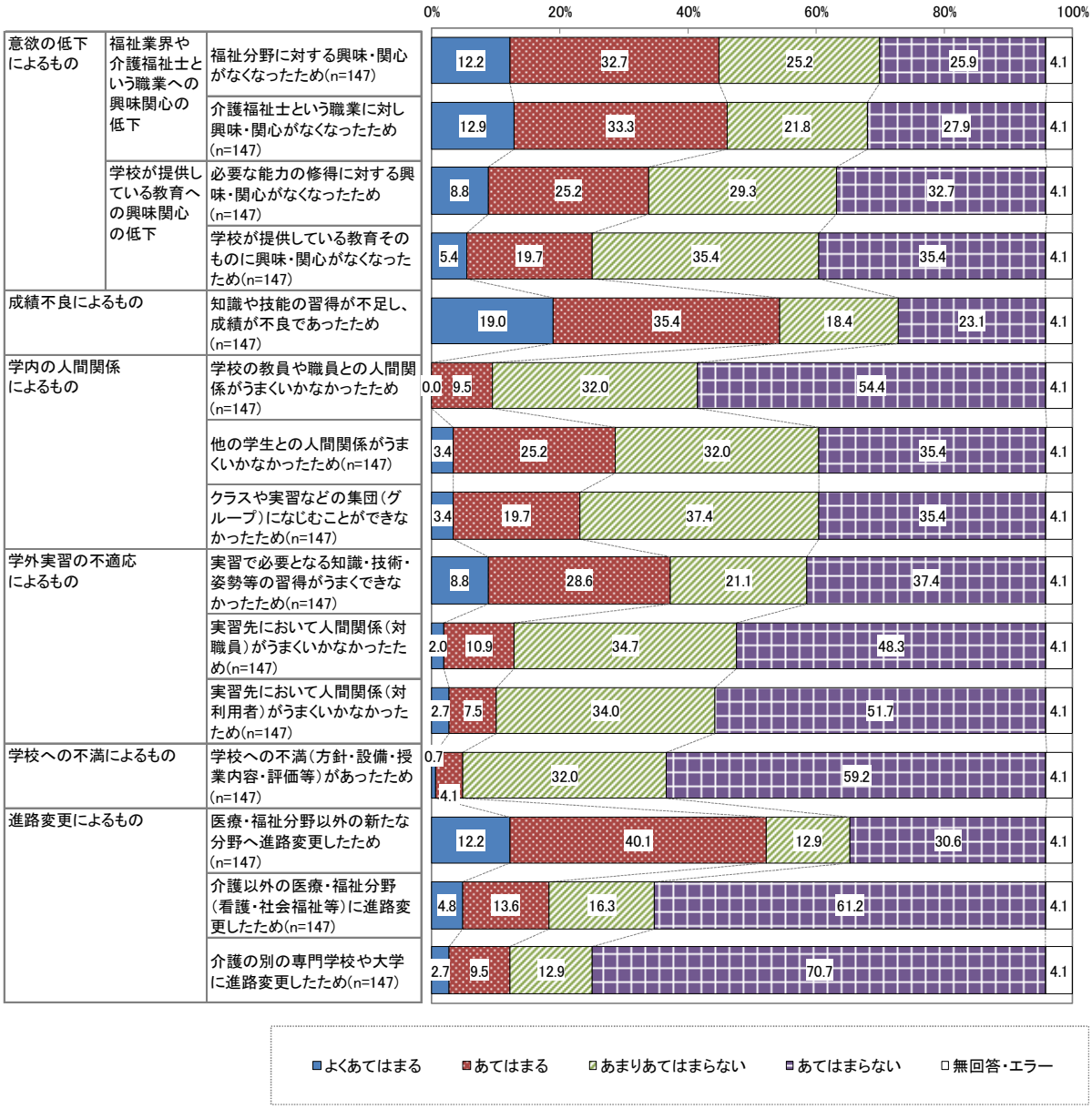

0%
20%
40%
60%
80%
100%
生活習慣の乱れによるもの(n=42)
16.7
23.8
14.3
42.9
2.4
心身の健康や体調の問題によるもの(n=42)
35.7
33.3
4.8
23.8
2.4
本人の特性によるもの(n=42)
28.6
40.5
2.4
26.2
2.4
家庭等の影響によるもの(n=42)
14.3
23.8
26.2
33.3
2.4
経済的要因によるもの(n=42)
16.7
31.0
26.2
23.8
2.4
その他(n=42)
2.4
0.0
2.4
26.2
69.0
よくあてはまる
あてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない
無回答・エラー

（2）学生の退学理由（学内要因）

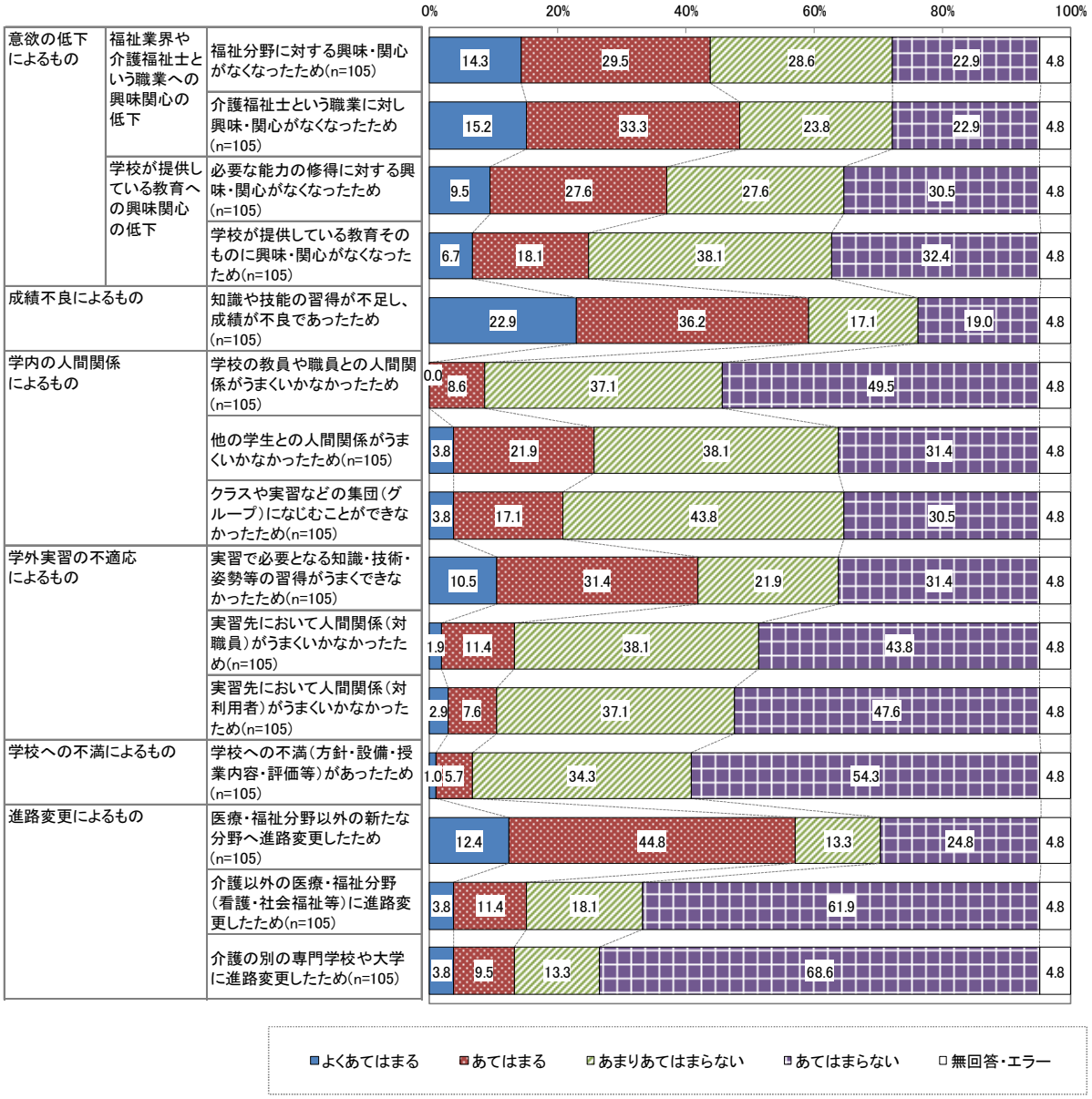
問 16.1. 過去5年程度の間で退学した学生に関し、その退学理由のうち、学校内の事柄にその要因があるものについて、あてはまるものをすべて教えてください。

・ 全体では、「成績不良によるもの」に該当する「知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため」が、『あてはまる（計）』（54.4%）【「よくあてはまる」（19.0%）+「あてはまる」（35.4%）を合算】で最も高く、次いで、「進路変更によるもの」に該当する「医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため」が『あてはまる（計）』（52.3%）【「よくあてはまる」（12.2%）+「あてはまる」（40.1%）を合算】と続いた。

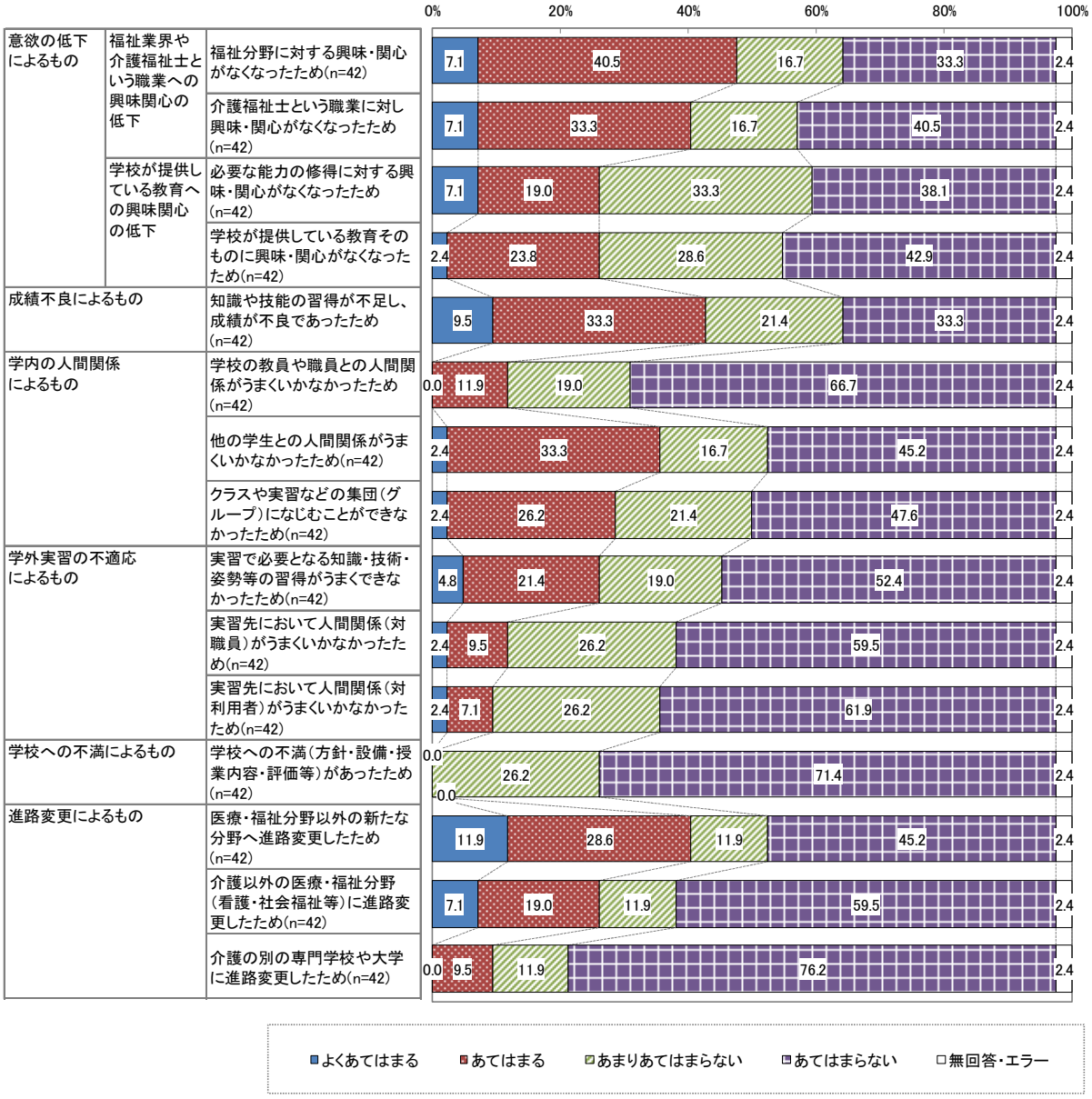
＜全体＞



＜専門学校＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
意欲の低下によるもの
福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下
福祉分野に対する興味・関心がなくなったため(n=105)
14.3 29.5 28.6 22.9 4.8
介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため(n=105)
15.2 33.3 23.8 22.9 4.8
学校が提供している教育への興味関心の低下
必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため(n=105)
9.5 27.6 27.6 30.5 4.8
学校が提供しているものに興味・関心がなくなったため(n=105)
6.7 18.1 38.1 32.4 4.8
成績不良によるもの
知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため(n=105)
22.9 36.2 17.1 19.0 4.8
学内の人間関係によるもの
学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため(n=105)
0.0 8.6 37.1 49.5 4.8
他の学生との人間関係がうまくいかなかったため(n=105)
3.8 21.9 38.1 31.4 4.8
クラスや実習などの集団(グループ)になじむことができなかったため(n=105)
3.8 17.1 43.8 30.5 4.8
学外実習の不適応によるもの
実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため(n=105)
10.5 31.4 21.9 31.4 4.8
実習先において人間関係(対職員)がうまくいかなかったため(n=105)
1.9 11.4 38.1 43.8 4.8
実習先において人間関係(対利用者)がうまくいかなかったため(n=105)
2.9 7.6 37.1 47.6 4.8
学校への不満によるもの
学校への不満(方針・設備・授業内容・評価等)があったため(n=105)
1.0 5.7 34.3 54.3 4.8
進路変更によるもの
医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため(n=105)
12.4 44.8 13.3 24.8 4.8
介護以外の医療・福祉分野(看護・社会福祉等)に進路変更したため(n=105)
3.8 11.4 18.1 61.9 4.8
介護の別の専門学校や大学に進路変更したため(n=105)
3.8 9.5 13.3 68.6 4.8
よくあてはまる
あてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない
無回答・エラー

＜大学・短大＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
意欲の低下によるもの
福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下
福祉分野に対する興味・関心がなくなったため(n=42)
7.1 40.5 16.7 33.3 2.4
介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため(n=42)
7.1 33.3 16.7 40.5 2.4
学校が提供している教育への興味関心の低下
必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため(n=42)
7.1 19.0 33.3 38.1 2.4
学校が提供しているものに興味・関心がなくなったため(n=42)
2.4 23.8 28.6 42.9 2.4
成績不良によるもの
知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため(n=42)
9.5 33.3 21.4 33.3 2.4
学内の人間関係によるもの
学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため(n=42)
0.0 11.9 19.0 66.7 2.4
他の学生との人間関係がうまくいかなかったため(n=42)
2.4 33.3 16.7 45.2 2.4
クラスや実習などの集団(グループ)になじむことができなかったため(n=42)
2.4 26.2 21.4 47.6 2.4
学外実習の不適応によるもの
実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため(n=42)
4.8 21.4 19.0 52.4 2.4
実習先において人間関係(対職員)がうまくいかなかったため(n=42)
2.4 9.5 26.2 59.5 2.4
実習先において人間関係(対利用者)がうまくいかなかったため(n=42)
2.4 7.1 26.2 61.9 2.4
学校への不満によるもの
学校への不満(方針・設備・授業内容・評価等)があったため(n=42)
0.0 26.2 71.4 2.4
0.0
進路変更によるもの
医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため(n=42)
11.9 28.6 11.9 45.2 2.4
介護以外の医療・福祉分野(看護・社会福祉等)に進路変更したため(n=42)
7.1 19.0 11.9 59.5 2.4
介護の別の専門学校や大学に進路変更したため(n=42)
0.0 9.5 11.9 76.2 2.4
よくあてはまる
あてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない
無回答・エラー

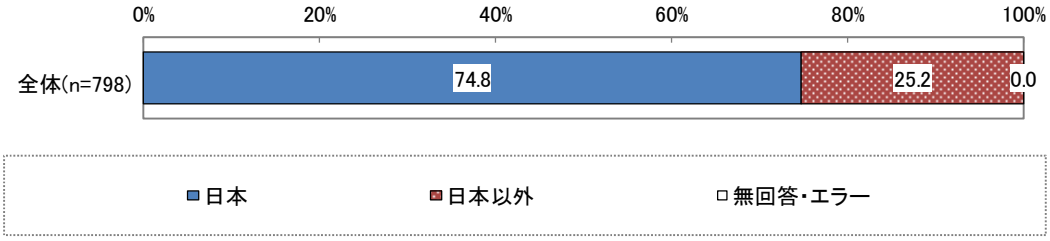
第３章　アンケート調査結果（学生票）

1. 学生基礎情報

(1)国籍

問 5. あなたの国籍を教えてください。

・ 「日本」が 74.8%、「日本以外」が 25.2%であった。



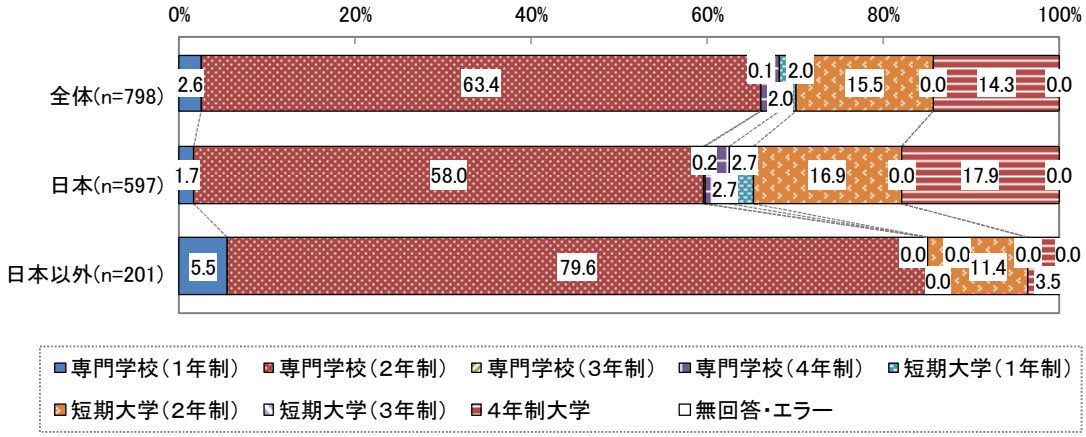
※以下、学生の国籍で分類し、「全体」、「日本」、「日本以外」の3軸でグラフを作成している。
※日本人と留学生の傾向が異なることが想定されることから、グラフのコメントについては「全体」について触れず、「日本」、「日本以外」について触れることとする。

学生の国籍別	日本 (日本人学生)	問5の選択肢が以下の養成校 1. 日本
	日本以外 (留学生)	問5の選択肢が以下の養成校 2. 日本以外

(2)所属校の種別

問 2. あなたの学校は、1～8のどちらですか。

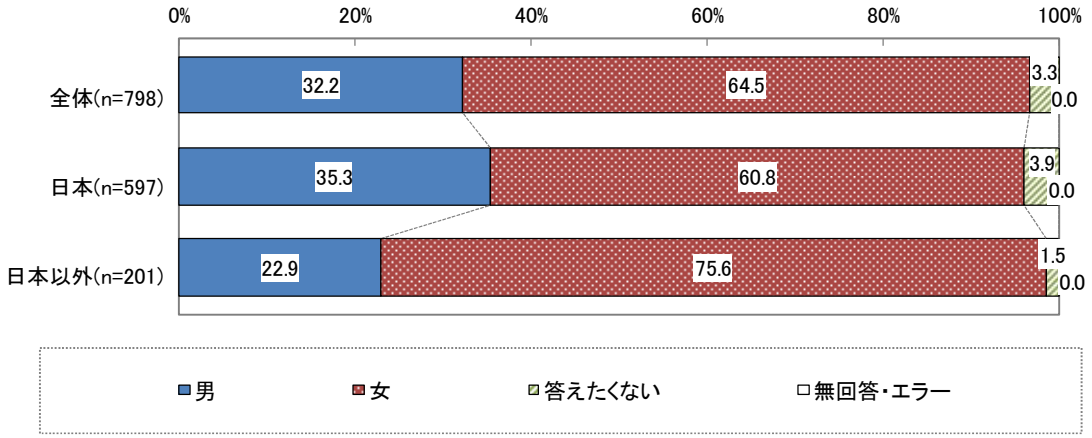
・ 日本人学生においては、「専門学校 (2年制)」が 58.0%と最も高く、「4年制大学」が 17.9%、「短期大学 (2年制)」が 16.9%、「専門学校 (4年制)」が 2.7%、「短期大学 (1年制)」が 2.7%、「専門学校 (1年制)」が 1.7%、「専門学校 (3年制)」が 0.2%、「短期大学 (3年制)」が 0.0%であった。
・ 留学生においては、「専門学校 (2年制)」が 79.6%と最も高く、「短期大学 (2年制)」が 11.4%、「専門学校 (1年制)」が 5.5%、「4年制大学」が 3.5%、「専門学校 (3年制)」が 0.0%、「専門学校 (4年制)」が 0.0%、「短期大学 (1年制)」が 0.0%、「短期大学 (3年制)」が 0.0%であった。



（3）性別

問 3. あなたの性別を教えてください。

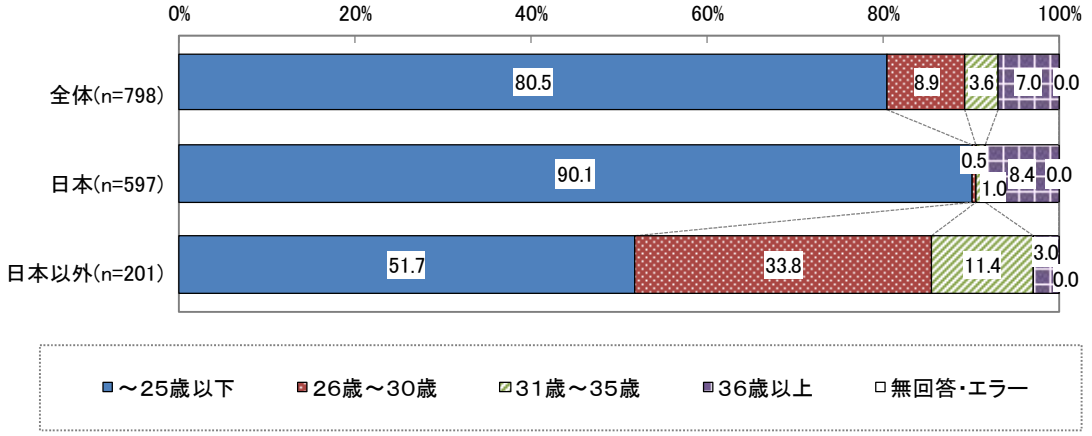
- 日本人学生においては、「男」が 35.3%、「女」が 60.8%、「答えたくない」が 3.9%であった。
- 留学生においては、「男」が 22.9%、「女」が 75.6%、「答えたくない」が 1.5%であった。



（4）年齢

問 4. あなたの年齢を教えてください。

- 日本人学生においては、「～２５歳以下」が 90.1%と最も高く、「３６歳以上」が 8.4%、「３１歳～３５歳」が 1.0%、「２６歳～３０歳」が 0.5%であった。
- 留学生においては、「～２５歳以下」が 51.7%と最も高く、「２６歳～３０歳」が 33.8%、「３１歳～３５歳」が 11.4%、「３６歳以上」が 3.0%であった。

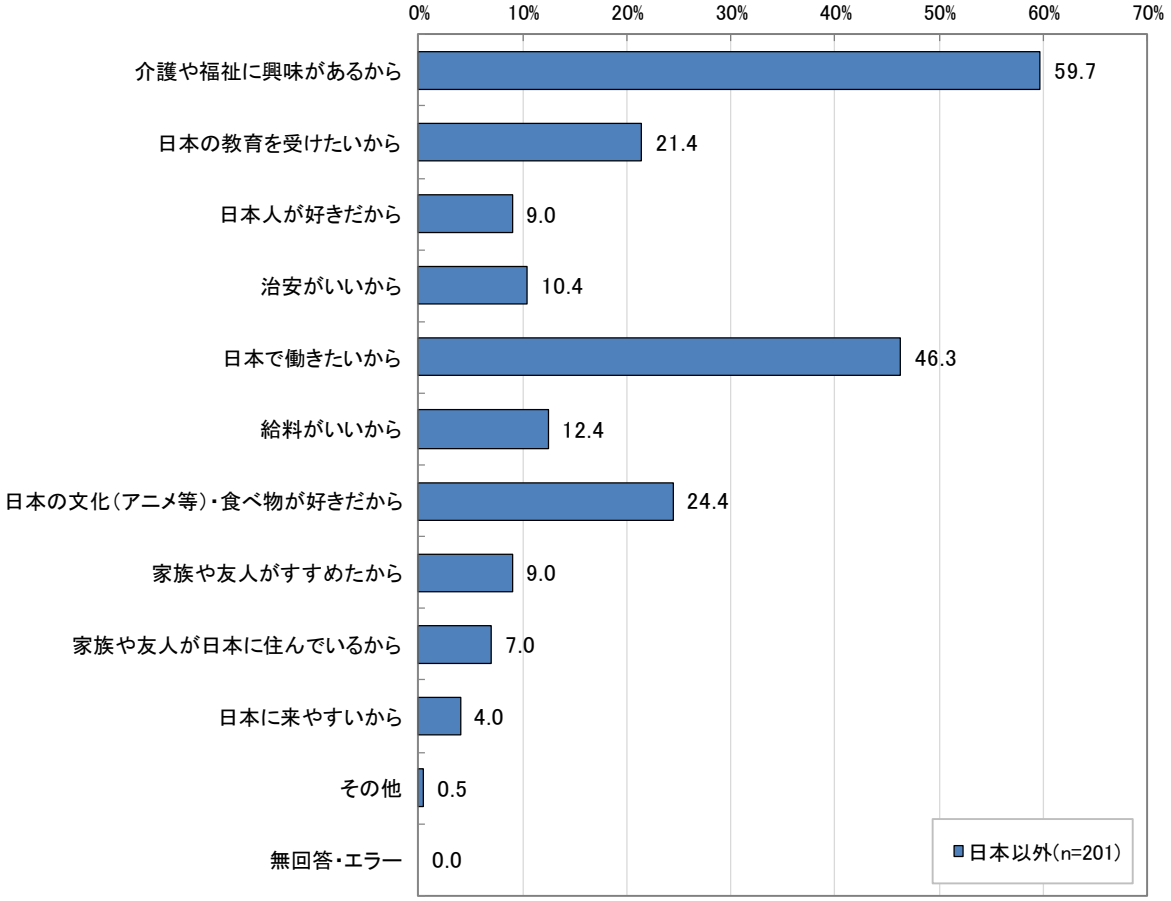


（5）留学生における情報

① 日本に留学した理由

問 5-1.【問 5 で「2. 日本以外」を選択した方】あなたが日本へ留学に来た理由を教えてください。（複数選択）

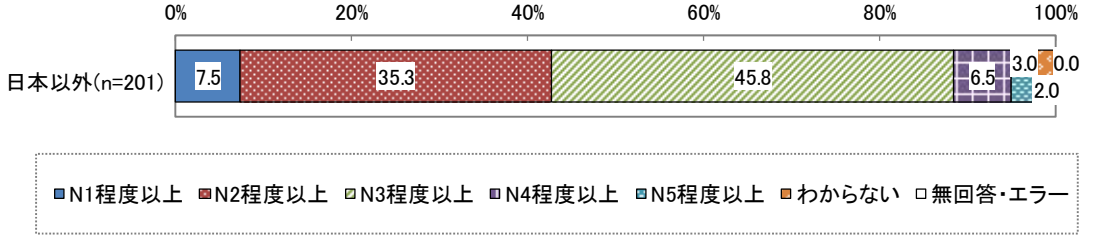
・ 「介護や福祉に興味があるから」が 59.7%と最も高く、「日本で働きたいから」が 46.3%、「日本の文化（アニメ等）・食べ物が好きだから」が 24.4%、「日本の教育を受けたいから」が 21.4%、「給料がいいから」が 12.4%、「治安がいいから」が 10.4%、「日本人が好きだから」が 9.0%、「家族や友人がすすめたから」が 9.0%、「家族や友人が日本に住んでいるから」が 7.0%、「日本に来やすいから」が 4.0%であった。



② 現在の日本語能力

問 5-2.【問 5 で「2. 日本以外」を選択した方】あなたの現在の日本語能力のレベルを教えてください。

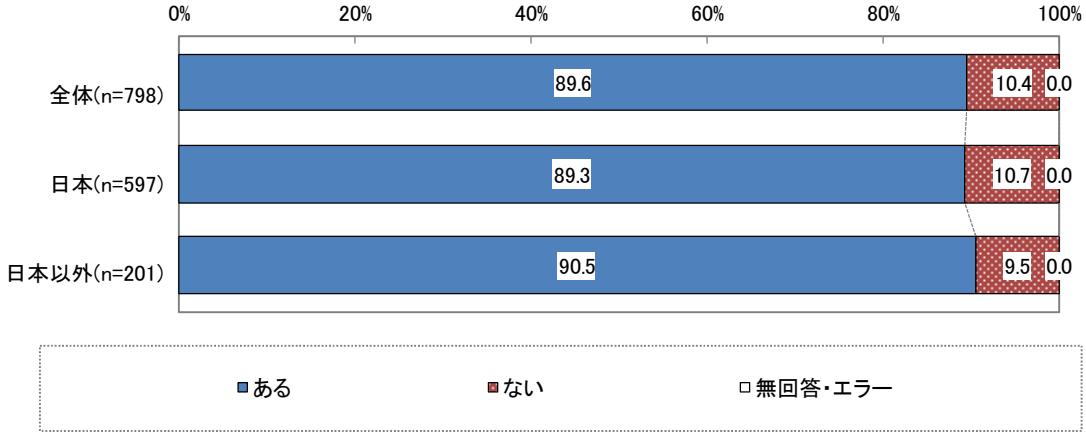
・ 「N1 程度以上」が 7.5%、「N2 程度以上」が 35.3%、「N3 程度以上」が 45.8%、「N4 程度以上」が 6.5%、「N5 程度以上」が 3.0%、「わからない」が 2.0%であった。



（6）自宅での勉強する場所

問 6. あなたに、普段、家で 1 人で勉強できる場所（部屋、スペース等）があるか教えてください。

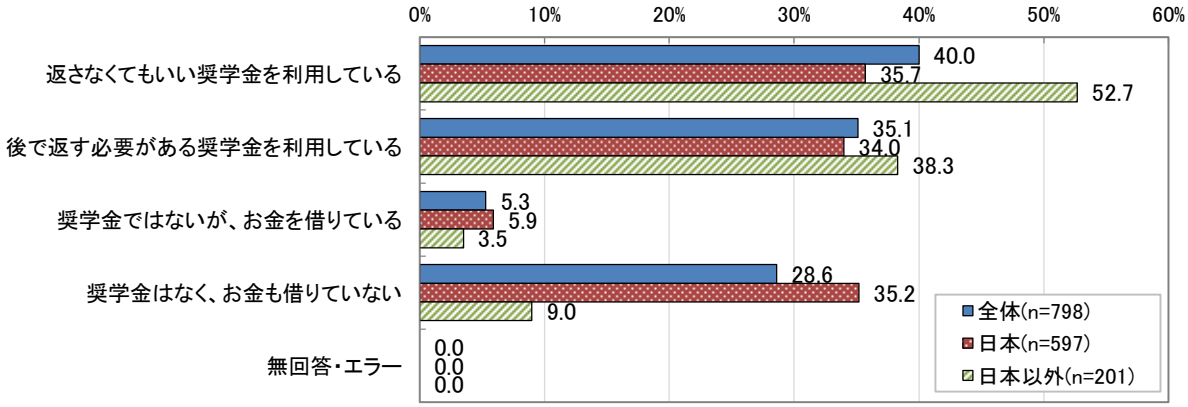
- 日本人学生においては、「ある」が 89.3%、「ない」が 10.7%であった。
- 留学生においては、「ある」が 90.5%と最も高く、「ない」が 9.5%であった。



（7）奨学金等の利用状況

問 7. あなたが、今、奨学金を受けていたり、お金を借りていることがあるかを教えてください。（複数選択）

- 日本人学生においては、「返さなくてもいい奨学金を利用している」が 35.7%と最も高く、「奨学金はなく、お金も借りていない」が 35.2%、「後で返す必要がある奨学金を利用している」が 34.0%、「奨学金ではないが、お金を借りている」が 5.9%であった。
- 留学生においては、「返さなくてもいい奨学金を利用している」が 52.7%と最も高く、「後で返す必要がある奨学金を利用している」が 38.3%、「奨学金はなく、お金も借りていない」が 9.0%、「奨学金ではないが、お金を借りている」が 3.5%であった。

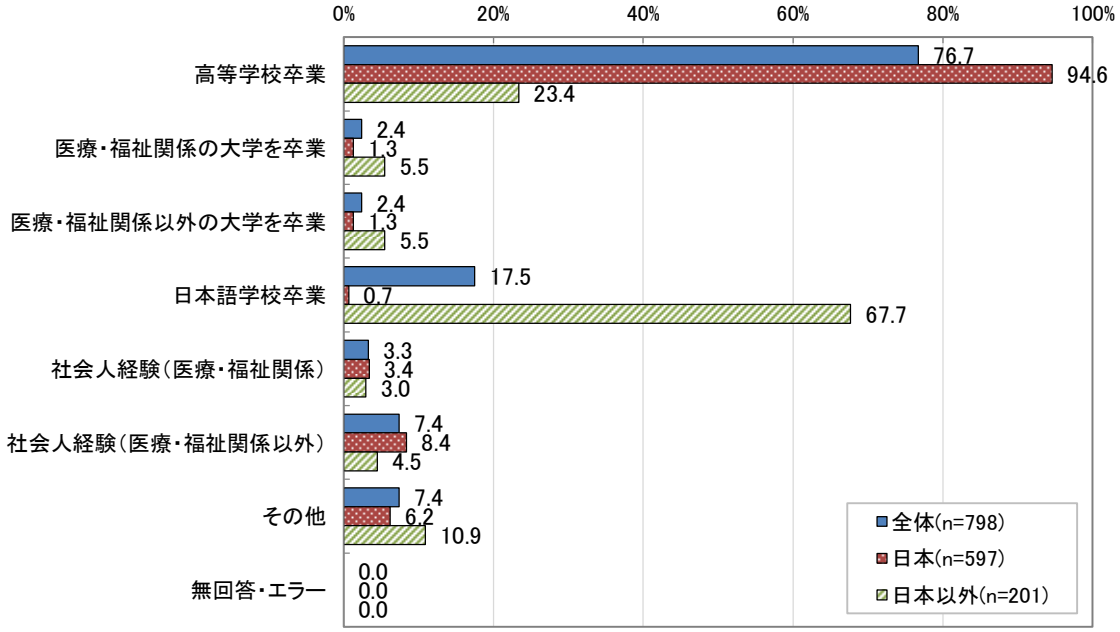


(8)養成校入学前の状況

① 入学前の経験

問 8. あなたが、現在の学校に入学する前に経験したことがあることを教えてください。(複数選択)

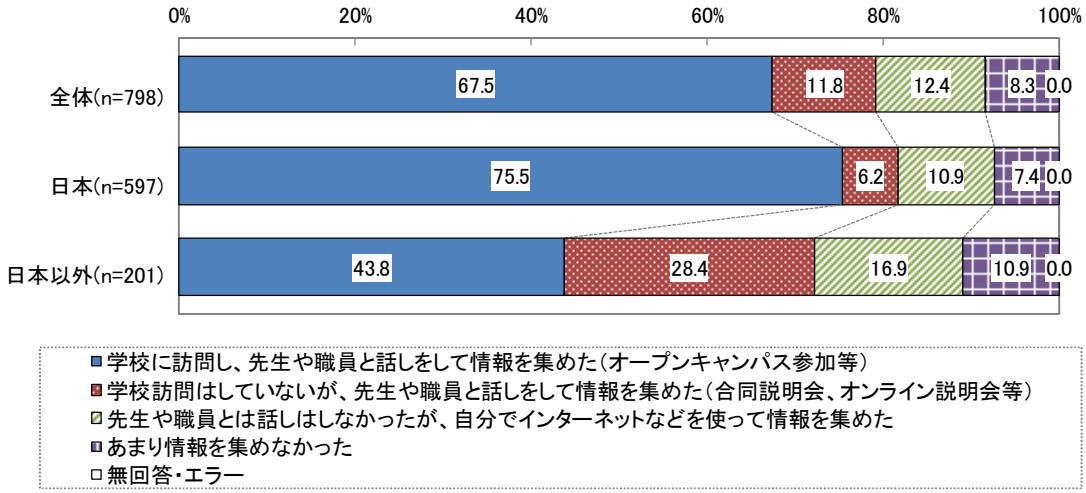
- 日本人学生においては、「高等学校卒業」が 94.6%と最も高く、次いで、「社会人経験(医療・福祉関係以外)」が 8.4%、と続いた。
- 留学生においては、「日本語学校卒業」が 67.7%と最も高く、次いで、「高等学校卒業」が 23.4%、と続いた。



② 入学時の情報収集状況

問 9. あなたが現在の学校に入学する前に、学校の情報をどのように集めたか、最も近いものを教えてください。

- 日本人学生、留学生共に、「学校に訪問し、先生や職員と話しをして情報を集めた(オープンキャンパス参加等)」が、それぞれ 75.5%、43.8%と最も高かった。
- 留学生においては、「学校訪問はしていないが、先生や職員と話しをして情報を集めた(合同説明会、オンライン説明会等)」も 28.4%と 3 割弱存在した。

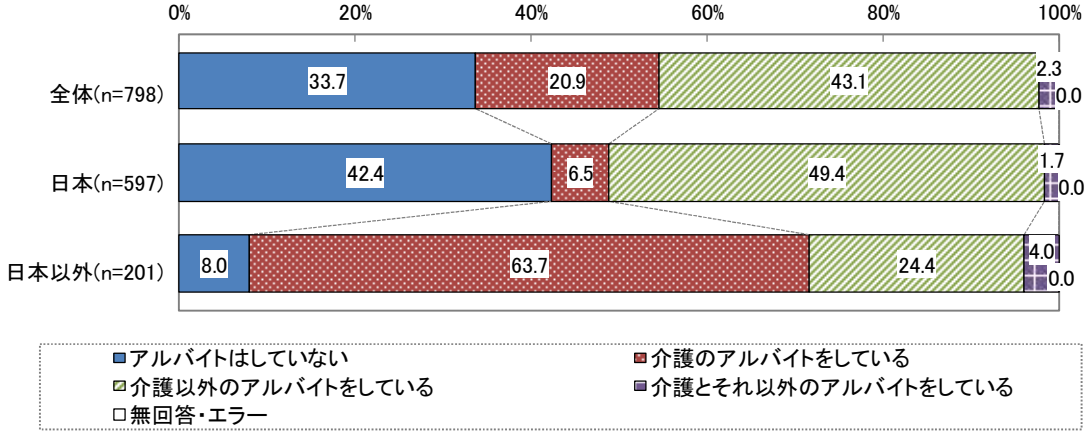


(9)アルバイトの状況

① 行っているアルバイトの種類

問 10. あなたが現在アルバイトをしているか教えてください。

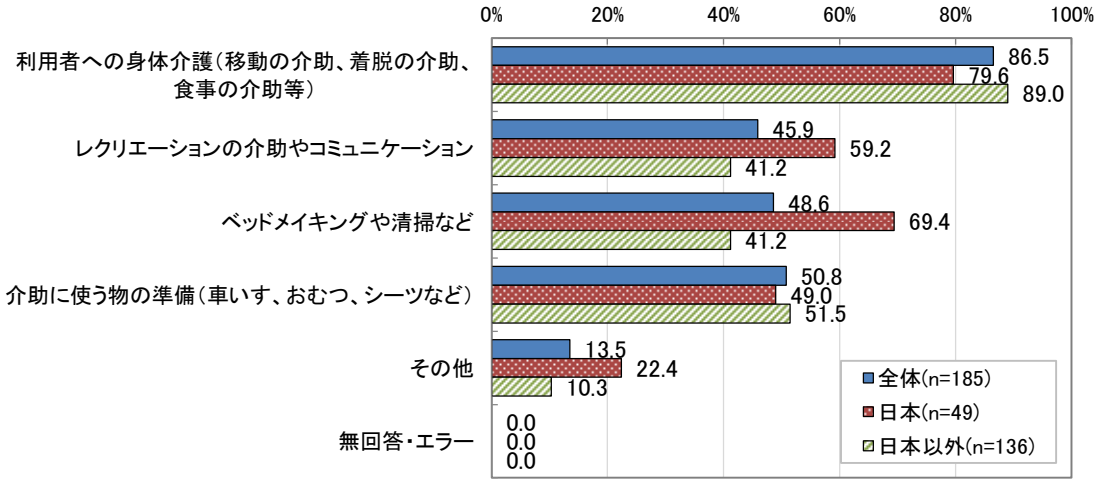
- 日本人学生においては、「アルバイトはしていない」が 42.4%、「介護のアルバイトをしている」が 6.5%、「介護以外のアルバイトをしている」が 49.4%、「介護とそれ以外のアルバイトをしている」が 1.7%であった。
- 留学生においては、「アルバイトはしていない」が 8.0%、「介護のアルバイトをしている」が 63.7%、「介護以外のアルバイトをしている」が 24.4%、「介護とそれ以外のアルバイトをしている」が 4.0%であった。



② 介護のアルバイトで行う内容

問 10-1.【問 10 で「2. 介護のアルバイトをしている」「4. 介護とそれ以外のアルバイトをしている」を選択した方】あなたが介護のアルバイトでどのようなことをしているか教えてください。(複数選択)

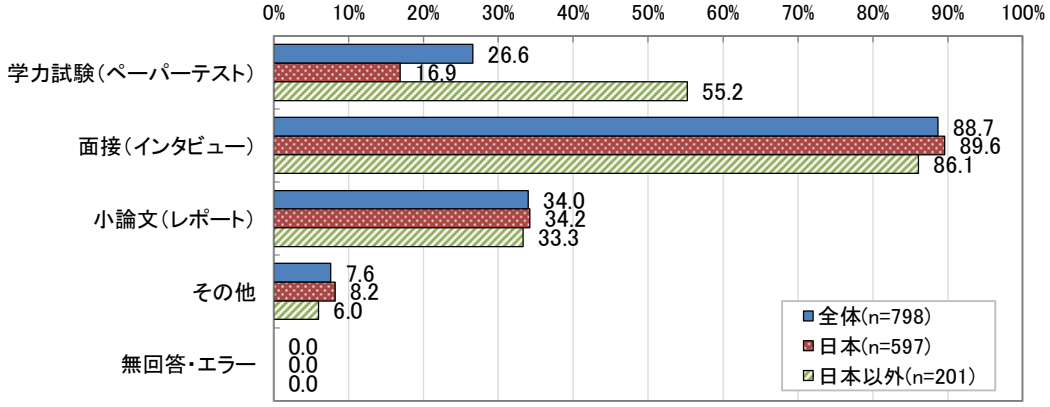
- 日本人学生、留学生共に、「利用者への身体介護（移動の介助、着脱の介助、食事の介助等)」が、それぞれ 79.6%、89.0%と最も高かった。



(10) 入学試験の状況

問 12. あなたが現在の学校に入学する時、どんな入学試験を受けたか教えてください。(複数選択)

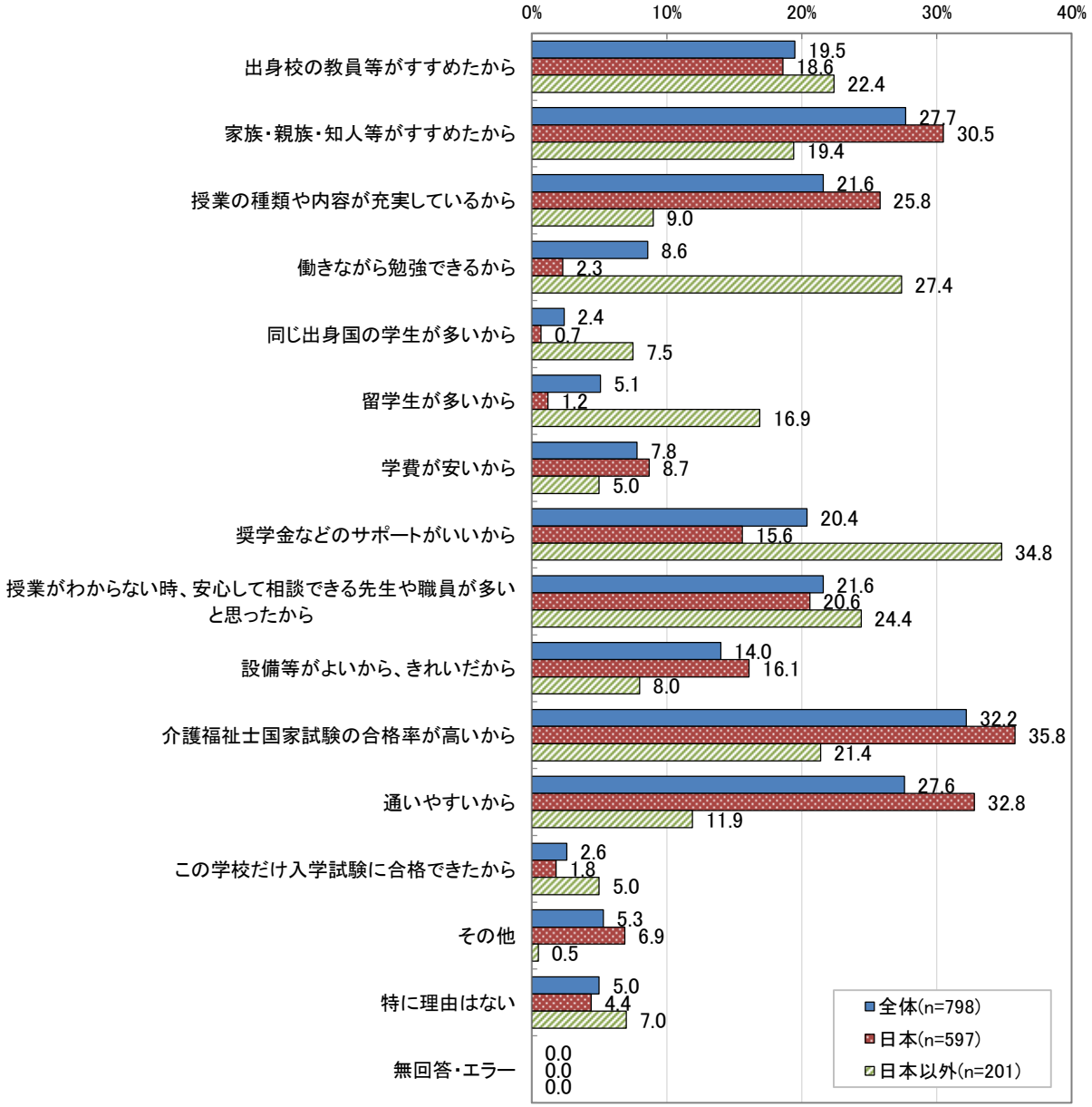
- 日本人学生、留学生共に、「面接（インタビュー)」を受けた方が、それぞれ 89.6%、86.1%と最も高かった。
- 留学生においては、「学力試験（ペーパーテスト)」を受けた方が 55.2%と半数程度存在した。



(11)現在の学校を選んだ理由

問 13. あなたが現在の学校を選んだ理由を教えてください。(複数選択)

- 日本人学生においては、「介護福祉士国家試験の合格率が高いから」が 35.8%と最も高く、次いで、「通いやすいから」が 32.8%、「家族・親族・知人等がすすめたから」が 30.5%、「授業の種類や内容が充実しているから」が 25.8 と続いた。
- 留学生においては、「奨学金などのサポートがいいから」が 34.8%と最も高く、次いで、「働きながら勉強できるから」が 27.4%、「授業がわからない時、安心して相談できる先生や職員が多いと思ったから」が 24.4%、と続いた。

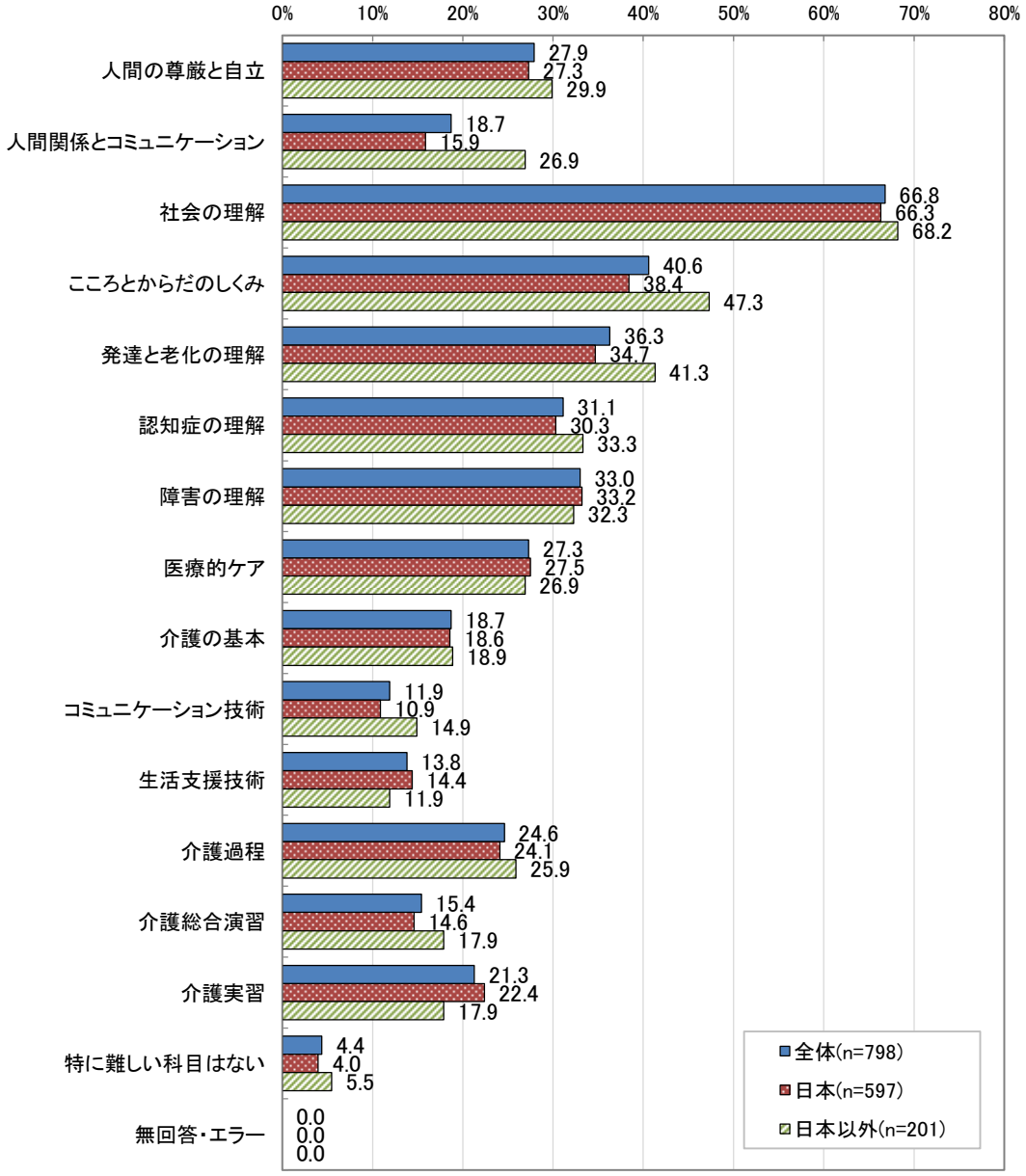


2. 学校での学びについて

（1）難しいと感じる科目

問 15. あなたが、難しいと思う科目があれば、教えてください。（複数選択）

- 日本人学生、留学生共に、「社会の理解」が、それぞれ 66.3%、68.2%と最も高かった。
- 留学生においては、「人間関係とコミュニケーション」、「こころとからだのしくみ」、「発達と老化の理解」等の科目において、日本人学生より難しいと感じている傾向が見られた。

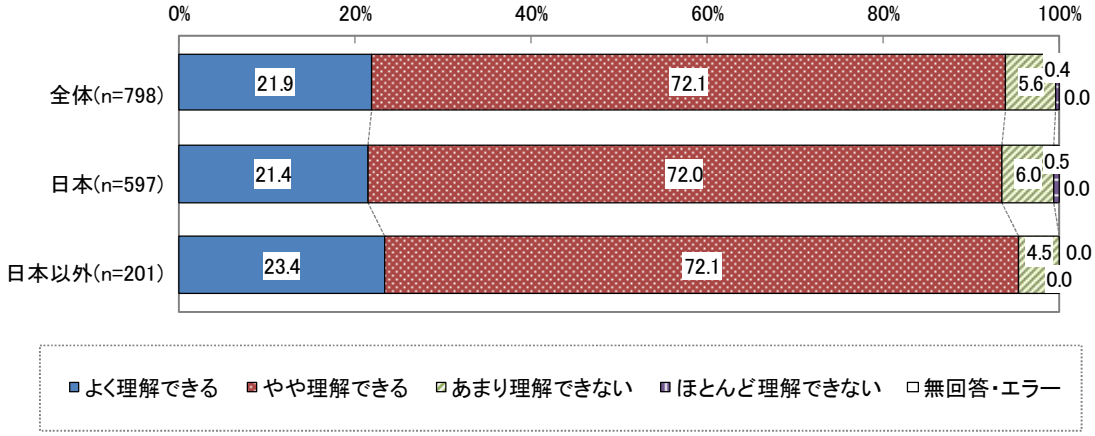


(2)各種理解度

① 授業の理解度

問 14. あなたが、学校の授業を全体的にどれぐらい理解できているか教えてください。

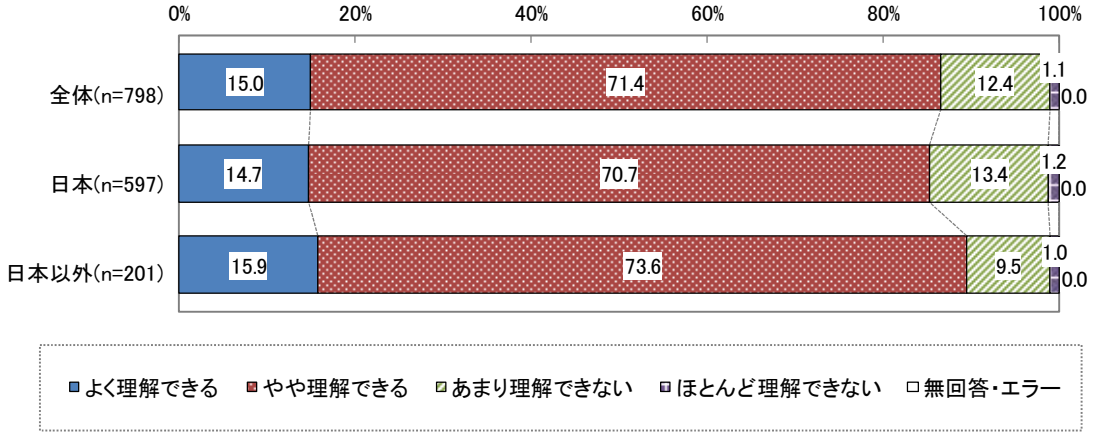
- 日本人学生においては、『理解できる(計)』(93.4%)【「よく理解できる」(21.4%)+「やや理解できる」(72.0%)を合算】であった。
- 留学生においては、『理解できる(計)』(95.5%)【「よく理解できる」(23.4%)+「やや理解できる」(72.1%)を合算】であった。



② 科目間連携の理解度

問 16. 前問ででてきたそれぞれの科目について、それぞれの科目がほかの科目に関連していることが、どれぐらい理解できているか教えてください。

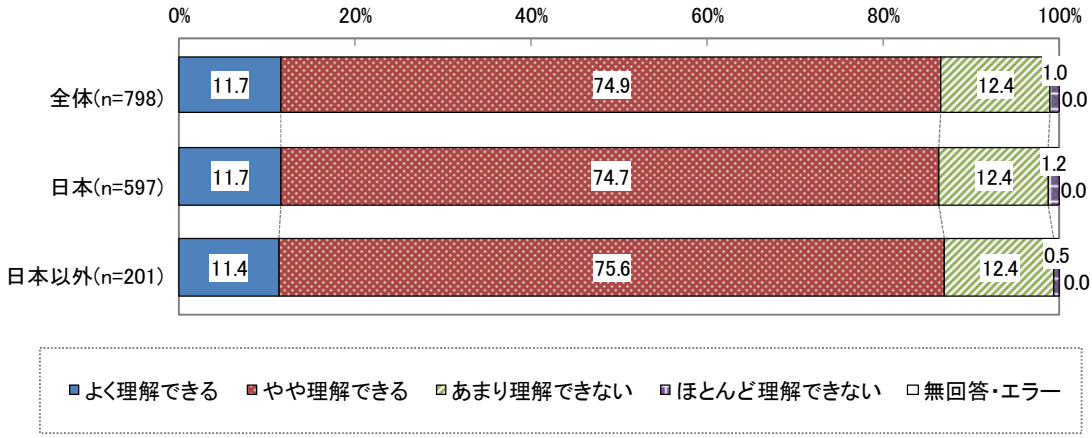
- 日本人学生においては、『理解できる(計)』(85.4%)【「よく理解できる」(14.7%)+「やや理解できる」(70.7%)を合算】であった。
- 日本人学生においては、「やや理解できる」が 70.7%と最も高く、「よく理解できる」が 14.7%、「あまり理解できない」が 13.4%、「ほとんど理解できない」が 1.2%であった。
- 本以外では、『理解できる(計)』(89.5%)【「よく理解できる」(15.9%)+「やや理解できる」(73.6%)を合算】であった。



③ 介護の専門用語の理解度

問 17. 授業や国家試験に出てくる介護の専門用語が、どれぐらい理解できているか教えてください。

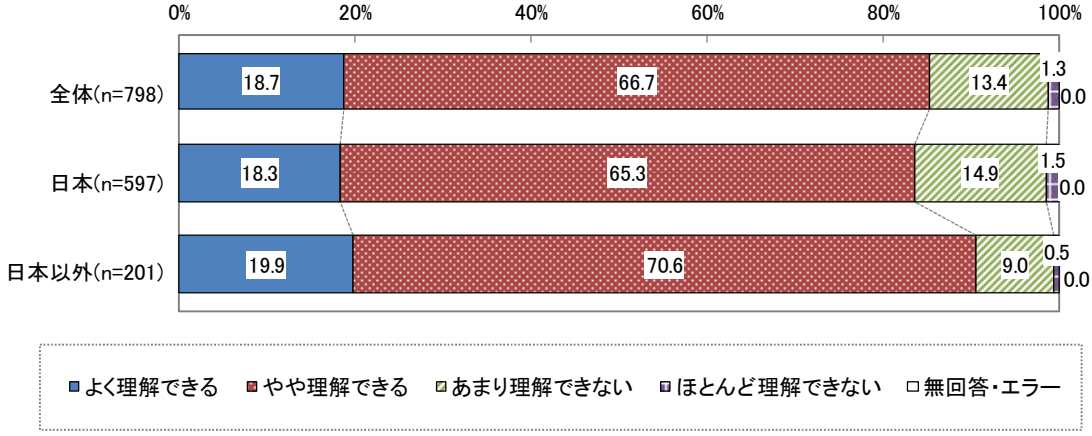
- 日本人学生においては、『理解できる(計)』(86.4%)【「よく理解できる」(11.7%)+「やや理解できる」(74.7%)を合算】であった。
- 留学生においては、『理解できる(計)』(87.0%)【「よく理解できる」(11.4%)+「やや理解できる」(75.6%)を合算】であった。



④ 介護に関する日本の文化的慣習の理解度

問 18. 介護に関係する日本の文化的習慣について、どれぐらい理解できているか教えてください。

- 日本人学生においては、『理解できる(計)』(83.6%)【「よく理解できる」(18.3%)+「やや理解できる」(65.3%)を合算】であった。
- 留学生においては、『理解できる(計)』(90.5%)【「よく理解できる」(19.9%)+「やや理解できる」(70.6%)を合算】であった。

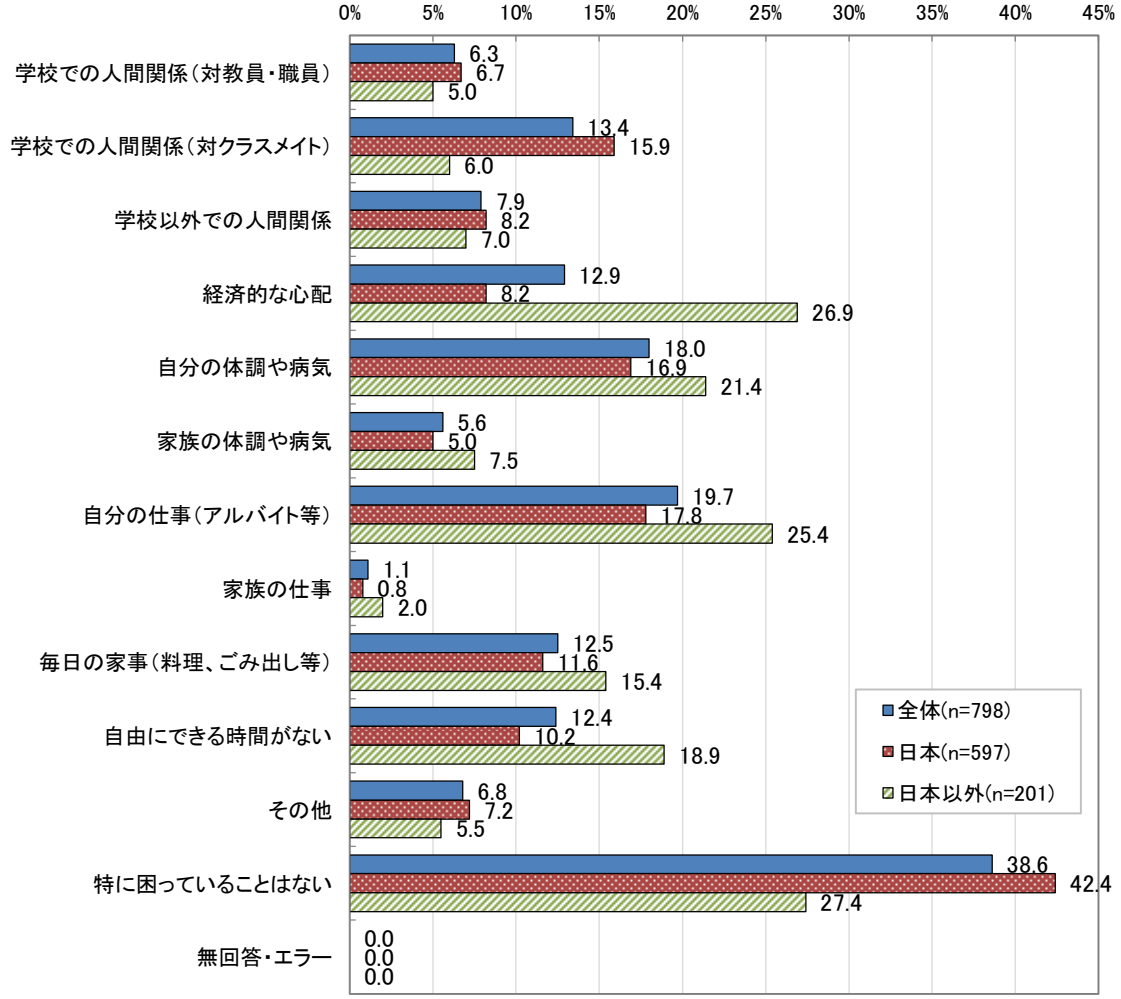


（3）勉強に集中できない理由とその影響

① 集中できない理由

問 19. あなたが勉強に集中しようと思っても、なかなか勉強できない理由があれば、教えてください。（複数選択）

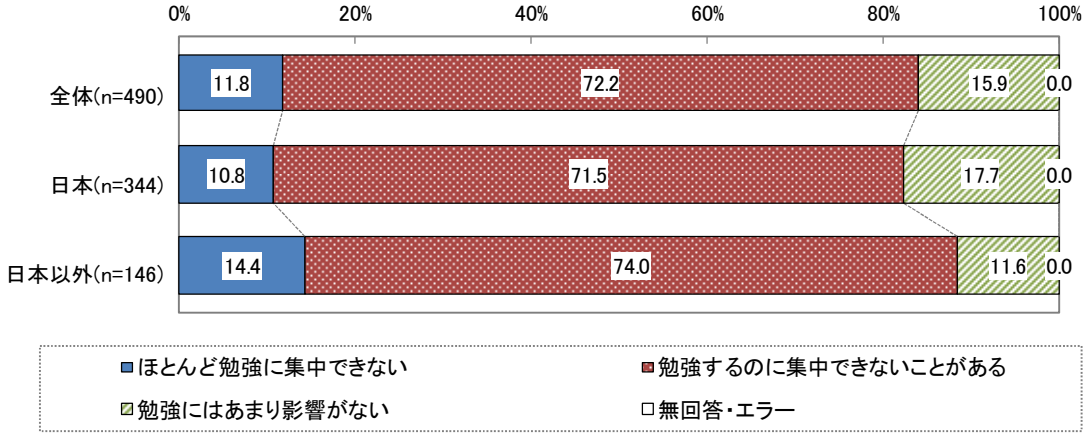
- 日本人学生、留学生共に、「特に困っていることはない」が、それぞれ 42.4%、27.4%と最も高かった。
- 日本人学生においては、「自分の仕事（アルバイト等）」（17.8%）、「自分の体調や病気」（16.9%）、「学校での人間関係（対クラスメイト）」（15.9%）等の困りごとが選択された割合が高かった。
- 留学生においては、「経済的な心配」（26.9%）、「自分の仕事（アルバイト等）」（25.4%）、「自分の体調や病気」（21.4%）、「自由にできる時間がない」（18.9%）、「毎日の家事（料理、ごみ出し等）」（15.4%）、等の困りごとが選択された割合が高かった。



② 影響度

問 19-1.【問 19 で「12. 特に困っていることはない」以外を選択した方】前問で回答した「勉強できない理由」について、どれぐらい勉強に影響があるか教えてください。

- 日本人学生においては、『に集中できない(計)』(82.3%)【「ほとんど勉強に集中できない」(10.8%)+「勉強するのに集中できないことがある」(71.5%)を合算】であった。
- 留学生においては、『に集中できない(計)』(88.4%)【「ほとんど勉強に集中できない」(14.4%)+「勉強するのに集中できないことがある」(74.0%)を合算】であった。

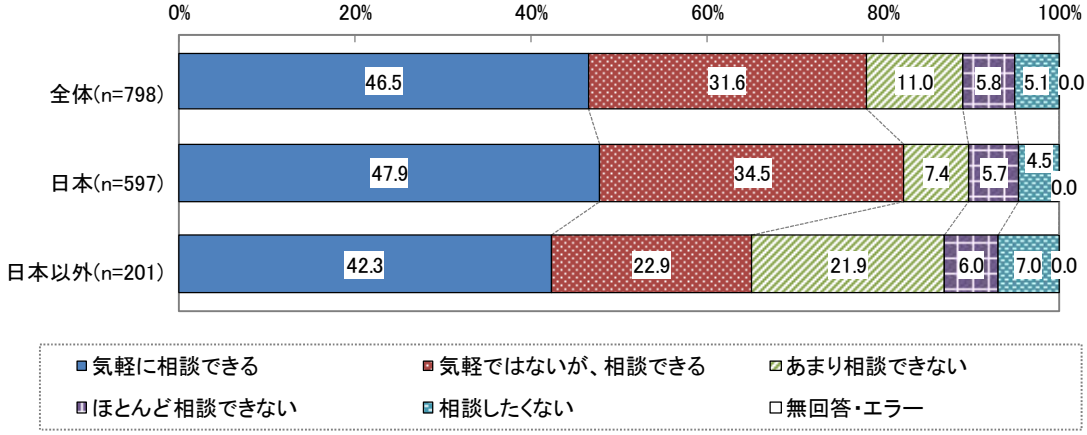


(4)困ったことがあった場合の相談

① 相談できているか

問 20. あなたが困ったことがあった場合、誰かに相談することができるか教えてください。

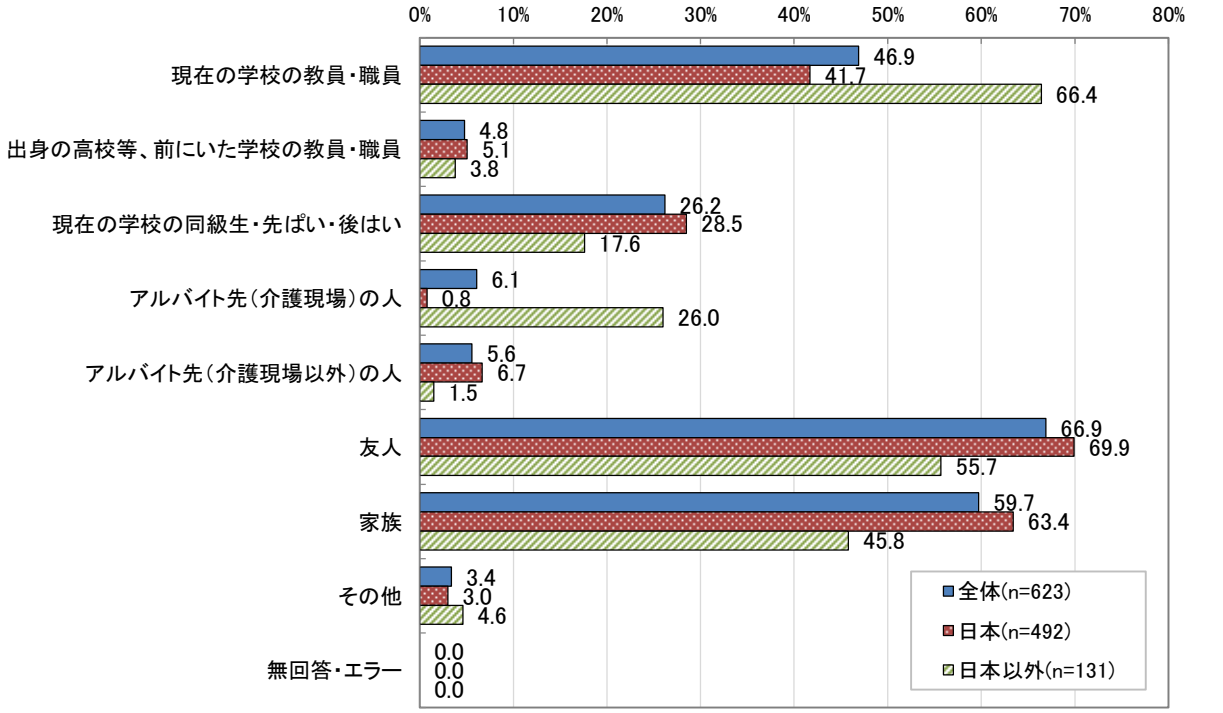
- 日本人学生においては、『相談できる(計)』(82.4%)【「気軽に相談できる」(47.9%)+「気軽ではないが、相談できる」(34.5%)を合算】であった。
- 留学生においては、『相談できる(計)』(65.2%)【「気軽に相談できる」(42.3%)+「気軽ではないが、相談できる」(22.9%)を合算】であり、日本人学生に比べ、やや相談できていない傾向が見られた。



② 相談先

問 20-1.【問 20 で「1. 気軽に相談できる」「2. 気軽ではないが、相談できる」を選択した方】誰に相談しているか教えてください。（複数選択）

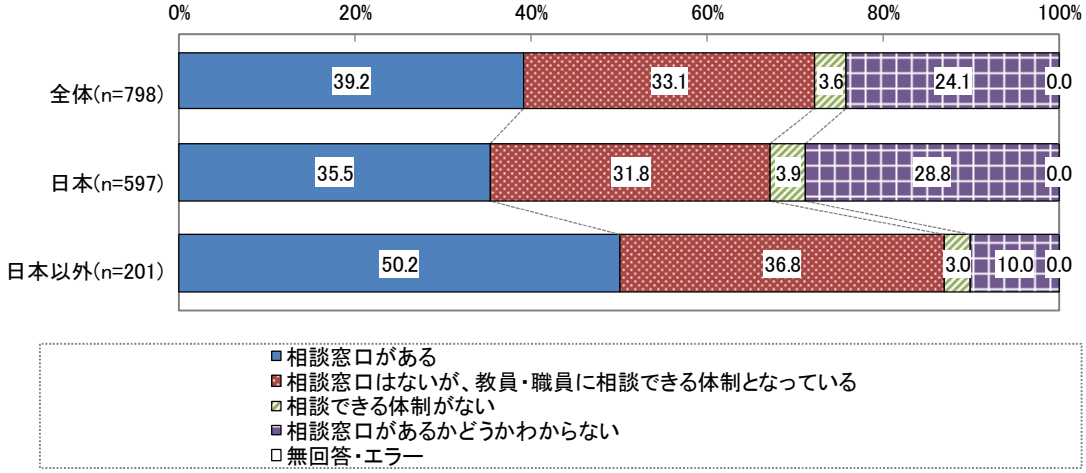
- 日本人学生においては、「友人」が 69.9%と最も高く、次いで、「家族」が 63.4%、「現在の学校の教員・職員」が 41.7%、と続いた。
- 留学生においては、「現在の学校の教員・職員」が 66.4%と最も高く、次いで、「友人」が 55.7%、「家族」が 45.8%と続いた。



③ 学校の相談窓口の状況

問 21. 困っていることについて、あなたの学校に相談できる窓口があるか教えてください。

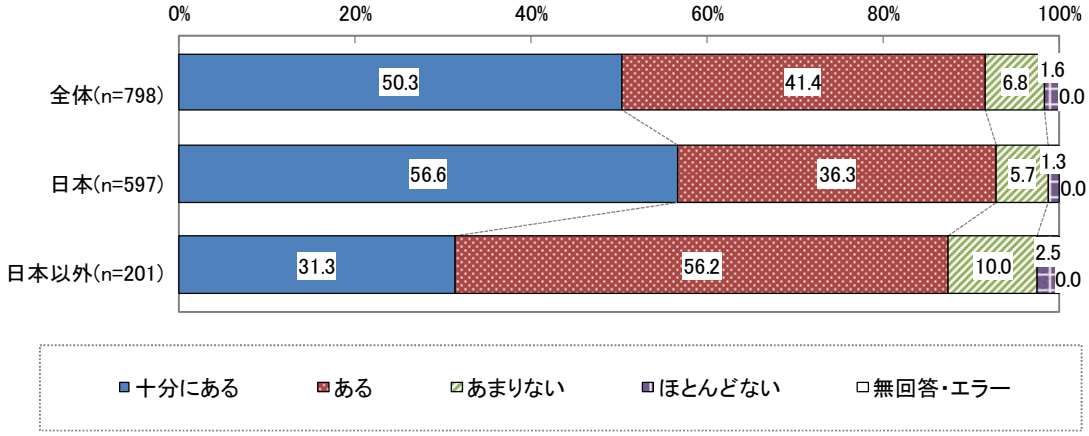
- 日本人学生においては、「相談窓口がある」が 35.5%、「相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている」が 31.8%、「相談できる体制がない」が 3.9%、「相談窓口があるかどうかわからない」が 28.8%であった。
- 留学生においては、「相談窓口がある」が 50.2%、「相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている」が 36.8%、「相談できる体制がない」が 3.0%、「相談窓口があるかどうかわからない」が 10.0%であり、日本人学生に比べ、やや相談体制が身近にある傾向が見られた。



④ 学生同士の相談・会話の状況

問 22. あなたの学校で、授業／授業外問わず、学生同士で話し合ったり、会話できるような機会があるかについて教えてください。

- 日本人学生においては、『ある(計)』(92.9%)【「十分にある」(56.6%)+「ある」(36.3%)を合算】であった。
- 留学生においては、『ある(計)』(87.5%)【「十分にある」(31.3%)+「ある」(56.2%)を合算】であり、日本人学生に比べ、学生同士の話し合い等の機会がやや少ない傾向が見られた。

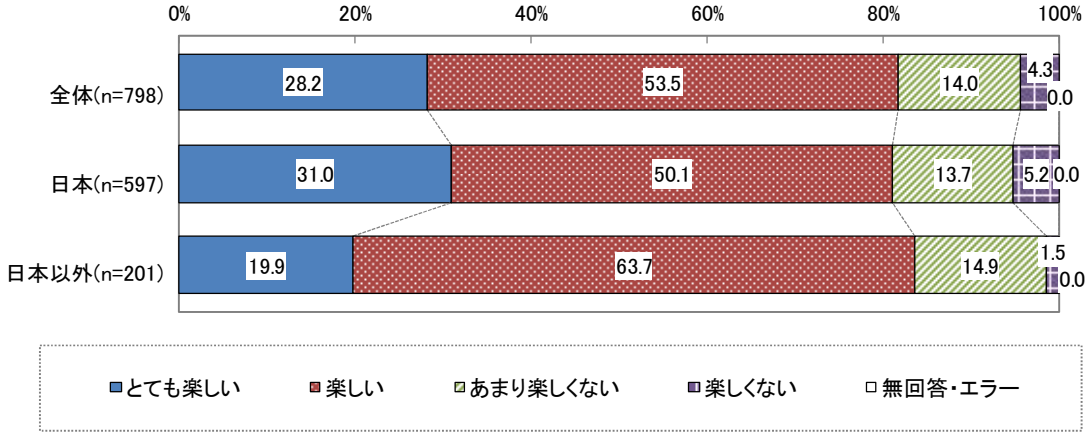


(5)満足度等

① 学校で過ごす時間の楽しさ

問 23. 今の学校で過ごす時間が楽しいか教えてください。

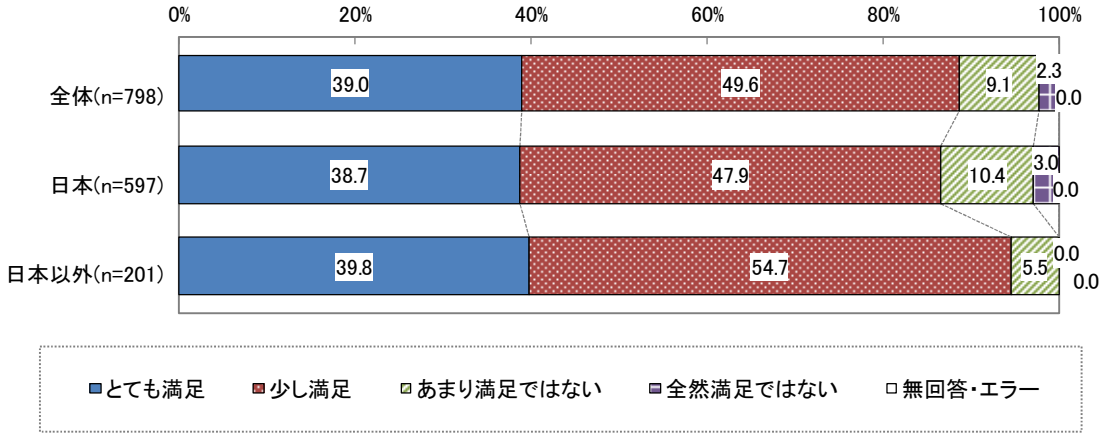
- 日本人学生においては、『楽しい(計)』(81.1%)【「とても楽しい」(31.0%)+「楽しい」(50.1%)を合算】であった。
- 留学生においては、『楽しい(計)』(83.6%)【「とても楽しい」(19.9%)+「楽しい」(63.7%)を合算】であった。



② 学習に関する学校の対応への満足度

問 24. あなたの学校の授業や指導など学習に関係する対応について、どれぐらい満足しているか教えてください。

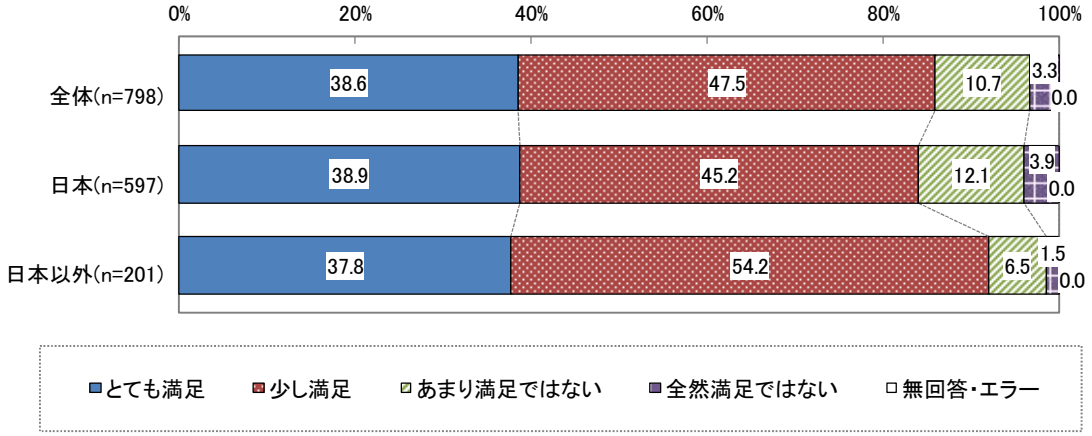
- 日本人学生においては、『満足(計)』(86.6%)【「とても満足」(38.7%)+「少し満足」(47.9%)を合算】であった。
- 留学生においては、『満足(計)』(94.5%)【「とても満足」(39.8%)+「少し満足」(54.7%)を合算】であった。



③ 学習以外に関する学校の対応への満足度

問 25. あなたの学校の生活指導など学習以外に関係する対応について、どれぐらい満足しているか教えてください。

- 日本人学生においては、『満足(計)』(84.1%)【「とても満足」(38.9%)+「少し満足」(45.2%)を合算】であった。
- 留学生においては、『満足(計)』(92.0%)【「とても満足」(37.8%)+「少し満足」(54.2%)を合算】であった。

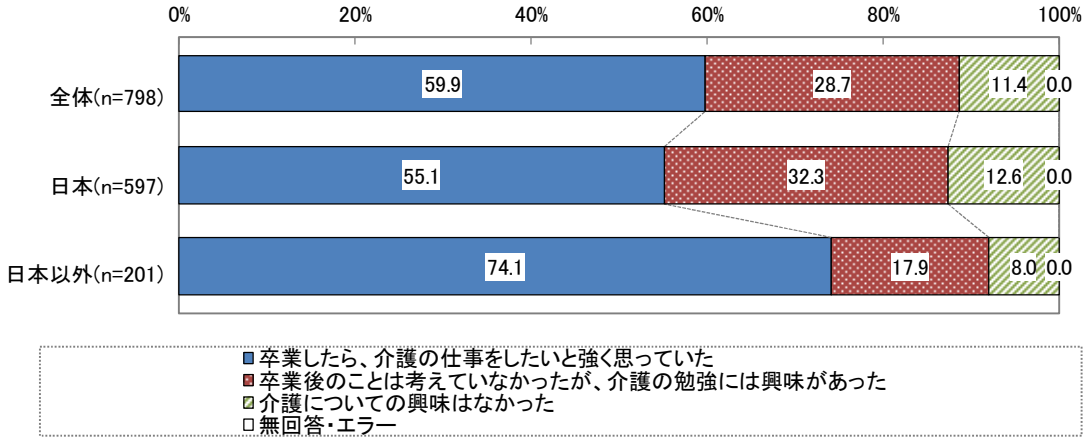


3. 学習意欲や学習状況について

(1)入学前の介護分野への就業意欲

問 11. あなたが現在の学校に入学する前、介護の仕事について、どのように考えていたか教えてください。

- 日本人学生においては、「卒業したら、介護の仕事をしたいと強く思っていた」が 55.1%、「卒業後のことは考えていなかったが、介護の勉強には興味があった」が 32.3%、「介護についての興味はなかった」が 12.6%であった。
- 留学生においては、「卒業したら、介護の仕事をしたいと強く思っていた」が 74.1%、「卒業後のことは考えていなかったが、介護の勉強には興味があった」が 17.9%、「介護についての興味はなかった」が 8.0%であり、日本人学生に比べ、介護の仕事に関する就業意欲が高い傾向が見られた。

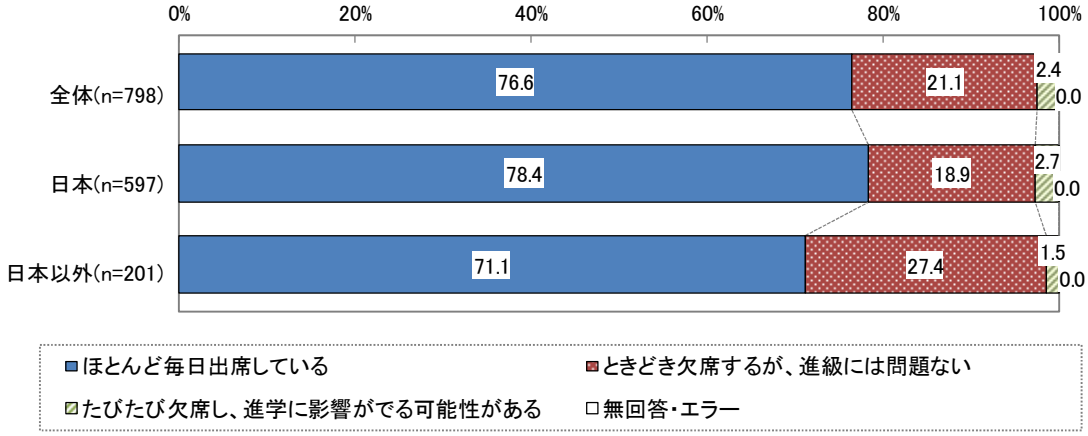


(2)勉強に関する意欲

① 授業の出席状況

問 26. あなたの授業への出席はどれぐらいか教えてください。

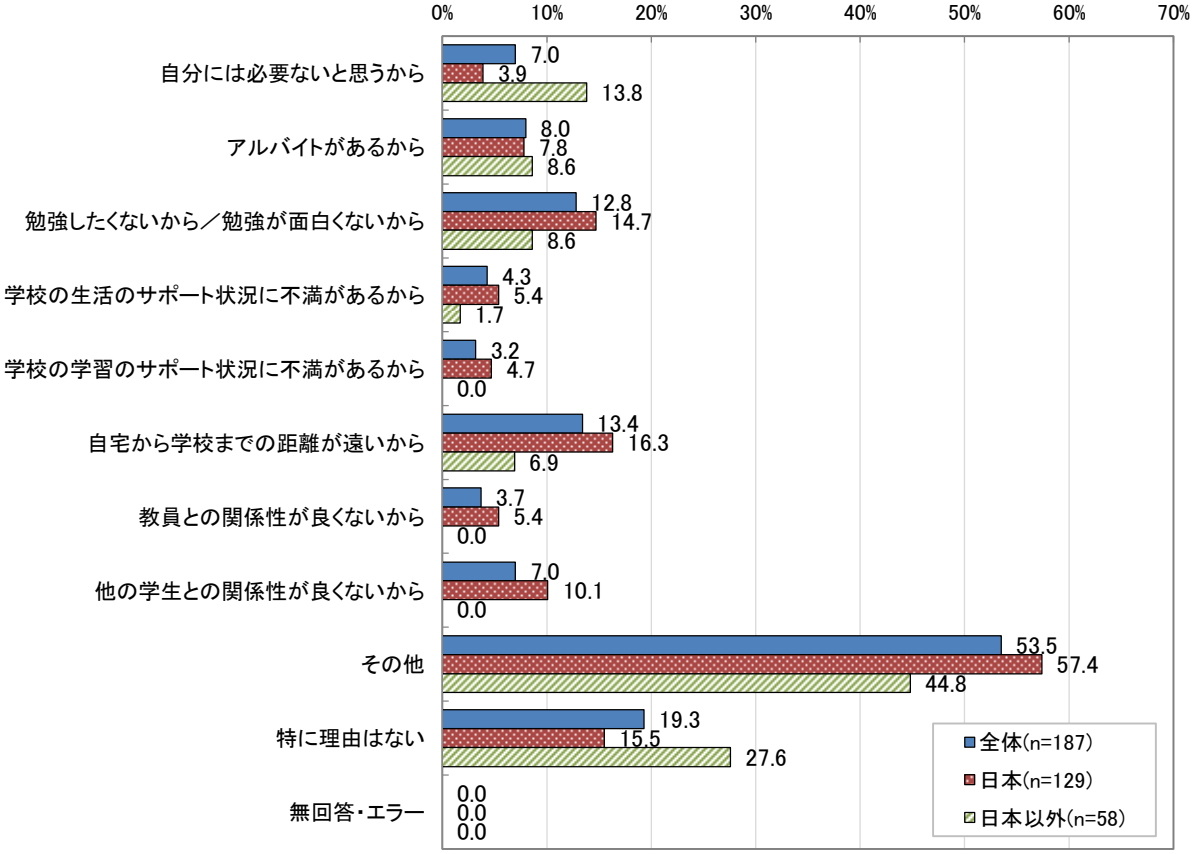
- 日本人学生においては、「ほとんど毎日出席している」が 78.4%、「ときどき欠席するが、進級には問題ない」が 18.9%、「たびたび欠席し、進学に影響がでる可能性がある」が 2.7%であった。
- 留学生においては、「ほとんど毎日出席している」が 71.1%、「ときどき欠席するが、進級には問題ない」が 27.4%、「たびたび欠席し、進学に影響がでる可能性がある」が 1.5%であった。



② 授業を欠席する理由

問 26-1.【問 26 で「2. ときどき欠席するが、進級には問題ない 」「3. たびたび欠席し、進学に影響がでる可能性がある」を選択した方】欠席する理由を教えてください。（複数選択）

- 日本人学生においては、「自宅から学校までの距離が遠いから」が 16.3%と最も高く、次いで、「勉強したくないから／勉強が面白くないから」が 14.7%、「他の学生との関係性が良くないから」が 10.1%と続いた。
- 留学生においては、「自分には必要ないと思うから」が 13.8%と最も高く、次いで、「アルバイトがあるから」が 8.6%、「勉強したくないから／勉強が面白くないから」が 8.6%と続いた。



その他：

＜日本人学生＞

- 調子が悪いから、甘え、起きることができないから、自分へのご褒美　等

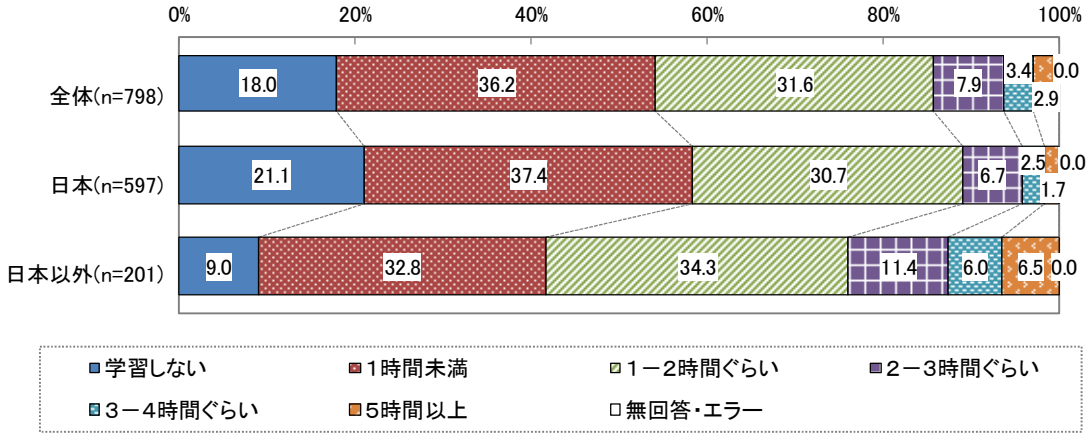
＜留学生＞

- 調子が悪いから、起きることができないから、用事があるから、友達がいないから　等

③ 勉強時間

問 28. あなたは、学校の授業以外でどのくらい介護の勉強をしていますか。土日を含む、平均的な1日あたりの勉強時間を教えてください。

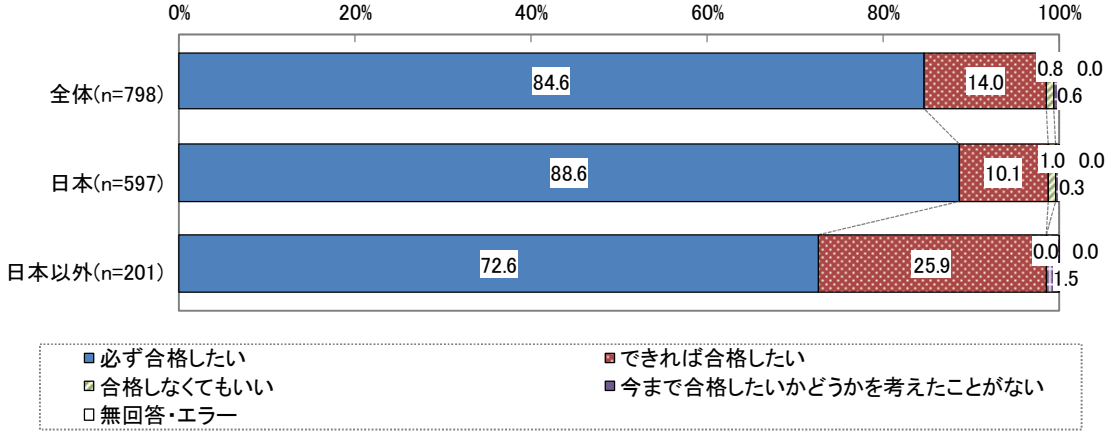
- 日本人学生においては、「学習しない」が 21.1%、「１時間未満」が 37.4%、「１－２時間ぐらい」が 30.7%、「２－３時間ぐらい」が 6.7%、「３－４時間ぐらい」が 2.5%、「５時間以上」が 1.7%であった。
- 留学生においては、「学習しない」が 9.0%、「１時間未満」が 32.8%、「１－２時間ぐらい」が 34.3%、「２－３時間ぐらい」が 11.4%、「３－４時間ぐらい」が 6.0%、「５時間以上」が 6.5%であった。



(3)国家試験合格に関する意欲

問 27. あなたが、介護福祉士国家試験にどのくらい合格したいか教えてください。

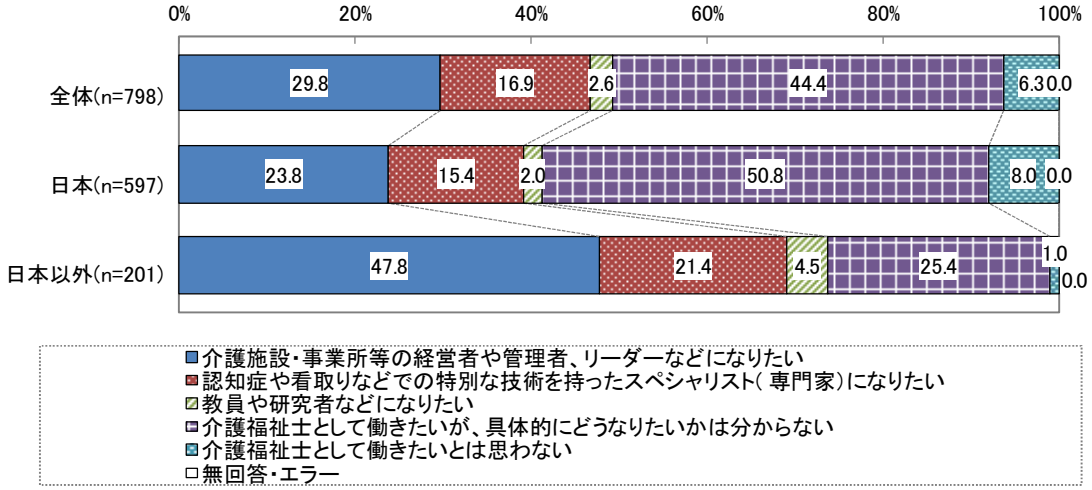
- 日本人学生においては、「必ず合格したい」が 88.6%、「できれば合格したい」が 10.1%、「合格しなくてもいい」が 1.0%、「今まで合格したいかどうかを考えたことがない」が 0.3%であった。
- 留学生においては、「必ず合格したい」が 72.6%、「できれば合格したい」が 25.9%、「合格しなくてもいい」が 0.0%、「今まで合格したいかどうかを考えたことがない」が 1.5%であり、日本人学生に比べ、「必ず合格したい」とした割合が低い傾向が見られた。



（4）キャリアに関する意欲

問 29. あなたは将来、どんな介護福祉士になりたいですか。最も近いものを教えてください。

- 日本人学生においては、「介護福祉士として働きたいが、具体的にどうなりたいかは分からない」が 50.8%と最も高く、「介護施設・事業所等の経営者や管理者、リーダーなどになりたい」が 23.8%、「認知症や看取りなどでの特別な技術を持ったスペシャリスト（ 専門家）になりたい」が 15.4%、「介護福祉士として働きたいとは思わない」が 8.0%、「教員や研究者などになりたい」が 2.0%であった。
- 留学生においては、「介護施設・事業所等の経営者や管理者、リーダーなどになりたい」が 47.8%と最も高く、「介護福祉士として働きたいが、具体的にどうなりたいかは分からない」が 25.4%、「認知症や看取りなどでの特別な技術を持ったスペシャリスト（ 専門家）になりたい」が 21.4%、「教員や研究者などになりたい」が 4.5%、「介護福祉士として働きたいとは思わない」が 1.0%であった。
- 『何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている(計)』【「介護施設・事業所等の経営者や管理者、リーダーなどになりたい」+「認知症や看取りなどでの特別な技術を持ったスペシャリスト（ 専門家）になりたい」+「教員や研究者などになりたい」を合算】割合を見ると、日本人学生が 41.2%、留学生が 73.7%と、留学生のほうが日本人学生に比べキャリアに関する意欲が高い傾向が見られた。

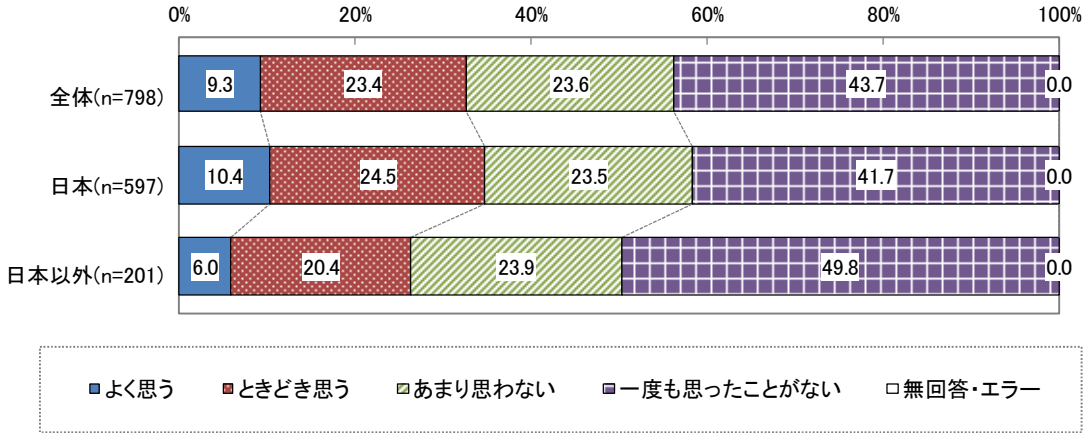


4. 退学意向やその理由について

(1)退学を考えたことのある頻度

問 30. あなたが、これまで学校を辞めたいと思ったことがあるかを教えてください。

- 日本人学生においては、「よく思う」が 10.4%、「ときどき思う」が 24.5%、「あまり思わない」が 23.5%、「一度も思ったことがない」が 41.7%であった。
- 留学生においては、「よく思う」が 6.0%、「ときどき思う」が 20.4%、「あまり思わない」が 23.9%、「一度も思ったことがない」が 49.8%であった。

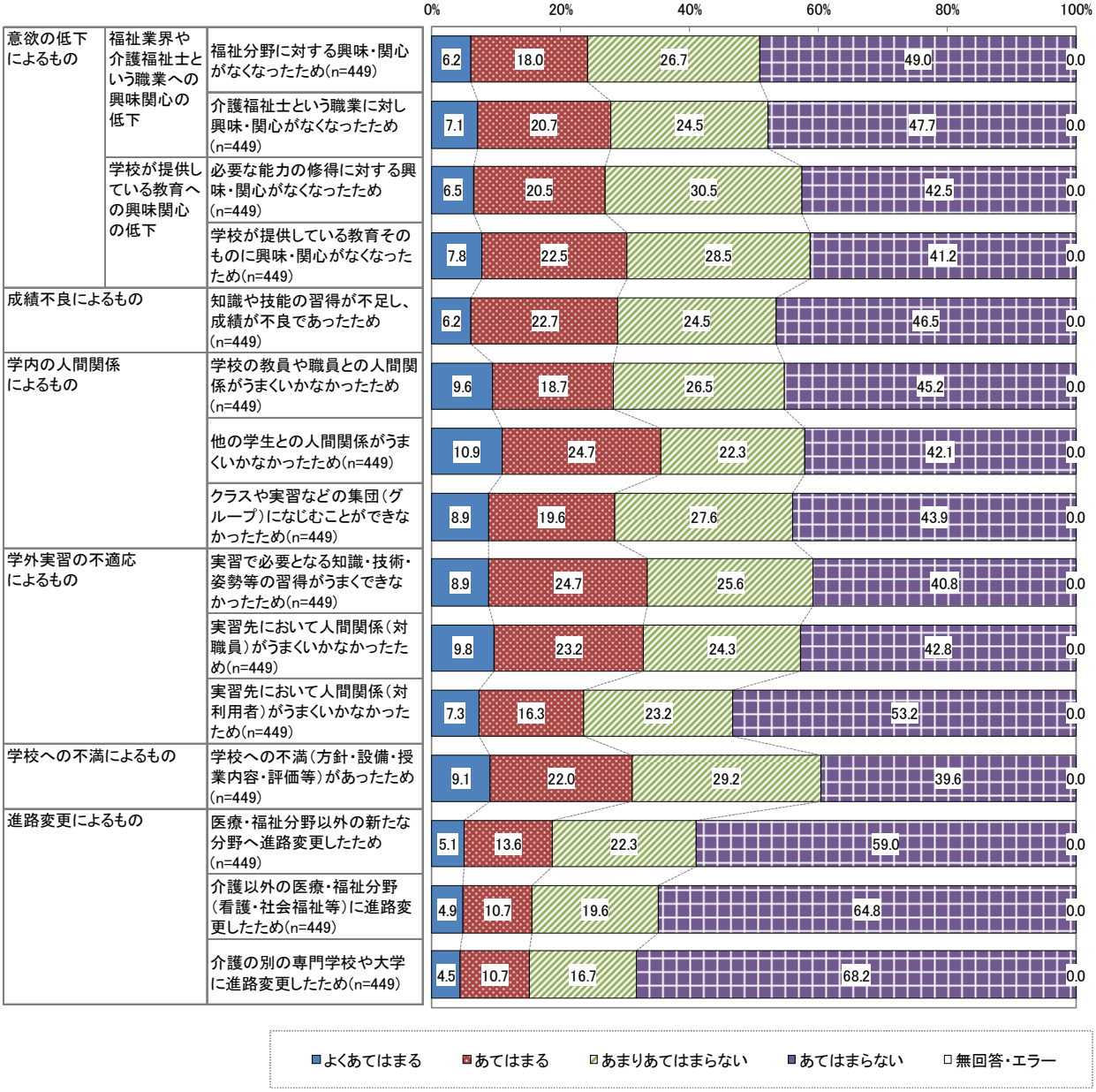


（2）退学したいと思った理由（学内要因）

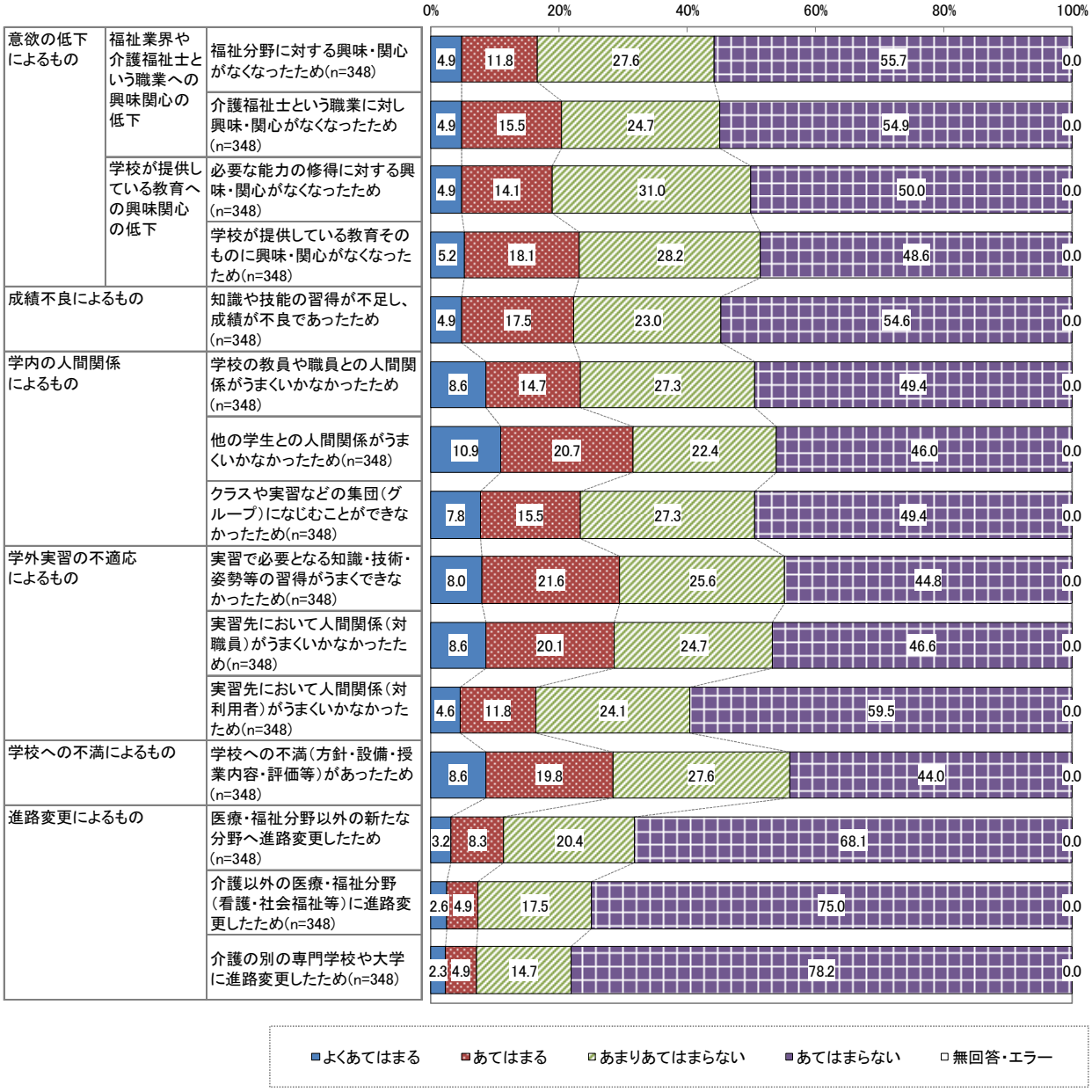
問 30-1.【問 30 で「1. よく思う」「2. ときどき思う」「3. あまり思わない」を選択した方】あなたが学校を辞めたいと思った理由について、あてはまるものを教えてください。

- 全体では、「学内での人間関係によるもの」に該当する「他の学生との人間関係がうまくいかなかったため」が、『あてはまる(計)』(35.6%)【「よくあてはまる」(10.9%)+「あてはまる」(24.7%)を合算】で最も高く、次いで、「学外実習の不適応によるもの」に該当する「実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため」が『あてはまる(計)』(33.6%)【「よくあてはまる」(8.9%)+「あてはまる」(24.7%)を合算】、「実習先において人間関係（対職員）がうまくいかなかったため」が『あてはまる(計)』(33.0%)【「よくあてはまる」(9.8%)+「あてはまる」(23.2%)を合算】、と続いた。
- 国籍別に見ると、日本人学生は、学内の人間関係、実習の不適応、学校への不満等による要因が多い傾向にある一方、留学生については、意欲の低下に関する要因が多い傾向が見られた。また、全般的に日本人学生に比べ、留学生の方が、複数項目に『あてはまる(計)』【「よくあてはまる」+「あてはまる」を合算】としている傾向が見られた。

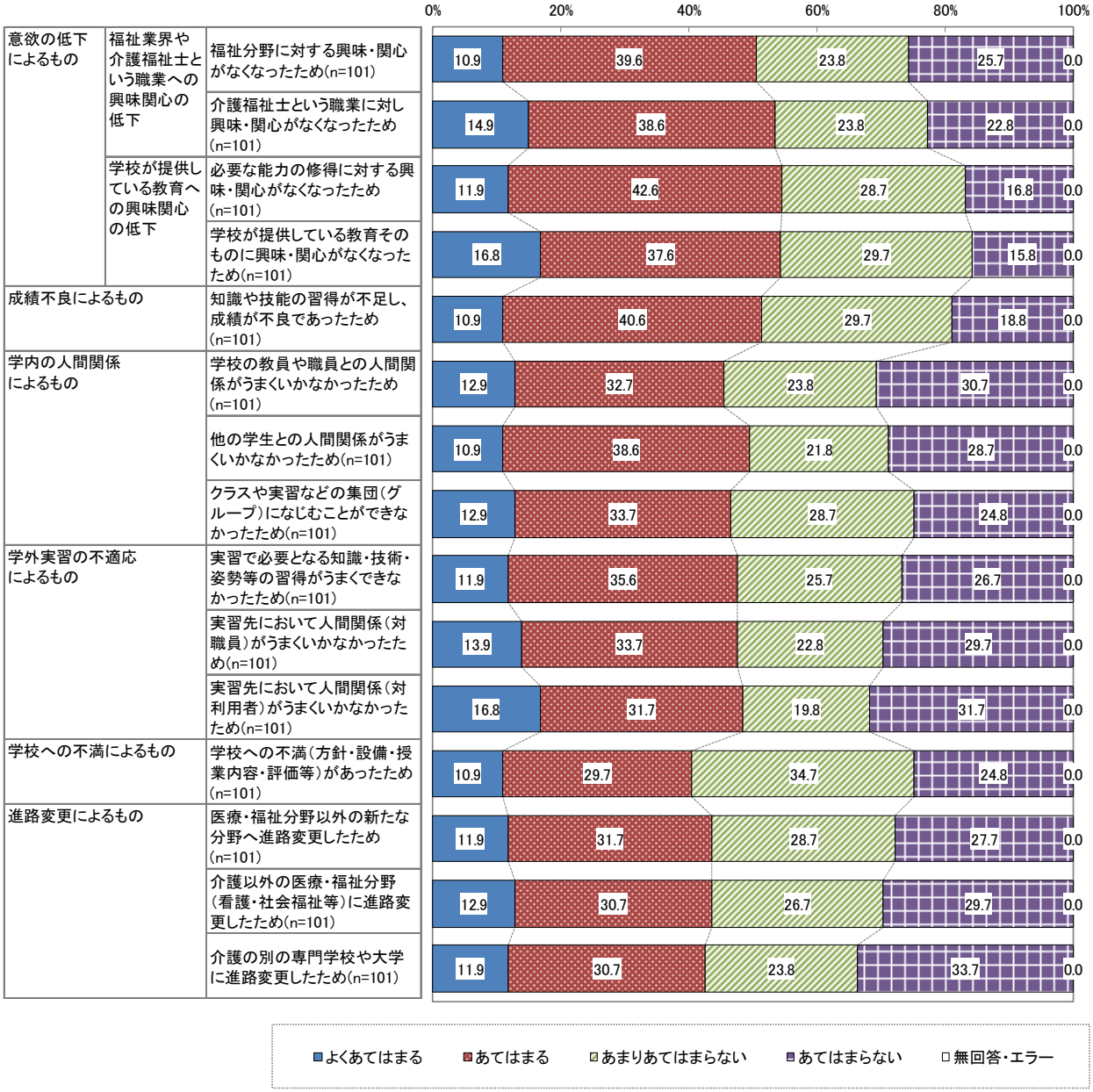
＜全体＞



＜日本＞


0%
20%
40%
60%
80%
100%
意欲の低下によるもの
福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下
福祉分野に対する興味・関心がなくなったため(n=348)
4.9 11.8 27.6 55.7 0.0
介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため(n=348)
4.9 15.5 24.7 54.9 0.0
学校が提供している教育への興味関心の低下
必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため(n=348)
4.9 14.1 31.0 50.0 0.0
学校が提供している教育そのものに興味・関心がなくなったため(n=348)
5.2 18.1 28.2 48.6 0.0
成績不良によるもの
知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため(n=348)
4.9 17.5 23.0 54.6 0.0
学内の人間関係によるもの
学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため(n=348)
8.6 14.7 27.3 49.4 0.0
他の学生との人間関係がうまくいかなかったため(n=348)
10.9 20.7 22.4 46.0 0.0
クラスや実習などの集団(グループ)になじむことができなかったため(n=348)
7.8 15.5 27.3 49.4 0.0
学外実習の不適応によるもの
実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため(n=348)
8.0 21.6 25.6 44.8 0.0
実習先において人間関係(対職員)がうまくいかなかったため(n=348)
8.6 20.1 24.7 46.6 0.0
実習先において人間関係(対利用者)がうまくいかなかったため(n=348)
4.6 11.8 24.1 59.5 0.0
学校への不満によるもの
学校への不満(方針・設備・授業内容・評価等)があったため(n=348)
8.6 19.8 27.6 44.0 0.0
進路変更によるもの
医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため(n=348)
3.2 8.3 20.4 68.1 0.0
介護以外の医療・福祉分野(看護・社会福祉等)に進路変更したため(n=348)
2.6 4.9 17.5 75.0 0.0
介護の別の専門学校や大学に進路変更したため(n=348)
2.3 4.9 14.7 78.2 0.0
よくあてはまる
あてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない
無回答・エラー

＜日本以外＞

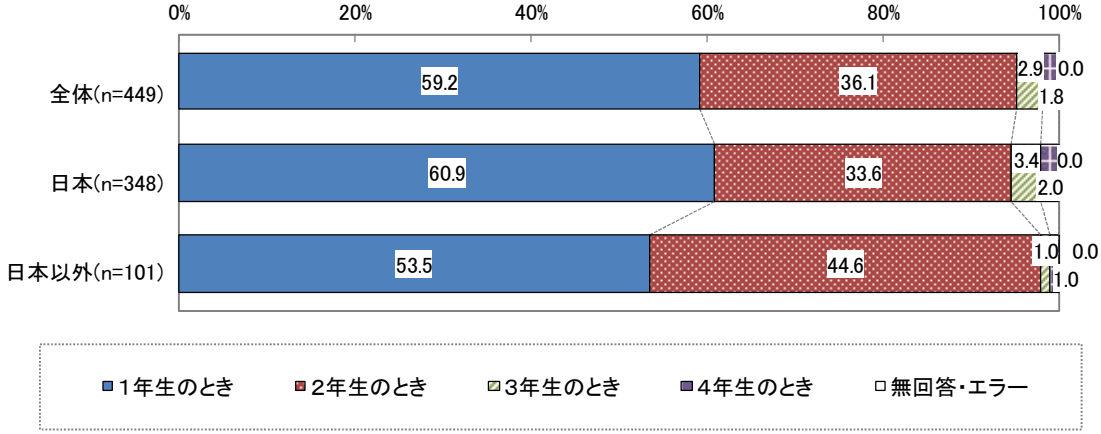

0%
20%
40%
60%
80%
100%
意欲の低下によるもの
福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下
福祉分野に対する興味・関心がなくなったため(n=101) 10.9 39.6 23.8 25.7 0.0
介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため(n=101) 14.9 38.6 23.8 22.8 0.0
学校が提供している教育への興味関心の低下
必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため(n=101) 11.9 42.6 28.7 16.8 0.0
学校が提供している教育そのものに興味・関心がなくなったため(n=101) 16.8 37.6 29.7 15.8 0.0
成績不良によるもの
知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため(n=101) 10.9 40.6 29.7 18.8 0.0
学内の人間関係によるもの
学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため(n=101) 12.9 32.7 23.8 30.7 0.0
他の学生との人間関係がうまくいかなかったため(n=101) 10.9 38.6 21.8 28.7 0.0
クラスや実習などの集団(グループ)になじむことができなかったため(n=101) 12.9 33.7 28.7 24.8 0.0
学外実習の不適応によるもの
実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため(n=101) 11.9 35.6 25.7 26.7 0.0
実習先において人間関係(対職員)がうまくいかなかったため(n=101) 13.9 33.7 22.8 29.7 0.0
実習先において人間関係(対利用者)がうまくいかなかったため(n=101) 16.8 31.7 19.8 31.7 0.0
学校への不満によるもの
学校への不満(方針・設備・授業内容・評価等)があったため(n=101) 10.9 29.7 34.7 24.8 0.0
進路変更によるもの
医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため(n=101) 11.9 31.7 28.7 27.7 0.0
介護以外の医療・福祉分野(看護・社会福祉等)に進路変更したため(n=101) 12.9 30.7 26.7 29.7 0.0
介護の別の専門学校や大学に進路変更したため(n=101) 11.9 30.7 23.8 33.7 0.0
よくあてはまる
あてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない
無回答・エラー

（3）最も強く退学を意識した時期

① 意識したときの学年

問 30-2.1.【問 30 で「1. よく思う」「2. ときどき思う」「3. あまり思わない」を選択した方】何年生の時のことか：これまでの学生生活で、最も強く学校を辞めたいと思った時のことを思い出していただき、以下の事柄について教えてください。

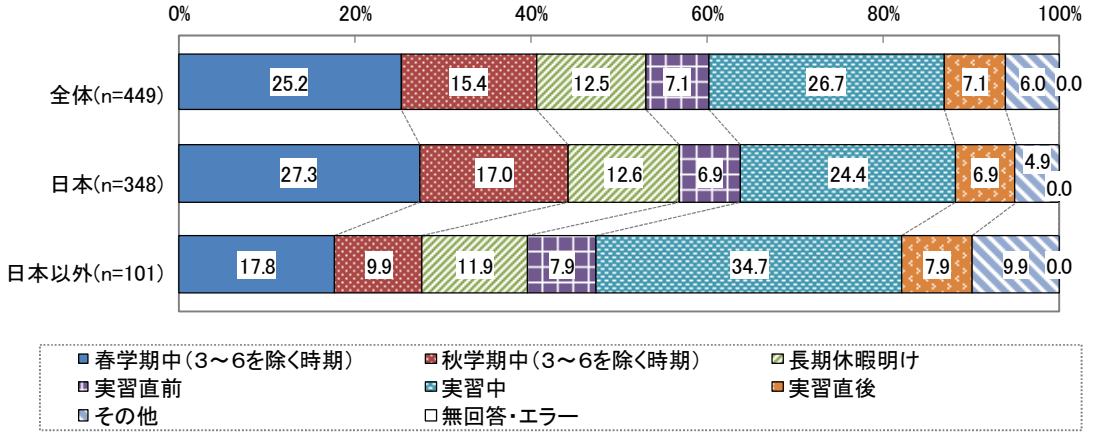
- 日本人学生においては、「１年生のとき」が 60.9%、「２年生のとき」が 33.6%、「３年生のとき」が 3.4%、「４年生のとき」が 2.0%であった。
- 留学生においては、「１年生のとき」が 53.5%、「２年生のとき」が 44.6%、「３年生のとき」が 1.0%、「４年生のとき」が 1.0%であった。



② 意識したときの時期

問 30-2.2.【問 30 で「1. よく思う」「2. ときどき思う」「3. あまり思わない」を選択した方】時期はいつだったか：これまでの学生生活で、最も強く学校を辞めたいと思った時のことを思い出していただき、以下の事柄について教えてください。

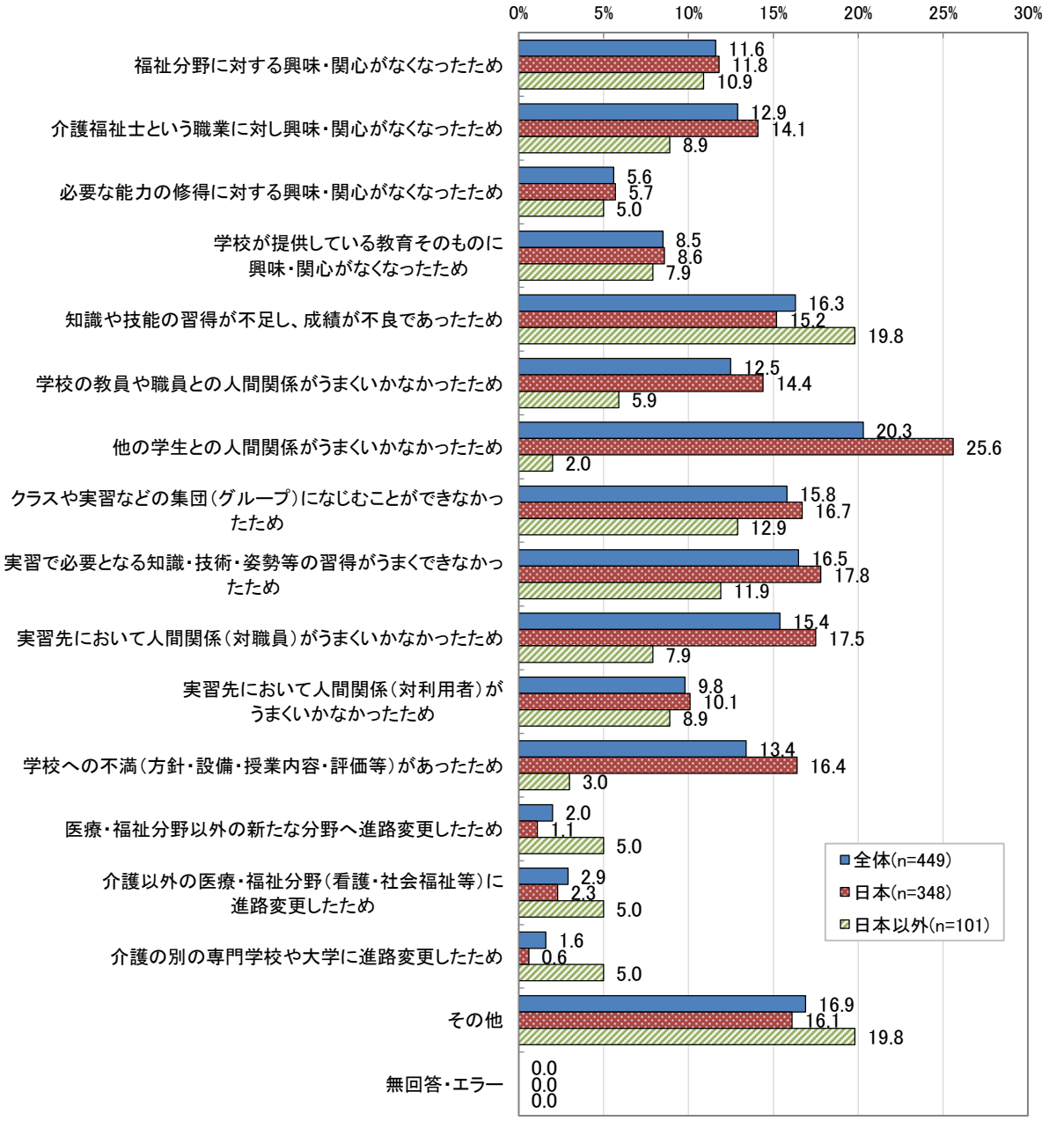
- 日本人学生においては、「春学期中（３～６を除く時期）」が 27.3%と最も高く、「実習中」が 24.4%、「秋学期中（３～６を除く時期）」が 17.0%、「長期休暇明け」が 12.6%、「実習直前」が 6.9%、「実習直後」が 6.9%であった。
- 留学生においては、「実習中」が 34.7%と最も高く、「春学期中（３～６を除く時期）」が 17.8%、「長期休暇明け」が 11.9%、「秋学期中（３～６を除く時期）」が 9.9%、「実習直前」が 7.9%、「実習直後」が 7.9%であった。



③ 意識した理由

問 30-2.3.【問 30 で「1. よく思う」「2. ときどき思う」「3. あまり思わない」を選択した方】その時辞めたいと思った理由（複数選択）：これまでの学生生活で、最も強く学校を辞めたいと思った時のことを思い出していただき、以下の事柄について教えてください。

- 日本人学生においては、「他の学生との人間関係がうまくいかなかったため」が 25.6%と最も高く、次いで、「実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため」が 17.8%、「実習先において人間関係（対職員）がうまくいかなかったため」が 17.5%と続いた。
- 留学生においては、「知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため」が 19.8%と最も高く、次いで、「クラスや実習などの集団（グループ）になじむことができなかったため」が 12.9%と続いた。



その他：

＜日本人学生＞

- 何もやる気が起きないため、疲れたため、通学が大変であるため　等

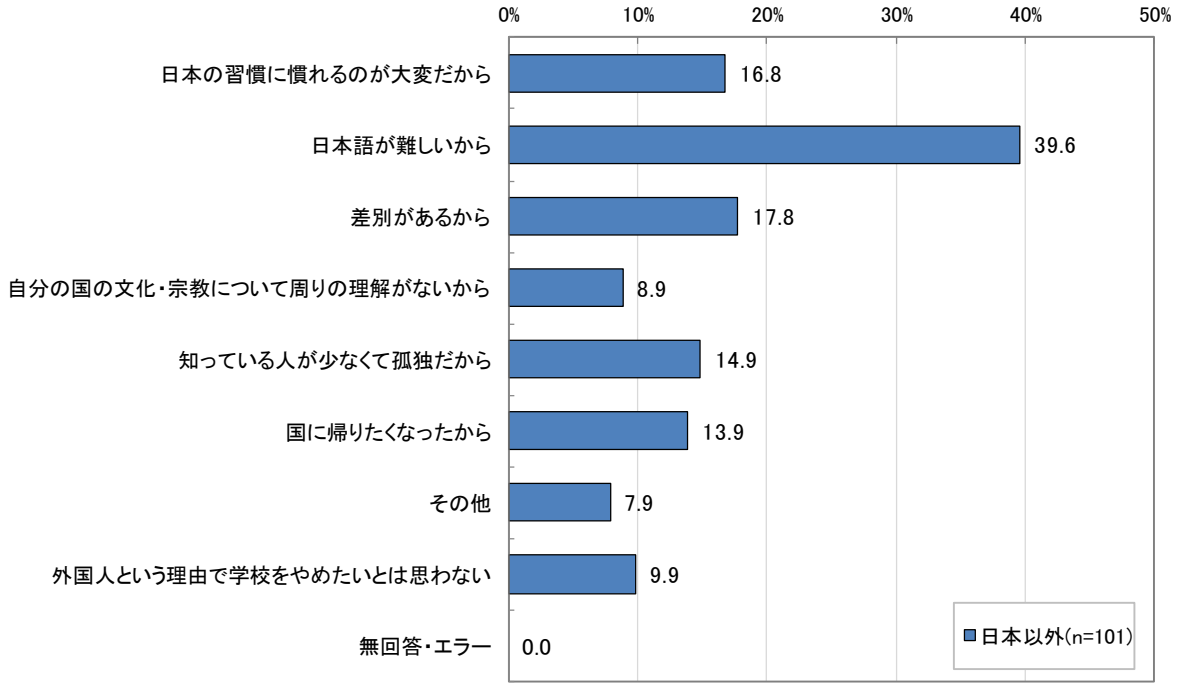
＜留学生＞

- １人が寂しかったため、東京に行きたかったため　等

（4）外国人であることに起因する退学したいと思った理由

問 30-3.【問 30 で「1．よく思う」「2．ときどき思う」「3．あまり思わない」を選択した方、かつ問 5 で「2．日本以外」を選択した方】学校を辞めたいと思った理由のうち、外国人であることに関係する理由であてはまるものがあれば、教えてください。（複数選択）

・ 全体では、「日本語が難しいから」が最も多く 39.6%、次いで「差別があるから」が 17.8%、「日本の習慣に慣れるのが大変だから」が 16.8%と続いた。



第４章　アンケート調査 クロス集計結果

1. クロス集計結果概要

どのような退学者が 少ない／多い 学校はどのような属性・取組をしている学校なのか、また、退学意向が高い／低い学生はどのような学生なのか等を把握するためにクロス集計を行ったところ、以下の結果となった。

(1)養成校属性別 養成校の退学状況等

- 入学後１年経過後の在籍者の割合について、学校種別が「専門学校」の場合、「７割～９割未満」の割合が、他の群と比べてやや高い傾向が見られた。
- 入学時人数における卒業者の割合について、国試に対する個別指導体制の整備状況が「専任教員のみの対応」の学校の場合、が、他の群と比べてやや高い傾向が見られた。
- 国試合格者の割合（全体）について、
  - 留学生の選抜における日本語能力要件が高い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。
  - 留学生の日本語の理解状況が高い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。
  - 全校生徒における留学生の割合が低い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。
  - 退学防止効果が期待される事柄に関する取組を過半数以上行っている学校では、行っていない学校と比べ、割合が高くなる傾向が見られた。
- 国試合格者の割合（日本人学生）について、
  - 学校種別が「大学」の場合、割合がやや高くなる傾向が見られた。
  - 過去５年程度の退学理由（学内要因）のうち、「学外実習の不適応によるもの」があてはまる学校ほど、割合が低くなる傾向が見られた。
  - 過去５年程度の退学理由（学内要因）のうち、「学校への不満によるもの」が「あてはまらない」とした学校で、割合が高くなる傾向が見られた。
- 国試合格者の割合（留学生）について、
  - 留学生の日本語の理解状況が高い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。
  - その他教員における介護教員講習会修了者の割合が「0%」の学校では、割合が低くなる傾向が見られた。

(2)学生のタイプ別 各種理解度や満足度・退学意向等

- 授業の理解度について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて授業の理解度が高い傾向が見られた。
  - 留学生（N2 以上）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて授業の理解度が高い傾向が見られた。
- 科目間連携の理解度について、
  - 日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて科目間連携の理解度が高い傾向が見られた。
  - 留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて科目間連携の理解度が高い傾向が見られた。
- 介護の専門用語の理解度について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて介護の専門用語の理解度が高い傾向が見られた。

- 介護に関係する日本の文化的習慣の理解度について、
  - 日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて介護に関係する日本の文化的慣習の理解度が高い傾向が見られた。
  - 留学生（N2 以上）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて介護に関係する日本の文化的慣習の理解度が高い傾向が見られた。
- 勉強に集中できない理由の有無について、
  - 日本人学生において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて勉強に集中できない理由がない傾向が見られた。
- 困ったことがあった場合の相談状況について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて困ったことがあった場合に気軽に相談ができている傾向が見られた。
  - 留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて困ったことがあった場合に気軽に相談ができている傾向が見られた。
- 学校での相談窓口の認知状況について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校での相談窓口について明確に認識している傾向が見られた。
  - 留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校での相談窓口について明確に認識している傾向が見られた。
- 学生同士の相談・会話の状況について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学生同士の相談・会話が「十分にある」としている傾向が見られた。
- 学校で過ごす時間の楽しさについて、
  - 日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校で過ごす時間が楽しいと回答する傾向が見られた。
- 学習に関する学校の対応への満足度について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学習に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。
  - 留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学習以外に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。
- 学習以外に関する学校の対応への満足度について、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学習以外に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。
  - 留学生（N3 以下）において、入学前の介護分野への就業意欲があること、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学習以外に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。
- 退学を考えたことのある頻度について、
  - 日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて退学を考えたことのある頻度が低い傾向が見られた。

- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるものについて、
  - 日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて意欲の低下を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるものについて、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて成績不良を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるものについて、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学内の人間関係を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるものについて、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学外実習の不適応を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるものについて、
  - 留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校への不満を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるものについて、
  - 日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
  - 留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

(3)学生属性別 学生の退学意向等

- 退学を考えたことのある頻度について、
  - 日本人学生では、授業や科目間連携等の理解度が高い場合、経済的な心配がない場合、困りごとがなく、相談もできている場合、授業に出席し、国試やキャリアに対する意欲が高い場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて退学を考えたことのある頻度が低い傾向が見られた。
  - 留学生においては、授業の理解度が高い場合、学生同士の相談・会話ができている場合、勉強時間が長い場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて退学を考えたことのある頻度が低い傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるものについて、
  - 日本人学生では、授業や科目間連携の理解度が高い場合、勉強に集中でき、学生同士の相談・会話ができている場合、介護に興味を持ち、国試合格やキャリアに対する意欲が高い場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて意欲の低下を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
  - 留学生においては、授業の理解度が高くない場合、その他の群に比べて意欲の低下を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
- 退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるものについて、
  - 日本人学生では、授業や科目間連携の理解度が高い場合、国試合格に対する意欲が高い場合、学校の対応等への満足度が高い場合、において、その他の群に比べて成績不良を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

・ 留学生においては、学生同士の相談・会話ができている場合、キャリアに関する意欲が高くない場合、学校の対応等への満足度が高い場合、において、その他の群に比べて成績不良を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

● 退学したいと思った理由（学内要因）＿ 学内の人間関係によるものについて、

・ 日本人学生では、授業や科目間連携の理解度が高い場合、勉強に集中でき、困りごとの相談等ができている場合、授業に出席し、国試合格に対する意欲が高い場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて学内の人間関係を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

・ 留学生においては、授業の理解度が高い場合、キャリアに関する意欲が高くない場合、学校の対応等への満足度が高い場合、入学前より介護や福祉への興味がある場合、において、その他の群に比べて学内の人間関係を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

● 退学したいと思った理由（学内要因）＿ 学外実習の不適応によるものについて、

・ 日本人学生では、科目間連携の理解度が高い場合、キャリアに対する意欲が高い場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて学外実習の不適応を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

・ 留学生においては、キャリアに関する意欲が高くない場合、において、その他の群に比べて学外実習の不適応を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

● 退学したいと思った理由（学内要因）＿ 学校への不満によるものについて、

・ 日本人学生では、授業等の理解度が高い場合、勉強に集中でき、相談等ができている場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて学校への不満を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

・ 留学生においては、キャリアに関する意欲が高くない場合、学校の対応等への満足度が高い場合、において、その他の群に比べて学校への不満を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

● 退学したいと思った理由（学内要因）＿ 進路変更によるものについて、

・ 日本人学生では、学生同士の相談・会話ができている場合、国試合格に対する意欲が高い場合、学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい場合、において、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

・ 留学生においては、キャリアに関する意欲が高くない場合、学校の対応等への満足度が高い場合、日本語学校を修了している場合、において、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

(4)養成校属性別 学生の退学意向等

● 退学したいと思った理由（学内要因）＿ 進路変更によるものについて、

・ 教員向けの研修や講習を多く行っている学校では、所属する学生が、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

2. クロス集計結果詳細

※　以下、アンケート調査の設問を表す際、養成校票の調査項目を示す際は（校）、学生票の調査項目を示す際は（学）と記載する。

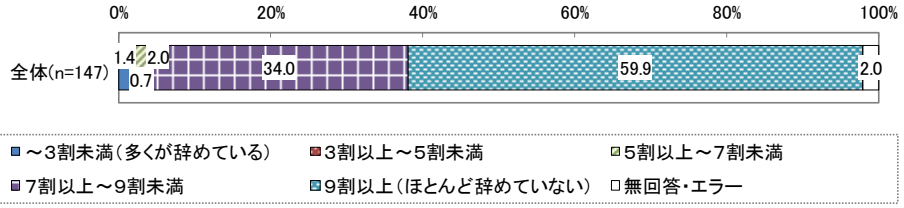
(1)養成校属性別 養成校の退学状況等

養成校票のデータを使用し、「どのような養成校で、退学者が少ないか(在籍者割合が高いか)」等を確認するため、複数の目的変数に関するクロス集計を実施した。以下、目的変数ごとに結果を記載する。

① 入学後1年経過後の在籍者の割合について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(校)過去5年程度の間における入学後1年経過後の在籍者の割合(問5)



・全体では、「9割以上(ほとんど辞めていない)」が 59.9%と最も高く、「7割以上～9割未満」が 34.0%、「5割以上～7割未満」が 2.0%、「～3割未満(多くが辞めている)」が 1.4%、「3割以上～5割未満」が 0.7%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の基本情報別
   - （校）学校種別（問 1）
   - （校）養成課程の年数（問 1 および問 1-1）
2. 学校に所属する学生の特徴別
   - （校）留学生の選抜における日本語能力要件（問 9-2）
   - （校）学生の学費減免の状況（問 4）
   - （校）留学生の日本語の理解状況（問 3-1）
   - （校）全校生徒における留学生の割合（本会独自データ）
3. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
   - （校）過去５年程度の退学理由（学内要因）（問 16）－平均点数
     - ・意欲の低下によるもの
     - ・成績不良によるもの
     - ・学内の人間関係によるもの
     - ・学外実習の不適応によるもの
     - ・学校への不満によるもの
     - ・進路変更によるもの
4. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
5. 学校の国試対応別
   - （校）国試対策の対応状況（問 11 および問 11-1）

・施設内の国試担当教員の配属状況
・国試に対する特別授業の設置状況
・国試に対する個別指導体制の整備状況

6. 学校の教員の質別

- （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
- （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
- （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
- （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

＜(校)学校種別(問 1）別＞

（校）過去5年程度の間における入学後1年経過後の在籍者の割合（問5）

		調査数	～3割未満（多くが辞めている）	3割以上～5割未満	5割以上～7割未満	7割以上～9割未満	9割以上（ほとんど辞めていない）	無回答・エラー
全体		147	1.4	0.7	2.0	34.0	59.9	2.0
（校）学校種別（問1 ）	専門学校	105	1.9	0.0	1.9	40.0	53.3	2.9
	短期大学	24	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0
	大学	18	0.0	5.6	5.6	22.2	66.7	0.0

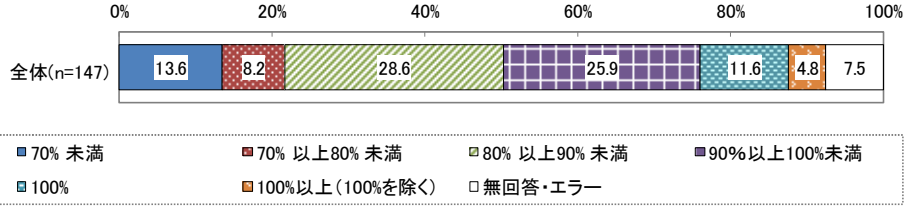
P=0.037 ,P<0.05

・学校種別が「専門学校」の場合、入学後1年経過後の在籍者の割合のうち「7割～9割未満」の割合がやや高くなる傾向が見られた。

② 入学時人数における卒業者の割合について

どのような養成校で、入学時人数における卒業者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（校）入学時人数における卒業者の割合（本会独自データ）



・全体では、「80% 以上 90% 未満」が 28.6%と最も高く、「90%以上 100%未満」が 25.9%、「70% 未満」が 13.6%、「100%」が 11.6%、「70% 以上 80% 未満」が 8.2%、「100%以上（100%を除く）」が 4.8%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の基本情報別
   - （校）学校種別（問 1）
   - （校）養成課程の年数（問 1 および問 1-1）
2. 学校に所属する学生の特徴別
   - （校）留学生の選抜における日本語能力要件（問 9-2）
   - （校）学生の学費減免の状況（問 4）
   - （校）留学生の日本語の理解状況（問 3-1）
   - （校）全校生徒における留学生の割合（本会独自データ）
3. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
   - （校）過去 5 年程度の退学理由（学内要因）（問 16）－平均点数
     - ・意欲の低下によるもの
     - ・成績不良によるもの
     - ・学内の人間関係によるもの
     - ・学外実習の不適応によるもの
     - ・学校への不満によるもの
     - ・進路変更によるもの
4. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
5. 学校の国試対応別
   - （校）国試対策の対応状況（問 11 および問 11-1）
     - ・施設内の国試担当教員の配属状況
     - ・国試に対する特別授業の設置状況
     - <u>**・国試に対する個別指導体制の整備状況**</u>
6. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

＜(校)国試対策の対応状況(問 11 および問 11-1)－国試に対する個別指導体制の整備状況 別＞

(校)入学時人数における卒業者の割合(問5)

		調査数	70% 未満	70% 以上 80% 未満	80% 以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	100%以上 (100%を除く)	無回答・エラー
全体		92	14.1	8.7	30.4	28.3	8.7	4.3	5.4
(校)国試対策の対応状況(問11および問11-1) －国試に対する個別指導体制の整備状況	専任教員のみの対応	82	14.6	4.9	31.7	28.0	9.8	4.9	6.1
	専任教員・非常勤教員ともに対応	10	10.0	40.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0
	非常勤教員のみの対応	－	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	対応できていない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

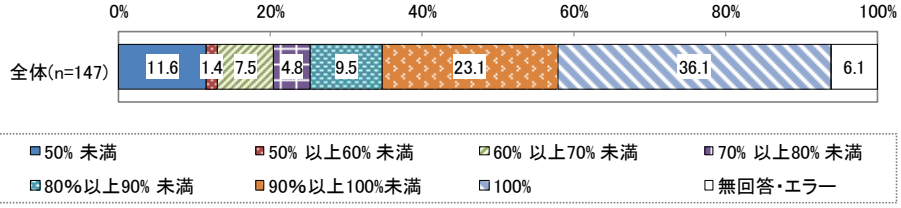
P=0.012 ,P<0.05

・国試に対する個別指導体制の整備状況が「専任教員のみの対応」の学校の場合、入学時人数における卒業者の割合がやや高くなる傾向が見られた。

③ 卒業生における国家試験合格者の割合_全体について

どのような養成校で、卒業生における国家試験合格者の割合（全体）が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（校）卒業生における国家試験合格者の割合_全体（本会独自データ）



・全体では、「100%」が 36.1%と最も高く、「90%以上 100%未満」が 23.1%、「50% 未満」が 11.6%、「80%以上 90% 未満」が 9.5%、「60% 以上 70% 未満」が 7.5%、「70% 以上 80% 未満」が 4.8%、「50% 以上 60% 未満」が 1.4%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の基本情報別
   - （校）学校種別（問 1）
   - （校）養成課程の年数（問 1 および問 1-1）
2. 学校に所属する学生の特徴別
   - <u>**（校）留学生の選抜における日本語能力要件（問 9-2）**</u>
   - （校）学生の学費減免の状況（問 4）
   - <u>**（校）留学生の日本語の理解状況（問 3-1）**</u>
   - <u>**（校）全校生徒における留学生の割合（本会独自データ）**</u>
3. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - <u>**（校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数**</u>
   - （校）過去 5 年程度の退学理由（学内要因）（問 16）－平均点数
     - ・意欲の低下によるもの
     - ・成績不良によるもの
     - ・学内の人間関係によるもの
     - ・学外実習の不適応によるもの
     - ・学校への不満によるもの
     - ・進路変更によるもの
4. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
5. 学校の国試対応別
   - （校）国試対策の対応状況（問 11 および問 11-1）
     - ・施設内の国試担当教員の配属状況
     - ・国試に対する特別授業の設置状況
     - ・国試に対する個別指導体制の整備状況
6. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

＜(校)留学生の選抜における日本語能力要件(問 9-2) 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 全体(本会独自データ)

		調査数	50% 未満	50% 以上 60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		83	15.7	2.4	7.2	6.0	13.3	22.9	24.1	8.4	P=0.000 ,P<0.05
(校)留学生の選抜における日本語能力要件(問9-2)	N1程度以上	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	N2程度以上	25	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	36.0	52.0	4.0	
	N3程度以上	46	15.2	4.3	6.5	6.5	19.6	21.7	15.2	10.9	
	N4程度以上	12	50.0	0.0	16.7	8.3	16.7	0.0	0.0	8.3	
	N5程度以上	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

・留学生の選抜における日本語能力要件が高い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。

＜(校)留学生の日本語の理解状況(問 3-1) 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 全体(本会独自データ)

		調査数	50% 未満	50% 以上 60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		88	15.9	2.3	8.0	5.7	13.6	21.6	25.0	8.0	P=0.002 ,P<0.05
(校)留学生の日本語の理解状況(問3-1)	ほとんどの留学生が問題なく理解できている	28	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	39.3	42.9	3.6	
	理解に難のある留学生が少なくない	54	24.1	1.9	9.3	7.4	18.5	13.0	16.7	9.3	
	ほとんどの留学生がよく理解できていない	6	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	

・留学生の日本語の理解状況が高い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。

＜(校)全校生徒における留学生の割合(本会独自データ) 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 全体(本会独自データ)

		調査数	50% 未満	50% 以上 60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		87	16.1	2.3	8.0	5.7	13.8	21.8	26.4	5.7	P=0.002 ,P<0.05
(校)全校生徒における留学生の割合(問5.4)	25% 未満(0%を除く)	39	0.0	0.0	5.1	5.1	20.5	28.2	35.9	5.1	
	25% 以上50% 未満	24	12.5	4.2	8.3	4.2	8.3	29.2	25.0	8.3	
	50% 以上75% 未満	9	22.2	0.0	22.2	22.2	11.1	0.0	22.2	0.0	
	75%以上100%未満	10	60.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	
	100%	5	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	

・全校生徒における留学生の割合が低い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。

＜(校)退学防止効果が期待される事柄に関する取組(問 14)－選択個数 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 全体(本会独自データ)

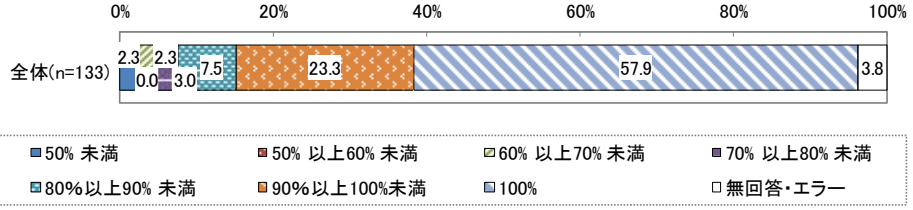
		調査数	50% 未満	50% 以上 60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		147	11.6	1.4	7.5	4.8	9.5	23.1	36.1	6.1	P=0.007 ,P<0.05
(校)退学防止効果が期待される事柄に関する取組(問14)－選択個数	全項目のうち半数(6個) 以下	35	25.7	0.0	2.9	2.9	20.0	17.1	25.7	5.7	
	全項目のうち過半数(7個) 以上	112	7.1	1.8	8.9	5.4	6.3	25.0	39.3	6.3	

・退学防止効果が期待される事柄に関する取組を過半数以上行っている学校では、行っていない学校と比べ、割合が高くなる傾向が見られた。

④ 卒業生における国家試験合格者の割合_日本人学生について

どのような養成校で、卒業生における国家試験合格者の割合（日本人学生）が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（校）卒業生における国家試験合格者の割合_日本人学生（本会独自データ）



・全体では、「100%」が 57.9%と最も高く、「90%以上 100%未満」が 23.3%、「80%以上 90% 未満」が 7.5%、「70% 以上 80% 未満」が 3.0%、「50% 未満」が 2.3%、「60% 以上 70% 未満」が 2.3%、「50% 以上 60% 未満」が 0.0%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の基本情報別
   - **（校）学校種別（問 1）**
   - （校）養成課程の年数（問 1 および問 1-1）
2. 学校に所属する学生の特徴別
   - （校）留学生の選抜における日本語能力要件（問 9-2）
   - （校）学生の学費減免の状況（問 4）
   - （校）留学生の日本語の理解状況（問 3-1）
   - （校）全校生徒における留学生の割合（本会独自データ）
3. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
   - （校）過去 5 年程度の退学理由（学内要因）（問 16）－平均点数
     - ・意欲の低下によるもの
     - ・成績不良によるもの
     - ・学内の人間関係によるもの
     - **・学外実習の不適応によるもの**
     - **・学校への不満によるもの**
     - ・進路変更によるもの
4. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
5. 学校の国試対応別
   - （校）国試対策の対応状況（問 11 および問 11-1）
     - ・施設内の国試担当教員の配属状況
     - ・国試に対する特別授業の設置状況
     - ・国試に対する個別指導体制の整備状況
6. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

＜(校)学校種別(問 1) 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 日本人学生(本会独自データ)

		調査数	60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		133	2.3	2.3	3.0	7.5	23.3	57.9	3.8	P=0.003 ,P<0.05
(校)学校種別(問1)	専門学校	95	1.1	0.0	4.2	7.4	27.4	55.8	4.2	
	短期大学	22	0.0	9.1	0.0	13.6	22.7	50.0	4.5	
	大学	16	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	81.3	0.0	

・学校種別が「大学」の場合、割合がやや高くなる傾向が見られた。

＜(校)過去5年程度の退学理由(学内要因)(問 16)_学外実習の不適応によるもの 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合_日本人学生(本会独自データ)

		調査数	60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		128	1.6	2.3	3.1	7.8	23.4	57.8	3.9	P=0.023 ,P<0.05
問16. 過去5年程度の退学理由(学内要因)_ 学外実習の不適応によるもの	あてはまる(3 以上)	11	0.0	9.1	0.0	0.0	63.6	27.3	0.0	
	ややあてはまる(2 以上3 未満)	53	1.9	0.0	5.7	13.2	20.8	52.8	5.7	
	あてはまらない(2 未満)	64	1.6	3.1	1.6	4.7	18.8	67.2	3.1	

・過去5年程度の退学理由(学内要因)のうち、「学外実習の不適応によるもの」があてはまる学校ほど、割合が低くなる傾向が見られた。

＜(校)過去5年程度の退学理由(学内要因)(問 16)_学校への不満によるもの 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合_日本人学生(本会独自データ)

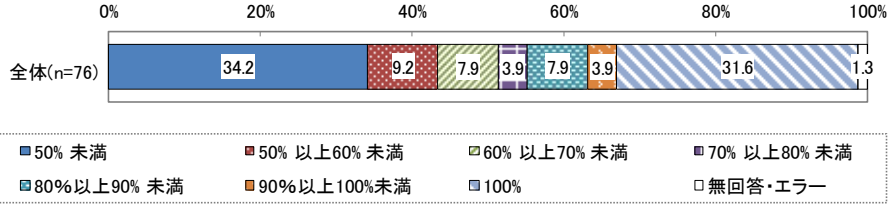
		調査数	60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		128	1.6	2.3	3.1	7.8	23.4	57.8	3.9	P=0.013 ,P<0.05
問16. 過去5年程度の退学理由(学内要因)_ 学校への不満によるもの	あてはまる(3 以上)	5	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0	
	ややあてはまる(2 以上3 未満)	43	2.3	0.0	4.7	11.6	39.5	39.5	2.3	
	あてはまらない(2 未満)	80	1.3	3.8	1.3	6.3	13.8	68.8	5.0	

・過去5年程度の退学理由(学内要因)のうち、「学校への不満によるもの」が「あてはまらない」とした学校で、割合が高くなる傾向が見られた。

⑤ 卒業生における国家試験合格者の割合_留学生について

どのような養成校で、卒業生における国家試験合格者の割合（留学生）が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（校）卒業生における国家試験合格者の割合_留学生（本会独自データ）



・全体では、「100%」が 57.9%と最も高く、「90%以上 100%未満」が 23.3%、「80%以上 90% 未満」が 7.5%、「70% 以上 80% 未満」が 3.0%、「50% 未満」が 2.3%、「60% 以上 70% 未満」が 2.3%、「50% 以上 60% 未満」が 0.0%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の基本情報別
   - （校）学校種別（問 1）
   - （校）養成課程の年数（問 1 および問 1-1）
2. 学校に所属する学生の特徴別
   - （校）留学生の選抜における日本語能力要件（問 9-2）
   - （校）学生の学費減免の状況（問 4）
   - **（校）留学生の日本語の理解状況（問 3-1）**
   - （校）全校生徒における留学生の割合（本会独自データ）
3. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
   - （校）過去５年程度の退学理由（学内要因）（問 16）－平均点数
     - ・意欲の低下によるもの
     - ・成績不良によるもの
     - ・学内の人間関係によるもの
     - ・学外実習の不適応によるもの
     - ・学校への不満によるもの
     - ・進路変更によるもの
4. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
5. 学校の国試対応別
   - （校）国試対策の対応状況（問 11 および問 11-1）
     - ・施設内の国試担当教員の配属状況
     - ・国試に対する特別授業の設置状況
     - ・国試に対する個別指導体制の整備状況
6. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - **（校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）**
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

＜(校)留学生の日本語の理解状況(問 3-1) 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 留学生(本会独自データ)

		調査数	50% 未満	50% 以上 60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		68	33.8	10.3	7.4	4.4	8.8	4.4	29.4	1.5	P=0.017 ,P<0.05
(校)留学生の日本語の理解状況(問3-1)	ほとんどの留学生が問題なく理解	19	10.5	5.3	0.0	5.3	10.5	15.8	52.6	0.0	
	理解に難のある留学生が少なくな	45	44.4	11.1	11.1	4.4	8.9	0.0	17.8	2.2	
	ほとんどの留学生がよく理解でき	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	

・留学生の日本語の理解状況が高い学校ほど、割合が高くなる傾向が見られた。

＜(校)その他教員における介護教員講習会修了者の割合(問 6.b) 別＞

(校)卒業生における国家試験合格者の割合 留学生(本会独自データ)

		調査数	50% 未満	50% 以上 60% 未満	60% 以上 70% 未満	70% 以上 80% 未満	80%以上 90% 未満	90%以上 100%未満	100%	無回答・エラー	
全体		68	35.3	8.8	8.8	1.5	8.8	4.4	30.9	1.5	P=0.044 ,P<0.05
(校)その他教員における介護教員講習会修了者の割合(問6.b)	0%	23	43.5	13.0	4.3	0.0	8.7	4.3	21.7	4.3	
	50% 未満(0%を除く)	38	28.9	5.3	13.2	2.6	10.5	2.6	36.8	0.0	
	50% 以上100%未満	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	100%	6	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	

・その他教員における介護教員講習会修了者の割合が「0%」の学校では、割合が低くなる傾向が見られた。

(2)学生のタイプ別 各種理解度や満足度・退学意向等

学生票のデータを使用し、「学生のタイプによって、各種項目にどのような違いがあるか」等を確認するクロス集計を実施した。

タイプ分類として、学生の各種意欲の3種と、学生の日本語の状況の3種を掛け合わせた以下の9種の軸を作成し、特定の集計の軸(目的変数)との集計を行った。

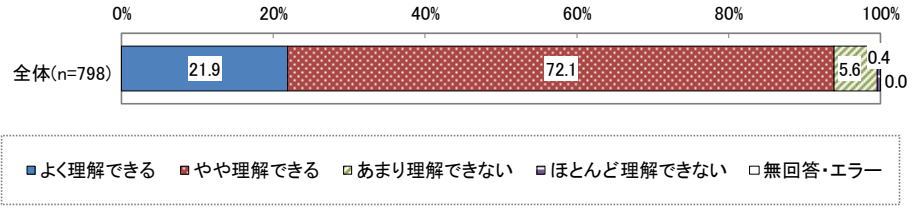
学生のタイプ分類

(学)各種意欲		(学)学生の国籍や言語能力等
・(学)入学前の介護分野への就業意欲(問11) ・(学)国試合格意欲(問27) ・(学)キャリアに関する意欲(問29)	×	・(学)現在の日本語能力(問5-2) －日本人学生 －留学生(N2以上) －留学生(N3以下)

① 授業の理解度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)授業の理解度(問 14)



・全体では、「やや理解できる」が 72.1%と最も高く、「よく理解できる」が 21.9%、「あまり理解できない」が 5.6%、「ほとんど理解できない」が 0.4%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)

(学)授業の理解度(問14)

		調査数	よく理解できる	やや理解できる	あまり理解できない	ほとんど理解できない	無回答・エラー	
全体	全体	597	21.4	72.0	6.0	0.5	0.0	P=0.000 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	22.9	71.5	5.7	0.0	0.0	
	それ以外	68	10.3	76.5	8.8	4.4	0.0	
全体	全体	597	21.4	72.0	6.0	0.5	0.0	P=0.002 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	28.9	66.7	4.1	0.4	0.0	
	それ以外	351	16.2	75.8	7.4	0.6	0.0	
全体	全体	86	19.8	76.7	3.5	0.0	0.0	P=0.016 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／留学生(N2以上)	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	57	28.1	70.2	1.8	0.0	0.0	
	それ以外	29	3.4	89.7	6.9	0.0	0.0	

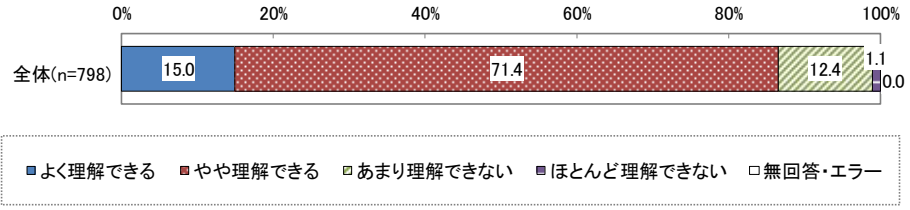
・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて授業の理解度が高い傾向が見られた。

・留学生（N2 以上）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて授業の理解度が高い傾向が見られた。

② 科目間連携の理解度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）科目間連携の理解度（問 16）



・全体では、「やや理解できる」が 71.4%と最も高く、「よく理解できる」が 15.0%、「あまり理解できない」が 12.4%、「ほとんど理解できない」が 1.1%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - <u>（学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生</u>
   - <u>（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生</u>
   - <u>（学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生</u>
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - <u>（学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）</u>

（学）科目間連携の理解度（問16）

		調査数	よく理解できる	やや理解できる	あまり理解できない	ほとんど理解できない	無回答・エラー	
全体	全体	597	14.7	70.7	13.4	1.2	0.0	P=0.014 ,P<0.05
（学）入学前の介護分野への就業意欲（問11）／日本人学生	介護の仕事をしたいと強く思っていた	329	13.7	75.1	9.7	1.5	0.0	
	上記以外	268	16.0	65.3	17.9	0.7	0.0	
全体	全体	597	14.7	70.7	13.4	1.2	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	529	15.9	71.8	12.1	0.2	0.0	
	それ以外	68	5.9	61.8	23.5	8.8	0.0	
全体	全体	597	14.7	70.7	13.4	1.2	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	20.7	69.1	9.8	0.4	0.0	
	それ以外	351	10.5	71.8	16.0	1.7	0.0	
全体	全体	115	18.3	68.7	11.3	1.7	0.0	P=0.017 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／留学生（N3以下）	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	91	20.9	69.2	9.9	0.0	0.0	
	それ以外	24	8.3	66.7	16.7	8.3	0.0	

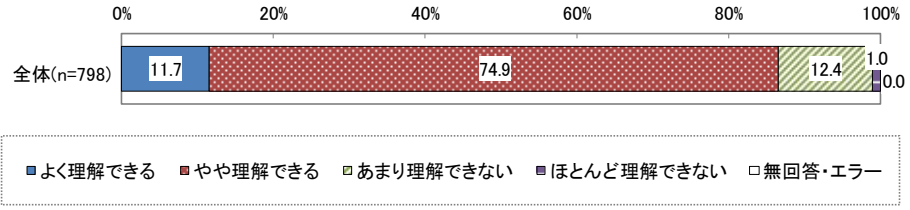
・日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて科目間連携の理解度が高い傾向が見られた。

・留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて科目間連携の理解度が高い傾向が見られた。

③ 介護の専門用語の理解度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)介護の専門用語の理解度(問 17)



・全体では、「やや理解できる」が 74.9%と最も高く、「あまり理解できない」が 12.4%、「よく理解できる」が 11.7%、「ほとんど理解できない」が 1.0%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - <u>(学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生</u>
   - <u>(学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生</u>
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)

(学)介護の専門用語の理解度(問17)

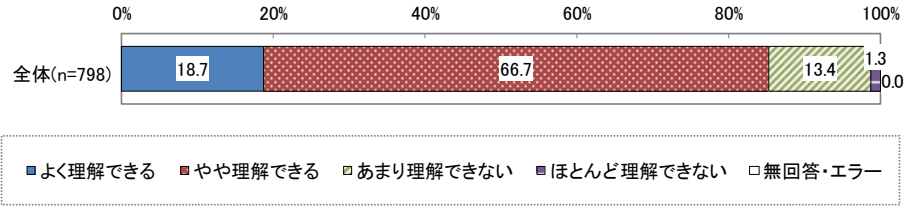
		調査数	よく理解できる	やや理解できる	あまり理解できない	ほとんど理解できない	無回答・エラー	
全体	全体	597	11.7	74.7	12.4	1.2	0.0	P=0.000 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	12.7	75.4	11.5	0.4	0.0	
	それ以外	68	4.4	69.1	19.1	7.4	0.0	
全体	全体	597	11.7	74.7	12.4	1.2	0.0	P=0.001 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	17.5	72.4	8.9	1.2	0.0	
	それ以外	351	7.7	76.4	14.8	1.1	0.0	

・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて介護の専門用語の理解度が高い傾向が見られた。

④ 介護に関係する日本の文化的習慣の理解度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)介護に関係する日本の文化的習慣の理解度(問 18)



・全体では、「やや理解できる」が 66.7%と最も高く、「よく理解できる」が 18.7%、「あまり理解できない」が 13.4%、「ほとんど理解できない」が 1.3%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)

(学)介護に関係する日本の文化的習慣の理解度(問18)

		調査数	よく理解できる	やや理解できる	あまり理解できない	ほとんど理解できない	無回答・エラー	
全体	全体	597	18.3	65.3	14.9	1.5	0.0	P=0.035 ,P<0.05
(学)入学前の介護分野への就業意欲(問11)／日本人学生	介護の仕事をしたいと強く思っていた	329	19.8	67.8	11.2	1.2	0.0	
	上記以外	268	16.4	62.3	19.4	1.9	0.0	
全体	全体	597	18.3	65.3	14.9	1.5	0.0	P=0.000 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	19.1	65.4	14.7	0.8	0.0	
	それ以外	68	11.8	64.7	16.2	7.4	0.0	
全体	全体	597	18.3	65.3	14.9	1.5	0.0	P=0.041 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	22.8	64.2	11.4	1.6	0.0	
	それ以外	351	15.1	66.1	17.4	1.4	0.0	
全体	全体	86	19.8	74.4	5.8	0.0	0.0	P=0.001 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／留学生(N2以上)	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	57	29.8	68.4	1.8	0.0	0.0	
	それ以外	29	0.0	86.2	13.8	0.0	0.0	

・日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて介護に関係する日本の文化的慣習の理解度が高い傾向が見られた。

・留学生(N2 以上)において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて介護に関係する日本の文化的慣習の理解度が高い傾向が見られた。

⑤ 勉強に集中できない理由の有無について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
・全体（n=798）のうち、勉強に集中できない理由が複数選択しある中、「特に困っていることはない」とした学生は 38.6%であり、そうでない学生は 71.4%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - （学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - **（学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）**

（学）勉強に集中できない理由の有無（問19）

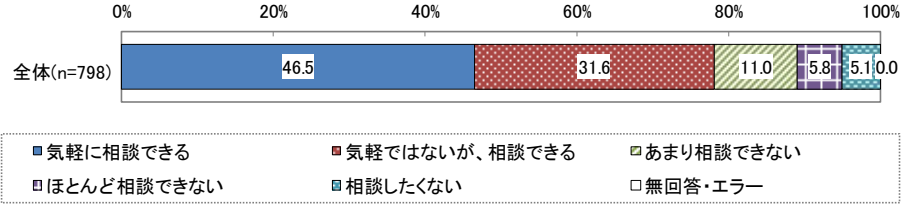
		調査数	特に問題はない	何らか問題がある	無回答・エラー	
全体	全体	115	24.3	75.7	0.0	P=0.010 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／留学生（N3以下）	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	91	29.7	70.3	0.0	
	それ以外	24	4.2	95.8	0.0	

・日本人学生において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて勉強に集中できない理由がない傾向が見られた。

⑥ 困ったことがあった場合の相談状況について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)困ったことがあった場合の相談状況(問 20)



・全体では、「気軽に相談できる」が 46.5%と最も高く、「気軽ではないが、相談できる」が 31.6%、「あまり相談できない」が 11.0%、「ほとんど相談できない」が 5.8%、「相談したくない」が 5.1%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - **(学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生**
   - **(学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生**
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - **(学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)**

(学)困ったことがあった場合の相談状況(問20)

		調査数	気軽に相談できる	気軽ではないが、相談できる	あまり相談できない	ほとんど相談できない	相談したくない	無回答・エラー	
全体	全体	597	47.9	34.5	7.4	5.7	4.5	0.0	P=0.011 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	49.7	34.6	6.4	5.1	4.2	0.0	
	それ以外	68	33.8	33.8	14.7	10.3	7.4	0.0	
全体	全体	597	47.9	34.5	7.4	5.7	4.5	0.0	P=0.001 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	57.3	26.4	5.7	6.5	4.1	0.0	
	それ以外	351	41.3	40.2	8.5	5.1	4.8	0.0	
全体	全体	115	48.7	20.9	20.0	5.2	5.2	0.0	P=0.034 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／留学生(N3以下)	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	91	53.8	22.0	15.4	3.3	5.5	0.0	
	それ以外	24	29.2	16.7	37.5	12.5	4.2	0.0	

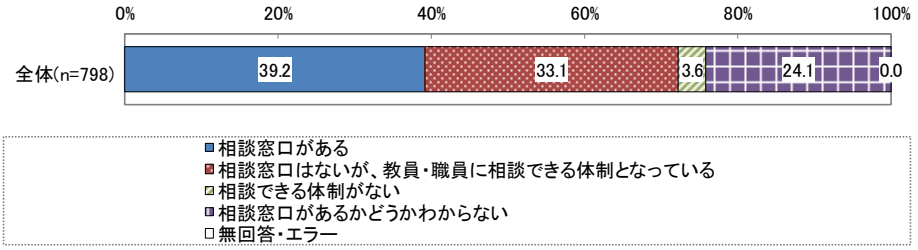
・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて困ったことがあった場合に気軽に相談ができている傾向が見られた。

・留学生(N3 以下)において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて困ったことがあった場合に気軽に相談ができている傾向が見られた。

⑦ 学校での相談窓口の認知状況について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)学校での相談窓口の認知状況(問 21)



全体では、「相談窓口がある」が 39.2%と最も高く、「相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている」が 33.1%、「相談窓口があるかどうかわからない」が 24.1%、「相談できる体制がない」が 3.6%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - <u>**(学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生**</u>
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - <u>**(学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)**</u>

(学)学校での相談窓口の認知状況(問21)

		調査数	相談窓口がある	相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている	相談できる体制がない	相談窓口があるかどうかわからない	無回答・エラー	
全体	全体	597	35.5	31.8	3.9	28.8	0.0	P=0.029 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	36.9	32.5	3.6	27.0	0.0	
	それ以外	68	25.0	26.5	5.9	42.6	0.0	
全体	全体	115	53.9	34.8	3.5	7.8	0.0	P=0.020 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／留学生(N3以下)	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	91	56.0	37.4	2.2	4.4	0.0	
	それ以外	24	45.8	25.0	8.3	20.8	0.0	

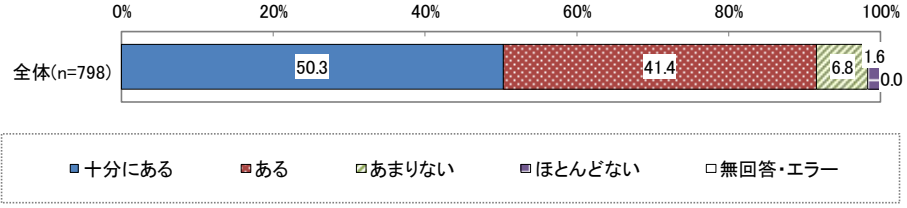
・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校での相談窓口について明確に認識している傾向が見られた。

・留学生(N3 以下)において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校での相談窓口について明確に認識している傾向が見られた。

⑧ 学生同士の相談・会話の状況について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）



・全体では、「十分にある」が 50.3%と最も高く、「ある」が 41.4%、「あまりない」が 6.8%、「ほとんどない」が 1.6%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - <u>**（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生**</u>
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）

（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）

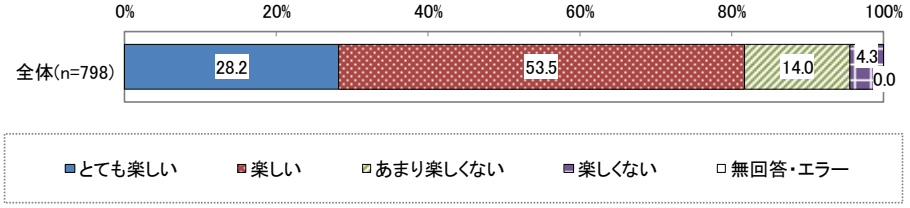
		調査数	十分にある	ある	あまりない	ほとんどない	無回答・エラー	
全体	全体	597	56.6	36.3	5.7	1.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	529	58.8	35.0	5.5	0.8	0.0	
	それ以外	68	39.7	47.1	7.4	5.9	0.0	

・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学生同士の相談・会話が「十分にある」としている傾向が見られた。

⑨ 学校で過ごす時間の楽しさについて

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)学校で過ごす時間の楽しさ(問 23)



・全体では、「楽しい」が 53.5%と最も高く、「とても楽しい」が 28.2%、「あまり楽しくない」が 14.0%、「楽しくない」が 4.3%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)

(学)学校で過ごす時間の楽しさ(問23)

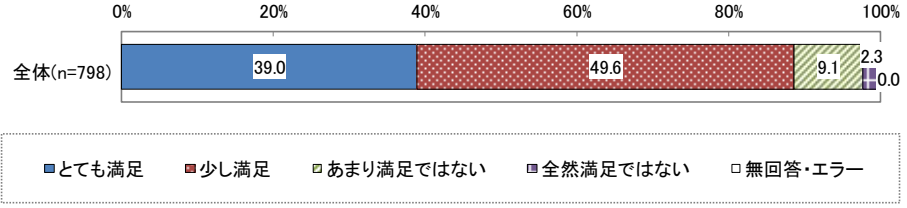
		調査数	とても楽しい	楽しい	あまり楽しくない	楽しくない	無回答・エラー	
全体	全体	597	31.0	50.1	13.7	5.2	0.0	P=0.010 ,P<0.05
(学)入学前の介護分野への就業意欲(問11)／日本人学生	介護の仕事をしたいと強く思っていた	329	34.3	48.9	14.0	2.7	0.0	
	上記以外	268	26.9	51.5	13.4	8.2	0.0	
全体	全体	597	31.0	50.1	13.7	5.2	0.0	P=0.001 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	33.3	49.5	12.5	4.7	0.0	
	それ以外	68	13.2	54.4	23.5	8.8	0.0	
全体	全体	597	31.0	50.1	13.7	5.2	0.0	P=0.002 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	36.2	50.0	12.2	1.6	0.0	
	それ以外	351	27.4	50.1	14.8	7.7	0.0	

・日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校で過ごす時間が楽しいと回答する傾向が見られた。

⑩ 学習に関する学校の対応への満足度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)学習に関する学校の対応への満足度(問 24)



・全体では、「少し満足」が 49.6%と最も高く、「とても満足」が 39.0%、「あまり満足ではない」が 9.1%、「全然満足ではない」が 2.3%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - <u>**(学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生**</u>
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - <u>**(学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)**</u>

(学)学習に関する学校の対応への満足度(問24)

		調査数	とても満足	少し満足	あまり満足ではない	全然満足ではない	無回答・エラー	
全体	全体	597	38.7	47.9	10.4	3.0	0.0	P=0.000 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	41.2	47.1	9.6	2.1	0.0	
	それ以外	68	19.1	54.4	16.2	10.3	0.0	
全体	全体	115	41.7	52.2	6.1	0.0	0.0	P=0.020 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／留学生(N3以下)	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	91	46.2	50.5	3.3	0.0	0.0	
	それ以外	24	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0	

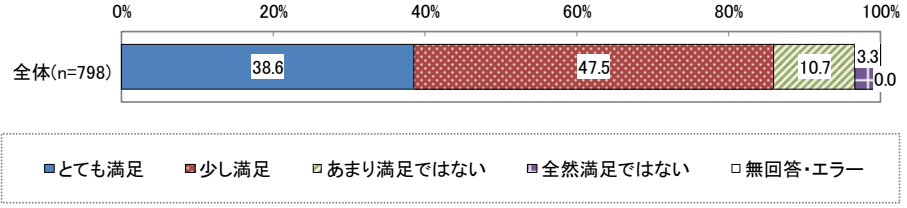
・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学習に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。

・留学生(N3 以下)において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学習以外に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。

⑪ 学習以外に関する学校の対応への満足度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)学習以外に関する学校の対応への満足度(問 25)



・全体では、「少し満足」が 47.5%と最も高く、「とても満足」が 38.6%、「あまり満足ではない」が 10.7%、「全然満足ではない」が 3.3%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／日本人学生
   - <u>**(学) 国試合格意欲 (問 27) ／日本人学生**</u>
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／日本人学生
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生 (N2 以上)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N2 以上)
   - <u>**(学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11) ／留学生 (N3 以下)**</u>
   - (学) 国試合格意欲 (問 27) ／留学生留学生 (N3 以下)
   - <u>**(学) キャリアに関する意欲 (問 29) ／留学生 (N3 以下)**</u>

(学)学習以外に関する学校の対応への満足度(問25)

		調査数	とても満足	少し満足	あまり満足ではない	全然満足ではない	無回答・エラー	
全体	全体	597	38.9	45.2	12.1	3.9	0.0	P=0.000 ,P<0.05
(学)国試合格意欲(問27)／日本人学生	必ず合格したい	529	42.2	44.0	10.8	3.0	0.0	
	それ以外	68	13.2	54.4	22.1	10.3	0.0	
全体	全体	115	40.9	52.2	5.2	1.7	0.0	P=0.043 ,P<0.05
(学)入学前の介護分野への就業意欲(問11)／留学生(N3以下)	介護の仕事をしたいと強く思っていた	88	44.3	52.3	2.3	1.1	0.0	
	上記以外	27	29.6	51.9	14.8	3.7	0.0	
全体	全体	115	40.9	52.2	5.2	1.7	0.0	P=0.016 ,P<0.05
(学)キャリアに関する意欲(問29)／留学生(N3以下)	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	91	45.1	50.5	2.2	2.2	0.0	
	それ以外	24	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0	

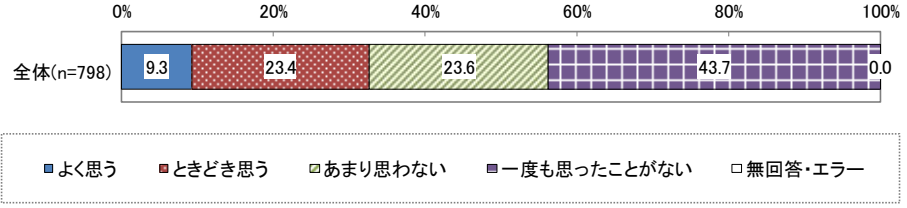
・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学習以外に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。

・留学生(N3 以下)において、入学前の介護分野への就業意欲があること、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学習以外に関する学校の対応への満足度が高い傾向が見られた。

⑫ 退学を考えたことのある頻度について

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学を考えたことのある頻度（問 30）



・全体では、「一度も思ったことがない」が 43.7%と最も高く、「あまり思わない」が 23.6%、「ときどき思う」が 23.4%、「よく思う」が 9.3%であった。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - <u>（学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生</u>
   - <u>（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生</u>
   - <u>（学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生</u>
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）

（学）退学を考えたことのある頻度（問30）

		調査数	よく思う	ときどき思う	あまり思わない	一度も思ったことがない	無回答・エラー	
全体	全体	597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.012 ,P<0.05
（学）入学前の介護分野への就業意欲（問11）／日本人学生	介護の仕事をしたいと強く思っていた	329	8.2	22.5	21.9	47.4	0.0	
	上記以外	268	13.1	26.9	25.4	34.7	0.0	
全体	全体	597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	529	8.1	21.9	24.8	45.2	0.0	
	それ以外	68	27.9	44.1	13.2	14.7	0.0	
全体	全体	597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.011 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	9.3	23.2	18.3	49.2	0.0	
	それ以外	351	11.1	25.4	27.1	36.5	0.0	

・日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて退学を考えたことのある頻度が低い傾向が見られた。

⑬ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるものについて

どのような学生のタイプで、成績不良を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるもの（問 30-1）
・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「意欲の低下によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1．学生のタイプ分類別

- **（学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生**
- **（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生**
- **（学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生**
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
- （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
- （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
- （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
- （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体	全体	348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.007 ,P<0.05
（学）入学前の介護分野への就業意欲（問11）／日本人学生	介護の仕事をしたいと強く思っていた	173	6.9	26.6	66.5	0.0	
	上記以外	175	13.1	36.6	50.3	0.0	
全体	全体	348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	290	9.0	27.6	63.4	0.0	
	それ以外	58	15.5	51.7	32.8	0.0	
全体	全体	348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	125	7.2	21.6	71.2	0.0	
	それ以外	223	11.7	37.2	51.1	0.0	

・日本人学生において、入学前の介護分野への就業意欲が高いこと、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて意欲の低下を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

⑭ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるものについて

どのような学生のタイプで、成績不良を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるもの（問 30-1）

・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「成績不良によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - **（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生**
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体	全体	348	22.4	23.0	54.6	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	290	19.7	21.4	59.0	0.0	
	それ以外	58	36.2	31.0	32.8	0.0	

・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて成績不良を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

⑮ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるものについて

どのような学生のタイプで、学内の人間関係を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

> （学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるもの（問 30-1）
> ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学内の人間関係によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる:4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない:2 点、あてはまらない:1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - **（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生**
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体	全体	348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.034 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	290	13.1	32.4	54.5	0.0	
	それ以外	58	25.9	32.8	41.4	0.0	

・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて学内の人間関係を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

⑯ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるものについて

どのような学生のタイプで、学外実習の不適応を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるもの（問 30-1）
・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学外実習の不適応によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる:4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない:2 点、あてはまらない:1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - **（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生**
   - **（学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生**
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体	全体	348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.018 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	290	12.1	33.1	54.8	0.0	
	それ以外	58	17.2	48.3	34.5	0.0	
全体	全体	348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.025 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／日本人学生	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	125	8.8	30.4	60.8	0.0	
	それ以外	223	15.2	38.6	46.2	0.0	

・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学外実習の不適応を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

⑰ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるものについて

どのような学生のタイプで、学校への不満を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるもの（問 30-1）
・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学校への不満によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - （学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - **（学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）**

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体	全体	55	50.9	30.9	18.2	0.0	P=0.026 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／留学生（N3以下）	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	43	60.5	25.6	14.0	0.0	
	それ以外	12	16.7	50.0	33.3	0.0	

・留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて学校への不満を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

⑱ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるものについて

どのような学生のタイプで、進路変更を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるもの（問 30-1）
・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「進路変更によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学生のタイプ分類別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／日本人学生
   - **（学）国試合格意欲（問 27）／日本人学生**
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／日本人学生
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N2 以上）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生（N2 以上）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N2 以上）
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）／留学生（N3 以下）
   - （学）国試合格意欲（問 27）／留学生留学生（N3 以下）
   - **（学）キャリアに関する意欲（問 29）／留学生（N3 以下）**

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体	全体	348	4.3	19.8	75.9	0.0	P=0.008 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）／日本人学生	必ず合格したい	290	3.4	17.6	79.0	0.0	
	それ以外	58	8.6	31.0	60.3	0.0	
全体	全体	55	43.6	25.5	30.9	0.0	P=0.045 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）／留学生（N3以下）	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	43	51.2	18.6	30.2	0.0	
	それ以外	12	16.7	50.0	33.3	0.0	

・日本人学生において、国試合格意欲が高いこと、に該当する場合、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。
・留学生（N3 以下）において、キャリアに関する意欲が何らかあること、に該当する場合、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

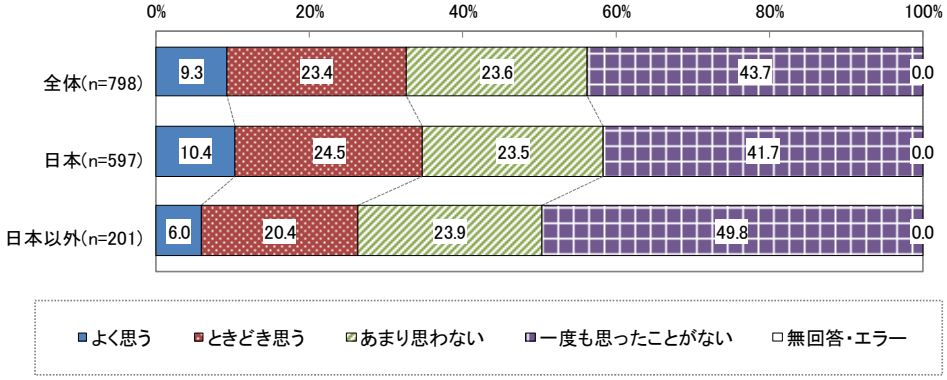
(3)学生属性別 学生の退学意向等

学生票のデータを使用し、「どのような学生が、退学意向が高いか」、「どのような学生が、どのような退学理由を持っているか」等を確認するクロス集計を実施した。なお、説明変数を日本人学生(国籍:日本)と留学生(国籍:日本以外)の2軸に分けて集計を実施している。以下、目的変数ごとに結果を記載する。

① 退学を考えたことのある頻度について

どのような学生が、どの程度の頻度で退学を考えたことがあるかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)退学を考えたことのある頻度(問 30)



・全体では、「一度も思ったことがない」が 43.7%と最も高く、「あまり思わない」が 23.6%、「ときどき思う」が 23.4%、「よく思う」が 9.3%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - (学) 所属校種別 (問 2)
   - (学) 性別 (問 3)
   - (学) 年齢 (問 4)
   - (学) 自宅での勉強場所 (問 6)
   - (学) 入学時の情報収集の状況 (問 9)
   - (学) 介護施設でのアルバイト経験の有無 (問 10)
2. 学生の授業等の理解度別
   - (学) 授業の理解度 (問 14)
   - (学) 科目間連携の理解度 (問 16)
   - (学) 介護の専門用語の理解度 (問 17)
   - (学) 介護に関係する日本の文化的慣習の理解度 (問 18)
3. 学生の経済状況別
   - (学) 奨学金等利用状況の有無 (問 7)
   - (学) 勉強に集中できない理由 (問 19) ―経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - (学) 勉強に集中できない理由の有無 (問 19)
   - (学) 困ったことがあった場合の相談状況 (問 20)
   - (学) 学校の相談窓口の認知状況 (問 21)
   - (学) 学生同士の相談・会話の状況 (問 22)
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - (学) 入学前の介護分野への就業意欲 (問 11)
   - (学) 授業の出席状況 (問 26)
   - (学) 勉強時間 (問 28)
   - (学) 国試合格意欲 (問 27)
   - (学) キャリアに関する意欲 (問 29) ―何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か

6. 学生の満足度別
- **（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）**
- **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
- **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
- （学）所属校種別（問 2）
- （学）性別（問 3）
- （学）年齢（問 4）
- （学）自宅での勉強場所（問 6）
- （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
- （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）

2. 学生の授業等の理解度別
- **（学）授業の理解度（問 14）**
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- **（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）**

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- **（学）勉強時間（問 28）**
- （学）国試合格意欲（問 27）
- （学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か

6. 学生の満足度別
- **（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）**
- **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
- **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

7. 留学生特有の情報別
- （学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- （学）日本語学校修了経験の有無（問 8）

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

		（学）退学を考えたことのある頻度（問30）						
		調査数	よく思う	ときどき思う	あまり思わない	一度も思ったことがない	無回答・エラー	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	128	7.8	18.0	15.6	58.6	0.0	
	やや理解できる	430	8.4	25.6	27.0	39.1	0.0	
	あまり理解できない	36	38.9	33.3	11.1	16.7	0.0	
	ほとんど理解できない	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）科目間連携の理解度（問16）	よく理解できる	88	11.4	10.2	21.6	56.8	0.0	
	やや理解できる	422	6.9	26.5	24.9	41.7	0.0	
	あまり理解できない	80	25.0	26.3	20.0	28.8	0.0	
	ほとんど理解できない	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）介護の専門用語の理解度（問17）	よく理解できる	70	5.7	21.4	20.0	52.9	0.0	
	やや理解できる	446	8.3	22.6	25.6	43.5	0.0	
	あまり理解できない	74	23.0	36.5	16.2	24.3	0.0	
	ほとんど理解できない	7	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.014 ,P<0.05
（学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問18）	よく理解できる	109	10.1	21.1	21.1	47.7	0.0	
	やや理解できる	390	7.9	25.6	24.1	42.3	0.0	
	あまり理解できない	89	19.1	21.3	24.7	34.8	0.0	
	ほとんど理解できない	9	33.3	44.4	11.1	11.1	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.013 ,P<0.05
（学）勉強に集中できない理由（問19）－経済的な心配（4.）の選択有無	あり	49	22.4	28.6	22.4	26.5	0.0	
	なし	548	9.3	24.1	23.5	43.1	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）勉強に集中できない理由の有無（問19）	特に問題はない	253	4.0	15.0	23.3	57.7	0.0	
	何らか問題がある	344	15.1	31.4	23.5	29.9	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）困ったことがあった場合の相談状況（問20）	気軽に相談できる	286	5.2	19.6	23.8	51.4	0.0	
	気軽ではないが、相談できる	206	13.1	28.2	26.7	32.0	0.0	
	あまり相談できない	44	11.4	25.0	18.2	45.5	0.0	
	ほとんど相談できない	34	29.4	44.1	11.8	14.7	0.0	
	相談したくない	27	18.5	22.2	18.5	40.7	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学校の相談窓口の認知状況（問21）	相談窓口がある	212	5.7	16.5	25.5	52.4	0.0	
	相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている	190	7.9	27.4	21.1	43.7	0.0	
	相談できる体制がない	23	43.5	39.1	8.7	8.7	0.0	
	相談窓口があるかどうかわからない	172	14.5	29.1	25.6	30.8	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	338	7.7	19.8	24.6	47.9	0.0	
	ある	217	11.5	30.9	22.6	35.0	0.0	
	あまりない	34	26.5	26.5	20.6	26.5	0.0	
	ほとんどない	8	25.0	37.5	12.5	25.0	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）授業の出席状況（問26）	ほとんど毎日出席している	468	8.5	20.3	23.9	47.2	0.0	
	ときどき欠席するが、進級には問題ない	113	13.3	39.8	22.1	24.8	0.0	
	たびたび欠席し、進学に影響がでる可能性がある	16	43.8	37.5	18.8	0.0	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）	必ず合格したい	529	8.1	21.9	24.8	45.2	0.0	
	できれば合格したい	60	25.0	45.0	15.0	15.0	0.0	
	合格しなくてもいい	6	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	
	今まで合格したいかどうかを考えたことがない	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.011 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	246	9.3	23.2	18.3	49.2	0.0	
	それ以外	351	11.1	25.4	27.1	36.5	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問23）	とても楽しい	185	4.3	8.6	20.0	67.0	0.0	
	楽しい	299	6.4	27.4	29.4	36.8	0.0	
	あまり楽しくない	82	23.2	47.6	17.1	12.2	0.0	
	楽しくない	31	51.6	29.0	3.2	16.1	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	231	5.6	11.7	22.5	60.2	0.0	
	少し満足	286	7.0	29.0	28.0	36.0	0.0	
	あまり満足ではない	62	29.0	50.0	12.9	8.1	0.0	
	全然満足ではない	18	61.1	27.8	0.0	11.1	0.0	
全体		597	10.4	24.5	23.5	41.7	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	232	5.6	13.4	21.1	59.9	0.0	
	少し満足	270	4.8	32.2	27.0	35.9	0.0	
	あまり満足ではない	72	33.3	29.2	19.4	18.1	0.0	
	全然満足ではない	23	52.2	30.4	17.4	0.0	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて退学を考えたことのある頻度が低い傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業や科目間連携等の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：経済的な心配がない
4．学生の困りごとや相談先等別　：困りごとがなく、相談もできている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：授業に出席し、国試やキャリアに対する意欲が高い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい

＜留学生属性 別＞※設問番号順

		（学）退学を考えたことのある頻度（問30） 調査数	よく思う	ときどき思う	あまり思わない	一度も思ったことがない	無回答・エラー	
全体		201	6.0	20.4	23.9	49.8	0.0	P=0.007 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	47	10.6	8.5	14.9	66.0	0.0	
	やや理解できる	145	4.8	22.1	26.9	46.2	0.0	
	あまり理解できない	9	0.0	55.6	22.2	22.2	0.0	
	ほとんど理解できない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体		201	6.0	20.4	23.9	49.8	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	63	12.7	11.1	9.5	66.7	0.0	
	ある	113	0.9	19.5	31.9	47.8	0.0	
	あまりない	20	15.0	50.0	15.0	20.0	0.0	
	ほとんどない	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	
全体		201	6.0	20.4	23.9	49.8	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）勉強時間（問28）	学習しない	18	33.3	27.8	0.0	38.9	0.0	
	1時間未満	66	4.5	13.6	36.4	45.5	0.0	
	1－2時間ぐらい	69	1.4	23.2	21.7	53.6	0.0	
	2－3時間ぐらい	23	4.3	8.7	39.1	47.8	0.0	
	3－4時間ぐらい	12	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	
	5時間以上	13	7.7	46.2	0.0	46.2	0.0	
全体		201	6.0	20.4	23.9	49.8	0.0	P=0.009 ,P<0.05
（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問23）	とても楽しい	40	7.5	10.0	10.0	72.5	0.0	
	楽しい	128	6.3	18.8	25.8	49.2	0.0	
	あまり楽しくない	30	3.3	40.0	33.3	23.3	0.0	
	楽しくない	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	
全体		201	6.0	20.4	23.9	49.8	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	80	6.3	10.0	16.3	67.5	0.0	
	少し満足	110	6.4	25.5	27.3	40.9	0.0	
	あまり満足ではない	11	0.0	45.5	45.5	9.1	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体		201	6.0	20.4	23.9	49.8	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	76	7.9	9.2	15.8	67.1	0.0	
	少し満足	109	5.5	23.9	28.4	42.2	0.0	
	あまり満足ではない	13	0.0	61.5	38.5	0.0	0.0	
	全然満足ではない	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて退学を考えたことのある頻度が低い傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：学生同士の相談・会話ができている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：勉強時間が長い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい
7．留学生特有の情報別　：―（特段の傾向は見られない）

② 退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるものについて

どのような学生が、意欲の低下を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 意欲の低下によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「意欲の低下によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別
   - **（学）授業の理解度（問 14）**
   - **（学）科目間連携の理解度（問 16）**
   - （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
   - （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）
3. 学生の経済状況別
   - （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
   - （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - **（学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）**
   - （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
   - （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
   - **（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）**
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - **（学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）**
   - （学）授業の出席状況（問 26）
   - （学）勉強時間（問 28）
   - **（学）国試合格意欲（問 27）**
   - **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**
6. 学生の満足度別
   - **（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）**
   - **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
   - **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別

- （学）授業の理解度（問 14）
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- （学）勉強時間（問 28）
- （学）国試合格意欲（問 27）
- （学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か

6. 学生の満足度別
- （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
- （学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）
- （学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）

7. 留学生特有の情報別
- （学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- （学）日本語学校修了経験の有無（問 8）

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

問30-1. 退学したいと思った理由（学内要因）_意欲の低下によるもの

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.003 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	53	18.9	20.8	60.4	0.0	
	やや理解できる	262	6.5	33.6	59.9	0.0	
	あまり理解できない	30	23.3	36.7	40.0	0.0	
	ほとんど理解できない	3	33.3	0.0	66.7	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）科目間連携の理解度（問16）	よく理解できる	38	18.4	5.3	76.3	0.0	
	やや理解できる	246	6.5	34.6	58.9	0.0	
	あまり理解できない	57	17.5	35.1	47.4	0.0	
	ほとんど理解できない	7	28.6	42.9	28.6	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.018 ,P<0.05
（学）勉強に集中できない理由の有無（問19）	特に問題はない	107	4.7	27.1	68.2	0.0	
	何らか問題がある	241	12.4	33.6	53.9	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.031 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	176	8.0	24.4	67.6	0.0	
	ある	141	11.3	38.3	50.4	0.0	
	あまりない	25	16.0	40.0	44.0	0.0	
	ほとんどない	6	16.7	50.0	33.3	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）入学前の介護分野への就業意欲（問11）	卒業したら、介護の仕事をしたいと強く思っていた	173	6.9	26.6	66.5	0.0	
	卒業後のことは考えていなかったが、介護の勉強には興味があっ	126	7.1	38.1	54.8	0.0	
	介護についての興味はなかった	49	28.6	32.7	38.8	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）	必ず合格したい	290	9.0	27.6	63.4	0.0	
	できれば合格したい	51	11.8	54.9	33.3	0.0	
	合格しなくてもいい	5	60.0	20.0	20.0	0.0	
	今まで合格したいかどうかを考えたことがない	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）ー何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	125	7.2	21.6	71.2	0.0	
	それ以外	223	11.7	37.2	51.1	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.006 ,P<0.05
（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問23）	とても楽しい	61	11.5	21.3	67.2	0.0	
	楽しい	189	6.3	30.7	63.0	0.0	
	あまり楽しくない	72	13.9	38.9	47.2	0.0	
	楽しくない	26	23.1	42.3	34.6	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	92	7.6	20.7	71.7	0.0	
	少し満足	183	7.7	33.3	59.0	0.0	
	あまり満足ではない	57	21.1	40.4	38.6	0.0	
	全然満足ではない	16	12.5	43.8	43.8	0.0	
全体		348	10.1	31.6	58.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	93	7.5	19.4	73.1	0.0	
	少し満足	173	8.1	31.8	60.1	0.0	
	あまり満足ではない	59	13.6	52.5	33.9	0.0	
	全然満足ではない	23	26.1	26.1	47.8	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて意欲の低下を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業や科目間連携の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：勉強に集中でき、学生同士の相談・会話ができている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：介護に興味を持ち、国試合格やキャリアに対する意欲が高い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい

＜留学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因） 意欲の低下によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		101	44.6	32.7	22.8	0.0	P=0.004 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	16	81.3	12.5	6.3	0.0	
	やや理解できる	78	34.6	39.7	25.6	0.0	
	あまり理解できない	7	71.4	0.0	28.6	0.0	
	ほとんど理解できない	−	0.0	0.0	0.0	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて意欲の低下を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業の理解度が<u>高くない</u>
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：―（特段の傾向は見られない）
6．学生の満足度別　：―（特段の傾向は見られない）
7．留学生特有の情報別　：―（特段の傾向は見られない）

③ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるものについて

どのような学生が、成績不良を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「成績不良によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別
   - **（学）授業の理解度（問 14）**
   - **（学）科目間連携の理解度（問 16）**
   - （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
   - （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）
3. 学生の経済状況別
   - （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
   - （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
   - （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
   - （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
   - （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
   - （学）授業の出席状況（問 26）
   - （学）勉強時間（問 28）
   - **（学）国試合格意欲（問 27）**
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か
6. 学生の満足度別
   - （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
   - （学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）
   - **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別

- （学）授業の理解度（問 14）
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- **（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）**

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- （学）勉強時間（問 28）
- （学）国試合格意欲（問 27）
- **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**

6. 学生の満足度別
- （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
- **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
- **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

7. 留学生特有の情報別
- （学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- （学）日本語学校修了経験の有無（問 8）

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）成績不良によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		348	22.4	23.0	54.6	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	53	15.1	13.2	71.7	0.0	
	やや理解できる	262	21.0	26.3	52.7	0.0	
	あまり理解できない	30	50.0	13.3	36.7	0.0	
	ほとんど理解できない	3	0.0	0.0	100.0	0.0	
全体		348	22.4	23.0	54.6	0.0	P=0.007 ,P<0.05
（学）科目間連携の理解度（問16）	よく理解できる	38	23.7	10.5	65.8	0.0	
	やや理解できる	246	18.3	26.0	55.7	0.0	
	あまり理解できない	57	40.4	19.3	40.4	0.0	
	ほとんど理解できない	7	14.3	14.3	71.4	0.0	
全体		348	22.4	23.0	54.6	0.0	P=0.016 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）	必ず合格したい	290	19.7	21.4	59.0	0.0	
	できれば合格したい	51	35.3	33.3	31.4	0.0	
	合格しなくてもいい	5	40.0	20.0	40.0	0.0	
	今まで合格したいかどうかを考えたことがない	2	50.0	0.0	50.0	0.0	
全体		348	22.4	23.0	54.6	0.0	P=0.037 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	93	21.5	15.1	63.4	0.0	
	少し満足	173	20.2	27.2	52.6	0.0	
	あまり満足ではない	59	30.5	28.8	40.7	0.0	
	全然満足ではない	23	21.7	8.7	69.6	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて成績不良を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業や科目間連携の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：国試合格に対する意欲が高い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高い

＜留学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）成績不良によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		101	51.5	29.7	18.8	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	21	66.7	9.5	23.8	0.0	
	ある	59	47.5	40.7	11.9	0.0	
	あまりない	16	62.5	18.8	18.8	0.0	
	ほとんどない	5	0.0	20.0	80.0	0.0	
全体		101	51.5	29.7	18.8	0.0	P=0.037 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	73	58.9	23.3	17.8	0.0	
	それ以外	28	32.1	46.4	21.4	0.0	
全体		101	51.5	29.7	18.8	0.0	P=0.008 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	26	53.8	15.4	30.8	0.0	
	少し満足	65	56.9	29.2	13.8	0.0	
	あまり満足ではない	10	10.0	70.0	20.0	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体		101	51.5	29.7	18.8	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	25	56.0	12.0	32.0	0.0	
	少し満足	63	58.7	31.7	9.5	0.0	
	あまり満足ではない	13	7.7	53.8	38.5	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて成績不良を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：―（特段の傾向は見られない）
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：学生同士の相談・会話ができている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：キャリアに関する意欲が<u>高くない</u>
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高い
7．留学生特有の情報別　：―（特段の傾向は見られない）

④ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるものについて

どのような学生が、学内の人間関係を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学内の人間関係によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる:4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない:2 点、あてはまらない:1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別
   - **（学）授業の理解度（問 14）**
   - **（学）科目間連携の理解度（問 16）**
   - （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
   - （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）
3. 学生の経済状況別
   - （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
   - （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - **（学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）**
   - **（学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）**
   - **（学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）**
   - **（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）**
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
   - **（学）授業の出席状況（問 26）**
   - （学）勉強時間（問 28）
   - **（学）国試合格意欲（問 27）**
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か
6. 学生の満足度別
   - **（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）**
   - **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
   - **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別

- **（学）授業の理解度（問 14）**
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- （学）勉強時間（問 28）
- （学）国試合格意欲（問 27）
- **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**

6. 学生の満足度別
- （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
- **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
- （学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）

7. 留学生特有の情報別
- **（学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無**
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- （学）日本語学校修了経験の有無（問 8）

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）、学内の人間関係によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.041 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	53	22.6	22.6	54.7	0.0	
	やや理解できる	262	11.8	35.5	52.7	0.0	
	あまり理解できない	30	30.0	26.7	43.3	0.0	
	ほとんど理解できない	3	33.3	0.0	66.7	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.027 ,P<0.05
（学）科目間連携の理解度（問16）	よく理解できる	38	28.9	26.3	44.7	0.0	
	やや理解できる	246	11.8	31.7	56.5	0.0	
	あまり理解できない	57	19.3	42.1	38.6	0.0	
	ほとんど理解できない	7	28.6	14.3	57.1	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）勉強に集中できない理由の有無（問19）	特に問題はない	107	5.6	26.2	68.2	0.0	
	何らか問題がある	241	19.5	35.3	45.2	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.018 ,P<0.05
（学）困ったことがあった場合の相談状況（問20）	気軽に相談できる	139	7.9	31.7	60.4	0.0	
	気軽ではないが、相談できる	140	16.4	31.4	52.1	0.0	
	あまり相談できない	24	25.0	41.7	33.3	0.0	
	ほとんど相談できない	29	31.0	34.5	34.5	0.0	
	相談したくない	16	25.0	31.3	43.8	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.036 ,P<0.05
（学）学校の相談窓口の認知状況（問21）	相談窓口がある	101	8.9	32.7	58.4	0.0	
	相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている	107	16.8	29.9	53.3	0.0	
	相談できる体制がない	21	28.6	52.4	19.0	0.0	
	相談窓口があるかどうかわからない	119	16.8	31.1	52.1	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.035 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	176	10.2	29.5	60.2	0.0	
	ある	141	19.1	34.8	46.1	0.0	
	あまりない	25	24.0	36.0	40.0	0.0	
	ほとんどない	6	33.3	50.0	16.7	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.023 ,P<0.05
（学）授業の出席状況（問26）	ほとんど毎日出席している	247	13.8	34.0	52.2	0.0	
	ときどき欠席するが、進級には問題ない	85	14.1	29.4	56.5	0.0	
	たびたび欠席し、進学に影響がでる可能性がある	16	43.8	25.0	31.3	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.034 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）	必ず合格したい	290	13.1	32.4	54.5	0.0	
	できれば合格したい	51	23.5	35.3	41.2	0.0	
	合格しなくてもいい	5	60.0	0.0	40.0	0.0	
	今まで合格したいかどうかを考えたことがない	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問23）	とても楽しい	61	9.8	19.7	70.5	0.0	
	楽しい	189	8.5	32.8	58.7	0.0	
	あまり楽しくない	72	25.0	45.8	29.2	0.0	
	楽しくない	26	50.0	23.1	26.9	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.004 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	92	9.8	26.1	64.1	0.0	
	少し満足	183	13.1	33.9	53.0	0.0	
	あまり満足ではない	57	24.6	38.6	36.8	0.0	
	全然満足ではない	16	37.5	31.3	31.3	0.0	
全体		348	15.2	32.5	52.3	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	93	9.7	26.9	63.4	0.0	
	少し満足	173	10.4	31.2	58.4	0.0	
	あまり満足ではない	59	27.1	47.5	25.4	0.0	
	全然満足ではない	23	43.5	26.1	30.4	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて学内の人間関係を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業や科目間連携の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：勉強に集中でき、困りごとの相談等ができている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：授業に出席し、国試合格に対する意欲が高い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい

＜留学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因） 学内の人間関係によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		101	33.7	38.6	27.7	0.0	P=0.022 ,P<0.05
（学）日本への留学理由（問5-1 ） －介護や福祉への興味の選択有無	あり	54	25.9	35.2	38.9	0.0	
	なし	47	42.6	42.6	14.9	0.0	
全体		101	33.7	38.6	27.7	0.0	P=0.039 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	16	56.3	12.5	31.3	0.0	
	やや理解できる	78	26.9	43.6	29.5	0.0	
	あまり理解できない	7	57.1	42.9	0.0	0.0	
	ほとんど理解できない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体		101	33.7	38.6	27.7	0.0	P=0.010 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	73	42.5	32.9	24.7	0.0	
	それ以外	28	10.7	53.6	35.7	0.0	
全体		101	33.7	38.6	27.7	0.0	P=0.036 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	26	30.8	26.9	42.3	0.0	
	少し満足	65	40.0	40.0	20.0	0.0	
	あまり満足ではない	10	0.0	60.0	40.0	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて学内の人間関係を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：キャリアに関する意欲が<u>高くない</u>
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高い
7．留学生特有の情報別　：入学前より介護や福祉への興味がある

⑤ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるものについて

どのような学生が、学外実習の不適応を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学外実習の不適応によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる:4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない:2 点、あてはまらない:1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別
   - （学）授業の理解度（問 14）
   - **（学）科目間連携の理解度（問 16）**
   - （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
   - （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）
3. 学生の経済状況別
   - （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
   - （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
   - （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
   - （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
   - （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
   - （学）授業の出席状況（問 26）
   - （学）勉強時間（問 28）
   - （学）国試合格意欲（問 27）
   - **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**
6. 学生の満足度別
   - **（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）**
   - **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
   - **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別

- （学）授業の理解度（問 14）
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- （学）勉強時間（問 28）
- （学）国試合格意欲（問 27）
- **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**

6. 学生の満足度別
- （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
- （学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）
- （学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）

7. 留学生特有の情報別
- （学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- （学）日本語学校修了経験の有無（問 8）

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）学外実習の不適応によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.019 ,P<0.05
（学）科目間連携の理解度（問16）	よく理解できる	38	21.1	23.7	55.3	0.0	
	やや理解できる	246	8.9	37.0	54.1	0.0	
	あまり理解できない	57	24.6	36.8	38.6	0.0	
	ほとんど理解できない	7	14.3	42.9	42.9	0.0	
全体		348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.025 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	125	8.8	30.4	60.8	0.0	
	それ以外	223	15.2	38.6	46.2	0.0	
全体		348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.003 ,P<0.05
（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問23）	とても楽しい	61	24.6	19.7	55.7	0.0	
	楽しい	189	6.9	40.7	52.4	0.0	
	あまり楽しくない	72	16.7	37.5	45.8	0.0	
	楽しくない	26	19.2	30.8	50.0	0.0	
全体		348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.026 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	92	14.1	25.0	60.9	0.0	
	少し満足	183	10.9	37.7	51.4	0.0	
	あまり満足ではない	57	21.1	42.1	36.8	0.0	
	全然満足ではない	16	0.0	50.0	50.0	0.0	
全体		348	12.9	35.6	51.4	0.0	P=0.003 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	93	16.1	21.5	62.4	0.0	
	少し満足	173	9.8	39.9	50.3	0.0	
	あまり満足ではない	59	20.3	45.8	33.9	0.0	
	全然満足ではない	23	4.3	34.8	60.9	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて学外実習の不適応を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：科目間連携の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：キャリアに対する意欲が高い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい

＜留学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因） 学外実習の不適応によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		101	41.6	25.7	32.7	0.0	P=0.039 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	73	49.3	21.9	28.8	0.0	
	それ以外	28	21.4	35.7	42.9	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて学外実習の不適応を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：―（特段の傾向は見られない）
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：キャリアに関する意欲が<u>高くない</u>
6．学生の満足度別　：―（特段の傾向は見られない）
7．留学生特有の情報別　：―（特段の傾向は見られない）

⑥ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるものについて

どのような学生が、学校への不満を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学校への不満によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別
   - **（学）授業の理解度（問 14）**
   - （学）科目間連携の理解度（問 16）
   - （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
   - （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）
3. 学生の経済状況別
   - （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
   - （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - **（学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）**
   - （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
   - **（学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）**
   - **（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）**
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
   - （学）授業の出席状況（問 26）
   - （学）勉強時間（問 28）
   - （学）国試合格意欲（問 27）
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か
6. 学生の満足度別
   - **（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）**
   - **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
   - **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別

- （学）授業の理解度（問 14）
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- （学）勉強時間（問 28）
- （学）国試合格意欲（問 27）
- **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**

6. 学生の満足度別
- （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
- **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
- **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

7. 留学生特有の情報別
- （学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- （学）日本語学校修了経験の有無（問 8）

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_学校への不満によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.027 ,P<0.05
（学）授業の理解度（問14）	よく理解できる	53	28.3	17.0	54.7	0.0	
	やや理解できる	262	26.0	31.3	42.7	0.0	
	あまり理解できない	30	46.7	13.3	40.0	0.0	
	ほとんど理解できない	3	66.7	33.3	0.0	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.038 ,P<0.05
（学）勉強に集中できない理由（問19）－経済的な心配（4.）の選択有無	あり	36	41.7	11.1	47.2	0.0	
	なし	312	26.9	29.5	43.6	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）勉強に集中できない理由の有無（問19）	特に問題はない	107	13.1	26.2	60.7	0.0	
	何らか問題がある	241	35.3	28.2	36.5	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学校の相談窓口の認知状況（問21）	相談窓口がある	101	21.8	32.7	45.5	0.0	
	相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている	107	20.6	28.0	51.4	0.0	
	相談できる体制がない	21	71.4	23.8	4.8	0.0	
	相談窓口があるかどうかわからない	119	33.6	23.5	42.9	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	176	21.6	24.4	54.0	0.0	
	ある	141	31.2	31.9	36.9	0.0	
	あまりない	25	52.0	28.0	20.0	0.0	
	ほとんどない	6	66.7	16.7	16.7	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学校で過ごす時間の楽しさ（問23）	とても楽しい	61	24.6	19.7	55.7	0.0	
	楽しい	189	20.6	30.7	48.7	0.0	
	あまり楽しくない	72	44.4	29.2	26.4	0.0	
	楽しくない	26	50.0	19.2	30.8	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	92	13.0	17.4	69.6	0.0	
	少し満足	183	23.0	32.2	44.8	0.0	
	あまり満足ではない	57	57.9	33.3	8.8	0.0	
	全然満足ではない	16	75.0	12.5	12.5	0.0	
全体		348	28.4	27.6	44.0	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	93	12.9	16.1	71.0	0.0	
	少し満足	173	23.7	34.1	42.2	0.0	
	あまり満足ではない	59	52.5	32.2	15.3	0.0	
	全然満足ではない	23	65.2	13.0	21.7	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて学校への不満を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：授業等の理解度が高い
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：勉強に集中でき、相談等ができている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：―（特段の傾向は見られない）
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい

＜留学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_学校への不満によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		101	40.6	34.7	24.8	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	73	52.1	28.8	19.2	0.0	
	それ以外	28	10.7	50.0	39.3	0.0	
全体		101	40.6	34.7	24.8	0.0	P=0.001 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	26	34.6	15.4	50.0	0.0	
	少し満足	65	47.7	38.5	13.8	0.0	
	あまり満足ではない	10	10.0	60.0	30.0	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	
全体		101	40.6	34.7	24.8	0.0	P=0.000 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	25	36.0	16.0	48.0	0.0	
	少し満足	63	50.8	34.9	14.3	0.0	
	あまり満足ではない	13	0.0	69.2	30.8	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて学校への不満を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：―（特段の傾向は見られない）
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：キャリアに関する意欲が<u>高くない</u>
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高い
7．留学生特有の情報別　：―（特段の傾向は見られない）

⑦ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるものについて

どのような学生が、進路変更を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「進路変更によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、下線を付した項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】※日本人学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別
   - （学）授業の理解度（問 14）
   - （学）科目間連携の理解度（問 16）
   - （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
   - （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）
3. 学生の経済状況別
   - （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
   - （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無
4. 学生の困りごとや相談先等別
   - （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
   - （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
   - （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
   - **（学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）**
5. 学生の学習意欲・学習状況別
   - （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
   - （学）授業の出席状況（問 26）
   - （学）勉強時間（問 28）
   - **（学）国試合格意欲（問 27）**
   - （学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か
6. 学生の満足度別
   - （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
   - **（学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）**
   - （学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）

【説明変数として設定した項目】※留学生

1. 学生の基本情報別
   - （学）所属校種別（問 2）
   - （学）性別（問 3）
   - （学）年齢（問 4）
   - （学）自宅での勉強場所（問 6）
   - （学）入学時の情報収集の状況（問 9）
   - （学）介護施設でのアルバイト経験の有無（問 10）
2. 学生の授業等の理解度別

- （学）授業の理解度（問 14）
- （学）科目間連携の理解度（問 16）
- （学）介護の専門用語の理解度（問 17）
- （学）介護に関係する日本の文化的慣習の理解度（問 18）

3. 学生の経済状況別
- （学）奨学金等利用状況の有無（問 7）
- （学）勉強に集中できない理由（問 19）－経済的な心配の選択有無

4. 学生の困りごとや相談先等別
- （学）勉強に集中できない理由の有無（問 19）
- （学）困ったことがあった場合の相談状況（問 20）
- （学）学校の相談窓口の認知状況（問 21）
- （学）学生同士の相談・会話の状況（問 22）

5. 学生の学習意欲･学習状況別
- （学）入学前の介護分野への就業意欲（問 11）
- （学）授業の出席状況（問 26）
- （学）勉強時間（問 28）
- （学）国試合格意欲（問 27）
- **（学）キャリアに関する意欲（問 29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か**

6. 学生の満足度別
- （学）学校で過ごす時間の楽しさ（問 23）
- （学）学習に関する学校の対応への満足度（問 24）
- **（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問 25）**

7. 留学生特有の情報別
- （学）日本への留学理由（問 5-1）－介護や福祉への興味の選択有無
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）
- （学）現在の日本語能力（問 5-2）×日本語学校の修了有無（問 8）
- **（学）日本語学校修了経験の有無（問 8）**

＜日本人学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_進路変更によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		348	4.3	19.8	75.9	0.0	P=0.010 ,P<0.05
（学）学生同士の相談・会話の状況（問22）	十分にある	176	5.1	15.3	79.5	0.0	
	ある	141	1.4	25.5	73.0	0.0	
	あまりない	25	16.0	16.0	68.0	0.0	
	ほとんどない	6	0.0	33.3	66.7	0.0	
全体		348	4.3	19.8	75.9	0.0	P=0.021 ,P<0.05
（学）国試合格意欲（問27）	必ず合格したい	290	3.4	17.6	79.0	0.0	
	できれば合格したい	51	9.8	29.4	60.8	0.0	
	合格しなくてもいい	5	0.0	60.0	40.0	0.0	
	今まで合格したいかどうかを考えたことがない	2	0.0	0.0	100.0	0.0	
全体		348	4.3	19.8	75.9	0.0	P=0.027 ,P<0.05
（学）学習に関する学校の対応への満足度（問24）	とても満足	92	6.5	8.7	84.8	0.0	
	少し満足	183	3.3	23.5	73.2	0.0	
	あまり満足ではない	57	1.8	24.6	73.7	0.0	
	全然満足ではない	16	12.5	25.0	62.5	0.0	

・日本人学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：―（特段の傾向は見られない）
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：学生同士の相談・会話ができている
5．学生の学習意欲・学習状況別　：国試合格に対する意欲が高い
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高く、学校が楽しい

＜留学生属性 別＞※設問番号順

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_進路変更によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる（3 以上）	ややあてはまる（2 以上3 未満）	あてはまらない（2 未満）	無回答・エラー	
全体		101	38.6	28.7	32.7	0.0	P=0.048 ,P<0.05
（学）日本語学校修了経験の有無（問8 ）	あり	70	41.4	21.4	37.1	0.0	
	なし	31	32.3	45.2	22.6	0.0	
全体		101	38.6	28.7	32.7	0.0	P=0.005 ,P<0.05
（学）キャリアに関する意欲（問29）－何らかの具体的なキャリアの意欲を持っているか否か	何らかの具体的なキャリアの意欲を持っている	73	47.9	21.9	30.1	0.0	
	それ以外	28	14.3	46.4	39.3	0.0	
全体		101	38.6	28.7	32.7	0.0	P=0.050 ,P<0.05
（学）学習以外に関する学校の対応への満足度（問25）	とても満足	25	36.0	20.0	44.0	0.0	
	少し満足	63	46.0	27.0	27.0	0.0	
	あまり満足ではない	13	7.7	53.8	38.5	0.0	
	全然満足ではない	－	0.0	0.0	0.0	0.0	

・留学生においては、概ね、以下の傾向がある場合、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

1．学生の基本情報別　：―（特段の傾向は見られない）
2．学生の授業等の理解度別　：―（特段の傾向は見られない）
3．学生の経済状況別　：―（特段の傾向は見られない）
4．学生の困りごとや相談先等別　：―（特段の傾向は見られない）
5．学生の学習意欲・学習状況別　：キャリアに関する意欲が<u>高くない</u>
6．学生の満足度別　：学校の対応等への満足度が高い
7．留学生特有の情報別　：日本語学校を修了している

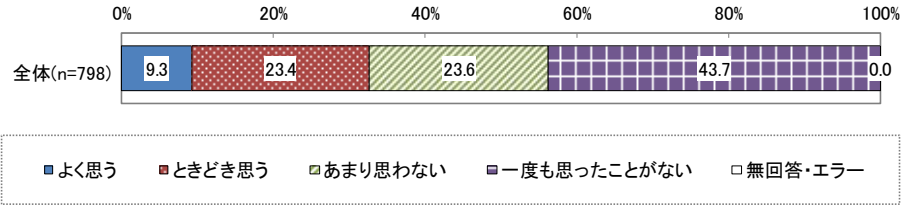
(4)養成校属性別 学生の退学意向等

養成校票、および学生票のデータを使用し、「どのような養成校に所属する学生が、退学意向が高いか」、「どのような養成校に所属する学生が、どのような退学理由を持っているか」等を確認するクロス集計を実施した。以下、目的変数ごとに結果を記載する。

① 退学を考えたことのある頻度について

どのような養成校で、どの程度の頻度で学生が退学を考えたことがあるかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)退学を考えたことのある頻度(問 30)



・全体では、「一度も思ったことがない」が 43.7%と最も高く、「あまり思わない」が 23.6%、「ときどき思う」が 23.4%、「よく思う」が 9.3%であった。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた項目は見られなかった。なお、各項目の集計結果は、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別
   - (校) 学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄 (問 10) ー選択個数
   - (校) 学生に対する生活のサポートに関する対応 (問 13) ー学費減免にかかる制度構築の有無
   - (校) 退学防止効果が期待される事柄に関する取組 (問 14) ー選択個数
2. 学校の実習対応別
   - (校) 実習の対応状況 (問 12)
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - (校) 専任教員における介護教員講習会修了者の割合 (問 6.a)
   - (校) その他教員における介護教員講習会修了者の割合 (問 6.b)
   - (校) 教員向けの研修や講習の回数 (問 7)
   - (校) FD (Faculty Development) の回数 (問 8)

② 退学したいと思った理由(学内要因)_ 意欲の低下によるものについて

どのような養成校で、入学後1年経過後の在籍者の割合が高いか・低いかを確認するため、以下の項目を集計の軸(目的変数)としたクロス集計を行った。

(学)退学したいと思った理由(学内要因)_ 意欲の低下によるもの(問 30-1)

・退学したいと思った理由(学内要因)のうち、「意欲の低下によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる:4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない:2 点、あてはまらない:1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸(目的変数)と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p=0.05 で有意な差が認められた項目は見られなかった。なお、各項目の集計結果は、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別

- （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
- （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
- （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数

2. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

③ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるものについて

どのような学生が、成績不良を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 成績不良によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「成績不良によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められ、かつ一定の意味を持つ項目は見られなかった。なお、各項目の集計結果は、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
2. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

④ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるものについて

どのような学生が、学内の人間関係を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学内の人間関係によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学内の人間関係によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められ、かつ一定の意味を持つ項目は見られなかった。なお、各項目の集計結果は、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収

録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
2. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

⑤ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるものについて

どのような学生が、学外実習の不適応を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学外実習の不適応によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学外実習の不適応によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる:4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない:2 点、あてはまらない:1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められ、かつ一定の意味を持つ項目は見られなかった。なお、各項目の集計結果は、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
2. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

⑥ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるものについて

どのような学生が、学校への不満を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 学校への不満によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「学校への不満によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた項目は見られなかった。なお、各項目の集計結果は、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
2. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）
   - （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
   - （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

⑦ 退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるものについて

どのような学生が、進路変更を要因として退学したいと思っているかを確認するため、以下の項目を集計の軸（目的変数）としたクロス集計を行った。

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるもの（問 30-1） ・退学したいと思った理由（学内要因）のうち、「進路変更によるもの」に該当する項目について、よくあてはまる：4 点、あてはまる:3 点、あまりあてはまらない：2 点、あてはまらない：1 点として平均点数を算出したうえで、当該平均点数に関し、「あてはまる」を 3.0 点以上、「ややあてはまる」を 2.0 点以上-3.0 点未満、「あてはまらない」を 2.0 点未満として集計した。

上記集計の軸（目的変数）と、以下の説明変数とのクロス集計を行った。集計及び検定の結果、<u>下線を付した</u>項目を中心に、各クロス項目にかかる割合と全体の割合を比べて有意水準 p＝0.05 で有意な差が認められた。なお、下線該当項目以外の項目については、本報告書には掲載していないが、別添の集計表に収録している。

【説明変数として設定した項目】

1. 学校の学生対応別
   - （校）学生の学ぶ意欲を高めるため行っている事柄（問 10）－選択個数
   - （校）学生に対する生活のサポートに関する対応（問 13）－学費減免にかかる制度構築の有無
   - （校）退学防止効果が期待される事柄に関する取組（問 14）－選択個数
2. 学校の実習対応別
   - （校）実習の対応状況（問 12）
     - ・実習先のマッチングの実施有無
     - ・実習目標の実習先共有の実施有無
3. 学校の教員の質別
   - （校）専任教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.a）
   - （校）その他教員における介護教員講習会修了者の割合（問 6.b）

- （校）教員向けの研修や講習の回数（問 7）
- （校）FD（Faculty Development）の回数（問 8）

＜(校)教員向けの研修や講習の回数(問 7）別＞

（学）退学したいと思った理由（学内要因）_ 進路変更によるもの（問30-1）

		調査数	あてはまる(3 以上)	ややあてはまる(2 以上3 未満)	あてはまらない(2 未満)	無回答・エラー	
全体		449	12.0	21.8	66.1	0.0	P=0.010 ,P<0.05
(校)教員向けの研修や講習の回数(問7)	0 回	95	17.9	27.4	54.7	0.0	
	1 回以上3 回未満	83	8.4	26.5	65.1	0.0	
	3 回以上5 回未満	99	8.1	24.2	67.7	0.0	
	5 回以上	113	15.9	11.5	72.6	0.0	

・教員向けの研修や講習を多く行っている学校では、所属する学生が、その他の群に比べて進路変更を要因として退学したいと思ったことがない傾向が見られた。

第５章　ヒアリング調査結果

1-1. A 専門学校　学校事例

（1）養成校及び教員基礎情報

項目	内容
学校種別	・専門学校
教員数及び体制	・専任教員５名、非常勤講師４名（茶華道やレク、日本語など）
定員数及び入学者数	・学年定員40名に対して16名の入学者
過去5年の退学者状況	・累計６名おり、例年１～２名程度の退学者が存在（R4年度の退学者は０名）
奨学金受給者の割合	・学生の８割以上が就学資金貸付制度を利用
過去の国家試験合格率	・日本人学生：約90%、留学生：約30%程度
教員歴及び教員になった経緯	・教員歴は専任教員として20年、非常勤で３年ほど ・同一法人内の施設で勤務していた ・実習指導者の経験を経て、教員として異動
教員として大切にしていること	・将来、一緒に現場で仕事をすることを想定しながら、学生たちに教育している

（2）途中退学等防止に向けた養成校全体の取り組み

① 入学時の選考で重視していること

日本人学生および留学生も含めた推薦入試では筆記と面接を実施、一般入試は作文を課している。以前、通信制高校出身の入学希望者に作文を提出してもらったことがあったが、内容的にも漢字のレベル的にも、介護福祉士養成教育課程の修了は難しいと判断せざるを得なかった。そのため、ご本人に不合格を一旦は通知して、その結果を理解してもらい、それでも入学希望する場合、作文の再提出を許可するという対応を行ったことがあった。作文の再提出を受け付けはしたが、やはり 2 年コースでは修了が厳しいという学内での結論になった。

留学生については、推薦入試では筆記試験、面接及び学校で用意をしている日本語テストをしている。必ずしもJLPT（日本語能力試験）のN2に合格している必要はない。総合的に鑑みて、2 年後に卒業ができそうだという判断のもと入学を許可しており、その前提として、国内の日本語学校を経由していることを概ねの条件としている。その理由としては、日本での生活を経験していることで、学校側の生活面での心配事が軽減されることが挙げられる。（point1）

② 学生の相談窓口の周知方法及び活用例

基本的には担任制なので、困りごとなどは各担任教員に相談されることが多い。相性の良し悪しもあるので、学生によっては担任に限らず、話しやすい教員あるいは校長先生や事務の先生といった誰にでも相談できる体制をとっている。

教務主任という性質上、学生にとっては何か指導されるというイメージが強くなって、自分にはあまり近づいてこない。その点、当校の校長先生が学生たちとよく話しをしてくださり、学生の本音を聞き出すことについては、さりげなくフォローをしてくださっている。校長先生から学生の困りごとの情報が入ってくることも多い。

今回のヒアリングを機に過去 5 年間の退学学生の特徴を洗い出してみてわかったことがある。当校の場合、退学のパターンは、①入学後すぐに退学するケースと②卒業間際に退学するケースの 2 つにはっきり分かれていた。とりわけ、後者は日本人学生に当てはまる。実習が再履修となり、日誌を期日までに仕上げることができず、さらにはテストにも合格できず、結果として単位が取得できないというケースである。

教員側からみると、「ここまできたのに。それをやればいいだけなのに。」という気持ちでいるのだが、最後

にそこが踏ん張れない学生がいる。単位が取れずに退学となり、現在は無資格のまま介護施設で働いている者もいるようである。

③ 学生の状況についての情報共有の方法（教員間および保護者）

毎日、全員が顔を合わせてミーティングもしているが、小さい学校なので、会議の時間以外にも情報共有はできている。非常勤講師は茶華道や手話、レクリエーションや日本語といった独自科目のみを担当しており、専任教員が全ての養成教育課程に関わる科目を担っていることも、自然に情報共有ができている（point2）ところだと考えている。

保護者との情報共有については、入学式に参加された保護者には当日の入学オリエンテーションに参加していただくようにして、学生便覧などの読み合わせを行っている。そうでない場合は、退学が危ぶまれるといった重大な事態以外は、基本的に学生とやりとりをしている。留学生については、保護者と連絡を取ることはほとんどないのが実情である。

④ 学校生活への支援体制（学習面・生活面）

留学生を受け入れるようになった年度から、独自科目の数をかなり削った。留学生の場合、学習面での大変さは言うまでもなく、授業が終わればアルバイトにも行かなければならない。科目ごとのテストにも合格しなければならないという二重苦のなか学業を継続させている。現在も、独自科目を含めれば 4 時間目までカリキュラム編成してはいるが、1,850 時間の養成課程の科目については、朝から 3 時間目まででこなせるように工夫をしている。

生活面の相談についても、留学生の場合、かなりの時間を割いている。まずは社会保険や住民税の払込の方法、次に家賃の支払いについて相談にのることが多い。以前住んでいた居住地の役所から差し押さえ通知が届いたこともあり、学校が該当する市役所への問い合わせ窓口になって、学生からお金を預かり支払うという対応を行っている。

入学要件のところでも記述した通り、当校は国内の日本語学校に在籍している留学生という条件にしている。それ以外に特別なガイダンスや説明会を実施しているわけではなく、卒業生の口コミというのが大きく、留学生同士の横のつながりによって、遠くは仙台や福岡などから転居してくることもある。こうした繋がりは本当に強く、留学生のほとんどが誰かの先輩や親族からの紹介ということで成り立っている。留学生には学生の確保という面で助けられているという感はあるが、一方で、生活に関わる相談対応が増している。

（3）留学生 D の事例より

① 退学の予兆を把握したきっかけ

実習担当の教員が、実習中の D の様子を見て「うまくいっていないな」と感じたことがきっかけだった。実習中は日本語でやりとりすることも多く、特に日誌を書くことに困難さが感じられた。

他の学生たちは実習前から介護施設でアルバイトをしていたが、D は入学前から続けていた母国の知り合いが経営する飲食店でアルバイトをしていたこともあり、日本語の上達には他の留学生と比べて開きがあったことが大きな原因ではないかと教員らで話していた。

アルバイト先のオーナーを通じてキャンプやパーティーなどで遊ぶことに忙しくなり、学校の勉強はおろそかになっている印象もあった。学校では同じ出身国の学生がいなかったため、クラスメイトみんなと一緒にいる場面もあったが、少しだけクラスに馴染めていないと教員たちは感じていた。

② 退学防止に向けた相談の経緯・過程

D について、実習の巡回指導を担当する教員から報告を受けるなかで、D の日本語が十分ではないことが、実習や学業に大きく影響しているようだ。介護施設でのアルバイトは、日本語の能力向上だけでなく、学校で学んだ知識・技術を実践現場でみることで理解が進むと考えた。そのため、飲食店でのアルバイトよりも介護施設のほうがいいのではないかと実習担当の教員らが強い口調ではなく、提案(point3)といった形で行った。

学業の面では、多くの留学生が科目テストの再試を受けることが多い。勉強しなくてはいけない義務感や他の学生より点数が取れなかったときの劣等感といったモヤモヤ・むしゃくしゃした感情が D のなかにあることが窺えた。教員側は、こうした D の様子を察知できていた。

③ 卒業に向けた支援体制へ

介護施設でアルバイトを始めてから、日本語に関する課題も解消されてきた。利用者の話を一生懸命聞き取ろうとする姿勢や一つひとつの介護技術を取っても、良い介護福祉士になるだろうと感じられた。

D 自身は介護に関する専門用語に戸惑い、ビジネス学科のある学校へ進路変更を希望する時期があった。それに対して、当校の全教員が D の介護福祉士としての素質を見出しており、進路変更することが彼にとっては好ましいことではないと考えた。そのことを D に対して全教員が代わる代わる伝え励ますことで、D 自身もそれに応える形で卒業を迎える(point4)こととなった。

事例のポイント

Point1 入学要件について

・留学生の概ねの入学条件として、日本語学校を経由していること。これによって、日本での生活に慣れていて生活面での指導が少ない。

・筆記試験、面接。留学生については、学校独自で作成した日本語試験を実施。

Point2 教員間の情報共有

・介護福祉士養成課程必修科目はすべて専任教員が担当。主要科目の修得、履修状況の情報共有がしやすい。

Point3 アルバイト先の変更

・日本語能力が不十分なために実習や学業に影響があったことから、介護施設でのアルバイトを提案。学校での学習の理解を助けるという判断。

Point4 学生への教員全員での励まし

・学生が介護福祉士になる力を信じて、教員全員で励ましの声を掛け続けた。

1-2. A 専門学校　事例【　言葉の壁を乗り越えた留学生　】

（1）学生の基礎情報

項目	内容
年齢/入学前の最終学歴	・2022年3月に卒業。現在、28歳
出身国/日本語能力	・出身国で1年間日本語を学び、国内の日本語学校に2年間通う
入学の動機	・スリランカ/来日前にN５を取得
この学校に決めたきっかけ	・日本で何か仕事をしたいとは思っていたが、何をすればよいかわからなかった。そんな時に、日本語学校の先生から介護の学校を紹介してもらった。母国にいる時にも、スリランカ人の先生から介護の仕事を勧められていたこともあって、介護の専門学校へ入学を決めた
学校の成績など	・テストが大変だったが、介護技術には自信があった
奨学金受給の有無	・県の修学資金貸付金制度を利用
アルバイト経験	・日本語学校のときから同国の先輩に紹介してもらったレストランでアルバイトをしていた ・新型コロナウイルス感染症発生時において、で飲食店のアルバイトがなくなった。学校の先生から介護のアルバイトを勧められ、始めるようになった
授業科目について	・得意科目：生活支援技術（介助することは好き） ・苦手科目：こころとからだのしくみ（覚えることが大変）
国家試験合格にむけた意欲	・新型コロナウイルス感染症の状況下でなければ、受験をして合格したかった

（2）留学生 D さんの事例より

① 退学をしようと思ったきっかけ

入学前に自分が思っていたよりも、介護の勉強は難しかった。そのため、入学当初は、ときどき欠席することがあった。とりわけ、言葉の壁は大きくて（point1）、漢字が難しく、先生の話す言葉もあまりよくわからなかった。自分の国や日本語学校で勉強していた時、先生は「です・ます」で話すことがほとんどだったのに、専門学校に入ったら先生の話す日本語は一人ひとり違っていて、何を話しているのか聞き取るのに大変だった。教科書の文章も、ひらがなやカタカナだけなら理解できるのに、漢字が出てくると本当にわからなくなった。漢字は一つ一つ意味があるが、それを理解することは大変な労力が必要だった。

母国にいる時にも同じように通っていた学校には試験があったし楽なものではなかった。しかし、慣れ親しんだ国の言葉で書かれている試験と、日本語、特に漢字がたくさん並んで書かれている試験とでは、私にとって、ハードルの高さは段違いだった。

最初にはっきりと退学したいと思ったのは、入学して半年後、夏休み明けのころだった。1 年生前期の期末テストの結果が悪くて、再試験が必要な科目がたくさんあった。その時、「もう辞めたい」と強く思った。日本語学校での試験は、「語彙/文法・読解・聴解・作文」の 3～4 科目くらいなのに、それに比べて介護の学校での試験科目はいっぱいだった。

このときと同じように「もう辞めたい」と強く思ったのは、2 年生後期の期末テストのときだった。当時は、宿題や課題レポートの提出なども重なっていて、本当に苦しかった。テストの科目も多くて、覚えなければいけないこともその分たくさんあるかと思うと、気持ちが落ち込んでいることを自分自身の中で強く感じた。

② 退学を思い悩んでいたときの状況について

留学生は自分一人だけではないし大丈夫だろうと思って入学した学校だったが、想像以上に、介護の勉強は大変だった（point1）。言葉の壁を強く感じていた私は、初めての実習も上手く話せなくて、あまりうまく

できなかった。

介護の勉強が大変だと思い始めていたころ、ずっとアルバイトしていた飲食店が新型コロナウイルス感染症の影響で働けなくなり、生活することも大変な時期と重なっていた。そのことについて、学校の先生にアルバイト探しの相談をするようになった。

先生が介護施設でのアルバイトを勧めてくれた。これで生活が少し楽になるという気持ちもあったが、それだけではなく、介護の勉強を難しく感じていたので、介護の仕事をして早く慣れたいという考え（point2）の方が大きかった。1 年生の 11 月頃から介護のアルバイトを始めるようになって、まだまだ勉強が難しいという気持ちに変わりはなかったが、介助することに難しさを感じることはなく、むしろ、他の人よりも介助は上手くできていると思えるようになっていった。

一方で、試験のための勉強はいつも大変だった。先生に辞めたいと相談すると、「D！（やめるなんて言っては）ダメ、ダメ！！がんばって。できるから。」と、いつも私の背中を押してくれた。「できる、できる。」「がんばれ、がんばれ。」といつも応援してもらって、学校生活を送った。

③ 卒業をしようと思ったきっかけと現在の心境について

1 年生前期の期末テストが再試となった時、私と同じように日本語に苦労していたほかの留学生仲間と一緒に授業後に勉強する時間を設けるようにした。(point3)そのグループはだいたい 12 人ぐらいで、毎日集まって6時間ぐらいは勉強するようになった。1 年生の間に取得しなければならない単位は、その年に全部クリアすることができた。

初回の実習は難しいという気持ちが強かったが、アルバイトを始めてから介助することに自信が持てるようになっていた。卒業までに合計 5 か所の介護施設で実習をし、記録を書くことだけは難しく感じたが、2回目以降の実習中、嫌な思いや介護を辞めようと思うような出来事はなかった。実習は全体を通して、楽しくやり遂げることができた。

介護のアルバイトを始めて、先生たちからいつも応援してもらって、自分のなかで少しずつ大丈夫だという気持ちになっていった。先生から介護のアルバイトを紹介してもらって、本当によかった。そのころから卒業というゴールが少しずつ見えるようになってきた。介護施設でアルバイトしながら学校で勉強することは本当に役に立つ（point2）ことだと感じている。

私の国では両親や祖父母をはじめ、経験を重ねたお年寄りの方々を尊ぶという考え方が根付いている。幼いころから祖父母や近所のお年寄りと挨拶したり話したりすることが多かったこともあって、国にいた時から日本語を教えてくださっていた先生が介護の仕事をしたらいいと勧めてくれたのかもしれない。現在、私の国では介護という職業は数が少なく、年老いた両親や祖父母の世話は家族が行うことが当たり前のことになっている。来日当時、何か仕事がしたいという気持ちはあったものの、どんな仕事に就けばいいのかまでは、考えなかった。これまで出会ってきた先生方の勧めや励ましの声もあって、今では、A 専門学校を無事に卒業し、介護福祉士として働いている。

（3）学校生活について

① 学習状況（授業への理解度やわからないときの対処法など）

授業中わからない言葉があったら、その場で先生に質問するようにしていた。それでもまだ理解できていないときは、授業以外の時間に職員室へ行って、先生に質問したい場所を示して質問を繰り返した。先生はと

てもゆっくり話してくれて、私がわかるまで何回も丁寧に繰り返し、説明をしてくれた。

もちろん先生だけではなく、勉強や書類を書くときにわからない場合は、まず、日本人の仲間に聞いたり、助けてもらったりしていた。(point3)

② クラスメイトとの関係（授業以外のイベントや日頃のコミュニケーションなど）

私が学生だった 2 年間は授業以外に特別な行事やイベントというものがなかったが、毎日の学校生活で、日本人学生・留学生問わず誰とでも一緒にいろいろな話をして過ごした。「テストがたくさんあって嫌だよね」などといったネガティブな話をしていたというよりは、実習で経験した嬉しい出来事などのポジティブな話題が多かったと記憶している。私の場合、同じ国出身の留学生が一人もいなかったので、自分の国の言葉で話すということはなく、日本語だけで話していた。

日本人学生はみんな試験を 1 回で合格していた。わからないことは、よくわかっていそうな日本人学生にも聞くようにしていた。そのなかでも、日本人学生の一人とはすごく気が合って、今でも時々会っては、あちこち遊びに行く関係が続いている。

私と同じように試験が難しいと言っていた留学生の仲間は、私と同じように一緒に勉強するなかで少しずつ大丈夫だと思えるようになって(point3)、私と一緒に勉強した仲間は誰も学校を辞めることなく、全員無事に卒業をした。現在 E 県内の介護施設で、それぞれ介護福祉士として活躍をしている。

③ 生活状況（学校以外での生活の様子、予習や復習、自宅学習の取り組みなど）

長期休暇に帰国することはなく、資格外活動として長期休暇中に認められている週 40 時間までアルバイトをして過ごしていた。

学校以外の自宅などで予習復習する時間はあまりなかったが、授業後に留学生仲間と勉強会をしていたことで、無事に単位取得ができたと考えている。

④ 相談窓口について（知るきっかけ、利用頻度、満足度など）

勉強のことや生活のことで困っていることは、F 先生が一番相談できる先生だった。F 先生は厳しいところも少しはあったが、合格しなければいけない試験が近づくと、「この辺りを覚えたらテストに出るかもしれないよ」とか「ここを勉強したら、この設問に答えられるよ」と具体的でとても丁寧に勉強の方法を教えてくれたり、助けたりしてくれた。

F 先生は学生に対して『仲間』として接してくれていて、何でも話しやすかった。距離の近さを感じた。私のような外国人に対しても言葉の壁を越えて、心を感じることができる人だった。こうした F 先生をはじめ多くの先生がいつも応援してくれたので、私はがんばりたいという気持ちをずっと維持することができて(point4)、学校を卒業したら介護現場で働きたいと思うことができた。

事例のポイント

Point1 介護福祉士養成校の理解

・入学前に自分が思っていたよりも、介護の勉強がすごく大変だった。言葉の壁が大きく、テストの再試科目も多いことが「辞めたい」気持ちにつながった。

Point2 介護施設でのアルバイト

・飲食店でのアルバイトから介護施設でのアルバイトに変えた。学校での勉強に役に立ち、自信につながった。

Point3 留学生仲間の存在

・勉強が難しいと感じていた留学生仲間とは、放課後に一緒に勉強会をした。徐々に「大丈夫だ」という気持ちに変化し、全員卒業できた。

Point4 先生からの励まし

・多くの先生が、いつも応援の声掛けをしてくれたことが、「頑張りたい」という気持ちの維持につながった。

2-1. B 専門学校　学校事例

（1）養成校及び教員基礎情報

項目	内容
学校種別	専門学校
教員数及び体制	専任教員4名、非常勤講師は25名ほど
定員数及び入学者数	学年定員60名に対して62～63名程度の入学者
過去5年の退学者状況	数年前まで6%程度の退学者がいたが、現在、４%程度。
奨学金受給者の割合	１割程度の主に留学生、3～4名程度の日本人学生が就学資金貸付金制度を利用。 もう1割程度の学生が返済義務のない民間の奨学金を利用
過去３年の国家試験合格率	R3年:約85%、R4年:約80%、R5年:約90%
教員歴及び教員になった経緯	・専任教員歴9年。 ・養成校を卒業後、13年介護現場に従事。その間に施設側での実習指導を経験し、より多くの若い世代に介護の魅力を伝えたいと思った。 ・介護の仕事が好きで誇りに思っている。
教員として大切にしていること	・高度なレベルの専門知識も教えられるよう、教員自身が常に自己研鑽に励むこと

（2）途中退学等防止に向けた養成校全体の取り組み

① 入学時の選考で重視していること

入学の選考は面接を主とし、書類選考としており、筆記試験は行っていない。面接というと入学希望者が身構えてしまい、自分の言葉で言えない環境になりがちだと考えている。そのため、当校では面接ではなく面談という形で、入学希望者がフランクに話せるように工夫している。

入学願書の受付と選考は前年度 6 月から始まり、同時に、入学予定者の不安（対応）シートを作成している。これは、本人からの申し出や面談中に学校側が気になった入学予定者の特別に配慮したほうがよい点をまとめたもので、3 月の入学者確定時期まで更新され続ける。入学のための面談対応をする広報担当者が主に作成し、教務主任がそれを全てチェックしている。

そのチェックシートを参考に、教務主任は、入学前に必ず入学予定者全員に 1 度はヒアリングを行う。ヒアリングの際に、そのシートと見比べて、ミスマッチがないかを確認する。このシートの他に入学者全員に対して「希望配慮表」というアンケートも実施しており、当校に入学するにあたって希望する配慮項目など事前に伝えておきたい場合は、記載してもらっている。その中で具体的に希望する配慮が上がってきた学生に対しては、高校の先生に電話で在学中の様子を聞いておくという仕組みを作っている（point1）。

② 学生の相談窓口の周知方法及び活用例

まず、窓口としては各担任へ相談する形になっており、全クラスの副担任を教務主任が担うという立ち位置にしている。学生に対しては、担任もしくは副担任どちらに相談してもいいと周知している。

学生のちょっとした変化に気づいたタイミングで担任と学生一対一での面談があり、この第一段階で退学

希望やこの先が不安だなどの相談があった場合は、次の段階となる。第二段階としては、教務主任が加わり、学生本人と担任の三者で面談を実施する。さらに、より具体的に退学等の相談になってきた場合には、第三段階として、保護者も呼んで四者面談を実施する。

相談の内容に応じて三段階の流れがあり、面談のタイミングや誰が対応するかという点も詳細に設定している。(point2)以前は、少し座って学生と話をしただけで面談だと捉えることもあった。そうではなく、面談記録をしっかり残し、行った事実を残す仕組み作りを再構築し、これまであった相談の流れを強化した。

この背景には、担任一人に学生対応の責任がかかってしまうのは違うという思いがある。担任だけではなく、全ての教員が学生を見ているという態度で関わりを持つことで、学生も当校を選んでよかったと思え、多くの先生が関わってくれているという実感が持てる。(point2)

全ての教員が自分事として学生に関わろう、関わってほしいという考えから、仕組み作りの再強化を行った。この仕事はどうしても担任に負担が重く掛かりやすく、そのことで学生との関係性がこじれてしまっては、本末転倒だとも思っている。担任がメインで学生を見てはいるが、それ以外の教員でも学生をサポートしていこうという体制が、学生にとっても、教員にとっても必要だと思っている。まだまだではあるが、そうした思いで相談体制の再構築を行った。

③ 学生の状況についての情報共有の方法(教員間および保護者)

毎週、職員会議を開催し、必ず各担任から学生の情報を共有する時間を設けている。そこでは退学の事案だけではなく、例えば、遅刻や休みがち、あるいは、友人関係のトラブルなど何でも気になる点を、学科全体で必ず共有している。学生のモチベーションを上げるための声かけや対応の仕方、保護者への報告方法や連絡状況についても専任教員全員が同じように関われるように情報共有しており、専任教員4人はどのケースにおいても同じ回答ができるぐらいになっている。

こうした情報は各科目の非常勤教員にも共有しながら、専任教員が授業中や休み時間に学生の様子を見たり、各科目の先生方にも見てもらったりしている。こうした形で毎週学生の情報を共有しつつ、さらに気になった学生には、教務主任から個別にアプローチをするという流れで進めている。

保護者との情報共有については、相当な頻度で連絡を行い、関係を強化している。授業や実習での遅刻や欠席が目立ってきている。あるいは、テストの結果、友人関係など保護者へ逐一電話で伝えている。

④ 学校生活への支援体制(学習面・生活面)

当校へ着任してからの4年間に学生が退学した理由のほぼ100%近くが実習である。学校で学んでいることと実際の介護施設で行われていることとのギャップにショックを受けて学校を辞めるという学生が多かった。

こうした事案を防ぐため、介護施設で実際に行われている介助は、基本と応用を使用し一人ひとり利用者の状況に応じた介助をしている。学校は基本で、その応用が現場だということをまずは理解し、実習へ行こうと学生に向けて話している。学校で学んでいることと実習先で学んでいることが一見違うように見えたとしても、基本がありそこに繋がっているという理解を学生にしてもらうことを第1にしている。

そうすると、「実習が嫌だ。次、行きたくない。」という学生も納得して実習にまた行けたり、退学しないという選択をする学生も出てくる。実習に対するギャップからのショックに対する基本的な姿勢としては、学生にしっかり実習の意義や目的を落とし込むことが先だと認識している。(point3)

実習先の施設に対しては、実習区分によって、学生に提供して欲しい実習内容を事前に伝え、実習に行くまでの授業の進捗状況も共有しているため、習っていないことを全面的に実習で行うような状況は防

げているだろうと思っている。

実習施設で学生ができない事柄に関しては、施設の指導者の判断で繰り返し教えていただく。もしくは、あまりにも学生ができないときには、その理由を添えて一旦中止という判断を実習先の施設に委ねている。

実習施設の職員と今の学生との世代の違いによる価値観のギャップは、正直ないとは言い切れない。実習指導者講習会を最近受講され、介護過程をしっかり学んでいる実習指導者は、実習中に学生が取り組む課題である「介護過程の展開」に指導が手厚かったり、理解がある印象はある。

当校では毎年、実習後に学生へ実習施設に関するアンケートを実施し、学生がより意欲的に実習へ取り組めるため実習指導者への学生のサポート方法などを、実習施設とその指導者に向けフィードバックする時期を設けている(point3)。こうした取り組みによって、わずかな変化ではあるが、これまでの教育方針とは違い、今の学生に合わせた指導を実習施設でもしてくれるようになってきた。実習施設がそうした学生の生の声を聞くことで、今の学生が求めているところや教育方針に合わせてくれていると思っている。

学生が実習に行った施設のなかには、あまりにも実習生にとって酷である施設はいくつかあるので、教務主任が実際に施設へ訪問をし、直接フィードバックをしたり、少し期間を置いてから再度実習施設として依頼することにしている。

入学選考時に筆記試験は実施せず、主に面談だけで入学してくる学生のなかには、真面目に自分で勉強ができる学生もいればそうではない学生たちもたくさんいる。学生間の学力の差に関しては、勉強ができ自走できる学生たちにはそのレベル感に合わせて、より多くの専門的知識を教えてあげたい。多様な学生を受け入れる当校では勉強が苦手な学生や留学生に対しても言葉を置き換えていきながら指導していくことが教員側には求められるスキルだと思っている。

(3) 日本人学生 G の事例より

① 退学の予兆を把握したきっかけ

G は通信制高校に通っていたこともあり、入学当初から毎日の登校自体が難しいだろうと考えていたが、1 年生の時は登校できている状況だった。1 年生の間に実施する 3 回の実習についても、G は無断で遅刻や欠席することはなく、1～2 回目の実習はそつなくこなせていた。10～11 月にかけて実施する 3 回目の施設実習では、学校での振り返り授業のなかで、初めて少し大変だという感想が出てきた。

2 年生の 5～6 月には、当校の実習カリキュラムのなかでは一番長期間となる 4 回目の実習が始まる。G の実習施設の選定にあたっては、実習 3 回目での G の発言について少し心配はしつつも、夜勤シフトを考慮して、自宅からの通いやすさを最優先事項とした。

実習先の施設も決まり、事前指導では遅刻や欠席の場合は学校と実習施設に必ず連絡することを繰り返し伝えているしかし、4 回目の実習が始まる前頃から、G は教室の席に座っていなかったり無断欠席という状況が出始めていた。

4 回目の実習開始後、実習巡回担当の教員から G が実習に行けていないという情報が入った。実習指導者からは実習に来てはいるけれども初日と様子が違うという話があった。そして、実習に来ていないという連絡が入った。

すぐに G へ電話連絡すると、実習に行くのが怖いという話が出てきた。4 回目の実習施設は介護度の重

い利用者が多く、本人はまだ身体介助が上手くできないのに、どんどんやらされ、それができないことをすごく責められており、学校の授業のなかでは介護度の重い場合の身体介助は十分に練習していけない現状もあるなかで、本人は身体介助をすることが怖くなったことが聞き取りでわかった。

そうした状況下において、G にとって実習先の施設に行くこと自体が職員との折り合いも含めて困難な状況となり、身体的な不調まで出始めてしまっていた。実習が継続できる状況ではなくなっており、20 日間予定していた実習のうち 1 週目で実習へ行けなくなってしまった。

この実習施設は当校の卒業生が継続して就労していることから実習の受け入れも大丈夫だろうと判断したが、ここ数年実習をお願いしておらず、事前の施設ヒアリングが少し不足していたと、今振り返ってみれば考える。巡回指導のスケジュールについても、G の巡回指導は 1 週目の後半に予定されていたことから、実習施設の指導者からの一報を受けた後に実習担当教員が G に電話で話を聞いたことで、実習先へ行けていないということがわかった。

こうした状況は学校だけでは気づけなかった部分でもあり、実習先から連絡があったことで無断欠席や遅刻があったことがわかり、これはもう今すぐに対応しなくてはいけないと判断した。その日のうちに G と電話で話をし、ご家族がその事実を把握されているのかという確認も含めて、本人と保護者それから実習巡回担当教員と教務主任の四者で面談を実施した。

② 退学防止に向けた相談の経緯・過程

四者面談の際、保護者である母親は G について、本当に自分の気持ちをしゃべらない子で、大変だと本人が気付いても、それを一切言わない子だと話してくれた。そんな G が今回の 4 回目の実習のときには、初めて、(実習が)きついと話し、母親としても、すごく心配していたことがわかった。

実習での経験から、学校を辞めたいところまできていた。その状況で無理に実習に行かせることは良くないことだという点は、その四者面談の場での全員一致の意見だった。実習時期をずらし落ち着いたときに行けるようになればいいという結論に至り、他の学生が実習に行っている期間は自宅でじっくり考える時間とした。他の学生たちが 4 回目の実習を終え、授業が再開する時には通常通り G も登校をした。

4 回目の長期実習が明け授業が再開される 7 月には、最後の実習となる 5 回目の実習が行われる。最終実習は学生自身が希望する施設や事業所を自ら選択して実習をするが、G の場合は実習には行きたいという気持ちにはまだなっていなかったため、学校側が同一法人内で身体介助が少なめの施設で、これまでにも様々な学生を指導した経験がある信頼のおける指導者がいる実習施設を選定した。(point4)

5 回目の最終実習先の施設へは、G の 4 回目の実習が中止になった経緯を詳しく伝え、当校の教員と実習先の指導者で細かく打ち合わせを行い、

実習方針を個別に合わせながら、G の最終実習が終了できるだろう環境を整え、実習に臨ませた。(point4)

この 5 回目の実習 2 週目の巡回指導へ行ったとき、G の顔の表情が、4 回目の実習が中止になって以降と比べてまるっきり 180 度違っていた。G から実習は楽しいという声が聞け、実習施設の職員が G のいい点を本人にフィードバックしてくれていた。G もそれに対してすごく嬉しそうで、やりがいを感じており、実習へ来て良かったということを本人が実感していることが窺えた。このタイミングで、この様子であれば、大丈夫だろうと専任教員 4 名全員が感じることができた。実習施設の職員のおかげで、G は学校にいるときよりも声が大きく、利用者とハキハキ話している様子も見られた。

この 7 月の実習後に本人へ心境を聞いたところ、再履修となる 4 回目の実習もできそうだとの返事だっ

た。G が無事に実習を終えられるように、学校側では実習巡回の担当教員を誰にするか慎重に話し合いを重ね、準備を整え、G を送り出した。

四者面談後の保護者へは、実習の開始や終了時期などに合わせて、こまめに進捗報告を電話でした。

③ 卒業に向けた支援体制へ

介護福祉士を養成する当校としては、本来、就職活動を続けるにあたって、介護現場での就労先を紹介するのが当然ではあるが、どうしても介護福祉士として介護現場で働くのが嫌なら、他の就職先でも構わないということは、一つの案として学生へ提示している。

しかし、G は実習を全て終え就職活動をするなかで、介護福祉士として働くことを本人が決めてくれた。当校としては、彼が介護現場で働くことに向いていると考えている。G 自身も自分の適性をよく見極めながら、訪問入浴の会社に就職することが決まった。

事例のポイント

Point1 入学前からの学生把握

・入学予定者へ学校に配慮して欲しい事柄をアンケートにて把握。それとは別に「不安（対応）シート」を作成。適宜、出身高校の先生と連携したり、入学前に入学予定者全員のヒアリングを実施。

Point2 相談体制の構築

・相談内容に応じた三段階の面談体制を構築し、学校全体として学生に関わる。

Point3 実習でのつまずき防止

・実習前の実習意義、目的について丁寧に授業。

・実習後に実習施施設、事業所について学生向けにアンケート実施。結果を実習施設、事業所にフィードバックし指導の改善に役立ててもらう。

Point4 再実習に向けた入念な準備

・前回の実習中止となった要因の把握、その後の学生の意欲も含めた状況把握と再実習先選定への反映。

・再実習先との丁寧な打合せ

2-2. B 専門学校　事例【　実習中止を乗り越えた日本人学生　】

（1）学生の基礎情報

項目	内容
年齢/入学前の最終学歴	・ 20歳 ・ 同じ系列の通信制高校を卒業
入学の動機	・ 就職か進学か迷っていた高校生の時、姉妹校であるC専門学校のパンフレットが置いてあるのを見て、資格取得後に就職したほうがいいかなと思ったから。 ・ アルバイト先のスーパーにお年寄りのお客さんがたくさん来ていて、お年寄りの人と関わる仕事もいいなと思ったから。
この学校に決めたきっかけ	・ 通信制高校の姉妹校だったから。
学校の成績など	・ 実習での経験が大変だった。
奨学金受給の有無	・ 利用していない。
アルバイト経験	・ 高校生のころからスーパーでアルバイトをしている。 ・ 卒業後の就職先が決定して、現在はそのアルバイトを辞めた。
授業科目について	・ 得意科目：演習系の科目 ・ 苦手科目：暗記系の科目
国家試験合格にむけた意欲	・ 自己採点の結果は合格圏内だった。あとは結果を待つのみ。

（2）日本人学生 G さんの事例より

① 退学をしようと思ったきっかけ

通信制高校に通っていたので、入学したら毎日時間割がぎっしり詰まっているのが、すごく大変だった。その中でも一番退学したいなと思った理由は、自分が思っていた介護というものと実習で実際に行われていることを見て、ギャップを強く感じたからだ。(point1)

初めての実習の時から少し大変だなと思いながらも、2 回目の実習から利用者さんと直接関わることも多くなり、具体的に介助などをやるようになってからは、どんどん大変な気持ちが出てきていた。自分が思っている以上に、介護の仕事は大変だなと思うようになった。 僕が就職して働くことが本当にできるのか。職員さんのように働くことが続けられるのかと思い悩みながらも、大変だけど頑張ろうと思って続けていた。その間は誰にも相談することはなく、自分で抱え込んでしまっていて、後半の実習の時に気持ちがいっぱいいっぱいになり、4 回目の実習は一旦中断することになった。

今思えば、もっと早く相談しておけば、気持ちも楽になっていたのかなと思う。

② 退学を思い悩んでいたときの状況について

学校に入学する前までは元気なお年寄りの人しか見たことがなく、テレビで重度の障害がある人を見たことがあるかなという程度で、実際に介護現場を見たことはなかった。(point1)

そのこともあってか、最初のころの実習では、利用者さんと積極的に話せなかった。特に認知症のある人との関わりが、本当に難しいと感じた。普通にコミュニケーションしようとしても通じない。どんなにその人のことを思って話しても、自分の思いが伝わらない。介助することももちろん大変だが何回もやればうまくなっていく。それ以上に、フロアにいる 10 人ぐらいの高齢者は本当にいろいろな個性や病気の人がいて、そういう人たちとどう関わればいいのだろうと思った。そこが一番大変だった。

職員さんからは、自分からどんどん利用者さんに話していこうとアドバイスをもらった。その通りにして話

してみたが、会話が続かなかったり人見知りの性格が出てきたりして、利用者さんと気まずい感じになってしまった。

一度そういう経験をすると、自分から話せなくなってしまっていた。同じ職員さんから、会話に詰まってもいいし、他愛もない話でもいいから、隣にいるだけで利用者さんは嬉しいものだと教えてくれた。そのとき、僕は利用者さんと特別な深い話しをしなくても、何か些細な会話でいいのだと思うことができた。

それから、会話するとき、緊張せずにリラックスして話しが続けられるようになった。利用者さんと話すとき、すごく肩に力が入っていたが、そんなに身構えなくてもいいというアドバイスをもらった。

2 年生の 5～6 月にかけて実施される 4 回目の実習では、一旦中断となった。その際、四者面談で先生方が僕の気持ちをすごく聞いてくれて、相談に乗ってくれた。(point3)そのときは気持ちもとても落ち込んでいて、他の学生が実習をしている間、一度じっくり考える期間を設けてくれた。(point2)その間、大変だけど資格を取って、この学校を卒業して就職して頑張りたいという気持ちが少しずつ出てきた。

他の学生が実習を終え授業が再開するタイミングで僕の考える期間も明けた。実習を中断し、休み明けにすぐ実習が再開されていたら、実習というトラウマで、またしんどくなっていたと思う。そうではなくて、学校での授業を挟んで、少し期間を置いてからの実習再開という流れだったので続けることができたとも思う。

気持ちに一番変化が起きたのは、1 人の利用者さんの想いを聞いたり、その方の一番の理解者になるために情報収集してアセスメントをしたりして、頑張ったころからだと思う。

利用者さんと初めましての関係から、お互いの関係性を築く。その方から孫のようにかわいがってもらい、そういう経験がすごく嬉しくて、何かやりがいというか、もっと次の日は仲良く、もっと親しい関係になれたらいい、次はこういう話がしたいなという気持ちになった。介護には、こういうやりがいがあるのだと思った。

③ 卒業をしようと思ったきっかけと現在の心境について

一度じっくり考える期間に、気持ちの整理がついた。自分でも介護実習を中断したことに対して、もっと頑張れたのではないかという後悔があった。でも本当に実習がすごく大変で、学校を辞めたいという思いもあった。一度休んでじっくり考える期間がもらえたから、今、続けられるようになったと思う。(point2)

そういう休みの期間が終わって、学校での授業を一度はさんで、次の実習を再開することはすごく不安だったが、学校と深く関わっている施設だったこともあり、職員が親切にしてくれた。これまでの実習施設の職員よりも、本当にゆっくり、自分のペースに合わせて、一から教えてくれた。僕が困っていることをすぐ理解しようとしてくれたので、自分のペースでやれた。いい意味で、力まずに実習に臨むことができて、介護の大変さとやりがいについて、再開した実習施設では一番感じられた。この経験があったから、学校を続けようと思った。

実習は全て特別養護老人ホームで、すごく大変な思いをした。実際の施設の雰囲気や働き方は、自分には無理だなと思っていた。

実際に働くところはいろんな種類の施設があると先生に言われていた。就職活動中、学校であった就職説明会に訪問入浴の会社説明があり、興味を持った。気になる施設を一度先生と見に行って、先生が僕の気になっている施設を調べてくれた。就職先を決める時期にも、先生が会社のホームページから説明会があることを教えてくれたり、面接練習も手助けしてくれたりした。本当に手厚くやってくれた。特養は 10 人ぐらいの利用者さんと関わっていくが、訪問入浴は自宅へ訪問して利用者さん一人だけと面と向かって関わるので、そういうところがいいと思った。4 月からは、訪問入浴の会社に就職が決まっている。

（3）学校生活について

① 学習状況（授業への理解度やわからないときの対処法など）

通信制高校の時は時々通学すればいいぐらいだったので、専門学校の授業は毎日びっしりだったので、単位が取れる範囲内で時々欠席していた。欠席した場合でも、授業の冒頭で、前の授業の振り返りをやってくれる授業が多かったので、それで内容を把握することができた。

演習系の授業は今までやったことがなかったので新鮮で楽しかった。座学の授業は、高校の時の授業の要領で、問題を解くとかはできていた。一番難しかったのは、心臓や脳などの体の仕組みや介護保険などの制度に関する授業で、すごく難しくて、嫌になっていた。授業でわからない場合は先生に聞いて、暗記系の科目は頑張って頭に叩き込んで精一杯やっていた。

② クラスメイトとの関係（授業以外のイベントや日頃のコミュニケーションなど）

本当に辛いことがあったとき、本音を友達には言えない。冗談っぽく「俺、実習、結構、きついんだよね。」みたいことまでは話せたが、友達に本当に心の中で思っていることを相談するのは、ちょっと話しづらいという感覚がある。

③ 生活状況（学校以外での生活の様子、予習や復習、自宅学習の取り組みなど）

高校を退学して、通信制の高校へ行きなおしたこともあり、両親からは学校を辞めないで頑張ってほしいと言われていた。一度退学の経験をしているし、とりあえず続けるということが大事だと思っている。でも、それと同じくらい続けることは大変だなとも思う。

④ 相談窓口について（知るきっかけ、利用頻度、満足度など）

学校の先生にはじめ相談しようと思わなかったのは、みんな大変だろうけど頑張っているし、大変でも続けていくと決めていたからだと思う。(point3)大変ながらも頑張ることが当たり前のことだと思っているので、実習が中断になって四者面談をするまでは全然相談しようとは思っていなかった。

本音で相談をする相手は、両親や友達よりも先生のほうがいい。とても親しい人よりも少し距離があり、そこまで親しくない人の方が相談できるタイプだ。

それに、先生という立場の人には、何でも頼っていいし、何でも言っていいという気持ちがある。この学校の介護科の先生は全員、一人ひとりの生徒をすごく思い、考えてくれる。休み時間や何でもない時間に、「最近、学校どう？」と先生がちょっと教室を覗いて声をかけたり気にかけたりしてくれる。

先生とのそうした日々の関わりのなかで、この学科の先生ならどの先生でも自然に相談ができて、気づいたら、先生を信頼していたという感覚がある。(point3)

先生には本当に感謝している。

自分から相談しなければ、先生も学生が悩んでいることはわからない。先生と月 1 回ぐらい定期的に相談できる機会があったら、相談しやすいのかもしれない。

事例のポイント

Point1 実習でのとまどい

・自分が思っていた高齢者や介護現場のイメージが大きく違った。

・身体的介護実践がうまくできないことでの自信喪失。

・実習で介護現場を初めてみた。

Point2 自分のペースに合わせた再実習の設定

・実習中断後に考える時間をもらえた。

・再実習施設では、ゆっくり自分のペースをみながら指導してくれ、力まずに実習に取り組むことができた。

Point3 相談するきっかけ

・四者面談で先生方が僕の気持ちをすごく聞いてくれて、相談に乗ってくれた。

・先生との日々の関わりのなかで、自然に相談できるようになっていた。

3-1. C 専門学校　学校事例

（1）養成校及び教員基礎情報

項目	内容
学校種別	・ 専門学校
教員数及び体制	・ 専任教員8名、外部講師は20名ほど
定員数及び入学者数	・ 学年定員80名に対して約40名程度の入学者
過去5年の退学者状況	・ 毎年概ね10%程度の退学者がいる。
奨学金受給者の割合	・ １割に満たない学生が就学資金貸付金制度を利用
過去の国家試験合格率	・ R3年:約30%、R4年:約20%、R5年:約70%
教員歴及び教員になった経緯	・ 教員歴は約20年 ・ 社会福祉系学部で教員免許を取得 ・ 大学院生時代にボランティアとして関わり、その後教員として採用
教員として大切にしていること	・ 先入観を持たない。一人の人間として、しっかりと学生をみること。

（2）途中退学等防止に向けた養成校全体の取り組み

① 入学時の選考で重視していること

留学生に求められる日本語能力は、原則N2程度と言われており、少なくともN3は必要だという基本的な考え方はある。とはいえ、N2取得者の数は少ないのも実情である。

当校の特徴の一つとして、就学資金貸付金制度を利用する学生が少ない。保証人となっている介護施設から学生に対して、就職先を限定させるような要望があるわけではない。入学希望者に対しては、

・「介護の仕事をしたい」という思いを持っていること

・入学後は基本的に介護のアルバイトに就くこと

この2点に重きを置いて、入学時に選考している。アルバイト先を介護施設としている点は、経済面のカバーや介護現場を知るという面もあるが、卒業後、介護福祉士として仕事に就くことを念頭に学業に励んでほしいという考え(point1)に基づいている。当校のこうした考え方については、オープンキャンパスや入試の際に入学希望者へ伝えている。当校の考えに賛同する学生が徐々に集まるようになってきている。

入学時にはN2やN3レベルでなければ駄目ということではなく、介護の仕事をしたいという思いを重視している。当然、入学前の日本語学校での出席率や授業態度などは日本語学校での担当教員ともやり取りをして、「介護の道で大丈夫そうか」と確認を行うこともある。こうした日本語学校との関係については特別な提携校があるわけではないが、全国の日本語学校から当校へ入学してきた先輩や知人の紹介という形で問い合わせがあり、当校からそれぞれの日本語学校へ問い合わせを適時行っている。

今年の入学選考については、日本語の簡単なテストと作文を実施した。介護の仕事は体を動かすだけではなく、記録も絶対に必要なので「作文」を試験科目の一つとして、書こうとする意志をしっかりと判断している。

② 学生の相談窓口の周知方法及び活用例　※事務を担当する先生よりヒアリングを実施

特別な相談窓口を設置しているわけではないが、当校では入学時に北海道や九州など遠方から転居してくる学生が少なくない。転居先の世話から、学生一人ひとりのサポートが始まることが多い。入学後は学費を月々ゆっくり支払える仕組みを取っているので、学費の支払いが滞りそうな学生から個別に「今月はお金がない。どうすればいいか」という相談を受け付けている。

その際には、何でも話しやすい環境になるよう努めている。支払いが困難な状況に対して、はねつけるような対応で行方不明となるケースがかつてあった。こうした最悪のケースを回避するためにも、「何でも言いなさい。まずは一緒に考えるから」とすべてを受け止めることを大切にして、学生相談を行っている。(point2)

居住や学費のほかに在留資格に関する相談も多く、更新時に不明点があれば入国管理局へ電話で問い合わせを行い、それでも不足の場合は学生と一緒に足を運ぶこともある。入学時には何も話はなかったのに、しばらくすると、実は結婚の予定があり家族を呼び寄せたいといった相談もある。在留資格「留学」での家族滞在は難しい場合が多いので、やれる範囲ではあるが、親身になって話を聞くことを意識している。本音を聞き出せているかは定かではないが、教員とは違う立場で、主に生活面の相談を受けることを役割とし、学生がざっくばらんに話せる雰囲気を心掛けている。(point2)

③ 学生の状況についての情報共有の方法(教員間および保護者)

生活支援技術に関してはチームで教えているので、チーム内での情報共有は常に行っている。それ以外の座学中心の科目については、各自教員に任せているのが実情である。国家試験対策については連携を取っており、毎週の定例会議がその場となっている。

学業以外の生活面での情報共有については、各学年の担任で止まってしまうと、いつの間にか気がついたころには解決困難となる場合が、しばしば起きる。過去のこうした経験からも、全教員で問題を共有しチームで取り組んでいく(point2)ことを、この 2～3 年で徹底するようになってきた。具体的には、何か動きがあれば毎日の朝礼で連絡をし、月次の会議で情報共有を行うこととしている。

保護者との連絡については、留学生の場合ほとんど皆無ではあるが、グループ法人に勤めている日本語が流ちょうな当校の卒業生に協力を仰いでいる。留学生の日本語能力では詳細の把握が難しい場合、やはり、母語でのやりとりは必要なので状況に応じて、お願いしている。(point3)

④ 学校生活への支援体制(学習面・生活面)

養成課程数 1,850 時間以外に「日本語学習」や「日本文化学習」という科目を設置している。当校は基本的に 12 時 40 分で授業が終わるので、そのなかで独自科目も終わらせるようにしている。日本語能力のレベルは学生によってかなり差があるので、初中級、上級といったレベル設定が必要だということが最近分かってきた。発展させるべきだと考えている。

日本語以外には、国試対策、レクリエーションや演習、長年力を入れてきた介護予防にかかわるフットマッサージなどのフットケアの授業に取り組んでいる。入学当初は言葉でのコミュニケーションが難しいので、演習系の体を使う授業は取り組みやすく、初期の段階で取り入れていくと、学生も面白く勉強していくきっかけになると考えている。

個別面談については、学期ごとに 1 度実施することを基本としている。気になる学生については、直接電話したり自宅訪問したりする場合もある。

病気の場合は、状況に応じて担任教員が付き添う場合もある。最近は自転車事故がとても多く、自転車事故に関する保険加入が必要なほど件数がある。保険に加入していることは安心材料にもなるが、事故が起きた場合の調書作成や代理店とのやりとりなどは、フォローを行っている。

（3）留学生 H の事例より

① 退学の予兆を把握したきっかけ

入学して 1 年が経過し、2 年生になった 5～6 月ごろに体調不良があり、休みがちになっていた。個人面談をしたところ本人から妊娠していることの申し出があった。8 月ごろには体調が安定し始めたことから、本人の学業継続への強い意志を確認することができた。

② 退学防止に向けた相談の経緯・過程

学生が、在学中に妊娠するケースは、初めてではなかった。留学生を受け入れ始めた最初の頃は、いくつかあった。妊娠しても実習の時期をずらして卒業できた学生は、これまでに 2 名いる。ちなみに、この 2 名も H と同じように「卒業をして介護の仕事をしたい」という強い思いがあった。その背景には、当時アルバイトをしていた介護施設が本当によくしてくれていたことが大きいと当校では考えている。出産を控えていた際の休みやアルバイト中の働き方にも配慮があったようで、こうした経験から「ずっと長く介護の仕事がしたい」という気持ちが芽生え、その結果として「学業を継続させたい」という強い思いに繋がったのではないかと考えている。

だが、多くの留学生は、家族滞在という在留資格で日本に居られることがわかると退学をすることが、ほとんどとなる。また妊娠・出産に限らず、結婚を機に退学というケースも多い。

H と当校との話し合いの流れは、次のようになる。まず、体調不良が続いて学校を休みがちになっていたことから、当校は個人面談を実施した。その際、本人から妊娠したことの申し出があった。体調が思わしくないこともあり、当時、本人は帰国をして出産することを想定していたが、日本で一緒に生活していたご主人は、日本での出産を勧めていた。そのため、学校側としては夫婦間での話し合いの結果を見守る期間となっていた。

その後、夫婦間での話し合いの結果、H は日本で出産することを決意し、休学や復学という方法については先輩から情報を得ており、当校で改めて話し合いの場が設けられた。

「妊娠」というケースは学内だけで解決できる問題ではなく、外部との関係が大きい。(point3)出産後の赤ちゃんの世話は誰がするのか。誰もいなければ、H の学業継続は困難であったに違いない。幸い、H のご両親はまだ高齢ではなく、経済状況がひっ迫しているような家庭ではなかった。そのため、H は出産後のわが子の世話を母国の両親に託すことを決心し、復学後、介護福祉士として日本で働くことを強く希望した。

当校としては H の希望を一番に尊重したいという想いがある一方で、本人が学業継続を強く希望しても、在留資格「留学」での更新は認められない可能性があることを、事前に H へ何度も丁寧に話を繰り返し、理解してもらうことに努めた。(point3)そうした当校からの話し合いに対して、H は在留資格更新が叶わない場合も出てくることを承知のうえで、それでも勉強を継続させたい気持ちに変わりはないと申し出た。

③ 卒業に向けた支援体制へ

1 年間の休学を経て、現在、H は復学を果たした。とは言え、入国管理局からは今でも在留資格「留学」の更新が必ずしもできるとは言われていない。場合によっては更新できない可能性があることもH本人へ知らせ、次の在留資格の更新時期までにはまだ 4 か月ぐらいあるものの、早めに必要書類を準備するよう助言をしている。Hが更新に関して不安な点が出てくれば、いつでも相談にのれる体制を取っている。

約半年間母国へ帰っていたこともあり、日本語能力には課題が大きくなった感もあるが、卒業に向けて介護のアルバイトは週 22 時間ほど励んでおり、学校も休まず登校している。介護施設での利用者とのコミュニ

ケーションが好きだということもあって、日本語能力は少しずつ上達していくことが期待される。

事例のポイント

Point1 入学選考時に重視していること

・「介護の仕事」への意欲と入学後は介護施設でアルバイトすること

・卒業後に介護福祉士として仕事につくことを念頭に学業に励むことを期待。

Point2 相談体制の整備

・経済的な相談、在留資格に関する相談など何でも相談するよう、学生には常々言っている。

・過去の反省から、全教員で問題を共有し取り組むというチームで関わることを徹底。

・教員とは違う立場で、主に生活面の相談を受けることを役割とし、学生がざっくばらんに話せる雰囲気を心掛けている。

Point3 関係者との協力

・家族、必要な機関への確認。

・本人が置かれている状況を丁寧に、繰り返し説明。

3-2. C 専門学校　事例 【　妊娠・出産を経て復学を果たした留学生　】

（1）学生の基礎情報

項目	内容
年齢/入学前の最終学歴	・ 24歳。出身国で高等学校を卒業後、国内の日本語学校に2年間通う。
出身国/日本語能力	・ ベトナム、N4程度
入学の動機	・ 将来、両親の介護もできるようになるし、介護の仕事は安定している。日本で長く働きたい。
この学校に決めたきっかけ	・ 知人からの紹介
学校の成績など	・ 科目によっては、本試～補講～再試で合格という場合もある。
奨学金受給の有無	・ 利用していない。
アルバイト経験	・ 日本語学校のときから、介護施設でアルバイトをしている。 ・ 現在、２つ目の施設で、主に夕食～就寝介助のアシスタントをしている。
授業科目について	・ 得意科目：生活支援技術（演習中、体を動かすのが好き） ・ 苦手科目：社会の理解（介護保険など専門用語が難しい）
国家試験合格にむけた意欲	・ 合格する自信はないが、がんばって合格したい。

（2）留学生 H さんの事例より

① 退学をしようと思ったきっかけ

2年生になって6月ごろに妊娠していることがわかった。体調も悪くなって、学校を休みがちになってしまった。それで、退学したほうがいいのかもしれないと考えるようになった。(point1)

② 退学を思い悩んでいたときの状況について

まず、妊娠したことは夫と二人だけで話し合い、今後についてもたくさんの時間を使って、何が一番いいのか話し合った。親しい友人はいるが、このことを相談するのは主に夫とだけで、あとは母国にいる家族と話していた。

そして、体調が悪くなり学校を休みがちになった頃、学校から個人面談の話があった。その際に、自分から妊娠したことを伝えた。学校の先生は丁寧に話を聞いてくださったので、今後どうするかは家族でよく話し合った。休学や復学という制度があることは知り合いの先輩から聞いていた。(point1)し、体調が元通りになった頃には、学校で勉強をしたいという気持ちが強くなったので、その制度を利用したいと学校へ相談することにした。

休学する場合は、資格外活動として認められているアルバイトができなくなることを知らず少し驚いたが、その理由をしっかりと学校が教えてくれたので納得した。(point3)

妊娠 6 か月目あたりで 1 年間の休学生活に入り、出産までの約 4 か月間は日本で過ごした。アルバイトができなかったので生活は少し大変だったが、長い将来のことを考えれば、今は仕方がないことだと思って、国にいる家族から仕送りをしてもらったり、これまで貯めたお金を取り崩したりして、生活をした。日本で出産を経験したあと、一時帰国をして、残りの休学期間中は母国で両親らと赤ちゃんの世話をしながら過ごした。その間に、学校を辞めようという気持ちになることはなく、学業を継続させるという気持ちに迷いはありませんでした。

③ 卒業をしようと思ったきっかけ

出産を無事に終え、国の両親に子どもを託すことができて、再び介護の勉強をすることができるようになっ

た。

学校の先生からは、今でも在留資格「留学」の更新が必ずできるとは言われていない。もしかしたら更新ができない可能性があることも知らされている。そのため、次の更新までにまだ 4 か月ぐらい時間はあるが、学校の先生が早めに必要な書類の準備をするようにアドバイスをもらっている。更新に関して少し不安があることも事実であるが、在留資格の更新が無事にされるように、毎日学校へ行って、介護のアルバイトも頑張っている。

私は幼いころ祖父母と暮らしてきた経験があり、いずれ老いていく両親の世話もできる介護の知識や技術を学びたいという強い思いがある。初めて経験した介護のアルバイト先で施設の職員さんがとても親切だったし、利用者さんと話したり介助したりすることは、とても楽しいことだと思った。(point2)介護の仕事をすることは、私にとって一番向いている職業だと思っている。

学校で勉強した体位変換の方法やフットケアなどの授業は、今のアルバイト先でもとても役に立っている。学校で習ったことが将来の仕事に活きることがわかっているので、私は、この学校を卒業して、介護福祉士として日本で長く生活がしたい。私が介護の学校を卒業して介護福祉士として働けるようになったら、日本で長く生活もできる。安定した仕事に就くことが生活をしていくうえで、何よりも一番大事なことだと考えている。

(3)学校生活について

① 学習状況(授業への理解度やわからないときの対処法など)

「生活支援技術」などの演習系科目は、実際に見ながら学ぶことができて、先生の教え方も優しくて、とても楽しい。実習中も、いろいろな介助方法を教えていただけるので、身体を動かしながら、見てわかるという経験は楽しい。一方で、「社会の理解」や「認知症の理解」は難しい。介護保険の仕組みや認知症の疾患名やその特徴などを理解することは、とても難しい。

授業でわからないことがあった場合は、まず先生に聞きなおしをして、スマートフォンでも調べる。それから、友達にも聞いてわかるように努めている。

② クラスメイトとの関係(授業以外のイベントや日頃のコミュニケーションなど)

通常 12 時 40 分で終わるようになっているので、クラスメイトと話す場面は多くはないが、テスト期間中はテスト範囲について、演習授業の前日は必要な持ち物についてなどの話をしている。授業以外にバーベキューなどのイベントも年に2～3回はあるので、参加している。

③ 生活状況(学校以外での生活の様子、予習や復習、自宅学習の取り組みなど)

学費については、基本的には自分でアルバイトなどをして払っている。休学が明けて、現在は週に22時間程度のアルバイトをしており、もう少し慣れてきたら、就労可能な28時間まで増やす予定でいる。アルバイト先と自宅は 10 分程度と近いが、自宅から学校までは1時間程度かかっている。電車の乗り継ぎも多く、電車の中でテキストを開けて勉強するような環境にはない。それでも、隙間時間にはスマートフォンを使って日本語の勉強をしている。毎日の授業の復習や予習までの時間は、なかなか取れていない。

④ 相談窓口について(知るきっかけ、利用頻度、満足度など)

学費の支払いが遅くなることがあるので、その都度、事務課の先生に相談をしていた。そのことがきっかけで、生活のことで困ったことや悩み事は友だちに話すこともあるが、事務課の先生にも話すようになっていた。

事例のポイント

Point1　自分の体調により退学を考えた

・体調が悪くなり妊娠していることがわかり、退学したほうがいいのかもいしれないと思った。

・先輩から、休学・復学制度があることを教えてもらった。

Point2　介護の仕事へのやりがい

・これまでの介護施設でのアルバイトで、介護の仕事が楽しいと思っていた。

・学校を続けたかった。

Point3　学校の丁寧な説明

・わからないことへの丁寧な説明で理解して納得できた

第６章　まとめ

1. 退学の実態

全国の養成校における入学時人数における卒業者の割合は、9割以上である養成校が42.3%と多いものの、7割未満(13.6%)あるいは7割から8割未満(8.2%)の養成校の割合も高いものとなっており(p25)、途中退学の数は、学校によって差があることがうかがえた。

これら退学している学生の退学理由(学内要因)[2]について養成校に確認したところ、全体では、「知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため」が、『あてはまる(計)』(54.4%)で最も高く、次いで、「医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため」が『あてはまる(計)』(52.3%)と続いた(P46)。一方、これらの退学理由(学内要因)について、これまで退学を考えたことがある学生に対して確認したところ、「他の学生との人間関係がうまくいかなかったため」が、『あてはまる(計)』(35.6%)で最も高く、次いで、「実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため」が『あてはまる(計)』(33.6%)、「実習先において人間関係(対職員)がうまくいかなかったため」が『あてはまる(計)』(33.0%)と続き(p72)、養成校の認識する退学理由(学内要因)と学生が考える退学理由に差が見られた。

また、学生票アンケート調査の結果から、「学外実習の不適応によるもの」も退学要因(学内要因)の一つとなっていることが明らかとなった(P72)。検討委員会では、養成校と実習施設との連携が課題であり、現在の学生の個別特性を踏まえた具体的指導を実習施設に依頼しづらい状況があるとの意見が挙げられた。

2. 退学を防止する要因

(1)養成校の対応等を要因とするもの

養成校の属性別に退学状況等を確認した結果、国家試験に対する個別指導体制を整備しており、専任教員のみで対応している養成校では、入学時人数における卒業者数の割合がやや高い(P87)ほか、途中退学防止等の効果が期待される事柄を半数以上取り組んでいる養成校では、国試合格者の割合も高いことが分かった(P89)。また、養成校の属性別に学生の退学意向等を確認した結果、教員向けの研修や講習を多く行っている学校では、学生の進路変更を要因とした退学意向が低くなっていることが分かった(P141)。専任教員の体制がしっかりと整備されており、学生の学びに対する意欲が高まる授業の工夫や退学防止のための個人面談など相談体制を構築している養成校においては、学生の退学要因が軽減されていると推察できる。

(2)学生の意欲等を要因とするもの

学生のタイプ別に授業等の理解度や満足度・退学意向等を調べた結果、日本人学生、留学生で傾向の違いが見られた。

日本人学生の場合、入学前の介護分野への就業意欲が高く、国家試験合格やキャリアに関する意欲が高ければ、授業の理解度が高いほか、学校にも満足し、退学意向も高くないとする学生が多いことが分かった(P94-P112)。

一方、留学生の場合、日本人学生と比べてキャリアに対する意欲が高く、おおよそ半数の留学生が、経営者やリーダーもしくはスペシャリストになりたいと回答している(P70)。このようなキャリアに関する意欲がある留学生の場合、授業や介護に関係する日本の文化的習慣の理解度が高い(P94-P112)が、同時に様々な退学意向も高い傾向があることが分かった(P113-P136)。

留学生の中には、日本の介護分野でキャリアを積み重ねていくことを希望する方も存在するものの、帰国して経営者などになることを想定している方も存在する。後者の場合、養成教育課程では施設経営などに関する授業内容はあまり見られず、教員が学生からの問いに対して適切な回答ができるとは限らないことが想定される。検討委員会では、母国で大学卒業などのある一定の学歴を有していたり、社会人の経験があったりする留学生も多く存在することから、養成校の授業には満足しない部分がある可能性が示唆された。養成校では、こうしたキャリアに関する意欲が高い留学生に対して、学習サポートや深化した専門性を伝えていくことが重要であると思われる。

---

2 先行研究によると、学生の退学理由には学外要因(学生の経済的事情、家庭的事情等)と学内要因(学校内でのコミュニケーションや教員との関係、学習状況等)が存在する。この点、検討委員会意見により、養成校として退学防止の対策を取ることができる事象は、主に学内要因が主となるとの指摘があり、本調査研究においての退学理由は、学内要因を中心として分析している。

３．退学防止のための考えられる今後の課題について

養成校の認識する退学理由（学内要因）と学生が考える退学理由に差が見られた（前述１．）ことから、養成校と学生間で互いにミスマッチなく、学習を進めていくことができる方策を検討していくことが必要である。具体的なミスマッチとして、本事業で行ったヒアリング調査においては、入学前の介護のイメージと実習で経験した介護とのギャップが大きく、実習が中止になった事例がある（P152-P156）ほか、言葉の壁を乗り越えた留学生も、介助はできるから大丈夫だろうと思って入学したが、入学後の試験科目の多さに戸惑いを覚えたとされる事例もあった（P144-P151）。とりわけ、前述の通り、学生の退学理由（学内要因）に進路変更によるものが多い結果となっていることを鑑みると、今後、入学前と後のミスマッチが生じないよう、入学前に十分な情報提供をし、入学希望者の適切な理解を得るようにするとともに、実習施設とのミスマッチによって途中退学という結果にならないよう、学校での学習と介護現場での実習とで違いを感じる学生の指導やサポートについて、養成校と実習施設でこれまで以上に連携していくなど、今後も対応策を検討していく必要がある。

また、退学理由（学内要因）のうち、教員や職員との人間関係への不満については、養成校側の認識では『あてはまる(計)』(9.5％)であるところ（P46）、学生側では、日本人学生で約『あてはまる(計)』(23.3％)（P73）、留学生では『あてはまる(計)』(45.6％)（P74）と大きな乖離が見られることから、学生の不満を養成校でうまく酌み取れていない実態も明らかとなった。本年度の調査において、学生の養成校に対する満足あるいは不満足が学習意欲などにどのように関連し繋がっていくのかという点が一定程度明らかとなったことから、今後、どのような教職員からの個別の指導やサポート、また学校全体による指導やサポートがあれば、学生の満足度が上がり、退学意向が下がるか等をより明らかにするため、各取組の実践や、効果の検証を更に行っていくことが重要である。養成校によっては、すでに学生向けの満足度調査を実施しているところも見られるが、これらの推進やとりまとめを進めていくことが必要であろう。

さらに、専任教員の体制整備が学生の退学要因の軽減に影響があることが分かったが（前述２．）、本年度調査では、専任教員と非常勤教員との連携、あるいは学校内の他部署職員との連携については、明らかにすることができなかった。今後は、専任教員がどのように他教員や実習施設と連携していくかを更に明らかにしていくことが必要である。

４．まとめ

本年度行ったアンケート調査、ヒアリング調査にて、養成校がどのような教員体制や学生対応を行えば退学防止に効果があるかという点が一定程度明らかとなった。現在、18歳人口の減少などにより、養成校の人材募集は大変厳しい状況にあるのが現状である。今後も留学生を含む多方面からの人材の確保が求められることとなるが、本事業の結果を基礎資料とし、適切な教員体制の整備や学生対応を行える養成校を増やし、養成校の教育の質の向上を図っていくことが必要である。

本協会としては、本事業結果を養成校全体に周知し、内容を理解いただくことが重要であるとの考えより、本調査結果を資料として活用した途中退学防止等に向けた養成校向け研修会や、学校同士のコミュニケーションを図るための会の開催等について検討していく所存である。

付属資料

資料1：アンケート調査票（養成校票）

調査票サンプル：ご回答はWEBからお願いします

養成校向け

令和5年10月

厚生労働省　老人保健健康増進等事業
「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」

学生の途中退学に関するアンケート調査

【本調査の目的】

近年、養成校入学者数は減少し、当協会調べによると、令和4年度の学長推薦入学者は54.1%となっている中、途中退学等の割合は17.8%（うち日本人学生約16%、留学生約31%）と低くない数値となっています。

多くの学生が介護福祉士資格の取得を目指し、養成校に入学したにも関わらず、途中退学等となってしまうのは、介護人材の不足が叫ばれる中にあっては、大変な損失であると当協会として考えており、厚生労働省の補助金を活用して「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」を実施することとしました。

途中退学の要因としては、学校側にも、学生側（本人と留学生等）にも様々な要因が想定されますが、学生の退学の理由について、これまで全国的に実態を明らかにした調査等は存在しません。

本事業では、途中退学等の防止・抑制に向けた、学生への支援策および教育のあり方の検討することを目的として、まずは途中退学等に至るまでの理由等の実態を明らかにするためのアンケート調査を行うこととしました。

今回の調査結果は、厚生労働省に報告し、主眼点が整ま、養成校における退学防止・指導の施策に向けた基礎資料として活用されるものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

【本調査の対象】

全国の介護福祉士養成校宛
※各校の教務担当の方にご回答をお願いします。

【回答期限】

11月13日（月）までに WEBにてご回答ください。

【調査票の取扱いに関しまして】

ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。

- 調査で得られた内容は、安全措置を講じてデータの漏洩が起こらないように保管し、職員や回答者が特定できないよう統計処理を行います。また、研究終了後は、個人情報に該当するデータを破棄いたします。
- 調査への拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

■本調査に関する問合せ先

〒113-0033　東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティホーム御茶ノ水9階
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会　事務局
担当：山田・田中
TEL：03 3830 0471（平日 10:00～17:00）FAX：03 3830 0472

Ⅰ．学校基礎情報

問1．貴校の養成校の種別を教えてください。（SA）

1．専門学校　⇒問1-1へ
2．短期大学　⇒問1-1へ
3．大学

［問1で1.2.を選択した方］

問1-1．貴校の介護福祉士養成課程年数を教えてください。（SA）

1．1年制
2．2年制
3．3年制
4．4年制

問2．貴校の4桁の介護協の会員番号を教えてください。（数値）

介護協の会員番号	□□□□

問3．貴校に現在、留学生が所属しているかどうか教えてください。（SA）

1．留学生が所属している　⇒問3-1へ
2．留学生は所属していない

［問3で1.を選択した方］

問3-1．現在所属している留学生について、授業で使用する日本語の理解状況を教えてください。（SA）

1．ほとんどの留学生が問題なく理解できている
2．理解に難のある留学生が少なくない
3．ほとんどの留学生がよく理解できていない

問4．貴校に現在所属している学生について、何らかの学費減免を受けている学生の割合を教えてください。（SA）

1．1割未満
2．1割以上～3割未満
3．3割以上～5割未満
4．5割以上～7割未満
5．7割以上～9割未満
6．9割以上
7．わからない

問5．過去5年程度の間、入学後1年経過後の在籍者の割合は、入学人数と比較してどの程度であったかを教えてください。（SA）

※標準的な割合をお答えください。

1．～3割未満（多くが辞めている）
2．3割以上～5割未満
3．5割以上～7割未満
4．7割以上～9割未満
5．9割以上（ほとんど辞めていない）

問6．貴校の教員数を教えてください。（数値）

※2023年10月1日時点の状況を記入してください。

教員数	専任教員数（　　）名 うち介護教員講習会受講済み者（　　）名 その他教員数（　　）名 うち介護教員講習会受講済み者（　　）名

問7．2022年度に行った教員向けの研修や講習の回数を教えてください。（数値）

※関連する研修や講習の開催回数を足した数を教えてください。

※1種類の講習で複数回開催している場合、開催回数を複数カウントしてください。

研修や講習の回数	□□□□回

問8．2022年度に行ったFD（Faculty Development）の回数を教えてください。（数値）

FDの回数	□□□□回

問9．貴校の日本人学生の入学試験（選抜）で選抜要件となっている事柄を教えてください。（MA）

1．日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等）
2．外国語にかかる知識・技能（英語、他言語等）
3．数学にかかる知識・技能（計算や図表読み取り等）
4．福祉分野にかかる知識・技能
5．意欲や目的意識（介護を学びたいという意欲等）
6．思考力／判断力／表現力等
7．人間性
8．就学資金や生活費等の支払能力
9．その他（　　）

［問3で1.を選択した方］

問9-1．貴校の留学生の入学試験（選抜）で選抜要件となっている事柄を教えて下さい。（MA）

1．日本語にかかる知識・技能（語彙力・論理的読解力等）　⇒問9-2へ
2．外国語にかかる知識・技能（英語、他言語等）
3．数学にかかる知識・技能（計算や図表読み取り等）
4．福祉分野にかかる知識・技能
5．意欲や目的意識（介護を学びたいという意欲等）
6．思考力／判断力／表現力等
7．人間性
8．就学資金や生活費等の支払能力
9．その他（　　）

［問9-1で1.を選択した方］

問9-2．留学生の日本語能力の入学要件を教えてください。（SA）

※明確に要件にしていなくとも、面接等で会話して判断している場合、その判断基準の程度を選択してください。

1．N1程度以上
2．N2程度以上
3．N3程度以上
4．N4程度以上
5．N5程度以上

Ⅱ．学生への対応

問10．貴校で学生の学ぶ意欲を高めるため、行っていることを教えてください。（MA）

※個別教員における対応でなく、学校全体で取り組んでいることを選択してください。

1．授業や課題等の理解度を踏まえた授業の進め方の配慮
2．授業や課題等の理解度を踏まえた補講・個別指導の実施
3．生活状況や体調等を踏まえた指導内容の調整
4．現場職員、卒業生等との交流の機会の提供
5．実習やアルバイト（介護施設）と授業の関係の説明
6．社会のしくみ・制度と授業で学ぶことの関係についての説明
7．各科目の関連性がわかるよう、シラバスやカリキュラム上での工夫
8．各科目の関連性がわかるよう、指導案や教材の工夫
9．学生の考えについて、他の学生等に向けて説明・発表させる機会の提供
10．教員と学生がコミュニケーションを多く取れるような体制構築
11．その他（　　）
12．特別な対応は取っていない

問11．貴校での国家試験対策の実施状況、実施体制について教えてください。（MA）

1．施設内に国試担当教員を配置している　⇒問11-1へ
2．国試に対する特別授業を設置している　⇒問11-1へ
3．国試に対する個別指導体制を整えている　⇒問11-1へ
4．外部の指導（外部講師・予備校等）を取り入れている
5．その他（　　）
6．特別な対応は取っていない

［問11で1.2.3.を選択した方］

問11-1．ご回答いただいた国家試験対策の体制について、専任教員によるものかどうか教えてください。（それぞれSA）

対応内容	対応状況
施設内に国試担当教員を配置している	1．専任教員のみの対応 2．専任教員・非常勤教員ともに対応 3．非常勤教員のみの対応
国試に対する特別授業を設置している	
国試に対する個別指導体制を整えている	

問12．貴校で介護実習に関し、取り組んでいることを教えてください。（それぞれSA）

対応内容		対応状況
実習前	実習施設に対し、実習意義／実習目的の伝達をしている	1．全ての学生／実習先で対応 2．一部の学生／実習先で対応 3．対応できていない
	学生に対し自己分析や実習目標等の個別指導をしている	
	実習生や実習施設の特性を鑑み、実習先のマッチングを行っている	
実習中	巡回指導時、実習内容／実習目標の到達状況を鑑み、実習施設の実習指導担当者と、実習の効果を高めるための方策をともに検討している	
	巡回指導時や帰校日に、実習内容／実習目標の到達状況を鑑み、学生に個別指導をしている	
実習後	実習目標／実習課題の達成状況等を踏まえ、学生の振り返り指導を行っている	
	実習目標／実習課題の達成状況について、実習先に共有している	

問13．貴校で行っている学生に対する生活へのサポート状況についてあてはまるものがあれば教えてください。（MA）

1．学費減免にかかる制度構築
2．自校／自法人による奨学金等、経済上の支援にかかる制度構築
3．外部の奨学金等、経済上の支援にかかる制度のあっせん
4．住居等にかかる補助、寮の設置
5．礼拝所の宗教施設の設置等、信仰がある学生への配慮
6．その他（　　）
7．特別な対応は取っていない

問14．退学を防止することに効果が期待される事柄のうち、現在取り組んでいる事柄についてあてはまるものを教えてください。（MA）
※個別教員における対応でなく、学校全体で取り組んでいることを選択してください。

<履修・カリキュラム上の制度>
1．学内での学修コース変更などの進路変更の制度構築
2．休学の活用等、柔軟な履修ができる制度構築
<相談体制にかかる体制>
3．学習相談・学習指導など学習上の相談体制の構築
4．人間関係、心の問題に関するカウンセリング等相談体制の構築
5．就職相談等、進路・キャリアに関する相談体制の構築
<個別面談体制>
6．教員・職員による学生との個人面談の実施
7．教員・職員による保護者（後見人含む）との個人面談の実施
8．教員・職員による学生の自宅を訪問
<学生の状態把握の体制>
9．出欠状況や履修態度等、学生の修学状況を教職員全体で共有し、対応策の検討ができる仕組みの構築
10．学生のメンタル、個別事情等を教職員全体で共有し、対応策の検討ができる仕組みの構築
<学生の居場所づくりにかかる対応>
11．学生の出欠状況や履修態度、修学状況やメンタル等にかかる事柄を、保護者（後見人）に共有する仕組みの構築
12．ゼミ・課外活動・ボランティア等、学内・学外行事の活動等を通した学生の居場所づくりに関する仕組みの構築
<その他>
13．その他（　　）
14．特別な対応は取っていない

Ⅲ．退学学生の理由

問15．過去５年程度の間で退学した学生に関し、その退学理由のうち、学校外の事柄にその要因があるものについて、あてはまるものをすべて教えてください。（それぞれSA）
※伝聞、予想問わず、学校として想定できるものをご回答ください。

退学理由	該当状況
生活習慣の乱れによるもの	1．よくあてはまる 2．あてはまる 3．あまりあてはまらない 4．あてはまらない
心身の健康や体調の問題によるもの	
本人の特性によるもの	
家庭等の影響によるもの	
経済的要因によるもの	
その他（　　）	

問16．過去５年程度の間で退学した学生に関し、その退学理由のうち、学校内の事柄にその要因があるものについて、あてはまるものをすべて教えてください。（それぞれSA）
※伝聞、予想問わず、学校として想定できるものをご回答ください。

退学理由			該当状況
意欲の低下によるもの	福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下	福祉分野に対する興味・関心がなくなったため	1．よくあてはまる 2．あてはまる 3．あまりあてはまらない 4．あてはまらない
		介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため	
	学校が提供している教育への興味関心の低下	必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため	
		学校が提供している教育そのものに興味・関心がなくなったため	
成績不良によるもの		知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため	
学内の人間関係によるもの		学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため	
		他の学生との人間関係がうまくいかなかったため	
		クラスや実習などの集団（グループ）になじむことができなかったため	
学外実習の不適応によるもの		実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため	
		実習先において人間関係（対職員）がうまくいかなかったため	
		実習先において人間関係（対利用者）がうまくいかなかったため	
学校への不満によるもの		学校への不満（方針・設備・授業内容・評価等）があったため	
進路変更によるもの		医療・福祉分野以外の新たな分野へ進路変更したため	
		介護以外の医療・福祉分野（看護・社会福祉等）に進路変更したため	
		介護の別の専門学校や大学に進路変更したため	

問17．過去５年程度の間で、学校内の事柄にその要因がある退学理由により退学しそうになった学生で、学校の対応により退学を思いとどまった学生のケースのうち、学校の対応として退学防止に最も効果的であったと思われるものを１つ選び、以下の内容を詳しく教えてください。
①退学しそうなことにどのように気付いたか（FA）
②どのような理由で退学が想定されたか（FA）
③学校としてどのように対応したか（FA）
④学校の対応の結果、どのような結果となったか（FA）
⑤退学を防止できた要因（FA）

①退学しそうなことにどのように気付いたか（FA）	(例) 1年生で、CW開けから授業の参加状況が悪くなり、表情もすぐれない日々が続く生徒があった。授業中も気がそぞろであり、複数教員に上アリングしたところ、いずれの授業でも同様の状況であることがわかった。 等
②どのような理由で退学が想定されたか（FA）	(例)本人に面談の上、意見を聴取したところ、生徒同士のコミュニケーションがうまく図れず、グループの輪に入れず孤立気味であることがわかった。 等
③学校としてどのように対応したか（FA）	(例)補講にて、グループワークを多用した授業を行っていたため、その授業に参加してもらい、他学生と共に学びができる状態を作るとともに、担任の授業でもグループワークや生徒同士の対話を組み入れるなど授業の工夫をした。 等
④学校の対応の結果、どのような結果となったか（FA）	(例)他生徒と日常的に会話できるようになり、日ごろの表情も明るく、笑顔も見られるようになった。 等
⑤退学を防止できた要因（FA）	(例)ちょっと引っ込み思案でどのように初動をすればよいかわかっていなかったものの、コミュニケーションそのものに難があるわけではない点を教員が理解し、コミュニケーションの輪に入れる対応を取ったことが、功を奏したと考えられる。 等

問18．今後、退学防止に関し、退学を思いとどまった学生にヒアリングをさせていただくことを想定しています。もし、思い当たる学生がいらっしゃり、ヒアリングをお受けいただけそうな場合は、本会からご連絡する際に使用しますので、ご担当名・ご連絡先等をご教示ください。（FA）

ご担当者名	
電話番号	
メールアドレス	

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

資料2：アンケート調査票（学生票）

調査票サンプル：ご回答はWEBからお願いします

学生向け

令和5年10月

厚生労働省　老人保健健康増進等事業
「介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業」

学生の途中退学に関するアンケート調査

【本調査の目的】

当協会調べによると養成校の学生のうち途中退学等の割合は少なくありません。
途中退学等の防止はたいへん重要なことから、アンケート調査を行うこととしました。
今回のアンケートは、学生のみなさんの学校での学びや、学びを続けることなどについて質問しています。
このアンケートの趣旨をもとに、介護福祉士を目指し入学された学生のみなさんの学校生活や学習環境を改善し、より多くの学生が卒業できる方法を考え、補助金を作成します。
ぜひ、本調査の目的をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

【本調査の対象】

全国の養成校に所属する2024年3月に卒業する予定の学生のみなさん

【回答期限】

11月13日（月）までに WEBにてご回答ください。

【調査票の取扱いに関しまして】

- 回答いただいた内容は、取りまとめ、厚生労働省に提出します。
- 調査に答えなかったとしても、そのことでみなさんに問題が起こることはありません。また、みなさんが下のようにアンケートに答えたかについて、学校の先生や職員がみなさん個人を特定して内容を見ることはできませんので、安心してご回答ください。

■本調査に関する問合せ先

〒113-0033　東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティコーポ御茶ノ水9階
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会　事務局
担当：山田・田中
TEL:03-3830-0471(平日 10:00～17:00)FAX:03-3830-0472

Ⅰ．学生基礎情報

問1．4桁の学校の番号を入力してください。わからない場合は、教職員に聞いてください。（数値）

学校の番号（4桁）	

問2．あなたの学校は、1～6のどちらですか。（SA）
1．専門学校（1年制）
2．専門学校（2年制）
3．専門学校（3年制）
4．専門学校（4年制）
5．短期大学（1年制）
6．短期大学（2年制）
7．短期大学（3年制）
8．4年制大学

問3．あなたの性別を教えてください。（SA）
1．男
2．女
3．答えたくない

問4．あなたの年齢を教えてください。（SA）
1．～25歳以下
2．26歳～30歳
3．31歳～35歳
4．36歳以上

問5．あなたの国籍を教えてください。（SA）
1．日本
2．日本以外　⇒問5-1へ

［問5で2.を選択した方］
問5-1．あなたが日本へ留学に来た理由を教えてください。（MA）
1．介護や福祉に興味があるから
2．日本の教育を受けたいから
3．日本人が好きだから
4．治安がいいから
5．日本で働きたいから
6．給料がいいから
7．日本の文化（アニメ等）・食べ物が好きだから
8．家族や友人がすすめたから
9．家族や友人が日本に住んでいるから
10．日本に来やすいから
11．その他（　　）

［問5で2.を選択した方］
問5-2．あなたの現在の日本語能力のレベルを教えてください。（SA）
1．N1程度以上
2．N2程度以上
3．N3程度以上
4．N4程度以上
5．N5程度以上
6．わからない

問6．あなたに、普段、家で1人で勉強できる場所（部屋、スペース等）があるか教えてください。（SA）
1．ある
2．ない

問7．あなたが、今、奨学金を受けていたり、お金を借りていることがあるかを教えてください。（MA）
1．返さなくてもいい奨学金を利用している
2．後で返す必要がある奨学金を利用している
3．奨学金ではないが、お金を借りている
4．奨学金はなく、お金を借りていない

問8．あなたが、現在の学校に入学する前に経験したことがあることを教えてください。（MA）
1．高等学校卒業
2．医療・福祉関係の大学を卒業
3．医療・福祉関係以外の大学を卒業
4．日本語学校卒業
5．社会人経験（医療・福祉関係）
6．社会人経験（医療・福祉関係以外）
7．その他

問9．あなたが現在の学校に入学する前に、学校の情報をどのように集めたか、最も近いものを教えてください。（SA）
1．学校に訪問し、
先生や職員と話しをして情報を集めた（オープンキャンパス参加等）
2．学校訪問はしていないが、
先生や職員と話しをして情報を集めた（合同説明会、オンライン説明会等）
3．先生や職員とは話しはしなかったが、自分でインターネットなどを使って情報を集めた
4．あまり情報を集めなかった

問10．あなたが現在アルバイトをしているか教えてください。（SA）
1．アルバイトはしていない
2．介護のアルバイトをしている　⇒問10-1へ
3．介護以外のアルバイトをしている
4．介護とそれ以外のアルバイトをしている　⇒問10-1へ

［問10で2.4.を選択した方］
問10-1．あなたが介護のアルバイトでどのようなことをしているか教えてください。（MA）
1．利用者への身体介護（移動の介助、着脱の介助、食事の介助等）
2．レクリエーションの介助やコミュニケーション
3．ベッドメイキングや清掃など
4．介助に使う物の準備（車いす、おむつ、シーツなど）
5．その他

問11．あなたが現在の学校に入学する前、介護の仕事について、どのように考えていたか教えてください。（SA）
1．卒業したら、介護の仕事をしたいと強く思っていた
2．卒業後のことは考えていなかったが、介護の勉強には興味があった
3．介護についての興味はなかった

問12．あなたが現在の学校に入学する時、どんな入学試験を受けたか教えてください。（MA）
1．学力試験（ペーパーテスト）
2．面接（インタビュー）
3．小論文（レポート）
4．その他（　　）

問13．あなたが現在の学校を選んだ理由を教えてください。（MA）
1．出身校の教員等がすすめたから
2．家族・親族・知人等がすすめたから
3．授業の種類や内容が充実しているから
4．働きながら勉強できるから
5．同じ出身国の学生が多いから
6．留学生が多いから
7．学費が安いから
8．奨学金などのサポートがいいから
9．授業がわからない時、安心して相談できる先生や職員が多いと思ったから
10．設備等がよいから、きれいだから
11．介護福祉士国家試験の合格率が高いから
12．通いやすいから
13．この学校だけ入学試験に合格できたから
14．その他（　　）
15．特に理由はない

Ⅱ．学校での学びについて

問14．あなたが、学校の授業を全体的にどれぐらい理解できているか教えてください。（SA）
1．よく理解できる
2．やや理解できる
3．あまり理解できない
4．ほとんど理解できない

問15．あなたが、難しいと思う科目があれば、教えてください。（MA）
1．人間の尊厳と自立
2．人間関係とコミュニケーション
3．社会の理解
4．こころとからだのしくみ
5．発達と老化の理解
6．認知症の理解
7．障害の理解
8．医療的ケア
9．介護の基本
10．コミュニケーション技術
11．生活支援技術
12．介護過程
13．介護総合演習
14．介護実習
15．特に難しい科目はない

問16．前問でてきたそれぞれの科目について、それぞれの科目がほかの科目に関連していることが、どれぐらい理解できているか教えてください。（SA）
1．よく理解できる
2．やや理解できる
3．あまり理解できない
4．ほとんど理解できない

問17．授業や国家試験に出てくる介護の専門用語が、どれぐらい理解できているか教えてください。（SA）
1．よく理解できる
2．やや理解できる
3．あまり理解できない
4．ほとんど理解できない

問18．介護に関係する日本の文化的習慣について、どれぐらい理解できているか教えてください。（SA）
1．よく理解できる
2．やや理解できる
3．あまり理解できない
4．ほとんど理解できない

問19．あなたが勉強に集中しようと思っても、なかなか勉強できない理由があれば、教えてください。（MA）
1．学校での人間関係（対教員・職員）
2．学校での人間関係（対クラスメイト）
3．学校以外での人間関係
4．経済的な心配
5．自分の体調や病気
6．家族の体調や病気
7．自分の仕事（アルバイト等）
8．家族の仕事
9．毎日の家事（料理、ごみ出し等）
10．自由にできる時間がない
11．その他（　　）
12．特に困っていることはない

[問19で12.以外を選択した方]
問19-1．前問で回答した「勉強できない理由」について、どれぐらい勉強に影響があるか教えてください。（SA）
1．ほとんど勉強に集中できない
2．勉強するのに集中できないことがある
3．勉強にはあまり影響がない

問20．あなたが困ったことがあった場合、誰かに相談することができるか教えてください。（SA）
1．気軽に相談できる　⇒問20-1へ
2．気軽ではないが、相談できる　⇒問20-1へ
3．あまり相談できない
4．ほとんど相談できない
5．相談したくない

[問20で1.2.を選択した方]
問20-1．誰に相談しているか教えてください。（MA）
1．現在の学校の教員・職員
2．出身の高校等、前にいた学校の教員・職員
3．現在の学校の同級生・先ぱい・後はい
4．アルバイト先（介護現場）の人
5．アルバイト先（介護現場以外）の人
6．友人
7．家族
8．その他

問21．困っていることについて、あなたの学校に相談できる窓口があるか教えてください。（SA）
1．相談窓口がある
2．相談窓口はないが、教員・職員に相談できる体制となっている
3．相談できる体制がない
4．相談窓口があるかどうかわからない

問22．あなたの学校で、授業／授業外問わず、学生同士で話し合ったり、会話できるような機会があるかについて教えてください。（SA）
1．十分にある
2．ある
3．あまりない
4．ほとんどない

問23．今の学校で過ごす時間が楽しいか教えてください。（SA）
1．とても楽しい
2．楽しい
3．あまり楽しくない
4．楽しくない

問24．あなたの学校の授業や指導など学習に関係する対応について、どれぐらい満足しているか教えてください。（SA）
1．とても満足
2．少し満足
3．あまり満足ではない
4．全然満足ではない

問25．あなたの学校の生活指導など学習以外に関係する対応について、どれぐらい満足しているか教えてください。（SA）
1．とても満足
2．少し満足
3．あまり満足ではない
4．全然満足ではない

Ⅲ．学習意欲や学習状況について

問26．あなたの授業への出席はどれぐらいか教えてください。（SA）
1．ほとんど毎日出席している
2．ときどき欠席するが、進級には問題ない　⇒問26-1へ
3．たびたび欠席し、進学に影響がでる可能性がある　⇒問26-1へ

[問26で2.3.を選択した方]
問26-1．欠席する理由を教えてください。（MA）
1．自分には必要ないと思うから
2．アルバイトがあるから
3．勉強したくないから／勉強が面白くないから
4．学校の生活のサポート状況に不満があるから
5．学校の学習のサポート状況に不満があるから
6．自宅から学校までの距離が遠いから
7．教員との関係性が良くないから
8．他の学生との関係性が良くないから
9．その他（　　）
10．特に理由はない

問27．あなたが、介護福祉士国家試験にどのくらい合格したいか教えてください。（SA）
1．必ず合格したい
2．できれば合格したい
3．合格しなくてもいい
4．今まで合格したいかどうかを考えたことがない

問28．あなたは、学校の授業以外でどのくらい介護の勉強をしていますか。土日を含む、平均的な１日あたりの勉強時間を教えてください。（SA）
※土日含めた7日間の、平均の勉強時間を教えてください
1．学習しない
2．１時間未満
3．１－２時間ぐらい
4．２－３時間ぐらい
5．３－４時間ぐらい
6．５時間以上

問29．あなたは将来、どんな介護福祉士になりたいですか。最も近いものを教えてください。（SA）
1．介護施設・事業所等の経営者や管理者、リーダーなどになりたい
2．認知症や看取りなどでの特別な技術を持ったスペシャリスト(専門家）になりたい
3．教員や研究者などになりたい
4．介護福祉士として働きたいが、具体的にどうなりたいかは分からない
5．介護福祉士として働きたいとは思わない

Ⅳ．これまで学校を辞めたいと思ったことがあるかについて

問30．あなたが、これまで学校を辞めたいと思ったことがあるかを教えてください。（SA）

1．よく思う　⇒問30-1へ
2．ときどき思う　⇒問30-1へ
3．あまり思わない　⇒問30-1へ
4．一度も思ったことがない

［問30で1.2.3.を選択した方］

問30-1．あなたが学校を辞めたいと思った理由について、あてはまるものを教えてください。（それぞれSA）

学校を辞めたいと思った理由			該当状況
意欲の低下によるもの	福祉業界や介護福祉士という職業への興味関心の低下	福祉分野に対する興味・関心がなくなったため	1．よくあてはまる 2．あてはまる 3．あまりあてはまらない 4．あてはまらない
		介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため	
	学校が提供している教育への興味関心の低下	必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため	
		学校が提供している教育そのものに興味・関心がなくなったため	
成績不良によるもの		知識や技能の習得が不足し、成績が不良であったため	
学内の人間関係によるもの		学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため	
		他の学生との人間関係がうまくいかなかったため	
		クラスや実習などの集団（グループ）になじむことができなかったため	
学外実習の不適応によるもの		実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため	
		実習先において人間関係（同僚員）がうまくいかなかったため	
		実習先において人間関係（対利用者）がうまくいかなかったため	
学校への不満によるもの		学校への不満（方針・設備・授業内容・評価等）があったため	
進路変更によるもの		医療・福祉分野以外の別な分野へ進路変更したため	
		介護以外の医療・福祉分野（看護・社会福祉等）に進路変更したため	
		介護の別の専門学校や大学に進路変更したため	

［問30で1.2.3.を選択した方］

問30-2．これまでの学生生活で、最も強く学校を辞めたいと思った時のことを思い出していただき、以下の事柄について教えてください。

①何年生の時のことか（SA）
②時期はいつだったか（SA）
③辞めたいと思った理由（MA）

①何年生の時のことか（SA）	1．1年生のとき 2．2年生のとき 3．3年生のとき 4．4年生のとき
②時期はいつだったか（SA）	1．春学期中（3～6を除く時期） 2．秋学期中（3～6を除く時期） 3．長期休暇明け 4．実習直前 5．実習中 6．実習直後 7．その他（　　）
③その時 辞めたいと思った理由（MA）	1．福祉分野に対する興味・関心がなくなったため 2．介護福祉士という職業に対し興味・関心がなくなったため 3．必要な能力の修得に対する興味・関心がなくなったため 4．学校が提供している教育そのものに興味・関心がなくなったため 5．知識や技術の習得が不足し、成績が不良であったため 6．学校の教員や職員との人間関係がうまくいかなかったため 7．他の学生との人間関係がうまくいかなかったため 8．クラスや実習などの集団（グループ）になじむことができなかったため 9．実習で必要となる知識・技術・姿勢等の習得がうまくできなかったため 10．実習先において人間関係（対職員）がうまくいかなかったため 11．実習先において人間関係（対利用者）がうまくいかなかったため 12．学校への不満（方針・設備・授業内容・評価等）があったため 13．医療・福祉分野以外の別な分野へ進路変更したため 14．介護以外の医療・福祉分野（看護・社会福祉等）に進路変更したため 15．介護の別の専門学校や大学に進路変更したため 16．その他（　　）

［問30で1.2.3.を選択した方、かつ問5で2.を選択した方］

問30-3．学校を辞めたいと思った理由のうち、外国人であることに関係する理由であてはまるものがあれば、教えてください。（MA）

1．日本の習慣に慣れるのが大変だから
2．日本語が難しいから
3．差別があるから
4．自分の国の文化・宗教について周りの理解がないから
5．知っている人が少なくて孤独だから
6．国に帰りたくなったから
7．その他（　　）
8．外国人という理由で学校をやめたいとは思わない

［問30で1.2.3.を選択した方］

問30-4．一度は学校を辞めたいと思ったが、現在も学校へ行っている理由を教えてください。

①なぜ辞めていないか、その理由を教えてください（FA）	
②学校や先生のサポートがあったので現在も学校に通っている場合、そのサポート内容をくわしく教えてください（FA）	

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

令和５年度　厚生労働省　老人保健健康増進等事業
介護福祉士養成施設学生の途中退学の防止等に関する調査研究事業　報告書

令和６年３月
公益社団法人　日本介護福祉士養成施設協会

〒113-0033　東京都文京区本郷 3-3-10　藤和シティコープ御茶ノ水２階
TEL 03-3830-0471　FAX 03-3830-0472